平成27年度 松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部

自己点検･評価報告書　目次

はじめに …… 4

第1部　平成27年度事業計画（大学委員会･理事会決定）に基づく総括的点検･評価

Ⅰ．全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価 ……6
Ⅱ．全学的点検・評価
　１．大学院 健康科学研究科……8
　２．総合経営学部 …… 13
　３．人間健康学部 …… 21
　４．教育学部設置準備室 …… 29
　５．松商短期大学部 …… 30

第2部　委員会･部会別点検･評価

Ⅰ．学生センター部門

A：教育推進充実部門

１．教務委員会
　（１）全学教務委員会…… 37
　（２）総合経営学部教務委員会…… 40
　（３）人間健康学部教務委員会…… 42
　（４）松商短期大学部教務委員会…… 46
　（５）共通教養センター運営部会…… 49
　（６）キャリア教育センター運営部会…… 49
　（７）資格取得支援センター運営部会…… 50
　（８）基礎教育センター運営部会…… 52
２．教育改善推進委員会 …… 54
　（１）教育企画推進部会…… 54
　（２）FD・SD 運営部会 …… 56
３．教職センター運営委員会 …… 58
４．図書館運営委員会 …… 61
５．情報センター運営委員会 …… 64
６．国際交流センター運営委員会 …… 67
７．地域健康支援ステーション運営委員会 …… 68
８．地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 …… 74

B：学生支援部門

１．学生委員会
　（１）全学学生委員会…… 78
　（２）総合経営学部学生委員会…… 80
　（３）人間健康学部学生委員会…… 81
　（４）松商短期大学部学生委員会…… 83

２．就職委員会
（１）全学就職委員会…… 86
（２）総合経営学部就職委員会…… 88
（３）人間健康学部就職委員会…… 90
（４）松商短期大学部就職委員会…… 94

Ⅱ．研究推進及び管理部門
１．研究推進委員会 …… 98
（１）研究誌編集部会…… 99
（２）松本大学出版会運営部会……100
（３）地域総合研究センター運営部会……101
２．研究倫理委員会 ……103
（１）動物実験部会……107
（２）遺伝子組換え実験安全部会……110

Ⅲ．入試広報部門
１．入試委員会
（１）全学入試委員会……114
（２）総合経営学部入試委員会……116
（３）人間健康学部入試委員会……118
（４）松商短期大学部入試委員会……123
（５）入試問題検討部会……129
２．広報委員会 ……130
３．高大連携推進委員会 ……131
４．センター入試委員会 ……138

Ⅳ．管理部門

A：大学運営管理

１．全学協議会 ……141
２．自己点検・評価委員会……142
（１）ＩＲ推進部会……143
（２）コンプライアンス推進部会……144
（３）認証評価準備部会……145
３．人権委員会 ……147
４．健康安全センター運営委員会 ……148

B：施設管理

１.施設管理センター運営委員会 ……150
２.危機管理委員会 ……151
（１）環境保全部会……152
（２）防災防犯対策部会……153

第３部　事務部門の点検・評価

Ⅰ．全学的事務部門…… 156
Ⅱ．総務課・管理課…… 159
　１．総務課……159
　２．管理課……166
Ⅲ．学生センター…… 169
　１．教務課 ……170
　２．学生課 ……173
　３．キャリアセンター ……178
　４．情報センター ……186
Ⅳ．入試・広報室…… 189

第４部　資料

Ⅰ．平成 27 年度委員会構成…… 197
Ⅱ．アンケート調査結果（平成 27 年度）
　１．松本大学卒業予定者アンケート ……198
　２．松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート ……232
　３．松本大学松商短期大学部在学生アンケート ……248

はじめに

－2015 年度の活動に対する自己点検・評価報告書の発行に当たって－

［いくつもの課題を並行して走らせた一年間］

2015（H27）年度は、①四大・短大の第三者評価（両方とも 6 月書類提出、9 月現地調査）への対応、②教育学部設置に向けた申請業務（3 月申請書提出）、③本学開催の大学人サミット（11 月開催）、④既存学部・学科の改革事業（年間を通した継続的取組）、⑤短大部の AP 申請（6 月提出）など、通常ならそれぞれに１年或いはそれ以上かけて対応する大きな業務を同時に進めるという、大変に忙しい年度であった。

［見事に全てをこなした、松本大学・松本大学松商短期大学部教職員の底力］

第三者評価は、留意事項の指摘が無い上に優れた点については複数が俎上に上がっており、申し分のない出来映えとなった。担当部署に執筆を割り振り、任せ切ることが出来たこと自体に本学の姿勢が表れている。各部署から提出された文書の表現形式の統一やその内容に対応するデータの準備に多くの力が注がれた。この年度の受審大学の中から、事例を紹介する全国シンポジウムに招待されるほどであった。教育学部設置への準備については、「趣意書」「教員人事」「校舎設計」「財政計画」「教育実習等教育委員会、教育現場との折衝」等々実に多彩な業務をこなし、３月末には「設置認可」「寄附行為の変更」「小学校、特別支援学校教育課程」の３つの申請書を文部科学省に提出できた。大学人サミットでも、「第三者評価を受審する大学が、開催校を引き受けることは通常無いのだが、良くやりましたね」と驚きと同時に賞賛の言葉を戴いた。こちらは SD 的要素が強いため、若手職員が中心となって準備し、働いてみたい大学部門で１位の座を射止めた。短大部の AP 申請についても、最終的には採択に至らなかったものの面接審査には残っており、これは申請内容に見るべき所が多いという評価を得ていたからだと判断できる。既存学部・学科の改革事業は、①短大部においては、AP 申請を受けて４学期制を視野に入れた改革を検討している。また昨年度定員割れを起こした入学生が、今年度はＶ字回復したこと、また県立短大が閉鎖することを受けて、定員減の方向を一次中断し今後の動向を見守ることにした。②人間健康学部は両学科共にコース制度への移行を考えており、健康栄養学科では理科の教員免許課程も考えに入れ、県立大完成以降を念頭に施策を考えている。③総合経営学部でも高校生に入学後の学びのイメージが浮かび上がるような、カリキュラム構成を考案中である。④教養科目については、教養についての大学の考え方が明示的に表現されるモジュール制を教育学部が採用しようとしているため、それをベースに学部共通の再構築を考え始めている。このように、多くの課題対して、教職員が手分けしてそれぞれに対応出来ていた。

［県内の大学をめぐる状況と本学の対応］

県立大学は着々と進んでおり、長野大学と諏訪東京理科大学も紆余曲折はあったが、ともに公立化の道を歩んでいる。他に新潟薬科大学長野校が上田に進出する動きや、清泉女学院大学や長野健

康福祉大学が看護学部の増設を目指す動きも活発化してきている。こうした動向に左右されずに、盤石の経営基盤を確立しようとした本学の取組は、その一歩を踏み出したと言えよう。

［自己点検・評価委員会としての活動］

昨年度は第三者評価を受審したため、本学独自の「自己点検・評価報告書」「アニュアル・レポート」「学生版アニュアル・レポート」の発行が、例年に比べ大幅に遅れた。それでも年度内には発行することができ、日経グローカルのアンケートへの対応にも支障を来すことは無かった。今年度は再び例年通り、あるいはそれ以上に迅速に発行に漕ぎ着けることが出来た。

2016.7.21

自己点検・評価委員会　委員長　　住　吉　廣　行

第１部　平成 27 年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価

Ⅰ．全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価

（１）「平成 27 年度事業計画」における全学的課題 ＜Ｐ＞

１）大学、短大をめぐる情勢

（ａ）長野県内の大学設立などの状況

長野県立大学という名称で、管理栄養士養成課程の定員を 30 名に増員するなど、本学から見れば改悪のシナリオで着々と進行させている。長野保健医療大学（理学療法・作業療法）も開学し、長野大学と諏訪東京理科大学の公立化、北信地域（長野清泉大学または長野保健医療大学）での看護学部設置の動き、東信地域への新潟薬科大学進出の動きなど県立大学設立の影響が県下の大学にも広く及んできている。

短大部への影響が懸念された松本駅前への大手専門学校の進出は、初年度こそ本学短大部の定員割れに一部影響していたようだが、それ以降は大きな影響もなく定員削減を先延ばしにするという措置へと繋がった。

（ｂ）松本大学及び短期大学部の対応

教育学部設置に向けての準備を怠りなく進めるだけでなく、既存学部におけるコース制度の導入など、受験生がイメージできるような松本大学での学びを提示する方向での対応を進める。短期大学部でも４学期制度の導入など、長期インターンシップや長期・短期の海外留学が容易になるような工夫を考える。

２）松本大学の組織改革

各種委員会やセンター組織を、松本大学専任教員の４つの任務「教育」「研究」「地域貢献」「大学運営」に沿って分類し始めて２年目に入る。各委員会には必要な課題を担当する部会を傘下に設定することによって、委員会と部会を同じ時間帯を分割して連続で行うなど、委員会開催についての合理化を考える。部会と委員会で構成メンバーが違っている場合は、少し工夫が必要ではある。

（２）「平成 27 年度事業計画」における全学的課題の実施状況 ＜Ｄ＞

１）大学、短大をめぐる情勢

（ａ）近隣大学の動きの本学学生募集への影響

未だ周りの状況が確定していないため、学生募集には大きな影響はなかった。それどころか、短大部を含め全学科とも定員を上回り、総合経営学部では過去最多となる盛況ぶりであった。短大部も昨年の欠員を埋めるだけの入学生を迎えることが出来た。県立短期大学が大学へ移行した後、短大志願者がどの様に動くか見極める必要が出てきた。

（ｂ）大学、短大部の対応の進捗状況

教育学部については設置準備室を設け、着々と準備を進め（詳細はⅡの設置準備室の項参照）、無事文部科学省に受け付けられた。総合経営学部では各学科の将来像を検討し、平成 29 年４月か

らの学科イメージを確定し、新しいパンフレットで学生募集に入るようにした。観光が旧来の３コース（観光、地域、福祉）をほぼ踏襲する。総合経営が４コース（心理、経営、経済、消費生活）に衣替えするが、これは企業経営の３要素（ヒト、モノ、カネ）に加え消費者の視点からの学修を加えた形に対応している。公務員などは学科共通に設定している。人間健康学部では、特に長野県立大学の影響を強く受けるであろう健康栄養学科において、４コース制度を打ち出している。スポーツ健康学科は旧来の（健康づくり、体育教員養成、スポーツ経営・行政）の３つの内容を踏襲したコース制度を考えることになった。

教養科目を大学で共通化するという方向を模索してきたが、なかなかまとまらなかったのは教職課程の編成とも関連していた。新たに立ち上げる教育学部でモジュール化した方式を採用することによって、共通化の方向へ大きく舵を切ることができるようになった。

２）松本大学の組織改革

新体制での組織形態の下で、全学運営会議が全体の動きを掌握しながら、全学委員会、全学協議会など意思決定を効率的に集約出来る慣習が確立しつつある。

（３）「平成 27 年度事業計画」における全学的課題の点検・評価 ＜Ｃ・Ａ＞

１）大学、短大をめぐる情勢

（ａ）近隣大学の動きの本学学生募集への影響

学生募集に関しては申し分のない結果を得ることが出来た。この意味では周囲の大学の動きの影響は見えていないと言える。

（ｂ）大学、短大部の対応について

教育学部については、当初予定通りの成果を上げる事が出来た。今後は最終的な認可を得る為の活動を継続すると共に、開設後趣意書に書かれている方向での円滑な運営が出来るように準備を整えること、小学校等学校現場との連携を強化すること、学生募集を成功裏に収めることなどが課題となる。

短大部の４学期化（ＡＰの申請に採択されることを含めて）、総合経営、人間健康両学部の新しい教育システムの下での教育体系を確立し、その下での学生募集活動を成功させることが課題となる。

教職課程の整備とともに、教養科目の共通化を目指した動きを強化する。

新しい教職科目、中学校「英語」、中学・高等学校「理科」の開設に向け、担当する学科を含め早急に意思決定を行う。

２）松本大学の組織改革

新しい形態で実施して来た大学運営はそれなりの成果を挙げてきている。さらに必要な改善を加えるなど、良く議論し早期に決定するというスタイルを定着させる。

＜執筆担当　学長　住吉　廣行＞

Ⅱ．全学的点検・評価

１．大学院　健康科学研究科（修士）

（１）「年度当初の目標」＜Ｐ＞

長野県立大学や近県での管理栄養士養成課程の新設、管理栄養士養成課程を有する山梨学院大学でのスポーツ科学部新設や新潟医療福祉大学健康スポーツ学科の定員増員など、本学人間健康学部を巡る環境は厳しさを増している。また、これらの大学は完成年度に大学院の設置が予想される。これらの中で差別化を図り、本大学院としてのよりよい特長をもつために、

（１）本大学院が扱う「健康科学」領域の変更
（２）社会人入学者のリカレント教育の強化
（３）キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入
（４）グローバル化に対応するための嶺南師範学院との連携
（５）グローバル化・高度化に対応するための博士課程の設置
（６）広報活動
（７）入試改革
（８）その他

などあらゆる方策を検討していくこととした。

（２）「目標の実施状況」＜Ｄ＞

１）本大学院が扱う「健康科学」領域の変更

① 本大学院では「健康科学」をおもに厚生労働省の「健康日本21」の「栄養」・「運動」・「休養」の領域に設定しカリキュラム配置をおこなってきた。しかし、個人が健康であることは、単に個人内部の問題だけでなく、個人を取り巻く社会的・環境的領域も重要なことは当然であろう。そこで、本大学院が扱う「健康科学」領域をWHOが提唱する「健康」に変更する事とした。これを実現するには、自然科学的な学問領域だけではなく、人文社会科学的学問領域も積極的に取り込んでいく必要性がある。

② 領域変更に伴い、次年度は総合経営学部の矢﨑准教授に「臨床心理学特論」を、松商短期大学部の川島准教授に「運動と脳科学特論」を、金子准教授に「フードマーケティング特論」を担当していただくことになった。加えて、非常勤講師として久留米大学医学部児島教授に「内分泌学特論」を、鈴鹿医療科学大学中東准教授に「病態栄養学特論」を担当していただくこととなった。今後も総合経営学部や松商短期大学部とも連携して、科目担当をお願いしていきたい。

③ 平成28（2016）年度より１名を本研究科の専任教員として、人間健康学部から異動してもらうこととした（福島准教授：担当科目「健康と病の社会学特論（社会調査法含む）」「ガストロノミー論」「特別研究」）。なお、本人事は社会科学的領域教員の業績評価の基準となる。

２）社会人入学者のリカレント教育の強化

本大学院の修了者・在籍者は25名であり、うち８名が社会人入学者（32%）である。この率は、全国平均（10.9%）に比べて著しく高く、本学大学院の特長の一つといえる。有資格者としては、管理栄養士13名（うち社会人４名）、健康運動指導士５名、社会人有資格者として看護師１名、作業療法士１名、臨床検査技師１名、保健体育教員１名である。このうち、作業療法士は長野保

健医療大学の教員である。コメディカルの有資格者は、いずれも短期大学卒である。

短大卒の社会人院生については、研究のイメージや方法論について短大で基礎的教育を受けていないことが多く、また、アカデミックな機関を離れてかなりの年月を経ているため、過去の社会人大学院生の教育・教育指導については必ずしも高いレベルに昇華できていない例もある。一方で、現場での問題点や研究課題を見いだす機会については非常に多いことも事実である。そこで、社会人院生の教育について議論を行い、修士論文作成時の研究レベル以上に、修了後、現場にいながらにして、研究を進展していけるだけの基礎的能力の涵養・最新の情報に触れて自己更新を行う能力の開発に重きを置く方向も重要視することとした。

3）キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入

管理栄養士や健康運動士資格を有する一般入試の院生については、卒業研究レベルではある程度の教育を受けているため、入学後研究を速やかに深化させていくことができる。しかし、たとえば、病院や健康運動指導の現場で、どういうことが問題になっているか、そういう現場ではどういう能力が要求されるかについての知識は低い。そこで、特別研究の中で半年間以上、現場にインターンシップとして派遣し、そこで実際に職業訓練を受けながら、現場の問題点を見いだし、大学院に戻ってからその課題をアカデミックに解決する方向を導入することとした。

4）グローバル化に対応するための嶺南師範学院との連携

人間健康学部では、中国の嶺南師範学院と連携する可能性がある。本大学院としても、留学生の確保により、グローバル化に対応できるとともに、修士課程の院生の安定的確保にもつなげられると思われる。

先方は、スポーツ健康学科に留学させて健康運動指導士の資格を取れるようにとの希望がある。留学生に日本語が話せたとしても、基本的には学部 3 年生編入から 2 年間では無理なので、大学院修士課程まで含めた少なくとも 4 年間以上で、健康運動指導士を取得する可能性を考えている。公益財団法人健康・体力づくり事業団に問い合わせたところ、大学院修士課程在籍者が学部の単位を取得した場合でも、受験資格を認めるということである。

5）グローバル化・高度化に対応するための博士課程の設置

本大学院では過去に 3 名が、1 年間の海外留学を経験している。しかし、留学生受け入れの実績はない。

大学院生・修了生の中にも学部生の中にも、大学院に博士課程が設置されることを望む声がある。博士課程では留学生の比率も上昇するためグローバル化・高度化に対応するためにも、修士課程の定員の安定的確保のためにも博士課程の設置が重要だと考えられる。また、博士課程に占める社会人院生の割合は全国平均約 32%であり、社会的な要請も強いと思われる。事実、本学修士課程修了者で大学教員をしているものの中にも、将来的に博士の学位の取得を目指すものもいる。また、文部科学省等で募集されている大学院の競争的経費や補助金は、博士課程設置を原則とするものがほとんどであるため、現状では補助金を獲得することができていない。

6）広報活動

① 各教員がそれぞれの分野で学術講演及び研究活動、文化社会活動などマスメディアを介して本研

究科を広報した。

② COC関連の学術研究会の開催：研究科長が世話人となり、平成27年6月に第2回COC学術研究会第9回健康長寿長野研究会を開催した。

③ 平成28年2月に修士論文研究発表会を公開し、市民タイムスの取材を受けた。

④骨格筋生物学研究会の開催：河野准教授が世話人となり、平成28年3月に第4回骨格筋生物学研究会を開催した。

7）入試改革

本大学院では、主に現役の学部生が受験する一般入試と社会人が受験する社会人入試のしくみがある。より良い学生の確保と定員の充足を目指すために、次年度には、新たに本学学部生への推薦入試制度を導入することとした。具体的には、成績上位 12~13%の GPA を獲得している健康栄養学科（2.7）やスポーツ健康学科（2.6）の学生向けを対象に筆記試験を免除し、面接試験のみとした。ただし、特待生を目指す場合には、一般入試と同様、英語筆記試験と専門科目試験も受験しなければならないこととした。また、社会人入学希望者には、予め希望のゼミ教員との面談を義務付けており、実際に希望者のアカデミックな背景から研究の方向性・大学院生活について、かなりの時間をかけた詳細な面談を行っている。したがって、事前面談で十分な専門性の有無を検討できていると考え、次年度から口頭試験を廃止し、英語筆記試験のみにすることとした。

また、一般入試だけではなく社会人入試にも、前期試験合格者に対する授業料の延納を認めることとした。

8）その他

① 平成27年度入学者は3名（学部卒：3名）で、在学者7名（学部出身者：5名，社会人：2名）を加え，在籍者は計10名となった。

② 各教員の特別研究および講義で必要な研究機器および備品については、大学院研究科予算内の「講義運営費」より配分し、整備した。

③ 大学院にもFD授業アンケートを導入した。

④ 本大学院で重要な役割を担っていた呉准教授が平成28年4月より韓国の母校に副教授として転出することとなった。呉先生の研究領域はヒトと実験動物の両方を研究対象とし、かつ、運動と栄養の両方を指導できる人材である。したがって、人間健康学部とも連携しながらも同じレベルの教員の確保が強く望まれる。平成28年度入学予定者（4名）のうち1名の研究指導に関しては、今年度の三村前教授のケースと同様に、非常勤講師として集中講義や Skype・メール等のネット環境を駆使して行ってもらうこととした。残りの1名は指導教員を江原孝史教授に、2名は河野史倫准教授に変更した。また、2年生1名は指導教員を福島智子准教授に変更した。

（3）「点検・評価の結果（目標の達成状況）」＜C＞

1）本大学院が扱う「健康科学」領域の変更

① 今年度から専任教員が1名増加し、1名が転出した。結果的に、専任教員数は10名と変更がなかった。

②「健康」の対象を自然科学的領域だけではなく、人文社会学的領域も扱うより広い領域への変更を目指すために、カリキュラムの変更も行っている。次年度は、総合経営学部から1名、松商短

期大学部から2名、非常勤講師も新たに2名に科目担当をしていただくことなり、科目数を6増やした。このことは院生の受け皿を広めることにもつながると思われる。

③ 研究は社会的活動であり、その成果と知見は社会へ還元すべきものであるが、その活動のいずれの時点においても倫理的配慮が求められる。文部科学省や日本学術振興会によって進められている大学院生への研究倫理教育の一環として、必修科目の「健康科学特論」の中で取り扱うこととした。希望者にはe-ラーニングを行う体制を整えた。

2）社会人入学者のリカレント教育の強化

課題点は見いだしているものの解決のための知識やスキル等に乏しい社会人院生には研究能力の開発とリカレント教育の充実を主眼とすることを確認し、次年度からの指導目標に導入した。加えて、社会人院生には、質的研究の考え方や方法論を扱う福島准教授の「健康と病の社会学特論（社会調査法含む）」を必修科目として履修指導することとした。

3）キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入

「特別研究」に長期インターンシップを導入することとした。学部生とは異なり、大学院入学者はすでに管理栄養士や健康運動指導士の資格を取得している場合が多い。したがって、自分が将来働きたい環境の中に実際に身を置きながら、その場で課題点を発見し、大学院で修士論文作成の形でアカデミックに解決を図ることで、より現場に即した人材の育成につなげられると思われる。

4）グローバル化に対応するための嶺南師範学院との連携

今後の学部の連携の進展を見て進められるところは進めていく姿勢である。

5）グローバル化・高度化に対応するための博士課程の設置

研究科委員会では、高度化に対応するために、大学院進学希望学生・院生からの希望が多い博士課程設置希望を決議し、全学運営会議や全学協議会などで学内の理解を得る努力をすることとした。

6）広報活動

①広報活動としては、(a)行政と連携した健康関連知識の啓蒙活動、(b)一般向け講演会の開催、(c)各教員の研究・教育・社会活動などがあげられる。(a)については栄養および運動領域の各個の教員が県内の市町村および組織と連携しながら活動中である。(b)については本学のCOC事業に関連して2回の会議が開催された（2015年6月、12月）。(c)広報活動の基盤が日頃の各教員のアクティビティーに依存することは論を待たない。本研究科の教員全員が人間健康学部を兼担し、学部のデューティーをこなしながら目一杯活動しているのが現状である。

②学部教育を通しての学部生の発掘、そして定型的な広報活動（新聞などによる広報）は入学者の動機を高める一定の効果を期待し得るであろうことから口コミ、マスコミを介した全教員のさらなる広報活動が必要である。

7）入試改革

平成 28（2016）年度入学予定者は、過去最高の 10 名となり、うち社会人は 4 名となった。し

たがって、全体として 35 名中 12 名が社会人入学者（34.3%）となり、今年度よりも比率が増大した。平成 28（2016）年度の院生総数は 15 名で、事務上は経常費補助金を得るための最低ラインの 10 名を確保することができた。また、はじめて、他大学から 2 名が入学した。この点は、本大学院の知名度が少しずつ上がってきていることを示していると思われる。

平成 28（2016）年度入学予定の社会人にはじめて長期履修学生制度を適用した。本制度は、修士課程の修業年限は基本的には 2 年であるが、社会人の労働環境等を考慮して、予め研究科委員会で承認を受ければ、当初から修業年限を 3 年や最大 4 年として認めていくものである。この場合、2 年分の授業料を 3 年又は 4 年で支払うことができる。この長期履修学生制度についても、積極的に広報していきたい。

8）その他

① 大学院2年生3名が一般財団法人長野県科学振興会から平成27（2015）年度科学振興会助成金を受領した。

② 大学院2年生1名が、第2回COC学術講演会第9回健康長寿長野研究会において優秀発表賞を受賞した。

③ 研究生3名が入学した。うち1名は根本ゼミ、2名は山田ゼミに所属した。山田ゼミの2名は、大学院入試を受験し、平成28（2016）年度から入学することとなった。

④ 修士課程2年生1名が修士論文を作成できないことを理由に退学したが、就職先からは内定に影響しないとの連絡を受けた。

⑤ 修了生5名（うち1名は平成27年9月に修了）のうち、社会人を除く3名の中で1名は信州大学医学部付属病院第1外科の技術補佐員に、1名は出身の松本大学人間健康学部健康栄養学科に嘱託専任助手として期限付きながら就職した。1名は、鋭意就活中である。

（4）「次年度に向けて」＜A＞

① より魅力的な大学院になるようにと、今年度研究科で議論し提案した案を成果が出るように実現していく。

② WHOの「健康」の分野を対象にすることとし、拡張することになった人文社会学的領域は、健康科学研究科の基盤となっている人間健康学部だけではまかなえない領域が多いため、今後も総合経営学部や松商短期大学部と連携を深める必要がある。

③ インターンシップ先について、慎重かつ積極的に開発する必要がある。

④ 大学院博士課程設置に向けて、学内の理解を得る努力をする必要がある。

⑤ 知識の内外の交流は大学院の研究活性化および院生の教育的見地からも必要である。国際交流の進展のためのシステム整備が次年度以降の課題である。すでに交流を深めている中国嶺南師範学院との国際交流が展開していく可能性を追求していく。

⑥ 大学院教育研究の向上のため、アンケートを通して院生の評価を受けたが、そのアンケート設問の内容はさらに充実させる必要がある。

＜執筆担当／大学院健康科学研究科　研究科長　山田　一哉＞

２．総合経営学部

（1）計画 ＜Ｐ＞

現在の大学に要請されるいくつかの観点からみて、総合経営学部の現状・改善計画は以下のように総括される。

1）３ポリシーについて

（a）アドミッション・ポリシーについては現在の学科の教育内容に合わせて、3 月に改定を行った。この改定されたアドミッション・ポリシーに則って本年度の学生募集を行っていくことになる。学生募集に関して本学部は今までのところ、幸いなことに学部入学定員の確保を継続的に実現できてはいる。しかしながら志願者数が十分ではないために、アドミッション・ポリシーに合致した学生の選考を十分に行うまでには至っていない。学生について最低限の量の確保から質の担保に移行するためには、より多くの受験生の確保が必要である。現在の学部カリキュラムは平成 25 年度新入生から導入され年次進行中なので、まずはこのカリキュラムの教育方針・内容を的確に発信し高校や受験生に周知徹底していくことが重要であり、そのための有効な広報手法を駆使する。

（b）カリキュラムについてはいずれの学科においても、平成 25 年度新入生からの新しいカリキュラムが年次進行中である。まずはこの新課程の目指すものを十分に実現するよう全力を傾ける必要がある。このカリキュラムでは、基礎教養科目、社会教養、専門教育のバランスを意識し、「何を教育するか」という特徴ある授業科目の配置はもとより、学生の実情に合わせて「どのように教育するか」という視点を意識してカリキュラム・ポリシーを実際の授業として実現している。具体的には、基礎学力の担保を実現するため、情報処理能力（ワープロ、表計算）簿記、英語については、学部全体で能力別にクラスを編成し、学生の能力に合わせた適切な目標（検定試験合格）を具体的に設定し、成果の見える形での基礎学力の養成を行っている。また、「キャリア形成Ⅰ」「キャリア形成Ⅱ」をゼミⅡゼミⅢに代わる二・三年生学部必修科目と位置づけ、クラス数を増やし就職試験で要求される社会人基礎力の養成と強化に取組む。いずれのクラスでも、専任教員が授業担当者として参加して、責任を持って実行するかたちをとる。

（c）ディプロマ･ポリシーにかかわる成績評価の厳格化と基準の統一化はほぼ達成されているが、当該ポリシーの成果の一つとみるべき学生の就職状況を、より好転させるための方策を検討する必要がある。そのため、各種の資格取得対策を本格化させることをめざし、従来個々の教員の取り組みとして実行されてきた資格取得に向けた指導を、全面的に学部・学科としての取り組みとし、正規の授業科目としてカリキュラムの中に組み込んだ。これらの授業を生かして資格合格実績を出し、それを踏み台に就職状況を改善していく必要がある。

2）学部の中長期整備

総合経営学部の両学科においては次の10年を見据えて改定したカリキュラムが導入3年目でありこの年次進行中の新カリキュラムを着実に実行していくことが重要である。しかしながら、県立大学問題や昨今の学生募集における難しい状況を鑑みると、現カリキュラムでの卒業生が出る

２年後には、さらなる改善を施したカリキュラムをスタートさせる必要があると考えられる。また、現在検討が行われている新学部構想とのカニバリティーを避ける必要も当然ある。現在年次進行中のカリキュラムを適切に評価し、より良くするための改革の検討が急務である。方向性としては下記の３点が考えられる。

現在、国の政策として「地域創生」が謳われ、地域産業や地域社会と大学の連携を後押しする政策が進められている。この政策を追い風に地域との連携をより密にし、入り口側では高大連携や出前授業といった入学前の高校生との活動を増やして学生募集につなげ、出口側ではインターンシップや共同研究を利用して地元産業界との結びつきを強め卒業後の就職へと結実していく。さらに、その途中を効果的につなぐような、学部のカリキュラムアレンジを考えていく。

また、長野県内の非理工系学生の受け皿として、従来の社会科学系の色彩に加え人文科学的な分野も総合経営学部の特色の一つとしていくことを考え、語学、文化、歴史といったものを学科カリキュラムの中にどう位置づけるかを再検討する。その際には東京オリンピックの存在や社会の国際化の流れをどう効果的に取り込んでいくかが重要なポイントである。

ネット接続されたスマホの携帯が当たり前となり、Big Data が広く活用される時代となったことをうけ、情報系専門技術者ではなく、ICT を活用してデータを読み論理的に考えられる普通の社会人が企業や地域で求められている。

上記、地域との連携も、人文科学的な色彩も ICT も、いずれも COC 活動や学芸員資格、情報活用論などすでに学部内に存在する要素であり、まったく新しいものではない。新規構想が机上の空論に走らないためには、在学生を対象とした試行を行いながら、教員・学生両サイドにおいて実現可能性を検討する必要がある。両学科の垣根を越えて、学部としてベストの解を構築することが重要である。また、昨年一部該当者なしに終わった学部採用人事を行い、将来の大学を担う人材の登用を図ることも急務である。

３）新規事業

平成２６年度私立大学活性化事業補助金を利用して、学内教務システムのスマートフォン対応化を行っているが、その端末として購入した iPad Air を平成２７年度は試験的に総合経営学部新入生全員に貸与する。これには２つの狙いがある。第一は学生を「タブレットを携帯する ICT 環境」に慣れさせることである。ネットの常時接続と大量データの利用が当たり前となった生活を日常とすることによって、現代の高度情報化社会に適応した社会人へと自然と成長していくことを期待するものである。第二は ICT を利用した教務関連作業の簡単化で、出席管理や成績管理に ICT を活用することにより、教員の作業負荷の軽減とデータに基づく学生指導とを容易にし、指導の質の向上とともに教員が自身の研究や教材研究をする時間を確保することである。

補助金を使った事業を箱もので終わらせないために、タブレットで学生に何をさせたいのかを十分に考え、適切な教材と機会を用意することが特に肝要である。

以上学部として両学科共通の現状・改善計画を述べてきた。昨年度から始まった地域づくりのための PBL 授業など両学科共通の科目も多く、現状認識と将来の課題については両学科教員で基

本的な認識は一致している。

学科ごとの具体的な計画については以下のとおりである。

① 総合経営学科

・飯田市も含めた三者連携協定にもとづく飯田OIDE長姫高校および、観光ホスピタリティ学科及び短大と合同で行っている穂高商業高校、この両校との高大連携事業に積極的に協力・参加し、地域貢献と合わせて学生募集につなぐ。

・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格として、従来のITパスポート、FPに加え宅地建物取引主任者、消費生活アドバイザー、通関士を追加選定した。これらの資格対策を、カリキュラムを通じた正課教育と課外での学生支援との両面で、専任教員が責任を持って指導を担当し手厚くサポートし、実績を出すべく進めていく。

・既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた「公務員講座」を有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。

・企業マネジメント、生活マネジメント・地域産業を三本の柱とする学科の教育目標を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後10年を見据えた教育内容を検討する。

・国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参加し、地域貢献と学生教育に活用する。

② 観光ホスピタリティ学科

・受験者数増加に向けた方策の一環として、引き続き高大連携事業を推進する。丸子修学館高校、市を含めて三者協定を結んだ飯田OIDE長姫高校に加え、穂高商業高校との高大連携活動を進め、学生の地域貢献と合わせて学生募集につながるよう積極的に活用する。

・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格を、社会福祉士、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者（いずれも国家資格）と設定し、専任教員が指導を担当する。カリキュラムを通じた正課教育と、課外の学生支援との両面から、これらの資格および他の国家資格取得に重点を置いた教育をスタートさせる。

・既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた「公務員講座」を有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。

・英語教育に関する体制を充実させ、同時に大学全体の教養教育を構築するため、英語の専任教員（教授）を中心に体制を整備する。

・観光・福祉・地域活性化を三本の柱とする学科の教育目標を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後10年を見据えた教育内容を検討する。

（２）実施と検証 ＜Ｄ・Ｃ＞

学部長及び学科長の方針として、今年度は両学科共通の問題意識を持ち両学科合同で行った事業が多くあった。以下、まず両学科に共通する学部全体の事業を報告し次に学科ごとの事業を報告する。

１）総合経営学部（両学科共通）

①3 ポリシーについて

(a)アドミッション・ポリシー

今年度入試は両学科とも定員を大幅に超える入学者を迎える結果となった。指定校推薦希望者の増加や一般入試及びセンター入試における入学辞退率の減少を見ると、本学のアドミッション・ポリシーの周知と実践については一定の成果が出ていると考えられる。しかしながら、入学者の量の確保から本学部の望む学生像と合致するような質の確保に移行していくために，今後もより一層の受験者数の確保が望まれ、県立大学や大手専門学校に対抗できる、魅力ある学部を確立する必要がある。

(b)カリキュラム・ポリシー

いずれの学科においても、平成25年度新入生からのカリキュラム（以下H25課程と呼ぶ）が進行中であり、カリキュラム・ポリシーを具体的な授業として実現することに努めた。H25 課程での重点の一つであった基礎学力の担保については、情報処理能力（ワープロ，表計算）簿記、英語について，両学科合同で能力別にクラスを編成し，学生の能力に合わせた具体的な目標（検定試験合格）を設定し，成果の見える形での基礎学力の養成を行っている。例えば情報教育では今年度も引続き表計算検定2級を一年生の6割以上の学生が取得しており、情報リテラシーの底上げは一定の成果を上げて来ている。さらに、授業科目としての「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、就職試験で要求される社会人基礎力の養成に取り組んだ。

(c)ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーにかかわる成績評価の厳格化はほぼ達成されているが、当該ポリシーの成果の一つとも位置付けられる学生の就職状況を、より好転させることを目指した。その方策として、H25 課程では、資格取得に向けた指導を正規の授業科目としてカリキュラムの中に組み込んだが、この3年間の成果として、定常的に一定数の合格実績を出す資格と、あまり効果の見られない検定試験とが明らかとなってきた。目標資格の見直しと該当科目の配当学年変更など、更なる改善が課題である。また、公務員講座やTOEIC講座といった各種外部講座が全学規模で開かれるようになり、総合経営学部生の参加も多い。充実した結果に結びつけるために、学部の正規授業と外部講座を効果的に連携させるための具体的な議論を開始した。

②学部の中長期整備

総合経営学部の両学科においては、次の十年を視野に検討した改革案を、H25 課程として実施しており、まずは，このカリキュラムを着実に実行していくことを第一とした。一方で、全学的な動きと連動させた次期カリキュラムに向けて、H25 課程の評価とさらなる改革の議論をおこない、次期パンフレットに向けた、両学科イメージ図の刷新を行った。

人員補充に関しては、今年度は教職科目の扱いの議論の遅延や、結果として応募者に適任者がないなどの理由によって満足な結果を残せなかった。次年度早急の対応が望まれる。

③実施事業

(a)高大連携

昨年度に引き続き入試広報室の主導により、全学的に松商学園高校での出前講義シリーズを開催することができた。結果として、松商学園高校から本学部への一定数の進学者を確保すること

ができた。次年度以降もより関係強化を進めて生きたい。また、長野県商業教育研究会との連携を拡大し、マーケティング塾への協力を引き続き短期大学部と共同で行った。結果としてマーケティング塾参加者から大勢の本学進学者が出た。高校・飯田市との三者連携協定にもとづき飯田OIDE高校でも高大連携活動を継続している。地域貢献という観点のみならず、高校生に対して大学教員が直接アピールできる貴重な機会として、学生募集の観点からも高大連携を今後も推し進めていく必要がある。

(b)タブレットを活用した学部のICT化

私立大学活性化事業を活用した大学教務システムのICT化の一環として、まず本学部の新入生全員にタブレットパソコンを貸与した。プレゼンや情報収集などの学生個人での利用は進んだが、残念ながら大学側の教育支援システムソフトの改修が間に合わず、教育システム全体としては十分な運用ができなかった。次年度以降、改善された全体システムと併せての発展的活用が期待される。

(c)PBL型授業の拡充

COC関連の全学共通PBL型授業として2つ目の講座が、防災をテーマにスタートした。この科目にも本学部両学科の学生が多く参加し、名実ともに全学部的な地域活性化PBL授業となった。この学生たちが来年度以降学部を上げての地域貢献活動の主力となることを期待している。

(d)地域貢献の推進

COC 事業として従来から行っている地域との連携事業や地域貢献事業に加え、今年度新たに、国土交通省の進める「道の駅を活用した地域活性化事業」の一つとして、道の駅「中条」の指定管理者と連携協定を結び、具体的な活動として「むしくら祭り」への協力と商品開発を行った。

２）総合経営学科

・次期パンフレット向けの学科イメージとして、生活マネジメントなどの名前を改良しさらに心理を加えた4分野にまとめたイメージ図を策定した。

・資格取得を促進するため、H25課程では学科として取り組むべき重点的資格として、従来のITパスポート，ファイナンシャル・プランニング技能検定（FP)、販売士に加え宅地建物取引士（宅験)、消費生活アドバイザー、通関士を追加選定し、正課教育と課外の両面で専任教員が責任を持って指導することとした。FPや宅験のように毎年一定数の合格者が出ている資格と、そうでない資格との差が明らかとなってきた。今後、実績を評価して目標資格や指導方法の再検討が必要であろう。産業カウンセラーについては、協会との協議により卒業前に確実に受験資格が取得できるようになり、今年度初めて合格者（５人）がでた。

・就職試験対策としては，「ワークインフォメーション」・「社会人になるために」・「キャリア形成」を引き続き継続するとともに、授業科目である「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし専任教員が担当するかたちで、教養的学力の養成と強化に取り組んだ。

・昨年度の将来計画の議論に基き今年度も人事公募を行ったが、残念ながら適当な人材は見つからなかった。

・本学科は学問分野の専門性から、アウトキャンパスや地域貢献の機会は多くはないが、木曽や中

町通りにおけるアンケート調査や道の駅「中条」との連携活動への参加など、学生に多くの機会を提供するように学科教員が工夫を凝らしていた。

３）観光ホスピタリティ学科

・学科の教育目標を再検討した結果、観光・福祉・地域活性化を三本の柱とする基本的方針は維持しつつ、新しい学科イメージ図の作成を行った。

・高大連携に関しては、今年度は大野整氏を嘱託専任教授として迎え、長野県商業教育研究会と提携したマーケティング塾を、在学生も多く参加させる形でさらに発展させることができた。また、市を含めて三者協定を結んだ飯田OIDE長姫高校とも地域人養成の連携活動を進め、人材育成と合わせて学生募集につながるよう積極的に活用した。さらに、松商学園でも一連の出前講義を行い、本学教育内容の周知に努めた。

・学科として取り組むべき重点的資格として、社会福祉士、国内旅行取扱管理者、総合旅行取扱管理者を維持し、引き続き専任教員が責任を持って指導をおこなった。ここ数年、社会福祉士に関しては多くはないが一定水準の合格率で着実に合格者を出し続けている。国内旅行取扱管理者についても同様である。

・「公務員対策講座」は専任教員が担当する複数のクラスを開講し、公務員試験対策を強化する手立てとした。

・就職試験対策として,「ワークインフォメーション」・「社会人になるために」・「キャリア形成」を引き続き継続するとともに、授業科目である「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、専任教員が担当して教養的学力の養成と強化に取り組んだ。

・学科の特徴としてアウトキャンパスや「上土地域の活性化活動」をはじめとする地域貢献など、外に出て活動する機会を今年も数多く学生に提供した。外での活動で学生は着実に成長するので、今後も同様の機会を提供し続けることが重要である。

（３）来年度に向けて ＜Ａ＞

現在の大学に要請されるいくつかの観点からみて、総合経営学部の現状・改善計画は以下のように総括される。

１）３ポリシーについて

（ａ）アドミッション・ポリシーについては現在の両学科の教育内容に合わせて、平成27（2015）年3月に改定を行った。この改定されたアドミッション・ポリシーに則って本年度も学生募集を行っていく。学生募集に関して本学部は今までのところ、幸いなことに学部入学定員の確保を継続的に実現できてはいる。しかしながら志願者数が十分ではないために、アドミッション・ポリシーに合致した学生の選考を十分に行うまでには至っていない。学生について最低限の量の確保から質の担保に移行するためには、より多くの受験生の確保が必要である。昨年度は学生募集に用いる新たな学部イメージ図の再検討を行い、平成29年度入学生募集に向けた新たな学部イメージ図の基本的合意がなされた。今回の変更は基本的なポリシーの変更ではなく、3ポリシー実現のためのデザインの変更である。この新しいイメージ図を利用し、学部・学科の教育方針・内容を的確に発信し、高校や受験生に周知徹底していくことが今年度の学生募集のポイントである。その

ための有効な広報手法を積極的に駆使していく。

（b）カリキュラムについてはいずれの学科においても、平成25年度導入の課程が今年度は完成年度を迎える。このカリキュラムは、基礎教養科目、社会教養、専門教育のバランスを意識し、「何を教育するか」という特徴ある授業科目の配置に加え、学生の実情に合わせて「どのように教育するか」という視点を重視して、実際の授業としてのカリキュラム・ポリシーの具現化をめざしたものであった。具体的には、基礎学力の担保を実現するため、情報処理能力（ワープロ、表計算）簿記、英語については、学部全体で能力別にクラスを編成し、それぞれのクラスで学生の能力に合わせた適切な目標（検定試験合格）を具体的に設定し、成果の見える形での基礎学力の養成を行っている。また、「キャリア形成Ⅰ」「キャリア形成Ⅱ」をゼミⅡゼミⅢに代わる二・三年生学部必修科目と位置づけ、クラス数を増やし就職時の採用試験で要求される社会人基礎力の養成と強化に取組んでいる。いずれのクラスも、専任教員が授業担当者として参加して、責任を持って実行するかたちをとったものである。これらの試みの成果を冷静に評価し、次年度以降のカリキュラムに改良を加えていくことが今年度の課題となる。

（c）ディプロマ・ポリシーにかかわる成績評価の厳格化と基準の統一化はほぼ達成されていると考えている。ポリシー達成のより明確な成果指標として学生の就職状況を考えることができる。学生の就職状況をより好転させるための具体的な方策として、現在各種の資格取得対策の本格化をめざしている。これは、従来個々の教員の草の根活動的な取り組みとして実行されてきた資格取得指導を、正規の授業科目として学部・学科のカリキュラムの中に組み込んだものである。今年度は現行カリキュラムの完成年度であり、資格合格実績ならびに、それを踏み台にした就職状況改善について効果の測定及び評価を行い、目標資格の見直しや指導システムの改良をさらに行っていく必要がある。

２）学部の中長期整備

総合経営学部の両学科において、平成 25（2013）年度に導入した現行カリキュラムが完成年度を迎える。この年次進行中の新カリキュラムを在学生に着実に実行していくこととあわせて、その効果を適切に評価し、次年度以降のカリキュラムのさらなる改善を図っていくことが本年度の課題である。すでに両学科ともに平年 29（2017）年度学生募集用の学科イメージに関しては合意ができている。この新しい学科イメージ図を活用した学生募集を展開していくとととともに、よりいっそうの教育内容やカリキュラムの充実を目指して改良を加えていく。

現在、国の政策として「地域創生」が謳われ、地域産業や地域社会と大学の連携を後押しする政策が進められている。この政策を追い風に地域との連携をより密にし、入り口側では高大連携や出前授業を利用して高校生との活動を増やして学生募集につなげ、出口側ではインターンシップや共同研究を利用して地元産業界との結びつきを強め卒業後の就職へと結実していく。これら地域との結びつきの強い入口と出口とを効果的につなぐよう、アウトキャンパスや PBL 型の授業の拡大を図り、学部のカリキュラムアレンジを考えていく。特に高大連携に関しては、COC による地域連携協定に加えて、昨年度末には長野県商業教育研究会と連携協定を結び、また同一法人には松商学園高校が存在している。これらを活用し松商学園高校や県内高等学校との連携をより

強め、より多くの優秀な学生の確保につなげていく。

また、平成 29（2017）年度設置開設予定の教育学部との学生募集上のカニバリティーを避けるため、「義務教育の教員養成過程」である教育学部との対比の鮮明化として社会科学の専門教育の学部としての色彩を強めていく必要がある。それに加えて、長野県内の非理工系学生の受け皿として、人文科学的な分野の専門教育も総合経営学部の特色の一つとしていくことを考える。具体的には語学、文化、歴史といったものを学科カリキュラムの中に適切に取り込む可能性を再検討する。その際には東京オリンピックの存在や社会の国際化の流れをいかに効果的に取り込んでいくかが重要なポイントである。また、歴史や文化は地域アイデンティティーの核として活性化の鍵となることも重要なポイントである。

ネット接続されたスマホの携帯が当たり前となり、Big Data が広く活用される時代となったことをうけ、情報系専門技術者ではなく、ICT を活用してデータを読み論理的に考えられる普通の社会人が企業や地域で求められている。

社会科学の専門教育はもちろんのこと、上記の地域との連携も、人文科学的な色彩も ICT も、いずれも COC 活動やマーケティング塾、学芸員資格、情報活用論などすでに学部内に存在する要素であり、まったく新しいものではない。既存の内容を生かしながら授業やカリキュラムのより発展的な展開を進めて行くものである。

また、昨年は該当者なしに終わった学部教員の採用人事を確実に遂行し、将来の大学を担う若手人材の登用を図ることも急務である。

３）新規事業

平成 26（2014）年度私立大学活性化事業補助金を利用した、学内教務システムのスマートフォン対応化を行ってきたが、システムの本格稼動が本年度にスタートする。その端末として購入した iPad Air を平成 27 年度同様に平成 28 年度も総合経営学部新入生全員に貸与する。これには２つの狙いがある。第一は学生を「タブレットを携帯する ICT 環境」に慣れさせることである。ネットの常時接続と大量データの利用が当たり前となった生活を日常とすることによって、現代の高度情報化社会に適応した社会人へと自然と成長していくことを期待するものである。第二は ICT を利用した教務関連作業の簡単化で、出席管理や成績管理に ICT を活用することにより、教員の作業負荷の軽減とデータに基づく学生指導とを容易とし、指導の質の向上と教員が自身の研究や教材研究をする時間を確保することである。今年度システムの本格稼動実現の見込みであり、後者の目的であるスマート学部システムの実現・運用を計る。また、第一の目的のためには、タブレットで学生に何をさせたいのかを十分に考え、適切な教材と機会を用意することが特に肝要である。

以上学部として両学科共通の現状・改善計画を述べてきた。一昨年度から始まった地域づくりのための PBL 授業など両学科共通の科目も多く、現状認識と将来の課題については両学科教員で基本的な認識は一致している。

学科ごとの具体的な計画については以下のとおりである。

①総合経営学科

・平成27（2015）年度に決まった新しい学科イメージを構成する「経営管理」、「経営戦略とマーケティング」、「生活の経済学」、「働く人の心理」を四つのキーワードを軸にして学科の教育課程を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後10年を見据えた教育内容となるよう充実を図る。

・飯田市も含めた三者連携協定にもとづく飯田OIDE長姫高校および、観光ホスピタリティ学科及び短大と合同で行っている穂高商業高校、この両校との高大連携事業に積極的に協力・参加し、地域貢献と合わせて学生募集につなぐ。

・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格として、従来のITパスポート、FPに加え宅地建物取引主任者、消費生活アドバイザー、通関士を追加選定している。これらの資格対策を、カリキュラムを通じた正課教育と課外での学生支援との両面で、専任教員が責任を持って指導を担当し手厚くサポートし、実績を出すべく進めていく。また、目標資格の再検討も進めていく。

・既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた「公務員講座」とを有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。

・国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参加し、地域貢献と学生教育に活用する。

②観光ホスピタリティ学科

・昨年度の検討で確認した新しいイメージ図のキーワードである「観光とまちづくり」「地域づくりとマーケティング」「福祉と地域社会」の三つを柱とする学科の教育体制の整備を進める。

・高大接続の観点から引き続き高大連携事業を推進する。丸子修学館高校、市を含めて三者協定を結んだ飯田OIDE長姫高校に加え、穂高商業高校との高大連携活動や長野県商業教育研究会と合同で行っているマーケティング塾等に積極的に取り組み、学生の地域貢献と合わせて学生募集にもつなげる。

・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格を、社会福祉士、国内旅行取扱管理者、総合旅行取扱管理者（いずれも国家資格）と設定し、専任教員が指導を担当する。カリキュラムを通じた正課教育と、課外の学生支援との両面から、これらの資格および、平成27（2015）年度はじめて合格者の出た「行政書士」など他の国家資格取得に重点を置いた教育を充実させる。

・既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた「公務員講座」を有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。

・英語教育に関する体制を充実させ、同時に大学全体の教養教育を構築するため、英語の専任教員（教授）を中心に体制を整備する。

＜執筆担当／総合経営学部　学部長　室谷　心＞

３．人間健康学部

（１）「平成 27 年度事業計画」＜Ｐ＞

学部設置 9 年目となる今年度は、新県立大学の設立及び大原専門学校の松本市開校等の動向を

睨みつつ、それへの対策を含んだ新たな方向性とあり方を、昨年度の将来検討委員会における検討結果並びに全学的な改革の一環として位置付け、その具体化に積極果敢に取り組むべき一年となる。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、2011(平成23)年4月に発足した健康科学研究科との連携についても同様である。

以上の観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

①学部全体

1)アドミッション・ポリシーに関しては、十分とは言えないまでもおおむね高校・受験生などに理解されつつあると判断しており、今年度についても、いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、より学習に意欲的な学生の確保に努める。その際、この間取り組んできた入試改革とそれに伴う受験者および合格者の変化について分析し、その成果を反映すべく取り組む。また、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して学習により意欲的な学生の確保、定着化を図り、併せて、昨年実施した松商学園高校との入試連携事業については、今年度もさらに充実させる方向で取り組む。

2)カリキュラム・ポリシーに関しては、新カリキュラムへの移行、実施こそが最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて、常時、点検していくことが必要である。また、今年度も、いわゆる「教養教育」について、理念、内容、カリキュラム等に関する議論を深め、一定の方向性を見出すべく取り組む。

3) ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成されており、それは、卒業生が医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めていることにも反映していると判断される。したがって、今年度もそうした動向を推進すべく積極的に取り組む。そのために、2011(平成23)年度以降、学生ニーズとの整合性を図るべく改変されたキャリア教育の実効性をさらに高めるよう、キャリアセンター職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取り組みを進める。

4) 学部・学科として、あるいは個別研究室単位で行う講演会および各種教室の実施など各種取組を、ＣＯＣ事業、あるいは教育企画推進事業に位置づけ、地域健康支援ステーションも含めていっそう充実した形で展開する。また、ＣＯＣ事業に関連して、今年度より導入段階として１年次科目に「地域課題研究B『健康』」が開設されることに伴い、学部として同科目の円滑な運営、実施に協力していく。

5) 高大連携事業については、スポーツ健康学科が主として実施してきた従来の岡谷東高校に加え、松商学園高校や飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。また、可能な範囲で、健康栄養学科も加えて事業に取り組む。

6)自治体および企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。

7)両学科共に定年退職が連続することを踏まえ、その後任人事について、今後の将来展望を十分に見据えつつ実施する。

8)昨年度、国際交流センターを中心に前進した国際交流事業について、スポーツ健康学科と中国・嶺南大学体育学部との連携協力に向けての交流促進をはじめ、健康栄養学科も含め可能な形で協力していく。

9)上述した諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などの明確化を進め、両者がいっそう緊密に連携・協力できるよう見直し、必要に応じて改善を図る。とりわけ、6号館事務室スタッフが、地域健康支援ステーション職員、ＣＯＣ事業職員、スポーツ健康学科専任助手などから構成されることを踏まえ、その職場環境の整備を進めると共に、事務分担の明確化と協力体制の構築に努める。

②健康栄養学科

1)本学科に進学した学生のほとんどが専門学習を生かした就職を希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望している。現状の課題として、成績が優良である学生とそうでない学生との幅が拡大しているという点が挙げられ、これが国家試験の合格率にも影響している。そうした状況を踏まえ、成績が伸びてこない学生の専門基礎科目や専門科目の教育をいかに進めるかを検討していくとともに、新設する1年次の「大学入門」も活用し、学科全体として4年間を通した確かな基礎学力の養成と専門知識の教授に努める。また、より厳格な成績評価にも取り組む。

2)今後連続する教員の定年等の転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を見直し、設定したカリキュラム・ポリシーにそった教育の充実を図る。

3)年々、新入生の学力は向上してきていたが、2014(平成26)年度は全国的な動向もあり、受験生が減少し、応募状況が良好とはいえなかった。2015年も楽観視できる状況ではなかったことを踏まえ、新入生の学力や学習意欲を見極め、必要な対応策を講じていく。1年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して学習への動機づけを強化し、教員の教授力の向上にも努める。

4)管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、学科教員が一体となって取り組む。具体的には、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図るとともに、受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行う。

5)COC事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実強化し、地域貢献事業の推進を図る。また、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面からの地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、他大学にはない本学・本学科の独自性を強化する。また、その成果についての広報

を充実させる。

6)学生がそれら食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者等との連携を深め、学生の正課及び課外での学習を充実させる。

③スポーツ健康学科

1)本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。

2)1年次の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両科目について、学年毎の目標を明確にしつつ、基礎科目として学生の運動・スポーツへの関心を、地域課題である健康への志向性に向け、内容的にも方法的にも検討しさらに充実させていく。

3)新カリキュラムの完全実施を踏まえ、その円滑な運用に遺漏のないよう定例の学科会議を中心に点検・確認していく。

4)AO入試の内容変更など見直しが進む入試制度について、これを遺漏なく実施し、その効果や影響などを入試課と連携して的確に把握し分析に努める。

5) 新たに日本サッカー協会C級コーチ・キッズリーダー資格取得講習を開設する。このほか、昨年より導入している日本体育協会資格・総合型クラブアシスタントマネージャー資格に関わる適応免除制度(養成講習会受講免除、試験は免除なし)等、資格関連講座について、学生向け広報を的確に行う。

6) 地域貢献事業について、学生の自主的活動の場や地域から求められている企画力・マネジメント力といった実践力が期待されている。その導入段階として１年次科目に「地域課題研究B『健康』」を開設した。１年を通じアウトキャンパス・スタディの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋に向けていく。

7)新任教員２名を迎えスタートする新年度は、学生への教育並びに新構成となった学務のスムースな移行に成果を上げるべく、教員間のいっそうの協力・連携を図る。

（２）「平成 27 年度事業計画」に対する実施状況 ＜Ｄ・Ｃ＞

2015(平成 27)年度は、新県立大学の設立及び大原専門学校の松本市開校等の動向を睨みつつ、それへの対策を含んだ新たな方向性とあり方を、一昨年度の将来検討委員会における検討内容を全学的改革の一環として位置付け、その具体化に取り組む一年となった。そうした観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組んだ事業について報告する。

①学部全体

1)いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、学習により意欲的な学生の確保に努めた。また、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して学習により意欲的な学生の確保、定着化を図り、さらにせて、昨年実施した松商学園高校との入試連携事業についても充実させる方向で取り組んだ。

2)カリキュラム・ポリシーに関しては、新カリキュラムへの移行、実施が最大の課題と位置付け、

学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて常時点検し、遅滞なく遂行することができた。

3)ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成されており、卒業生が医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めていることにも反映しているとの判断を基に、今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組んだ。その具体例の一つが、学生ニーズとの整合性を図るよう改変されたキャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組んだことである。

4) 学部・学科として、あるいは個別研究室単位で行う講演会及び各種教室の実施など各種取組を、ＣＯＣ事業、あるいは教育企画推進事業に位置付け、地域健康支援ステーションも含め展開できた。また、ＣＯＣ事業に関連して、１年次科目として新たに「地域課題研究B『健康』」を設置したものの、履修者がなく開講することができなかったことは反省点であり、次年度には解決せねばならない課題である。

5) 高大連携事業については、スポーツ健康学科が主として実施してきた従来の岡谷東高校のほかには拡充できず、入試に関連して松商学園高校との連携を進めるにとどまった。また、自治体および企業などとの連携事業についても、両学科の特性、あるいは地域健康支援ステーションを生かしつつ取り組むことができた。

6)このほか、年度当初の事業案に盛られた人事案件の実施、国際交流の促進などについては、特段の進展をみるに至らなかった。

②健康栄養学科

1)平成29年度に導入するコース制について検討し、それぞれのコースで取得できる資格や履修モデルの作成を行った。さらに、コース制の導入に伴う広報資料についても検討を進めることができた。

2)4年間全体を通じたDP達成のための学修意欲の喚起に結びつけるため、新設科目である1年次の「大学入門」を活用することができた。それに合わせて、従来の新入生のクラス担当について、助手も含めた少人数体制とし個別のニーズや課題に対応できるような体制を整えた。課題として大学祭での活動等、従来のクラス単位での活動が十分にはできなかったことから、次年度はその改善のための対策を講じることとした。

3)学習意欲が低く成績が良好でない学生に対しては、個々の授業科目担当者がそれぞれに教授方法を工夫したほか、学科会議等を通じて情報交換し対応をとるようにした。学科会議では、学外での臨地実習時の学生評価についても情報を共有し、専門科目はもとより専門基礎科目の学力の向上にも結び付けるようにした。

4)2015(平成27)年度の入学生が定員をオーバーしことを踏まえて、次年度入試への対応を検討した。2016年度入試では健康栄養学科の志望者は前年度より低下傾向であったが、入試区分ごとにこれまでの分析結果を踏まえて検討し、定員を確保することができた。今後、入試の成績と入学後の学力に関して分析を進めていく必要がある。

5)学科独自のCOC事業プログラムや地域健康支援ステーションとの連携による管理栄養士等の連携

やフィールドで活動が推進され、学生の学習意欲の向上や実践力の育成が図られた。

6)管理栄養士国家試験対策は、ワーキンググループが中心となって学習支援と成績管理を行い、関連科目の教員が協力するという形で進めた。また、成績下位者に対して特別学習時間も設けるなどの新しい取り組みも実施された。

③スポーツ健康学科

1)本学科の教育理念を踏まえ、毎月1回開催される学科会議を中心に、学科教務委員並びに各ゼミ担当者などから適時学生の動向が報告され、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努めた。

2)新カリキュラム構築の中で新たに設置した1年次の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両ゼミナールについては、本学科教員の共通理解を重視し充実させることができた。昨年度から実施している自己分析検査(PROG検査)を、今年度も1年次に全員実施した。現在、学士号取得後に問われている社会人基礎力の養成という視点からも、検査結果を本人にフィードバックして課題を明確に示すとともに、不得意科目を中心に、基礎学習の時間を3時間分であったが設けた。また、2年次は、3年次よりスタートする専門ゼミを見据えて、専門分野毎に教員の指導の下、導入部ではあるが研究の実践について学ぶ機会を昨年度より増やした。

3)2011(平成23)年度から新カリキュラムが実施に移されたことを踏まえ、同時に進行する旧カリキュラムの履修対象となる学生について僅少の単位未取得者を出さないよう努めたが、1名が旧カリキュラム対象者として残った。

就職活動については、ゼミ単位での就職活動状況調査を実施するなどして支援を強化したこともあり、昨年度に比べて就職内定時期も早く、内定率も良好な結果となった。

4)入試の内容変更など見直しが進む中、模擬授業の受講とそれに関わるテストを実施したことによって、期待した狙いを一定達成できたと判断している。これらの改革、実施については、入試委員を通して、入試広報室など関連部署と適宜連絡を取りつつ実施した。

5)日本体育協会資格・総合型クラブアシスタントマネージャー資格に関わる適応免除制度(養成講習会受講免除、試験は免除なし)が、現4年生が2年生時より適用されたことに伴い、取得者はまだ0名である。また、新たに開設された日本サッカー協会C級コーチの取得者は10名、キッズリーダー取得者は0名であった。

6)一年を通じアウトキャンパスの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋に向けていくために、1年次に「地域課題研究B『健康』」を開設したが、履修者は0名であった。

（３）「平成 28 年度事業計画」＜Ａ＞

創設 10 年目となる平成 28 年度は、昨年度来の検討・論議を経て 11 月の定例教授会において承認され、学部・学科の新たな方向性とあり方を示した改革案について、来年度実施に向けて具体化に取り組む一年となる。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、健康科学研究科との連携につい

ても同様である。

以上のような観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

①学部全体

1)アドミッション・ポリシーに関しては、十分とは言えないまでもおおむね高校・受験生などに理解されつつあると判断しており、今年度についても、いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、学習により意欲的な学生の確保に努める。その際、この間取り組んできた入試改革とそれに伴う受験者および合格者の変化について分析し、その成果を反映すべく取り組む。また、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して学習により意欲的な学生の確保、定着化を図り、併せて、過去二年間にわたって実施してきた松商学園高校との入試連携事業については、今年度もさらに充実させる方向で取り組む。

2) カリキュラム・ポリシーに関しては、上述した学部・学科の改革に向けて、コース制の導入と、それに伴うカリキュラムの検討、確定こそが最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に具体案を検討し、問題点の洗い出しと対応策につい確認していくことが必要である。また、コース制の導入に際して、両学科共にコースに所属する学生個々について入試形態、学業成績、課外活動、就職先などの諸データを一括して蓄積・管理し、学修指導に活かすとともに、学生募集の際に明確な形で示し広報できるよう積極的かつ計画的に取り組む。

さらに、来年度も、昨年度課題として取り上げたいわゆる「教養教育」について、新設される教育学部のものも参考に、内容及び構成等を総合経営学部と連携しつつ議論を深め、一定の方向性を見出すべく取り組む。

3)ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成されており、それは、卒業生が、医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めていることにも反映していると判断される。したがって、今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組む。そのために、キャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。

4) 学部･学科として､あるいは個別研究室単位で行う講演会および各種教室の実施など各種取組を、COC⁺事業、あるいは教育企画推進事業に位置づけ、地域健康支援ステーションも含めいっそう充実した形で展開する。また、COC⁺事業に関連して導入された1年次科目「地域課題研究B『健康』」について、学部として同科目の円滑な運営、実施に協力していく。この点に関しては、来年度開設する教育学部に設置される教養科目「こころと体の健康」についても同様である。

5) 高大連携事業については、従来の岡谷東高校および松商学園高校に加え、飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。

6)自治体および企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行

の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。

7)両学科共に、退職・転出者の後任人事ついて、先の学部・学科の改革実現の観点に立って早急に取り組み具体化する。

8)一昨年度より国際交流センターを中心に進められている国際交流事業について、スポーツ健康学科と中国・嶺南大学体育学部との交流促進をはじめ、健康栄養学科も含め可能な形で協力していく。

9) 上述した諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などの明確化を進め、両者がいっそう緊密に連携・協力できるよう見直し、必要に応じて改善を図る。とりわけ、6号館事務室スタッフが、地域健康支援ステーション職員、COC+事業職員、スポーツ健康学科専任助手などから構成されることを踏まえ、事務分担の明確化と協力体制の構築に努める。

②健康栄養学科

1)本学科に進学した学生のほとんどが管理栄養士資格取得を目指し国家試験合格を強く志望しているが、現状の課題として、成績が優良である学生とそうでない学生との幅が拡大しているという点が挙げられる。そこで、成績が伸びない学生の専門基礎科目や専門科目の教育をいかに進めるかを検討するとともに、1年次の「大学入門」も活用し、学科全体として4年間を通した確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に努める。また、各科目で設定している基準に基づいて厳格な評価を行う。

2) 今後連続する教員の定年等の転・退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を見直し、設定したカリキュラム・ポリシーにそった教育の充実を図る。また、新たに導入するコース制について、その遅滞のない実施・運営に努め、さらなる充実を図る。そのためにも、コース別に所属学生個々の入試形態、学業成績、課外活動、就職先などの諸データを一括して蓄積・管理し、学修指導に活かし、学生募集の際に明確な形で示し広報できるよう積極的かつ計画的に取り組む。

3)年々、新入生の学力は向上してきていたが、2014(平成24)年度は全国的な動向もあり、受験生が減少し、応募状況が良好とはいえなかった。2015年度も楽観視できる状況ではなかったことを踏まえ、新入生の学力や学習意欲を見極め、必要な対応策を講じていく。また、1年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して学習への動機づけを強化し、教員の教授力の向上にも努める。

4)管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、学科教員が一体となって取り組む。具体的には、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図るとともに、受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行う。特に、2017(平成29)年度に実施される予定である管理栄養士国家試験の早期実施に向けた対策について検討を進める。

5)COC+事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実・強化し、地域貢献事業の推進を図る。また、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面からの地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、他大学にはない本学・本学科の独自性を強化する。また、その成果についての

広報を充実させる。

6)学生が、それら食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者等との連携を深め、学生の教育課程内および課外での学習を充実させる。

③スポーツ健康学科

1)本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学四年間および将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。

2)1年次の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学門」の両科目について、過去2年間の経験を踏まえて、学年毎の目標を明確にしつつ、基礎科目として学生の運動・スポーツへの関心を、地域課題である健康への志向性に向け、内容的にも方法的にも検討しさらに充実させていく。

3) 来年度からの3コース制の導入とそれに伴う改正カリキュラムの円滑な実施に向けて、定例の学科会議を中心に検討、確定すべく取り組む。併せて、各コース別に所属学生個々の入試形態、学業成績、課外活動、就職先などの諸データを一括して蓄積・管理し、学修指導に活かすとともに、学生募集の際に明確な形で示し広報できるよう積極的かつ計画的に取り組む。

4)AO入試の内容変更など見直しが進む入試制度について、これを遺漏なく実施し、その効果や影響などを入試課と連携して的確に把握し分析に努める。

5)地域貢献事業に求められる企画力・マネジメント力といった実践力を培うために、昨年度より、1年次科目に「地域課題研究B『健康』」を開設した。1年を通じアウトキャンパスの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋に向けていく。

6)この間に生じた転出者の後任人事について、来年度からの学科改革を実現しより充実したものにするという観点に立って早急に取り組む。

＜執筆担当／人間健康学部　学部長　等々力　賢治＞

４．教育学部設置準備室

設置準備室長に川島一教授を戴き、教職センターの教員などを中心とし、事務側では柴田、赤羽研、石川、田嶋等を核に学長、教学担当副学長、法人事務局長が加わって進める。

（1）事業計画 ＜P＞

①設置認可申請、②課程認可申請、③寄附行為変更申請の３つの申請を、決められた日程と内容を遵守して、滞りなく受け付けられるように取り組む。

①に関しては設置の趣旨を記した書類、担当教員の確保、学生募集の見込み、教育実習先の確保、卒業後の就職の見込み（特にこれら二点は県教委や市教委との連携が求められた）、校舎の設計などが主な内容である。②については①を受けて、教職免許課程の具体的カリキュラム及びシラバスを準備すること、③については校舎建設など財務面での課題をクリアすることなどが重要なポイントとなる。

（２）実施状況 ＜Ｄ＞

結論から言えば、３つの部門それぞれに何度かの文部科学省の担当の窓口へ出かけ、指導を受けながら、３月には無事受け付けられた。教員に関しても、相談できる方々もいらして下さったので、そうした方々のアドバイスも受けながら人選が進められ、平成 26 年内には一応の布陣が整い、専任教員就任予定者が一堂に集まって申請に向けた申請手続きの打ち合わせを行うところまで漕ぎ着けた。募集の見込み調査も行ったが、結果は当初予想を上回る良い方向での回答を得て、意を強くすることができた。卒業後の就職見込みについても、県内現役教員の年齢分布などから、順調な募集状況が続くことも分かった。教育実習先も県教委、いくつもの市教委、校長への要請活動で定員の８０名を越える場が確保できた。

（３）点検・評価 ＜Ｃ＞

他大学の趣意書や信頼できる相談役の存在、すでに本学で勤務する教育関係教員の個人的つながり等を活かし、教員募集準備を順調に進めることが出来た。もちろん公募も行い、多角的視点から適任者を探し出した。小学校教諭免許取得に取り組むのは本学にとって初めての経験であり、経験豊富で且つ論文等の面で文科省の審査に耐え得る方々を求めるという基本方針を掲げて望んだ。しかもこれまでにない特色も出すべく、教育心理系、地域連携・学校連携を取り入れることができる陣容を整えようとし、ある程度成功したと言える。

専門教育に加えて、教養教育についても将来の共通教養を念頭に置いてモジュール型の体系を採用し、松本大学の教養教育に対する考え方が明確になるように工夫出来た。

（４）次年度に向けて ＜Ａ＞

先ずは受け付けられた３つの申請書が、最終的に認定されるように、文科省等からの多様な指摘・注文に機敏に対応していく。認定後は、趣意書に則り学生募集や４月からの開講に向けて、授業の準備を含め事務的な手続きを着々と進めていく。入試業務を入試委員会と連携しながら怠りなく遂行し、アドミッションポリシーに沿った定員 80 名を越える優秀で意欲的な人材の確保に努める。

＜執筆担当　教育学部設置準備室長　川島　一夫＞

５．松商短期大学部

（１）計画 ＜Ｐ＞

前年度に引き続き以下の４つの施策を実施する。

1) 入学者選抜段階における施策

「特待生入学制度」および「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続、同時に、本学進学の経済的優位性を高校生にアピールする。

2) 修学意欲向上のための施策

「資格奨励金制度」および「学業成績優秀賞授与制度」を維持し、本学学生の学業に対するモチベーションの維持向上につとめ、同時に、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発および作成を継続し、本学学生に合わせたわかりやすい授業の展開と学生の学習意欲向上を図る。

また、導入３年目となる入学直後のプレイスメント･テストを継続実施し、入学生の基礎学力のデータを収集、状況把握を行い、本学の教育活動･学生募集活動に活用する。

3) 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の強化拡大、講座開設による公務員受験対策の強化、四年制大学への編入対策の強化を図る。また、一昨年度単位化した「就職試験における集団討論」の対策講座を継続し、同時に、県内製造業生産拠点の海外移転傾向を加味して、業務ツールとしての英語力育成に取組み、企業ニーズに対応した人材育成を行う。さらに就職内定者に対しては早期離職防止対策を強化に取組む。

4) 地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業に取り組む。10 年目を向かえる穂高商業高校との連携を、高校生に対するキャリア教育の一環として県内の他の商業高校にも拡大する。また、教育ツールとしてのモバイルＰＣの活用を図る。松商学園高校商業科との連携事業を今年度も継続し、高校･短大５カ年教育を視野に入れた高短大接続教育プログラムの研究開発をさらに進めていく。

【商学科および経営情報学科の新しい取組み】

1) 認証評価受診

2015（平成 27）年度は、短期大学基準協会による認証評価（第三者評価）受審の年となる。そのスケジュールは、2015 年６月 30 日「自己点検･評価報告書」の提出、９･10 月訪問調査（予定）、12 月機関別評価案の検討、2016 年３月機関別評価結果の受理となる。適正認定が受けられるよう遺漏のない準備を行う。

2) グローバル人材育成教育

本学学生の就職先企業における英語、中国語、韓国語の必要性を考慮して、作年度から、企業活動の国際化に対応したグローバル人材育成教育が始まり、「国際コミュニケーション・フィールド」を新設して多文化共生社会に対応した異文化コミュニケーション能力の育成を開始した。しかしながら、本学は、海外の交流協定校が少ないということもあり、学内の留学生比率が極めて低く本学学生が海外に目を向けづらい環境となっており、また、経済的な問題から短期研修や中長期の留学が困難な学生も多い。さらに、語学教育の観点からは、学内の国際化が進んでいないため、語学は教室で学習だけのものになってしまい、実践的な会話力に結びついていないという課題もある。

そこで、まず、学内に外国人留学生を呼び込み、学内の国際化を促す観点から、2015 年度は米欧の英語圏を中心に交流協定校を増やす準備を始めている。また、夏と冬に「日本語プログラム」を実施し、海外で日本語を学ぶ留学生を学内に呼び込む計画であり、短期であっても学内に外国人留学生が来ることで、本学学生にとっては、言語学習に加えて異文化体験が可能になり、実践的な語学力向上や異文化理解に繋がることが期待される。さらに、語学教育においても、本学の短期プログラムで来学する留学生を、学期後半の英語、中国語、韓国語の授業に参加させ、留学生参加による双方向型授業による実践的会話力の育成を意図した授業を実施する計画である。加

えて、海外協定校の教員が担当する科目「海外事情」を開講し、直接海外の事情について解説してもらい、学生が少しでも海外に目を向け、協定校の海外研修にも興味を持つ仕組みを作っていく。

3) iPad とモバイルＰＣによる教育の展開

2013、2014 年度において順次導入した iPad とモバイルＰＣについて、これまでの活用方法の反省を踏まえて、さらなる ICT 教育の展開に取り組む。2015 年度からは、新２年生は昨年度に引き続き iPad を貸与、新入生には卒業までの２年間モバイルＰＣを貸与し、授業前学習で講義 DVD の視聴や問題演習、授業でのグループ学習やディスカッション等のアクティブ・ラーニング、そして授業後学習では従来の「メモ力育成」の取り組みなどの双方向型授業を展開することで、ICT を活用した学生の様々な能力、特に社会人・職業人として必要不可欠な実践的で応用可能な能力（コンピテンス）を高める教育を展開する。

4) フィールド･ユニット制カリキュラムの再検討

本学のフィールド･ユニット制カリキュラムは、2004(平成 16)年度から始まり、10 年が経過してきた。この間、若干のフィールド名及び内容の変更を行いながらも 16 フィールドを維持してきたが、2016 年度からは、「留学生フィールド」を「国際コミュニケーション･フィールド」に融合することによって、15 フィールドとなる。この 10 年間は、松商ブランド基礎･形成フィールドにおいて商学と経営情報学を本学の教育の核としつつも自由度の高いカリキュラムを構築し、学生からも好評価を得てきたが、最近の学生募集状況を見る限り、今の高校生にとってより魅力的な内容のフィールドを検討すべき段階に至ったと言わざるを得ない。

またこの検討と平行して、４学期制のカリキュラム編成についても具体的な検討を始める。４学期制あるいはそれに準じた教育課程編成は、大学の国際化や多様な学修体験の機会の確保の観点から、２学期制に比べると「①学期の区切りや長期休業期間を海外の大学に合わせることができるため、留学などの学生･教員の国際交流が促進される。②週に複数回授業することで、より集中した学習が可能となり、教育効果が高まる。③２か月程度の短期休学が可能となり、社会体験活動へ参加しやすくなる。」(文科省「学事暦の多様化とギャップイヤーを活用した学外学修プログラムの推進に向けて」平成 26 年 5 月 29 日)といったメリットがあると言われており、現在すでに、いくつかの大学で導入されている。

ここ数年では最も厳しいと言わざるを得ない本学の現状において、学生募集定員の削減と、それに伴う人員構成の検討、４学期制を視野に入れたカリキュラム改革、フィールド改革は、既に待ったなしの状況と言える。2015 年度は、２年後の大改革を目途に、貴重な１年間となる。

（２）実施と検証　＜Ｄ・Ｃ＞

1) 認証評価受審

今年度は、短期大学基準協会による認証評価(第三者評価)受審の年であった。6 月中に「自己点検･評価報告書」を提出、9 月に訪問調査を受審、3 月に機関別評価結果「適正」を受理した。

2) 入学者選抜段階における施策

前年度に引き続き入学生に対して「特待生入学制度」と「入学金割引制度」に基づく経済的支

援を行った。今年度の特待生は、授業料全額免除の一種、同半額免除の二種のうち、推薦入試段階で、経済支援特待一種１名、同二種２名、学業学力特待二種２名、一般入試・センター利用入試段階では、学力特待二種３名、入学金免除１名であった。また、入学金割引については推薦入試段階で、専門資格取得割引の対象者が 10 名(漢検 4、簿記 6)、兄弟姉妹割引が 4 名、一般入試・センター利用入試段階で資格割引が 3 名(漢検 2、英検１)、兄弟姉妹割引が 3 名であった。資格割引については入学時点での申請が 11 名(漢検 9、英検 1、IT パスポート 1)あり、この制度導入時から想定していたとおり入学決定後から入学までの学習目標としての機能が果たされていると考えられる。

3) 修学意欲向上のための施策

制度発足以来大きな効果が現れてきている「資格奨励金制度」と「学業成績優秀賞授与制度」について、今年度も継続実施した。ただし、資格奨励金制度については、昨年度の四年制学部も合わせた奨励金支給総額が 400 万円を超えるという状況を受けて、資格支援センター運営部会において奨励金支給資格の見直しと支給金額の大幅な引下げが行われ、それにともない、今年度の短大部におけるその支給総額は 1,306,900 円(昨年度 2,581,800 円)となり、昨年度の約半額となった。また、受給者数は延べ 360 名(昨年度 498 名)となり、支給対象資格数の減少が受給者数の減少につながったと言える。また、学業成績優秀者表彰は、前期(1･2 年生)・後期(1 年生)2 回行い、各学年成績上位 10 名を表彰した。各回各学年で素点平均点 95 点以上と非常に高いレベルでの受賞であった。両制度とも本学学生の学業に対するモチベーションの維持向上にとってなくてはならない制度である。

専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発については、今年度、松原健二教授「海外旅行入門」の作成、また藤波大三郎教授「銀行論入門」の増刷、金子能呼准教授の講義におけるファイル購入を行った。オリジナルテキストはこれで全 10 冊となった。

4) 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の開催状況は、例年通りの合同説明会が 3 回(各回参加企業約 60 社)、長野県中小企業団体中央会主催の合同説明会(参加 22 社)が行われ、単独企業説明会は 42 回の開催となった。今年度は、日本経済の回復、雇用の拡大に伴い、学生の就職環境は昨年度に増して好転し、その結果、本学学生の内定率もここ数年では最高であった昨年度 97.1%をさらに上回る 99.5%(３月末現在)という非常に高い水準となった。

四年制大学への編入は、松本大学総合経営学部総合経営学科に 3 名、金城学院大学、國學院大學、岐阜女子大学、ニュージーランド･ランゲージセンターに各１名であり、編入･進学者も含めた進路決定率は 94.0%となった。

また、平成 23 年度開設以来着実に実績を挙げている「金融スペシャリスト･プログラム」については今年度、短大部としては初めて証券外務員試験Ⅰ種に１名が合格し、全国的に見てもⅠ種合格は快挙であった。また同Ⅱ種にも１名が合格、ファイナンシャルプランニング(FP)技能検定３級に８名が合格した。今年度の好調な就職状況の中でも特に、金融機関への就職が大きく伸びたが、このプログラムの効果に拠るところが大きいと言える。

5）地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業も穂高商業高校とは10年目を向かえ、例年通りグレードアップ型連携、チャレンジ型連携を実施した。また、松商学園高校商業科、諏訪実業高校ともチャレンジ講座を開催し、総勢200名を超える高校生に対応した。また、金子ゼミナールは今年度も「バレンタイン・スイーツ～バレンタインまで待てない～」において県下商業高校の生徒とともに、商品開発・販売実践に参加した。

6）新たな施策

グローバル人材育成教育については、国際交流委員会の主導のもとに、韓国の東新大学、国立済州大学、中国の嶺南師範学院との交流協定に則り、学生間、教員間の交流促進を図ると同時に、アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ等の大学との交流・協定を模索した。

学生の交流実績は、嶺南師範大学のサマーキャンプ(7 月)に 2 名、東新大学の短期プログラム(3 月)に 1 名、済州大学のサマープログラム(8 月)に 1 名、ニューカッスル大学のサマープログラム(8 月)に 5 名、フライブルグ大学の語学研修(2 月)に 1 名であった。本学主催のサマープログラム(7 月)には嶺南師範学院の学生 5 名、東新大学の学生 6 名が参加し、ウィンタープログラム(2 月)には嶺南から 2 名の学生が参加した。また、教員交流の面では、本学教授の糸井と山添が嶺南師範大学で 2～3 週間の集中講義(7 月･3 月)を実施し、本学主催のサマープログラムの引率で来学した李先生(嶺南)、柳先生(東新)には本学の学生に対して「海外事情」の講義を担当してもらった。

フィールド･ユニット制カリキュラムの再検討については、平成 29 年度からの四学期制の本格導入に向けて、既存の各フィールでのアウトキャンパス授業、インターンシップ、海外留学研修等の充実をはかるという方向性を確認した。また、四学期制の試験的導入として今年度後期開講の「金融論」と「日本の経済」において、後期の前後半で週 2 回ずつの開講を実施した。受講した学生に対する終了後のアンケートでは、概ね良好の評価が得られた。これを踏まえて、次年度ではさらにいくつかの科目で、４学期型の授業開講を試みる予定である。

7）文部科学省「活性化設備整備事業」

今年度もタイプⅠ「教育の質的転換」とタイプⅡ「地域発展」の二つで「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に申請し、採択された。タイプⅠでは「基礎的教育環境整備による総合的アクティブラーニングの推進」をテーマとし、3 教室および図書館における机･椅子等の設備充実、学生ラウンジにおける PC の整備を図り、またタイプⅡでは「正課外教育による地域の子育て支援と『信州型コミュニティスクール事業』を介した小中学校に対する教育支援」をテーマに掲げ、7 号館コモンルームの ICT 機器、ホワイトボード、椅子等の設備充実に取り組んだ。

（３）平成 28（2016）年度の計画　＜Ａ＞

前年度に引き続き以下の４つの施策を実施する。

1）入学者選抜段階における施策

「特待生入学制度」および「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続、同時に、本学進学の経済的優位性を高校生にアピールする。

2）修学意欲向上のための施策

「資格奨励金制度」および「学業成績優秀賞授与制度」を維持し、本学学生の学業に対するモチベーションの維持向上につとめ、同時に、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発および作成を継続し、本学学生に合わせたわかりやすい授業の展開と学生の学習意欲向上を図る。また、導入３年目となる入学直後のプレイスメント･テストを継続実施し、入学生の基礎学力のデータを収集、状況把握を行い、本学の教育活動･学生募集活動に活用する。

3）進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の強化拡大、講座開設による公務員受験対策の強化、四年制大学への編入対策の強化を図る。同時に、県内製造業生産拠点の海外移転傾向を加味して、業務ツールとしての英語力育成に取組み、企業ニーズに対応した人材育成を行う。さらに就職内定者に対しては早期離職防止対策を強化に取組む。

4）地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業に取り組む。11年目を向かえる穂高商業高校との連携を、高校生に対するキャリア教育の一環として県内の他の商業高校にも拡大する。また、教育ツールとしてのモバイルＰＣの活用を図る。松商学園高校商業科との連携事業を今年度も継続し、高校･短大5カ年教育を視野に入れた高短大接続教育プログラムの研究開発をさらに進めていく。

【商学科および経営情報学科の新しい取組み】

1）　グローバル人材育成教育

本学学生の就職先企業における英語、中国語、韓国語の必要性を考慮して、一作年度から、企業活動の国際化に対応したグローバル人材育成教育が始まり、「国際コミュニケーション・フィールド」を新設して多文化共生社会に対応した異文化コミュニケーション能力の育成を開始した。しかしながら、本学は、海外の交流校が少ないということもあり、学内の留学生比率が極めて低く本学学生が海外に目を向けづらい環境となっており、また、経済的な問題から短期研修や中長期の留学が困難な学生も多い。さらに、語学教育の観点からは、学内の国際化が進んでいないため、語学は教室で学習だけのものになってしまい、実践的な会話力に結びついていないという課題があった。

そこで、まず、学内に外国人留学生を呼び込み、学内の国際化を促す観点から、昨年度は欧米を中心に交流校を増やし、また、夏と冬に「日本語プログラム」を実施し、海外で日本語を学ぶ留学生の本学への呼び込みを図る基礎を整えた。短期であっても学内に外国人留学生が来ることで、本学学生にとっては、言語学習に加えて異文化体験が可能になり、実践的な語学力向上や異文化理解に繋がることが期待される。さらに、語学教育においても、本学の短期プログラムで来学する留学生を、学期後半の英語、中国語、韓国語の授業に参加させ、留学生参加による双方向型授業による実践的会話力の育成を意図した授業を実施する計画である。加えて、海外交流校の教員が担当する科目「海外事情」を開講し、直接海外の事情について講義してもらい、学生が少しでも海外に目を向け、交流校の海外研修にも興味を持つ仕組みを更に発展させていくとともに、

欧米に加えてアジア・オセアニア地域にも交流校を増やし、交流の実質化を図る予定である。

2) iPad とモバイルＰＣによる教育の展開

平成 25（2013）、平成 26（2014）年度において順次導入した iPad とモバイルＰＣについて、これまでの活用方法の反省を踏まえて、さらなる ICT 教育の展開に取り組む。平成 28（2016）年度は、新 2 年生は昨年度に引き続きモバイル PC を貸与、新入生には卒業までの 2 年間 iPad を貸与し、授業前学習で講義 DVD の視聴や問題演習、授業でのグループ学習やディスカッション等のアクティブ・ラーニング、そして授業後学習では従来の「メモ力育成」の取り組みなどの双方向型授業を展開することで、ICT を活用した学生の様々な能力、特に社会人・職業人として必要不可欠な実践的で応用可能な能力（コンピテンス）を高める教育を展開する。また、新たに導入した電子黒板、可動式机･椅子の活用による教育手法の開発に着手する。

3) フィールド･ユニット制カリキュラムの再検討

本学のフィールド･ユニット制カリキュラムは、平成 16(2004)年度から始まり、10 年余が経過した。この間、若干のフィールド名及び内容の変更を行いながらも 16 フィールドを維持してきたが、平成 27（2015）年度からは、「留学生フィールド」を「国際コミュニケーション･フィールド」に融合することによって、15 フィールドとなった。この 10 年間は、松商ブランド基礎･形成フィールドにおいて商学と経営情報学を本学の教育の核としつつも自由度の高いカリキュラムを構築し、学生からも好評価を得てきたが、最近の学生募集状況を見る限り、今の高校生にとってより魅力的な内容のフィールドを検討すべき段階に至ったと言わざるを得ない。

またこの検討と平行して、4 学期制のカリキュラム編成についても具体的な検討を始める。4 学期制あるいはそれに準じた教育課程編成は、大学の国際化や多様な学修体験の機会の確保の観点から、2 学期制に比べると「①学期の区切りや長期休業期間を海外の大学に合わせることができるため、留学などの学生･教員の国際交流が促進される。②週に複数回授業することで、より集中した学習が可能となり、教育効果が高まる。③２か月程度の短期休学が可能となり、社会体験活動へ参加しやすくなる。」（文科省「学事暦の多様化とギャップイヤーを活用した学外学修プログラムの推進に向けて」平成 26 年 5 月 29 日）といったメリットがあると言われており、現在すでに、いくつかの大学で導入されている。

ここ数年では最も厳しいと言わざるを得ない本学の現状において、学生募集定員の削減と、それに伴う人員構成の検討、4 学期制を視野に入れたカリキュラム改革、フィールド改革は、既に待ったなしの状況と言える。

＜執筆担当／松商短期大学部　学部長　山添　昌彦＞

第２部　委員会・部会別点検・評価

Ⅰ．学生センター部門

Ａ：教育推進充実部門

１.教務委員会

（１）全学教務委員会

平成 27 年度の全学教務委員会は、等々力副学長、各学科からそれぞれ選出された委員 6 名、課長以下 5 名の教務課職員によって構成され、定期的におよそ月 1 回、長期休業中を除く計 10 回の委員会を開催した。

平成 27 年度の全学教務委員会の活動は大学認証評価受審を念頭に、これまで進めてきた「教学制度の見直しと改善」、「松本大学スタンダードに基づくカリキュラム編成」を中心に認証評価に関連する事項について、エビデンス等の資料の精査、提出の準備と着実な実施を目指して活動した。

１）計画 ＜Ｐ＞

これまでの単科大学から総合大学への転換に伴い、教学関連の内容について様々な点で検討、改善が必要となってきていたことから、教務委員会の活動はここ数年、かなり多様なものとなっている。また、認証評価実施、県内他大学の動向がそれに拍車をかけているのが本年の状況である。そこで、本委員会としては以下のような内容について取り組んできた。

①経過措置内容の確実な実施

昨年度までの教務委員会かでは、多くの内容について見直しを行ってきた結果、教学制度を中心に経過措置としたものが数多くあった。そこで、計画や規定整備したものを現実に実施に移す段階として、27 年度は教務関係において、新設あるいは改正した事項やその内容を全学的に周知し、実行していくことを大きな課題として確実な実施に移行していく。

②全学的な共通理解を図る

教務活動全体を見通し、これまで通り学部･学科中心の教学展開が必要な内容と、全学的に共通の視点から取り組むべき内容を精査し、明確に区分した上で、教養科目を中心としたカリキュラム、教学制度など大学として共通化が必要な事項について共通理解を図りながら改編・改正を進めていく。

③学修指導の徹底

オフィスアワー制度、評価制度など、今年度、新設や改正した制度が本当に意味を持つものになったかどうか、学生の学修状況によって判断されるべきであるという視点で学修指導を進めていく。

④認証評価への対応

認証評価が実施されることから、認証評価へ対応するためのエビデンス等の資料の精査や提出に向けての準備を行う。しかし、単に認証評価のためだけのものとするのではなく、教学に関わる内容の点検・整備の機会と捉え、これまでの経緯を踏まえながら、改善、改革に取り組む。

２）実績・現状 ＜Ｄ＞

①平成 26 年度からの経過措置内容の確実な実施

a)科目ナンバリングについて(前年度よりの経過措置内容)

各科目にナンバリングコードを付与することで科目特性を示し、体系的な学修を学生自身で構築できるようにすることを決定したことを受け、2015 年度はナンバリングコードに基づき、学生が体系的な学修を推進できるよう資料を整備した。ナンバリングコードは予定通り「学部・学科」、「専門分野」、「レベル（学年）」、「カリキュラム表の科目区分」、「通し番号」の 5 項目とした。

b) シラバスについて（前年度よりの経過措置内容）

改正シラバスを完全実施した。また、シラバスの様式変更に伴い、変更の趣旨が生かされた内容となっているか、学生の実態に即したものになっているかどうかなど、現実的な運用面に問題はないか点検・実施した。なお、昨年度の問題点を踏まえシラバス作成の手引きについて改訂した。

②全学的な共通理解を図る

a) 全学共通教養科目について

これまでも論議を重ねてきた内容を確認し、2019 年度からの施行に向けて再編を行うこととした。具体的内容は共通教養センター部会に委ねるが、全学教務委員会としても教学改革の一環として捉え、新たに設置する予定の教育学部も含めた 3 学部の共通教養となるよう検討を重ねた。

b) 海外研修の単位化について

海外の提携大学の増加に伴い「海外研修Ⅰ・Ⅱ」の単位認定について検討した結果、国際交流センター運営部会の提案を基に、全学共通科目化を図ることとした。ただし、総合経営学部については、「海外研修Ⅰ」は「ニューカッスル大学」についてのみ単位認定をし、「海外研修Ⅱ」については学修内容に照らして検討した上で事後認定することとした。

なお、今後、人間健康学部、短期大学部は今年度同様の運用とするが、総合経営学部では学部独自の海外プログラム用意する方向で検討することとなった。

c）入学前修得単位の認定について

入学前修得単位の認定について、編転入学生を除いて個別認定方式により 30 単位を上限とすることを確認した。なお、学士入学生及び他大学を中退した新入生の読み替え単位数は、学則上、大学設置基準よりも厳しい基準となっていることから、その整合性についても検討し、認定についての方法、認定申請時期等、単位認定制度全般にわたって整備していくことを確認した。

d）修業年限を越えた留年生の学費について

修業年限を越えた留年生の学費は 10 単位以下であれば、教職科目等の卒業要件に関わらない科目の履修も認め、金額も同じとすることとした。

e) 国際ロータリー2600 地区（松本ロータリークラブ）による寄付講座について

国際ロータリー2600 地区から寄付講座開講の申し出があったことを受け、新規科目として設置可能かどうか検討した結果、科目名を「地域企業特論」とし、短大部も含め全学共通教養科目として開講することを共通教養センター部会に提示した。

③学修指導の徹底

a) オフィスアワー制度について

オフィスアワーを完全制度化し、全専任教員が 1 週間に 1.5 時間のオフィスアワーを設定した。また、非常勤教員については講義前後の時間をオフィスアワーに充てた。

b）成績評価について

シラバスの改訂によって成績評価基準を明確化に示し、学修指導の徹底を図った。

c）学力の可視化について

学生の学力を客観的に捉えるため、プレイスメントテスト(国・数・英)の結果を科目別、学科別、入試区分別に集計した。なお、学生に対しても結果の個票を配布し自己の学力を把握できるようにした。

④認証評価への対応について

a）制度及び内容等、教学に関わる事項について、エビデンス等の資料を確認しながら必要書類を精査し、提出に向けての準備を行った。

b）認証評価に向けて本学の課題を洗い出し、今後、教学展開をしていく際に課題となる内容について共通理解を図った。

⑤その他

a）海外研修中の途中帰国などの事案に対応するため、危機管理マニュアルの作成が必要となったため、国際交流センターおよび危機管理委員会と連携した。

b）自然災害の休講措置について、災害の状況および学生の安全確保を考慮した申し合わせ事項の検討をおこない、危機管理委員会へ上程した。

３）点検･評価の結果 ＜Ｃ＞

大学認証評価への対応を教学改革の機会と捉え、数年にわたり様々な改変に取り組んできたが、未だ不十分な部分も散見されるため、認証評価の結果を踏まえながら、今後も継続的に改革に取り組んでいく必要がある。

①カリキュラムツリー、カリキュラムマップの作成

ナンバリングによりカリキュラムツリー、カリキュラムマップ的なものはとりあえず作成したものの、学生にとって有益なものとは言えず、学生が 4 年間の学修の見通しが立てられるようなものにしていく必要がある。

②成績評価基準の策定、ならびにＧＰＡの活用

成績評価基準については、科目の独自性という観点から考えれば、各教員の裁量に任せなければならない点もあり、学内で統一した内容を策定する所までは至っていない。シラバスの内容検討を踏まえながら「何を」「どのように」評価するかといった点について、教員研修を推進していく必要がある。また、GPA の算出についてはほぼ全学的に統一できたが、それをどのように活用していくかという点については論議が不十分であり、今後の課題と言える。

③事前事後学修時間の確保と厳格化およびその評価方法

シラバスには事前事後学修について表記したが、その内容、実施方法、確認方法、評価など、具体的な方策はこれからというところである。確かな学士力の養成が学生の質の保証につながるという視点から考えれば、早急に対応しなければならない問題である。

④アクティブラーニングの充実および導入に伴うクラスサイズの見直し

アクティブラーニングが拡がり始めている現状にあって、本学ではすでにアウトキャンパス・スタディを実施しており、大学(イン・キャンパス)で学んだ内容を実際の社会において(アウト･キャンパス)実践するという能動的な学習を展開している。

さらに学生が主体となって学習展開できる機会を増やしていくため、アウトキャンパスを実施していない（実施に向かない）科目においても、積極的にアクティブラーニングを展開していく必要がある。そのためにも、今後、アクティブラーニングの導入および充実に向けた環境整備として、クラスサイズの見直しを進めていきたい。

⑤公欠制度の検討

本学には現在、公欠制度が存在しない点を認証評価において指摘された。これまでも欠席者に対する補講の実施をしてきた科目もあるが、全ての科目において実施されてはいない。また、ゼミ等の実習やアウトキャンパス、課外活動などの公欠については話題に上ってはいたが、議論を開始する所までには至らなかった経緯がある。

しかし、平成29年度から教育学部が開設予定という事も踏まえると、教育実習等これまで以上にやむを得ず講義を欠席しなければならない学生数、期間が増えることが予想される。そのため、教育学部の学生はもちろん全学部の学生の不利益が生じないよう全学的なコンセンサスを得る必要が生じていることから、補講の見直しと併せて公欠制度についても検討していきたいと考えている。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

①カリキュラム改革

これまでも継続的に審議してきたが、全学共通教養科目については各学部の状況を踏まえつつ、松本大学スタンダードと言える共通したカリキュラム編成が必要という視点から、さらに学部間で詰めていく必要がある。

②学修指導の実質的推進

これまで、数年にわたり教学制度や学修指導に関する制度整備を推進してきた結果、懸案事項についてはほぼ完成したと考えてよいであろう。今後はそうした制度設計の趣旨が実際の学生の学修指導に生かされるような方策を立てることに取り組んでいくことが重要であると考えている。

③継続審議となっている事案についての決定

カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、成績評価基準、事前事後学修の実質化、公欠制度など、本年度の点検・評価で積み残した内容について決定したい。

＜執筆担当／全学教務委員会　委員長　岩間　英明＞

（２）総合経営学部教務委員会

総合経営学部の教務委員会は、総合経営学部教員７名と教務課の職員によって構成されている。原則として月１回定例会議を行い、これに加え必要に応じて会議を開催している。内容はカリキュラム・時間割・履修登録手続き・ガイダンス・保護者説明会・卒業に関すること等、学生の勉学に関する問題を検討し、その解決を図っている。

1）当初の計画 ＜Ｐ＞

本学部の教育研究上の目的は、「地域社会の総合的運営に関わる研究を推進し、それを基盤に、社会を構成する諸組織体のマネジメントに関する理解と能力を高めつつ、地域社会を総合的に捉える素養と、それに基づく総合的な経営能力を養う。もって活力ある地域社会の創造に貢献しうる人材を養成すること」である。この目的に則した教育がなされるよう調整を図ることが、本委員会の

使命であり計画であるが、平成25年度入学の１年生から計画されている新カリキュラムの導入と適切な運用が今年度の具体的な計画となる。年間を通じて、旧カリキュラムと新カリキュラムを混同することのないよう教職員への告知、学生指導に注意を払いながら導入・運用を進めることとした。また、今年度に実施される予定の外部評価を考慮して、全学的に行うべき課題への対応を進めていくこととした。

なお、新カリキュラムの特徴は次の３点である。

①目指すべき国家資格等の設定及び支援科目の設定

②キャリア形成・就職試験対策科目等の就職支援科目の強化と充実

③総合経営学部としての教育スタンダードの確立と教育の質の充実

２）現状の説明 ＜Ｄ＞

概ね計画どおり実施した。

①新カリキュラムにそって、新１～３年生の科目が実施された。なお、新カリキュラムへの移行期間については、担当コマの不均衡が生じること等を教員に説明しながら、新カリキュラムと旧カリキュラムが混在する時間割の編成を行った。

②昨年度に引き続きメソフィアを用いた成績開示、履修登録を実施した。また、「授業回数の確認のため書類として講義の出席簿を代用する」「学生の欠席状況を把握することにより成績不振学生のチェク体制を強化充実させる」等の観点から、メソフィアを用いた出席管理の導入を推進した。

③外部評価への対応については、学科会議及び関連部門との連携をとりながら、的確に作業を進めた。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

特に大きな問題はなく、概ね良好と評価できる。

①新カリキュラムについては、３年目の実施を計画通りに行った。

②教養科目については、ヒューマンベイシック・コモンベイシック・導入科目等の第１科目区分、人文科学・社会科学等の第２科目区分を整備した。特に大学共通の導入科目区分では、大学の理念科目・地域貢献活動への導入科目、キャリア教育への導入科目を整備した。

③専門科目については、資格試験対策講座、就職支援講座の整備を進めることで、学生の学習意欲の向上を促した。

④メソフィアについては、特に大きな混乱はなかった。また、出席管理の導入実施にも大方の教員の協力が得られた。これに伴い、学生の個別指導の徹底が図られ、退学率の大幅減少につながった。

⑤外部評価については、概ね良好な評価を得ることができた。

４）成果と今後の改善点 ＜Ａ＞

今年度の活動の重点ポイントは、第１に新カリキュラムの円滑な導入・運用であった。概ね計画通り進んだが、完成に至るまでには今後１年間を要する。なお、今後の環境変化に応じて改善、修正されるべきものであると考える。第２の重点ポイントである外部評価については、概ね良好な評価を得ることができた。次回の外部評価の際までに、カリキュラムを中心に、さらなる改善努力を重ねていくこととする。

なお、一昨年度から本格的にスタートした「資格試験対策講座」について状況を述べる。総合経営学科では、「宅地建物取扱主任者（宅建）」「ファイナンシャルプランニング技能検定（ＦＰ）」「通関士」「消費生活アドバイザー」等の対策講座が新カリキュラムに盛り込まれた。今年度、宅建では2名、ＦＰ２級では学科3名、実技1名、総合2名、さらにＦＰ３級では学科8名、実技10名、総合8名の合格者が出た。また「産業カウンセラー」についても、初めての合格者（4名）を出すことができた。観光ホスピタリティ学科では、「国内旅行業務取扱管理者」「総合旅行業務取扱管理者」「社会福祉士」などの対策講座があるが、今年度、「国内旅行業務取扱管理者」では2名、「総合旅行業務取扱管理者」では1名、「社会福祉士」では2名の合格者が出た。また同学科の教員がサポートする形で「行政書士」についても、初めての合格者（1名）を出すことができた。今後さらなる成果を期待したい。こうした素晴らしい状況がある一方で、一部の資格については資格取得の難易度も影響し、受講者数が伸び悩む傾向が見られた。今後、資格取得への動機づけの方法の見直し、対象資格の再検討等も視野に入れていく必要があると思われる。

最後に次年度に向けては、新カリキュラムの完成年度となることから、これまで通り、適切な導入・運用を推し進めるのと同時に、新カリキュラムに対する評価を行っていくことが必要であると考える。その一連の作業の中で、共通教養科目のあり方の再検討、専門科目・資格試験対策講座の見直し及び拡充、さらには教職課程の設置状況の再確認等を進めていくこととする。

＜執筆担当／教務委員会　総合経営学部主任　畑井　治文＞

（３）人間健康学部教務委員会

人間健康学部教務部会では、両学科から2名ずつ、教務課職員4名の8名により構成され、長期休業期間中を除く、およそ月1回の割合、計10回の部会を開催した。

1）計画 ＜Ｐ＞

認証評価に向けた準備として、全学教務委員会の動向に合わせて、教学制度の見直しや点検、資料整備などを円滑に行う。また、認証評価を良い機会として捉え、確かな学士力の養成につながる学生の学修指導に力を入れていく。

①教学関連事項の見直し及び点検

・シラバス改訂に伴い、記入方法、内容などを点検して、学生にとって有用なシラバスとなるようにする。また、評価基準を明確にする。
・オフィスアワーの学生への周知と活用を図る。
・ここ数年取り組んできた全学共通教養科目について、全学教務委員会の意向を踏まえながら、本学部の状況を精査し改正、改善を図る。

②確かな学士力の養成に向けた学修指導

・昨年度設定した指導を要する学生の成績基準に基づき、各期末に個別指導を徹底すると共に、オフィスアワー等を利用して日常的に学修習慣、学修方法の指導など、学生一人一人に合わせた学修指導を実施する。
・プレイスメントテストの実施とその結果の活用を図る。
・学生ポータルを活用し、学生個人の成績の推移を確認し、必要に応じて継続的な個別の学修指導を実施する。

・基礎学力の向上に向け、基礎教育センターなど関係機関と連携を図る。

③資格取得や就職試験に向けた継続的指導

・管理栄養士、健康運動指導士などの資格取得はもちろん、公務員試験対策、TOEIC、コンピューター関連資格など、就職に関わる講座や資格などへ積極的に取り組むよう指導する。

・各担当がそれぞれの資格取得などの学修に取り組みやすいように、時間割等について最大限の協力と配慮をする。

④認証評価への準備

・これまで準備してきた内容について精査すると共に、教学展開上の問題点を洗い出し、改善する。

・認証評価に必要な資料等の整備を進める。

２）実績・現状 ＜Ｄ＞

①教学関連事項について

・シラバス改訂の趣旨について理解されていると思われ、これまでよりも具体的な内容となっている科目が多くみられるようになった。また、評価基準も具体的な記述が多くなり、明確になってきていると思われる。

・これまでも本学部の教員は学生に積極的に関わってきており、オフィスアワーによる大きな変化は見られなかったが、退学率の低下などから、学生理解や支援が進んでいると判断できる。

・共通教養科目については本学部の関係する科目については、特に問題なく学修展開されたと判断している。

②学修指導について

・日常的な学生指導や成績基準に基づいた学修指導など、全体的には概ね良好だと判断している。

・プレイスメントテストの結果を利用した英語の習熟度別クラス編成や、基礎学力テストなどのリメディアル教育の推進に取り組んだ。

③資格取得について

本学部で取得できる資格の合格者(取得者)数は以下の通りであった。全国の合格率を上回っている資格が多く、各学科、各担当教員の指導への熱意が数値として示されたと判断して良いであろう。

しかし、管理栄養士、健康運動指導士といった主要資格の合格率は、若干ではあるが、昨年度と比較して低下している点は検証が必要である。

資格名	受験者	合格者 (取得者)	**合格率**	全国合格率
健康運動指導士	22	16	**72.7%**	63.3%
健康運動実践指導者	26	20	**76.9%**	60.4%
レクリエーション・コーディネーター	1	1	**100%**	－
レクリエーション・インストラクター	－	9	**－**	－
トレーニング指導者	0	0	**－**	－
第一種衛生管理者	－	82	**－**	－

スポーツ指導者（21 年度入学生より適用）	－	1	－	－
中学校教諭一種免許状（保健体育）	－	15	－	－
高等学校教諭一種免許状（保健体育）	－	16	－	－
中学校教諭一種免許状（保健）	－	2	－	－
高等学校教諭一種免許状（保健）	－	3	－	－
養護教諭一種免許状	－	6	－	－
フードスペシャリスト	67	66	**98.5%**	82.0%
フードスペシャリスト専門（食品開発）	11	1	**9.1%**	18.1%
フードスペシャリスト専門（食品流通・ｻｰﾋﾞｽ）	15	8	**53.3%**	29.2%
栄養教諭一種免許状	－	8	－	－
管理栄養士	76	53	**69.7%**	88.3%
栄養士	－	80	－	－
食品衛生管理者（任用資格）	－	56	－	－
食品衛生監視員（任用資格）	－	56	－	－

④認証評価について

・本学部に関する認証評価対応項目については、これまで対応してきた内容で問題なく準備・整備ができた。

⑤その他

・他学部も同様だが、今年度の休退学率は過去最低であり、学修指導を含めた学生指導の成果の一つと考えている。もちろん、教学展開だけがその理由であるわけではないが、一つの要素であると判断している。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

①教学関連事項について

・シラバス改訂によりこれまで以上に具体的な学修指導計画が理解できるようになったが、学生にとってどれだけのメリットがあったのか、現状としては検証できていない。学生にとって意味のある教学展開という意味では不十分な対応であったと言わざるを得ない。

・オフィスアワー制度を設けたことで、教員の意識がより学生に向くようになり、積極的に学生に関わっている様子はうかがえたものの、各教員に面談・相談記録を残すように依頼していたが徹底できなかった。そのため、数量的な視点によるオフィスアワーの活用について十分な検証をすることはできていない。

・共通教養科目について全学的にコンセンサスがとれた科目以外で、本学部として共通化したい科目について、残念ながら理解を得ることができなかった。全学教務委員会の検討項目であるが、学部間の調整という意味では残念ながら力不足であった。

②学修指導について

・日常的な学修指導について直接的に検証したわけではないが、各学科、各学年の GPA の平均値の推移を見ると，概ね向上している事がわかる。学生の学修結果が向上している背景には、各教員のきめ細かな指導があると考えられる。2･3 年生（昨年実績のない 1 年生と履修科目が少

ない４年生を除いた）の平均 GPA の比較は次の通りであった。

	2013 年度入学生		2014 年度入学生	
	健康栄養	スポーツ健康	健康栄養	スポーツ健康
2014 年度平均 GPA	2.13	2.15	2.02	2.13
2015 年度平均 GPA	2.26 ↑	2.17 ↑	2.04 ↑	2.13 －

③資格取得について

・個々の資格の取得状況・合格率について昨年度と比較すると、多少の上下動は見られるが概ね例年並みと言える結果であった。しかし、管理栄養士、健康運動指導士といった各学科の主要資格となるものや、教員採用試験、公務員試験等については、さらに合格者を輩出できるよう教務部会としてできる手だてを講じていく必要がある。

④認証評価について

・学部完成年度後、直ちにカリキュラム改編に着手したことを始め、それに伴う形で年々教務内容の改善に取り組んできた結果、全学的な変更を除き、学部として認証評価に新たに対応しなければならないことはほとんどなかった。

⑤その他

・本学部における年度別の退学率は、2014 年度 1.8%だったものが、2015 年度は 1.3%とごくわずかではあるが低下している。近年最も高かった 2011 年度が 3.9%であったことを考えると、退学率は１／３になっており、学部の教学展開を含めた学生指導が上手く機能していると考えられる。

４）今後の課題 ＜Ａ＞

①教学展開に関する学生視点による評価

・これまでも全学的に科目ごとのアンケートや卒業生アンケートなど、学生のアンケート調査は行われ、改善の方向性などの手がかりとしてきた。しかし、実際にシラバス改訂、カリキュラムマップの作成など、教学内容を改善したり、新たな教学展開を行ったりした結果については、具体的で詳細な設問によるアンケート調査はしてこなかった。学部開設から 10 年という節目も迎えることから、教学に関する内容について学生目線による評価をしていくことで、より学生にとって意味のある教学展開ができるのではないかと思う。

②新カリキュラム編成と円滑な移行準備

・教育学部開設に伴い、共通教養科目を中心としたカリキュラム改編が予定されていることから、学生にとってよりよい学修に結びつくようなカリキュラム編成とその実施に取り組んでいきたい。

③学修指導の一層の推進

・今年度の課題であったオフィスアワーの面談記録の徹底と効果検証、資格取得に向けた取り組み、プレイスメントテストや基礎学力テストなどを利用した学力(特に基礎学力)の可視化などを手がかりとしたより細やかな学修指導の推進を図る。

＜執筆担当者／教務委員会　人間健康学部主任　岩間　英明＞

（４）松商短期大学部教務委員会

１） 年度当初の予定 ＜Ｐ＞

平成 26 年度の自己点検・評価報告書で報告されている、平成 27 年度当初の計画は以下のとおりである。

① カリキュラムについて

平成 27 年度は、次の年度に向けて、4 学期制の検討を始めることとする。また、より成績評価の基準を明白にするためにルーブリック等の評価基準を取り入れるなどの検討を始める。

② カリキュラムマップ・ナンバリングについて

カリキュラムマップやナンバリングは作成しており、Web 上で公開している。しかしまだまだ積極的に利用されているとは言い難い。次年度は、シラバスにナンバリングを取り入れるとともに、学生が得られる学習成果を明確にすることを目的に履修登録などで活用するための準備を行うこととする。

③ 専門ゼミへの移行と今後のあり方について

グローバル化を目的とする 4 学期制を取り入れることになると、これまでのような通年・必修講義の形でのゼミナールも難しくなると予想される。面倒見の良い短大を維持したままで、どのようにゼミナールを捉えていくのか、継続して検討していく。

④ アウトキャンパスディ Day について

アウトキャンパスディ Day を設けずに、補講日とした結果、どのようになったかを確認しながら、次年度の方向を検討していく。

⑤ 欠席の考慮について

就職・採用時期の後ろ倒しに伴い、本学の学生の就職活動がどのようになったかを見極め、年間の講義日程や講義と就職活動の両立のための方策の検討を継続して行う。

２） 計画の実施・現状の説明 ＜Ｄ＞

① カリキュラムについて

次年度（平成 28 年度）のカリキュラムを検討し作成した。今後、4 学期制を導入するにあたり、平成 28 年度は 2 学期の中で、2 ヶ月週 2 回の講義を数科目用意し、実施することとなった。

また、選択必修科目の負担が大きいのではという点から、今までの前期、後期ともに 4 科目から 2 科目の選択から、卒業までに 6 科目中の 3 科目にすることとした。

個々の科目としては、今年度の反省から海外研修の履修制限の制度を設けたり、外国語（中国語）を協定校の教員にお願いすることとしたり、医療事務に関しては、現状を鑑み、科目数はそのままで、科目の内容を変更していくこととした。

② カリキュラムマップ・ナンバリングについて

例年通り作成はしているが、履修指導の中などで有効に活用できる状況にはならなかった。

③ 専門ゼミへの移行と今後のあり方について

専門ゼミナールの決定方法については、今年度より、不公平感が生じる可能性があることを考慮し、志望動機の提出は行わず、プレイスメントテストと必修講義の欠席回数で決定することとした。第 3 希望までの決定割合は 154 人/179 人=86.0%であり、ほぼ例年通りであった。

④ アウトキャンパススタディ Day について

アウトキャンパスディを平日の補講日とした結果、前期は9件のアウトキャンパスの実施、後期も同じく9件の実施があり、その日に補講を行う講義はほとんどなかった。

⑤ 欠席の考慮について

就職活動解禁のルール変更に伴う、配慮が必要かどうか心配されたが、短期大学の就職活動においては、例年とほとんど変わりはなかった。欠席の考慮に関しても例年通り実施し、学生・教員両方に大きな混乱は生じなかった。

⑥ その他

・4学期制について

4学期制の導入に向け、履修制度や学年暦、ゼミのあり方等の議論を、年間を通して行ってきた。

3） 点検・評価の結果 ＜C＞

① カリキュラム

例年通り、カリキュラムは完成したが、4 学期制を視野にいれたカリキュラムづくりという点では、今年度はそれほど進んではいない。原因として考えられることとして、4 学期制をどこまで、いつまでに実施していくのかという明確なロードマップができていないことが挙げられる。もう一度、4 学期制のメリット・デメリットを考えながら、詳細な部分まで議論を詰める必要があると思われる。

② カリキュラムマップ・ナンバリングについて

準備にかける時間的な余裕が少なく、残念ながら、積極的に利用することができなかった。今後、4 学期制を実施することになると今まで以上にペースが早く講義が進むと予想され、2 年間で8回の履修登録が行われることとなる。そのため、履修指導を行う上で、ますます、カリキュラムマップやナンバリングが必要になると感じている。

③ 専門ゼミのあり方について

学生へのアンケートの結果、ゼミ選択において重視したポイントが、卒論などのテーマではなく、雰囲気やゼミ旅行も多数を占めていることから、今後のゼミのあり方を検討していく必要がある。

④ アウトキャンパススタディ Day について

今年度より、アウトキャンパススタディ Day を廃止し、平日の補講日としたが、大きな問題はなかった。4学期制になると、これまで以上に講義以外の時間をとる余裕がなくなると予想され、今後、短大独自のイベントをどのように行っていくのかの議論を行う必要がある。

⑤ 欠席の考慮について

学生・教員とも今のシステムで大きな混乱は生じていない。４学期制に伴い、就職活動と講義への出席の両立がどのようになるのか？問題点等はないのか？しっかりと審議して備える必要がある。

⑥ その他

・図書館司書講座の講義開始時間について

図書館司書講座は、本来は18時30分に講義開始であるが、本学の学生にとって遅すぎるとの意見もあり、原則として18時開始で実施した。しかし、様々な理由により18時での開始は困難ということがわかり、最終的には18時30分の開始時間に戻すこととなった。教員・学生両方に

混乱を生む結果となり、今後、慎重な議論が求められる。

4） 次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

① ４学期制への対応について

平成 28 年度は、その次の年度に向けて、本格的に稼働する 4 学期制のカリキュラムを作成することとなる。もちろん、カリキュラムや時間割だけでなく、以下のような様々な点を同時に考える必要があるが、未だに曖昧な点も多く、教務委員会として決めなければいけないことを確実に審議し結論づけていく。

a）カリキュラムについて

4 学期科目と 2 学期科目の両立させるのかどうか、どの科目を 4 学期科目とするのか。また、集中講義をどのように行うのかなど。

b）時間割

カリキュラムにも関連し、4 学期科目（週 2 回講義）をどのように配置し、2 学期科目と上手く両立ができるか。非常勤講師を含めた教員の講義時間帯の調整など。

c）年間行事予定

4 学期をどのように配置し、学期の間をどのようにするのか。他学部との関連はどのようにするのか。また、ガイダンス講義週間や試験（追試験・再試験）から成績発表までどのように実施するのかなど。

d）必修講義のあり方

ゼミやキャリア科目を含め、必修講義をどのように考え、実施していくのか。

e）長期海外研修やインターンシップの実施について

年間行事予定とも関連し、長期のイベントをどのように実施し、単位等はどうするのか。

f）履修登録の方法について

4 学期とも履修登録を行うのか、オリエンテーション時期や内容、カリキュラムマップやナンバリング、履修放棄制度なども含めて考える必要がある。

g）メソフィア等のシステム

現状のシステムのままで良いのか、新規に何か作る必要があるのか。

h）その他

学則や授業料などのルールの変更が必要になるか。他の委員会等と調整する必要がある事項はないかなど。

② その他

4 学期制に伴う改革以外にも、以下の点は継続審議していく必要がある。次年度は余裕があまりないかも知れないが、FD 委員会等と協力をしながら、少しでも議論を進めていきたい。

a） 3 つのポリシーとの関連について

教務委員会が単独で議論するべき内容ではないが、現在の 3 つのポリシーは、冗長な部分もあり、現状に合わないところも出始めている。そのため、現在のままだと、カリキュラムや必修講義のあり方を考える上での基準として考えづらく、議論が進まない要因の一つとなっている。カリキュラムなどを考えると同時に 3 つのポリシーをどうするかの議論を平行して行い、決定していくことが望ましいと考えられる。

b) ルーブリック等の評価基準について

単位の実質化や成績評価基準の明確化が強く求められており、それに対応する必要があるため、議論を継続して行う必要がある。

c) 授業外学修について

1 単位 45 時間の学修という単位の実質化のため、授業外学習の増加が求められている。4 学期制に伴い、学生の授業外学習がどうなるかを確認し、今後の対策を考えていきたい。

＜執筆担当／教務委員会　短期大学部主任　浜崎　央＞

（５）共通教養センター運営部会

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

今年度の主な業務は、①共通教養科目の科目構成等の検討、②共通教養科目のシラバスチェック、③英語部会、体育部会、情報教育部会との連携、④その他、教養教育実施のための検討・報告とした。

２）実施状況 ＜Ｄ＞

共通教養科目の科目構成について、教養教育の充実、学生に対する分かり易い提示を目的として、「テーマ制」（ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえつつ、個々の科目を共通するテーマで括って表す）を導入することとし、二度の審議を経て、部会案をまとめた。

これまでの共通教養科目を見直し、整理したうえで、教務委員会と連携して、新しい科目の設置を行った。

３）点検・評価結果 ＜Ｃ＞

年度当初の計画に定めた目的（①、②、④）は達成できた。③については、各部会との連携までには至らず、教務委員会との連携に留まった。

４）次年度に向けて ＜Ａ＞

新学部の教養科目の設置動向を踏まえ、全学的な共通教養科目の充実、テーマ制の導入をすすめる。

＜執筆担当者　共通教養センター運営部会長　福島智子＞

（６）キャリア教育センター運営部会

本運営部会は平成 24 年度に設置され、これまで就職活動支援とキャリア教育の棲み分け、並びに大学として共通のキャリア教育のあり方について検討してきた。

１）当初の計画 ＜Ｐ＞

前年度に確定した本学におけるキャリア教育の定義にしたがって、本年度は、各学部におけるキャリア教育関連科目を整理し、学部共通の科目（内容的に共通の科目）を拾い出すことを計画した。

２）実施状況 ＜Ｄ＞

キャリア教育関連科目としての学部共通科目は、「大学教育と地域社会」が開講されている。また、地域のロータリークラブと連携して平成 28 年度から実施される科目は、キャリア教育関連共通

科目として捉えることができる。したがって、現状のキャリア教育関連科目としては、この2科目が学部共通科目として開講されている、との認識で一致した。

3）点検・評価 ＜C＞

今年度は、現状で実施されている科目を整理することでキャリア教育における学部共通科目の抽出を行った。また、教職センターや共通教養センターでの議論を踏まえた検討も必要であったため、今年度は現状で実施されている学部共通科目の抽出に止めた。

4）次年度に向けて ＜A＞

現状で実施されている科目の抽出に加えて、より積極的に本運営部会の方から科目設置等の案を提示することも必要ではないかとの意見もあり、次年度以降この点についても検討することになった。

＜執筆担当／キャリアセンター運営部会長　糸井　重夫＞

（7）資格取得支援センター運営部会

資格取得支援センター運営部会は昨年度（平成26年度）より、全学教務委員会の下部組織として再編されており、その初年度で浮き彫りにされた課題を検討しつつ、全学教務委員会とも連携を取りながら事業を進めてきた。

1）年度当初の予定 ＜P＞

平成26年度の自己点検・評価報告書および平成27年度事業計画に記載されている本センター運営部会の計画は以下の2点である。

①資格取得に際しての奨励金制度の見直し

②公務員対策講座

2）計画の実施・現状の説明 ＜D＞

①奨励金の見直し

平成27年度より奨励金支給金額の新しい基準を設けており、その新制度で実施を始めた最初の年度であった。そのため、平成27年度の奨励金の支給金額をとりまとめるとともに、前年度までと比較して、支給金額全体の変化や変化の大きい資格などを注意深く確認し、次年度に向けた奨励金の見直しの方向を決定した。平成28年度からの新しい奨励金の資格や金額は、新年度の最初の部会にて審議される予定である。

②公務員対策講座

a） 公務員対策講座の実施

前年度に検討し開講を予定していた公務員講座を計画通り実施した。平成27年度に実施した講座と新規受講者は以下の表のとおりである。

対象学年	講座	新規受講者
学部4年	実践演習講座（教養）	5名
	実践演習講座（専門）	開講せず(H29より)
学部3年	基礎講座（教養）	35名
	基礎講座（専門）	開講せず(H28より)

学部２年	プレ基礎講座（教養）	16 名
	プレ基礎講座（専門）	7 名
学部１年	基礎力養成講座	34 名
短大２年	実践演習講座（教養）	2 名(+18 名(継続))
短大１年	プレ基礎講座（教養）	12 名

b） 公務員講座オリエンテーションの実施

公務員講座の開講に先立ち、在学生オリエンテーションの時間を利用して在学生へ簡単な説明を行った後、同日に参加自由の説明会を下記のように 7 回実施した。

3/25（水）13:00～13:20　525 教室　（想定：総経２年）　参加者 14 名
3/25（水）15:10～15:30　525 教室　（想定：総経３年）　参加者 3 名
3/25（水）15:50～16:10　525 教室　（想定：総経４年）　参加者 19 名
3/26（木）13:00～13:20　525 教室　（想定：人間２年）　参加者 15 名
3/26（木）15:10～15:30　525 教室　（想定：人間３年）　参加者 3 名
3/26（木）16:00～16:20　525 教室　（想定：人間４年）　参加者 25 名
3/27（金）15:10～15:30　524 教室　（想定：短大２年）　参加者 5 名

また、新入生に関しては、入学後のオリエンテーション期間を利用して説明会を下記のとおり実施した。

4/3（金）16:40～17:20　（想定：総経１年）　参加者 40 名
4/4（土）12:40～13:00　（想定：人間１年）　参加者 42 名

（短大１年は、全体の教務委員会オリエンテーション時間内で説明を実施。）

c） 模擬試験の実施

公務員講座の受講者以外も対象とした模擬試験を LEC の協力のもと、無料で実施した。

4/25（土）9:40～13:20　511 教室
6/13（土）9:40～16:00　533 教室

d） 合同会議（意見交換会）の実施

昨年度、計画されていた、本部会だけではなく、基礎教育センター、キャリアセンター、学部公務員対策講義担当教員、東京リーガルマインド（LEC）を含めた関係者での合同会議を 3 回開催し、現在の講座や学生の問題点等を話し合い、次年度の講座の方針を決定した。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

①奨励金の見直し

昨年度、曖昧だった奨励金の決定までのプロセスや方針を、本センター運営部会で決定し運営してきた結果、今年度は大きな混乱もなくほぼ予定通りの奨励金の支給額となった。新しい資格等に対する奨励金も、方針に基づき審議することで、次年度への奨励金額の決定等もスムーズになると考えられる。

②公務員対策講座

今年度は、受験学年だけではなく、1 年次からの積み上げ式で正課外の公務員対策講座を開講した初年度であった。学年や科目によっては、受講者が予想よりも少なかったが、計画通りに講

義は実施されており、今後、参加人数や出席率を始め、効果なども測定していきたい。

また、基礎教育センターやキャリアセンター、学部公務員対策講義担当者、東京リーガルマインド（LEC）の講師等の関係者が参加する連絡会議を開くことで、本学の学生にとっての問題点や今後の方針など、非常に内容の密な議論ができ、今後につなげていきたい。

③その他

本運営部会のメンバーが全学にわたっている関係と、今年度は、早急に判断しなければいけない内容が多かったため、一部のメンバーで結論を出してしまい、運営部会の開催とそこでの議論が年間を通して非常に少なかったことは反省すべき点である。

４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

①奨励金の見直し

奨励金の実績を毎年確認しつつ、社会が求める資格の変化やカリキュラムの変更等による本学が身に付けさせたい知識やスキルに応じて、奨励金の見直しを継続して柔軟に対応していくこととする。

②公務員対策講座

今年度の実績を確認しながら、昨年度と同様な課題でもあるが、以下の点を考慮しながら、計画の見直しを状況に応じて柔軟に対応していき、次年度の計画を作成していくこととする。そのためにも、関係委員会や関係者が出席する合同の連絡会議を定期的に開催し、連携をとりながら、今後の講座へとつなげていくこととする。

i. 公務員対策講座と、学部、学科等で開講している正課科目や基礎教育センターやキャリアセンターでの指導内容等の調整
ii. 開講時間が多くなっていくため、正課授業との時間の調整
iii. 開講科目の拡大による事務作業の増加への対応
iv. 学生から徴収する受講料の適正化と全体的な財政を健全への調整
v. （とくに短大生の）民間の就職活動と公務員受験との調整

＜執筆担当／資格取得支援センター運営部会長　浜崎　央＞

（８）基礎教育センター運営部会

平成 27 年度、基礎教育センターにおける業務は、エクステンション機構長の等々力副学長、センター運営委員長の齊藤、継続してセンター教員の福嶋(紀)及び日野谷、センター事務の鈴木に加え、4 月より田野口（英語担当、26 年度英語担当の赤羽と交代で就任した）、及び丸山（国語担当、27 年度より補充され、増員となった）が新たに加わり、センター事務職員の鈴木の計 7 名で担当することとなった。

また、センター運営委員会は以上の 7 名に加え、各学科より 1 名ずつ選出された教員、及び丸山教務課長により構成され、年 4 回の運営委員会を開催した。

本センターの主たる任務は、センターにおける個別指導を中心とした「リメディアル教育」である一方、近年では学部学科の実情や要望に応えるべく、講義等における本学の学生全体を対象とした基礎学力の底上げ等、幅広い活動が求められていると言える。このような事情も踏まえた上で、

平成 26 年度の自己点検・評価報告書で指摘されているアクションプランに基づいて、ＰＤＣＡサイクルに沿って点検・評価を行う。

１）年間計画 ＜Ｐ＞

基礎教育センター会議を通じて確認されている平成 27 年度に向けた課題（計画）は以下の通りであった。

①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み

②利用者増加への取り組み（広報活動の充実）

③公務員対策講座への関わり（連絡会議を通して）

２）基礎教育センターの活動状況 ＜Ｄ＞

①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み

・引き続き、短大部１年生前期キャリアスタンダードⅠにおいて 15 回、および後期のキャリアスタンダードⅡにおいて 15 回（26 年度は 7 回）、基礎教育センターによる一般教養に関する内容の授業を行った。

・健康栄養学科からの要望に基づき、同学科 1 年「大学入門」において、「計算力と文章表現」（全 3 回）を実施した。

・スポーツ健康学科 1・2 年生において、基礎学習として全 16 回の「一般教養基礎問題」を実施した。また、スポーツ健康学科からの要望に基づき、同学科 1 年「大学入門」において、「基礎教養学習（英語・数学・国語・時事）」（全 3 回）を開始した。

・すべての学部・学科において、「入学前学習用問題集」「春期課題問題集」、及び「夏期課題問題集」を通して基礎学力の向上を図った。

・これまでと同様の取り組みとして、「朝の学習講座」、「ＳＰＩ数学、基礎数学、人文科学、言語分野、及びベーシック・イングリッシュ（後期のみ）」を朝 9 時から 9 時半まで継続して実施し、基礎学力向上への取り組みを行った。

②利用者増加への取り組み（広報活動の充実）

・年度当初においては、センターツアーの受け入れ（総合経営学部新入生）、各学部の新入生オリエンテーションにおける広報活動、「基礎教育センターだより」の発行（年 5 回）、メソフィアを通した学生への連絡配信、及びセンター前掲示板の利用等を通して、利用者増加への取り組みを行った。

・総合経営学部、及び人間健康学部における「地域社会と大学教育」の講義内で実施する「１０分間学習」には、受講学生に対して当センターを広く周知する効果もあると考えられる。

③公務員対策講座への関わり（連絡会議を通して）

・平成 27 年度より開設された「公務員試験対策総合講座」におけるセンター教員の関わりについて議論を重ねてきた。

・国語担当の丸山が中心となり LEC による実際の授業見学を実施し、担当できるかどうかの可否について検討を行った。

３）活動に対する評価 ＜Ｃ＞

①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み

・まず、27 年度は国語担当の教員が 1 名増員され、教員 4 名体制となったことにより、個別相談・

指導の質的・量的充実が図られたと考えられる。

・短大部におけるキャリアスタンダードⅠ、及びキャリアスタンダードⅡにおける一般教養に関する授業を行ったことによる成果が徐々に出てきている。

・卒業生アンケートにおいても、「基礎教育センターではしっかりと、本当に基礎を教えてくれてありがたかった」「親身になってくれてよかった」「基礎教育センターのおかげで勉強ができるようになった」「自分に足りない基礎教養が明確になった」等の記載が多数見られ、当センターの取り組みについては学生からも評価が得られつつあると考えられる。

②利用者増加への取り組み（広報活動の充実）

・上述したように、広報活動を充実したことによる成果として、27 年度、教員への質問や自習を目的に基礎教育センターを利用した学生数（全て延べ人数）は、2,319 名（26 年度 1,565 名）と前年度の約 1.5 倍へと大幅に増加した。また、基礎学力の維持・向上を目的とした「朝の学習講座」においても、増員された国語担当教員により開講された新規講座「ことばの力」（全 26 回）に 100 名の学生が参加をしており、全体としても 864 名（26 年度 769 名）と利用者数が増加しており、一定の成果があったのではないかと考えられる。

③公務員対策講座への関わり（連絡会議を通して）

・結果として、1 年次に開設される「基礎力養成講座」の一部を、来年度（28 年度）よりセンター教員が担当する方向で調整が進められることとなった。

4）次年度に向けた課題 ＜A＞

基礎教育センター会議を通じて確認されている次年度への課題は、以下の通りである。

①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み

②公務員対策講座への関わり

③長期休業における課題の再検討（入学前学習用問題集含む）

・各学部で実施している講義とどのように連携させるか

＜執筆担当／基礎教育センター運営部会長　齊藤　茂＞

２．教育改善推進委員会

教育改善推進委員会は、教育企画推進部会と FD・SD 運営部会の２つの部会からなっている。それぞれの部会は、通常は目的達成のために別個活動しているものの、必要に応じて部会の共同開催・意見交換・情報共有などを行っている。

（１）教育企画推進部会

教育企画推進部会は、「学科等組織を単位とするカリキュラムポリシーを実現するために必要な教育的企画を提案し、予算化し、実践すること」（平成 23 年度『自己点検・評価報告書』111 頁参照）を目的とし、教員 7 名、事務局 2 名で構成されている。

1）当初の計画 ＜P・D＞

a)総合経営学部

総合経営学科による①「道の駅との連携によるサービスおよび経営創造教育の推進」、観光ホスピタリティ学科による②「先駆的実践者からソーシャルワーカーの姿勢を学ぶ」、③両学科に

よる「Tablet を用いた教育関連プロジェクト」の実施が計画されていた。①では、道の駅と連携し、広報活動・観光スポットの開拓・特産物のインターネット販売などに学生が参加する創造教育を行うことを目的としている。②では、先駆的な活動を行っている社会福祉士の方の講演を聴くことによって、最先端の活動を学生に提供し、社会福祉士の社会的意義などの理解を深めてもらうことを目的としている。③では、Tablet を用いて基礎ゼミ共通テキストなどの電子書籍化をはかり、教育の実を上げることを目的としている。

b) 人間健康学部

本年度は、健康栄養学科による①「管理栄養士国家試験対策模試」、スポーツ健康学科による②「健康づくり指導者に求められる社会参加姿勢の重要性を学ぶ」、③「特別講義の実施」、④「キャリア教育としての学習成果を測る業者テストの実施」が計画されていた。健康栄養学科による①では、教員が学生の学修状況を定期的に把握し、より具体的な指導を行うことによって管理栄養士国家試験の合格率向上を目的としている。スポーツ健康学科による②では、研究フォーラムに教員・学生が発表・活動紹介・スタッフ参加することで学生の実学的な学びに繋げることを目的としている。③では、車いすマラソンのアスリートによる講演を通して障害者スポーツへの理解を深めることを目的としている。④では、学習成果を測ることによって、学生が現在の自分の力を客観的に評価し、これからの目標を正確に捉え実行してもらうことを目的としている。

c) 松商短期大学部

本年度は、①「アウトキャンパス・スタディ」、②「独自テキストの作成」、③「サイバーキャンパス関係プロジェクト」の実施が計画されていた。①では本学の実学教育の充実を図ると共に、将来の職業や人生について考える機会を設けることを目的としている。②では、学生に適した水準のテキストを作成し、もって学習成果の向上を目的としている。③ではＩＣＴ教育の充実を目的としている。

２）評価 ＜Ｃ＞

a) 総合経営学部

①は複数年にわたって行う予定であり、本年度は道の駅の広報活動に資する動画の作成を行った。学生主体の事業であるため、学生の著しい学習意欲の向上が見られた。一方、②では、年 2 回ぐらいの講演を企画していたものの、先方とのスケジュール調整がつかず実施が見送られた。また、③では、技術的な問題が発生し、実施が困難であることから、本年度は見送らざるを得ないこととなった。

b) 人間健康学部

健康栄養学科による①は、試験対策として重要な位置づけがなされており、管理栄養士国家試験合格率の向上が期待できる。なお同学科が予定していた「学外講師による特別講義」と「一日限りのレストラン」はＣＯＣ事業に移管された。スポーツ健康学科の②では、研究フォーラムに参加するという体験により、学術的な刺激など、学生に与える影響は大きかったと考えられる。③の講演会は継続している事業であり、学生の広範な知識の修得、学ぶことについての動機付けなどに効果が見られた。④では、今後の学生の指標が明確になり、一層の学習効果が期待できる。

c) 松商短期大学部

本学部の 3 つの事業は複数年にわたって継続して実施している事業である。この事業の効果と

して、実学教育の充実、学生の修学意欲並びに習熟度の向上、ＩＣＴ機器の活用力の向上において一定の効果があったものと考えられる。

３）次年度の事業計画 ＜Ａ＞

a）総合経営学部

来年度は、「道の駅と連携した経営創造教育、協働教育の推進」、「国内旅行取扱・総合旅行取扱・社会福祉士の資格取得強化策の取り組み」の実施が計画されている。これらの内容は、地域との連携プロジェクトならびに資格取得の更なる強化など従来の教育活動の発展を期するものであり、今後の学部の教育の充実に寄与するものと思われる。

b）人間健康学部

本学部では、「管理栄養士国家試験対策模試」、「ラジオ体操指導者講習会」、「講演会」の実施が計画されている。「管理栄養士国家試験対策模試」および「講演会」は継続して行っている事業であり、本学部の重要事業として定着しつつある。また、これ以外にも新たな試みとして事業の申請があり、更なる活動が期待されている。

c）松商短期大学部

本学部では、来年度も「アウトキャンパススタディ」と「オリジナルテキスト」が計画されており、複数年にわたる教育効果が大いに期待できるものと思われる。

＜執筆担当／教育企画推進部会長　増尾　均＞

（２）FD・SD 運営部会

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

① 授業アンケート
② 授業参観
③ 卒業生等へのアンケート
④ FD・SD 研修会

２）実施した活動の概要 ＜Ｄ＞

①授業アンケート

通常の 15 回の授業中、6～9 回目授業において中間アンケートを実施するよう依頼し、およそ 13 回目授業以降に「授業についての学生アンケート（授業アンケート）」を実施するよう依頼した。中間アンケートはすべての授業での実施が依頼された。内容は自由であるが、平成 25 年度に作成された雛形を任意で使用するよう配布された。授業アンケートは、専任教員においては 2 科目程度、および、非常勤教員の全科目において実施した。アンケート項目は前年同様の 6 つであった。

アンケートのデータ集計後には、各授業担当者に「改善計画等」の記入を依頼した。同様に、①大学全体、②総合経営学部共通、③総合経営学科、④観光ホスピタリティ学科、⑤人間健康学部共通、⑥健康栄養学科、⑦健康スポーツ学科、⑧総合経営学部・人間健康学部共通、⑨松商短期大学部の区分別集合データについて、それぞれ、①学長、②総合経営学部長、③総合経営学科長、④観光ホスピタリティ学科長、⑤人間健康学部長、⑥健康栄養学科長、⑦健康スポーツ学科

長、⑧全学教務委員長、⑨松商短期大学部長に「改善計画等」の記入を依頼した。以上の内容について点検および校正の後、「授業についての学生アンケート集計報告書～分かりやすい授業を目指して～」の松本大学版、および、松本大学松商短期大学版を発行した。

なお、後期の授業アンケート結果の集合データをもとに、区分別データの経年変化、履修人数別比較、および、区分別の比較について教授会で報告した。それを参考データの一つとして、改善計画等について記入を依頼した。

② 授業参観

全15回の授業の中､前期においてはおよそ9～11回目の授業である6月8日(月)～19日(金)、後期においてはおよそ8～10回目の授業である11月23日（月）～12月4日（金）を授業参観期間として専任教員および非常勤教員に通知した。特に専任教員には1科目以上の授業を参観すること、および、「授業参観アンケート用紙」に参考になった点などを記入し、提出することを依頼した。

前期においては全専任教員74人（嘱託専任教員を含む）中、50人から「授業参観アンケート用紙」が提出された。なお、2名の非常勤教員からも提出があった。後期においては全専任教員73名（嘱託専任教員を含む）中、32人から用紙が提出された。なお1名の助手からも提出があった。

③ 卒業生等へのアンケート

各学部の「卒業者アンケート」および松商短期大学部の｢在学生アンケート｣について、一部質問項目を見直し、後期末のオリエンテーションで実施した。集計し、個人名の秘匿などチェックの後、自己点検・評価報告書に掲載される。

また、前年（平成26）度実施のアンケート結果をもとに、各部署等でFD・SD活動として内容の検討を行うよう依頼し、教育活動や学校運営業務の改善についてディスカッションを実施した。

④ FD・SD研修会

7月23日（木）に平成26年度後期の「授業についての学生アンケート」のデータおよび過去のデータをもとに「授業評価報告会」を実施した。FD・SD運営部会から、区分別データの経年変化、当該期の区分別比較、および、履修人数別比較などを報告し、全体での意見交換や各学部学科でのディスカッションを実施した。参加教員は44人であった。

9月14日（月）に「ルーブリック評価スタートアップ～評価の原則から組織での活用まで～」を開催した。講師は高知大学の俣野秀典氏であった。講義とワークショップの両方の形式で分かりやすく実施して頂いた。参加者は、専任教員37人、職員12人、学外者19人であった。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

① 授業アンケート

本年度は授業アンケートの実施だけでなく、授業評価報告会を開催し、その中で議論がおこなわれるなど、結果の検討や今後の改善への意識転換が図られた年になった。後期には、授業アンケート集計データを3月の教授会でフィードバックするとともに改善計画等の記入を依頼するようにし、一連の作業を迅速におこなえるようにもなった。

② 授業参観

前期には比較的多くの専任教員が授業参観を実施したが、後期には低調な参加率であった。お

そらく前期には直前に迫った第三者評価の影響がプラスに働き、後期にはその熱が冷めたという状況であろうと推測される。FD・SD 運営部会としては憂慮する事態であると考えているが、学長、ならびに、学部長や学科長との連携により、今後の授業参観および授業改善について考えていく必要があろう。

③ 卒業生等へのアンケート

結果の取りまとめだけでなく、それについての議論も実施することができた。これにより、教育や学校運営の改善への意識が高まったと考えられる。

④ FD・SD 研修会

FD としては、ルーブリックを用いた学習評価方法について研修会を実施した。しかしながら、SD としての活動がそれほどできなかったことが反省点である。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

① 授業アンケート

より意義のある授業アンケートにするべく、各授業の学修到達目標の達成度について質問項目を増やす予定である。

② 授業参観

学長ならびに学部長や学科長と連携しながら、授業参観の参加率を高め、個々人の授業改善に生かす。

③ 卒業生等へのアンケート

貴重なアンケートデータについて吟味し、教育および学校運営の改善につながるようにする。また、そのために IR 推進部会への問題提起もできれば行えるようにしたい。

④ FD・SD 研修会

教職員のレベルアップのために必要な研修会について検討する。また、部署ごとでの FD・SD 活動を活発化し、記録として残すようにする。

＜執筆担当／ＦＤ・ＳＤ運営部会長　川島　均＞

３. 教職センター運営委員会

本年度は、これまでと異なり教職センター内の主要な活動における会議の議事進行役を分担することでより内容の充実を図った。分担は、教育実習連絡会議関係、小学校 2 種免許状取得支援プログラム会議、教員採用受験指導センター運営部会及びその他であった。

＜今年度の到達目標＞

年度当初の目標を検討し次の項目が到達目標としてあげられた。

1）教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化する。

2）「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指す。

3）教職課程カリキュラムの充実のために、組織および内容を充実させる。

4）教職センターの業務内容をシステム化し、センター員間の情報の共有化を目指す。

＜作成時点での視点＞

今年度においては、到達目標と関連する主要な活動における会議の議事進行役を分担することで、

それぞれの目標の具体化をめざし充実させてきた。分担は、教育実習連絡会議関係を小松教授、小学校 2 種免許状取得支援プログラム会議を征矢野教授、教員採用受験指導センター運営部会を藤枝准教授、その他を川島が担当することとした。その視点としては、以下のものであった。1) 教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化する。特に、春季休業中から教員採用試験に向けて、受験生の動機づけを高め、実力をつけるための方策を考えてゆく。2）教員免許状更新講習については、本年度が初年度ということもあり、速やかな実施を目指して準備をしてゆく。3)教職課程カリキュラムの充実のために、組織および内容を充実させる。3）本年度からの授業担当と時間割の変更に伴うカリキュラム全体を把握しやすくするために、授業科目のナンバリングなどを改善してゆく。4)教職センターの業務内容のシステム化と共有化を行う。そのために、教職センター専任教員以外のシラバスの点検などを含む業務内容の明確化及び Ridoc を活用した業務内容と書類の共有化を図ってゆく。

○教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化する。

1）目標 ＜P＞

教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化する。特に、春季休業中から教員採用試験に向けて、受験生の動機づけを高め、実力をつけるための方策を考えてゆく。

2）目標への成果・実績 ＜D＞

昨年度から、「教員採用受験指導センター運営部会」が設置された。その成果として、平成２７年度においては、卒業生から始めての公立学校教員採用試験の合格者が出た。また、１次試験についても５名の合格者を出した。活動内容としては、①教員採用一次試験のために集団面接を開催、② 教員採用一次試験体育実技対策講座の開催、③教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業(事例対応)練習を開催、④「梓友会」の開催と並行して在学生および教員採用試験を受験する卒業生のために教員採用試験受験に向けて外部講師による講座を開催、⑤年度当初に、受験への動機付けを高めるために教員採用試験対策公開模試の日程掲示を行った。

3）成果・実績の点検・評価 ＜C＞

教員採用試験の受験指導の各項目の充実が図られたことは評価できる。特に、当教育センターの教職経験者を中心に行われた 3 回の面接及び面接練習は効果が見られ、面接練習を受けた学生からも好評であった。また、学生に対する教職課程履修に関する相談支援活動は、教員を主たる進路とする学生向けに、丁寧に行われたことは今後も続けられるべきであろう。これらの活動は、教員採用へのモチベーションを高めるために効果があった。

4）次年度への改善事項及び課題 ＜A＞

各項目での充実した活動が行われた。当教育センターの教職経験者を中心に行われた①教員採用一次試験のために集団面接、② 教員採用一次試験体育実技対策講座、③教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業(事例対応)練習は、継続して行われることが望まれる。また、学生に対する教職課程履修に関する相談支援活動も同様に、継続が望まれる。

○「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指す。

1）目標 ＜P＞

教員免許状更新講習については、本年度が初年度ということもあり、速やかな実施を目指して準備をしてゆく。

2）目標への成果・実績 ＜D＞

本年度から、教職センターを中心に松本大学教員免許状更新講習が開催された。松本大学での教員免許更新講習は必修講習（1 講座,）121 名、選択講習(18 講習)327 名が開講され述べ 448 名が受講した。事後アンケートにおいても好評を得た。5 月から 11 月の期間において、全更新講習が順調に開講された。事務職員を中心とした教職センターの構成員の努力により運営のみならず講習の経営にも順調な成果をあげることができた。

3）成果・実績の点検・評価 ＜C＞

講座終了後の評価は、全般を通しておおむね好評であった。委員会における反省において必修講習および選択講習の選択の段階で、内容が教員免許状更新講習にふさわしいものであるかどうかの検討が行われたことは評価できる。終了後の委員会において反省として提出された受講生から要望のあった栄養教諭向けや幼稚園教諭向けの講習を増やす計画を検討点検した。また、文部科学省から開講の要望がある「情報教育」、「子どもの貧困」、「地域連携」、「保健体育」、「英語教育」、「幼児教育（幼稚園教諭向け）」についても扱うことの検討を行ったことは評価できる。

4）次年度への改善事項及び課題 ＜A＞

平成 28 年度にから必修講習(2 日間)について変更があり、1 日目は全受講者が受講する必修領域、2 日目は複数の講習を開講し少人数での選択必修を実施することとなった。現在、必修領域 1 講習、選択必修領域 5 講習、選択領域 21 講習が開講される予定で準備が進められている。また、来年度についてはより多くの学内の教員に参加してもらえるように働きかける必要がある。次年度は栄養教諭向けの講習数を増やす計画である。

○教職課程カリキュラムの充実のために、組織および内容の整備を行う。

1）目標 ＜P＞

教職課程カリキュラムの充実のために、組織及び内容を充実させる。本年度から変更した授業担当と時間割の変更に伴うカリキュラム全体を把握しやすくするために、授業科目のナンバリングなどを改善してゆく。

2）目標への成果・実績 ＜D＞

①これまで集中講義で行われていた科目を通常授業の中に組み込むことで長期休業期間中の学生の活動の幅が広がった。②学生のカリキュラム全体を把握し易くするために複数回にわたり学年ごとに教職課程カリキュラムガイダンスおよび説明会を実施した。③２年生に対し、教育実習を準備するにあたって教職科目の履修について意思確認のオリエンテーションを開始した。④授業科目のナンバリングについては、教職センター以外の科目との関連において整合性が保ちにくいことから実現しなかった。

3）成果・実績の点検・評価 ＜C＞

教職関係授業の改定により長期休業期間中の学生の活動の幅が広がったことは評価できる。授業

科目のナンバリングについては、教職センター以外の科目との関連において整合性が保ち難いことから実現できなかった。カリキュラム全体を把握しやすくするために複数回にわたり学年ごとに教職課程カリキュラムガイダンスおよび説明会を実施する過程で、項目の分類が行われたことは評価できる。

4）次年度への改善事項及び課題　＜A＞

学生のカリキュラム全体を把握し易くするために複数回にわたり学年ごとに教職課程カリキュラムガイダンスおよび説明会の実施は継続して行われることが望ましい。２年生に対し、教育実習を準備するにあたって教職科目の履修について意思確認のオリエンテーションを開始したことも同様である。また、授業科目のナンバリングについては、教職センター以外の科目との関連において整合性が保ちにくいことから実現しなかったが、今後の、組織の改革に伴って進められるべき課題である。

○教職センターの業務内容のよりいっそうのシステム化とセンター員間の情報の共有化を目指す。

1）目標 ＜P＞

教職センターの業務内容のシステム化と共有化を行う。そのために、教職センター専任教員以外のシラバスの点検などを含む業務内容の明確化及びRidocを活用した業務内容と書類の共有化を行ってゆく。

2）目標への成果・実績 ＜D＞

教職専門科目以外の、シラバスの点検などを含む業務内容の明確化については、集中講義の授業数の減少により、各学部の専門と教職関係の授業が重なるという問題が減少した。Ridocを活用した業務内容と書類の共有化を行ってゆくことについては、年度末において見ると一応は達成されており、共通化の効果はあったと言える。ただ、Ridocのシステムが、あまり使い勝手が良いとはいえないことから頻繁にアップロードすることに抵抗があった。

3）成果・実績の点検・評価 ＜C＞

教職センター内でのRidocの使用は、頻繁ではなかったが、実習関係の書類を中心に、共有すべき書類はアップロードされている状況にあることは評価できる。実際の運用としてアップロードされた書類は、どのくらい有効に活用されているかまでは明らかではない。会議書類については会議の場面でプリントアウトされたものが配布されることから、必要性に欠けているのかもしれない。

4）次年度への改善事項及び課題　＜A＞

業務内容のシステム化として教職センター内でのRidocの利用は頻繁ではなかったが、実習関係の書類を中心に、共有すべき書類をアップロードすることは継続されることが望ましい。アップロードされた書類をどのように有効活用すかについての検討が今後の課題である。

＜執筆担当／教職センター運営委員会　委員長　川島　一夫＞

4. 図書館運営委員会

1）年度当初の計画 ＜P＞

（1）学修を支援する図書館

- 入館ゲートを設置して、授業外時間外学修時間を推定できる一つの指標として学生の滞在時間を把握できるようにした。統計結果を見ながら必要な働きかけをしていく。
- 授業の課題について、担当の先生にアンケートをとる。

（2）学生を刺激する図書館

- それぞれの書架の棚を魅力的にする。
- より利用のニーズにそった選書を進める。
- 話題に関わる掲示をする。

（3）業務の合理化と情報の共有

- 研究図書の会計処理の分離を検討する。
- 業務の合理化をさらに図るとともに、職員間の情報の共有化を一層進める。

2）利用統計及び点検評価 ＜D・C＞

【利用統計】2015（平成27）年度

図書(雑誌)貸出数・AV資料閲覧点数（図書：冊、AV資料：点）

	所　　属	貸出数	合　計	AV閲覧	合　計
短大	商学科	551(51)	1,319(80)	213	482
	経営情報学科	768(29)		269	
総合経営	総合経営学科	1,304(66)	2,340(111)	277	750
	観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科	1,036(45)		473	
人間健康	健康栄養学科	2,674(53)	3,700 (91)	262	1,020
	ｽﾎﾟｰﾂ健康学科	1,026(38)		758	
	健康科学研究科	49(2)	49(2)	9	9
	教職員	939(108)	939(108)	12	12
計		8,347(392)	8,347(392)	2,273	2,273

学生1人あたり貸出数

年　度	学生数 5/1現(人)	貸 出 数（冊）	1人当り貸出数 (冊)
25年度	1,943	6,753	3.48
26年度	1,927	8,599	4.46
27年度	1,888	7,408	3.92

入館者数（延べ人数）　　（人）

	25年度	26年度	27年度
学内利用者	90,710	90,794	88,348
学　外　者	199	153	268

① 学修を支援する図書館

- 入館ゲートを設置して学生の滞在時間を把握できるようにした。統計結果を見ながら必要な働きかけをしていく。

4 月から入館ゲートを始動させた。統計データを見ると、1 時間未満や 2 時間未満の利用が多い。ただし、まだ十分なデータが集まっていないため積極的な働きかけにいたっていない。この統計データをどのように活用すればよいか、今後の課題とする。

- 授業の課題について、担当の先生にアンケートをとる。

前期と後期と 1 回ずつ、科目担当の先生方に課題についてアンケートをとり、「課題あり」の連絡をいただいた科目にはできるだけ対応するようにした。

まず、案内を作成したり、資料を別置したりした。蔵書にない資料はすぐに購入した。資料の不足が見込まれるときには、近隣の公共図書館の所蔵状況を把握したうえで複本を購入した。このようにして、課題に対する対応手順がほぼ定まってきた。

図書館としての課題は、関連図書の紹介をすること、近隣の公共図書館の案内をさらに強力にすること、先生方にもっと働きかけることなどである。

② 学生を刺激する図書館

- それぞれの書架の棚を魅力的にする。

新着図書や 2 階の棚は POP をつけたり面だししたりしたが、1 階、3 階には手が回らなかった。書架を魅力的にするということでは、基本図書や関連図書の資料を整えて棚そのものの魅力をだすことも必要だろう。

- より利用のニーズにそった選書を進める。

見計らいによる選書では学生のニーズを反映させるようにしたが、定期的な選書を行うことができなかった。

- 話題に関わる掲示をする。

掲示物には手が回らないことが多かったが、展示は、季節に関わること、テレビや映画の原作本、ノーベル賞受賞等社会的な話題などを取り上げ、1 ヵ月に 1･2 回をめどに積極的に行った。学内で講演があるときには、講演者の著書を展示して貸し出すことも始めた。

③ 業務の合理化と情報の共有

- 研究図書の会計処理の分離を検討する。

研究図書の会計処理の合理化はここ数年の課題だったが、今年度ようやく実現できた。当初計画していた図書館業務からの分離ではなかったが、3000 円未満の研究図書については、データ記載をやめたため、事務処理の大幅な軽減を図ることができた。また、研究図書をすみやかに手渡すことができるようになった。

- 業務の合理化をさらに図るとともに、職員間の情報の共有化を一層進める。

各職員とも業務の合理化は進めてきたが、職員集団全体として取り組むことはできなかった。しかし、クラウドストレージを利用してファイルを共有し作業を進めることができたのは情報共有の面でも、業務の合理化の面でも効果があった。

3）2016 年度の計画 ＜A＞

2016 年度は、業務の全面的委託が実施されることになった。職員体制が大幅に変更になる。体制の陣容は見えにくいが、どのような体制においても図書館としてすべきことは同じである。次のようなことを課題として遂行したい。

① 教育における図書館の機能を果たす

本学の図書館において、最優先させるべきことは教育機関としての図書館の機能である。そのため、図書館の認知度をさらに高め、学習や教育で活用される図書館にしていく必要がある。

今年度から課題支援のための活動を始めたが、今後は対象の科目や支援内容を一層充実させていく。そのためには、利用者のニーズを把握し、蔵書の質を高めていくことが求められる。レファレンスサービスの充実も求められよう。

学習・教育に役立つ図書館ではあるが、そのためには主たる利用者である学生が気軽に利用できる環境でなければならない。そのためには、直接学習・教育につながらない場合でも刺激を与え楽しさが感じられる居心地のよい場とする配慮も求められる。

② デジタルネイティブ世代を意識した活動をする

学生の大半がデジタルネイティブ（生まれたときからパソコンやインターネットなどの情報通信が整った環境にある）となった。従来の図書館サービスや広報では図書館からの情報が伝わりにくくなっているのではないか。ツイッター等のソーシャルメディアの活用をもっと積極的に行う必要がある。

また、この世代は、情報機器の操作には優れているが、情報の収集や活用については充分ではない。情報の切り取りには優れているが、体系的な理解には難がある。情報リテラシーの涵養を積極的に働きかけて、大学での学習や卒業してからも通用する学力・知力をつける基盤づくりに役立てたい。具体的には、図書館の利用方法、情報検索、データベースの利用、読書力の育成、等である。これらは、教員との連携が不可欠である。また、各学部・学科・ゼミにおけるオリエンテーションの充実やデータベース講習会の頻度をあげるなどの施策も必要だろう。

③ 次の項目は、2016 年度で実現するのは難しいが、今後に向けて計画を進めていけるとよい

a）学生図書委員の創設、育成

b）機関リポジトリの収録範囲の拡大

c）留学生への図書館サービス

＜執筆担当／図書館運営委員会　委員長　篠原　由美子＞

５. 情報センター運営委員会

１）年度当初の予定 ＜Ｐ＞

情報センターでは、通常業務として「研究・教育の支援（パソコン教室（ハード・ソフト）整備、コンピュータ関連科目整備、学生向けオリエンテーション実施、学生アシスタント手配、資格管理）」、「情報機器の維持・管理（教職員パソコン、貸出ノートパソコン等、ネットワーク、サーバ類等）」、および学内外に対して「講習会の実施」等を行っている。その中でも、平成 27 年度当初に計画された情報センターの新規事業は以下の通りである。

① 学術研究・教育の支援

(a) 4 号館 3 階の無線環境の構築

総合経営学部 1 年生に貸与した iPad の利用が始まり、ゼミや研究活動のため、講義棟だけでなく研究室内及び前室でも利用したいとの要望があった。学生の利便性が高まると判断できるため、アクセスポイントを 12 箇所新規に設置する。

(b) PC 教室（7 室）の無線環境構築

パソコン教室には、これまで無線環境が整備されていなかった。H26 年度の補助金でタブレット(iPad)を準備している。また、高大連携や長野県シニア大学の受け入れなど、今後 PC 教室でのタブレット端末を使用した講義が増加することが予想されるため、無線環境の整備が必要となった。

(c) 情報機器の拡充

情報センター、および 6 号館 1 階で貸し出している PC を追加整備する。6 号館 1 階に整備するノート PC の一部には、栄養君、SPSS を搭載する。

(d) 教育環境整備の検討

(e) 情報セキュリティの強化

ウィルス対策ソフトを、学外でも保護下となるソフトに変更する。対象は本学所有のデスクトップ PC およびノート PC である。

(f) IO-GATE プリンタ更新

交換時期は 9 月上旬、プリンタを 1 台追加し、学生が持ち込んだノート PC からも印刷できる新機能を追加する。

(g) パソコン教室の機材更新。311、312PC 教室の機材を入替する。

② 情報機器の維持・管理

(a) 教職員パソコン定期購入、研究室プリンタ購入

本年度の教職員パソコン定期購入の対象者は 25 名である。

(b) 情報センターに設置する各種サーバを、キッセイコムテック株式会社が所有するデータセンターへ移動する。

(c) 基幹ハブの交換を行う。4 号館 1 階および 6 号館 1 階を最優先にハブの交換を行う。

③ その他

(a) 情報ポリシーの見直し

(b) 資格対策について検討、実施

2）計画の実施・現状の説明 ＜D＞

多くの通常事業および新規事業は、計画通り実施された。

① 学術研究・教育の支援

(a) 4 号館 3 階に無線環境の構築として、アクセスポイントを 12 箇所新規に設置した。

(b)PC 教室（7 室）の無線環境を整備した。

(e)セキュリティを高めるため、専用のウィルス対策ソフトを導入することとした。

(f)4 号館 3 階のエレベータ前のフロアに、学生用のプリンタを整備した。ロケーションフリーのシステムを構築した。

(g)PC 教室のリプレースに関して、入札を行った。ＰＣ関連機器の納入実績のある 3 社に見積もりを依頼し、プレゼンテーション形式での提案書と見積書の提出を求めて最適な企業からの納入を決めた。

②情報機器の維持・管理

(a) 本年度、25 台の教職員用 PC の入替を行った。まだ十分に機能する PC については、学内各所のフロアに設置している老朽化した PC と入替ていくが、対象とする場所について、1 号館～7

号館に均等に振り分けて整備することとした。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

平成 27 年度は、4 回委員会を開催した。議論を深めながら、業務を遂行できた点は評価したい。以下に、点検・評価の結果について示す。

①学術研究・教育の支援

(a) (b) 無線環境に関して、どの情報機器を優先的に交換するかについて、慎重に議論して決定した。

(e) セキュリティを高めるため、専用のウィルス対策ソフトを導入することについて、これまで利用してきた対策ソフトの弱点について議論し、その弱点をカバーする対策ソフトを決定できた。これにより、大学のセキュリティ対策の向上が図られた。

(f) 4 号館 3 階に学生用のプリンタを設置することについて、どのようなシステム形態が学生にとって最も使いやすいかについて、委員会にて慎重に議論して決定した。これによって、学生が自分のスマホやタブレット、PC から直接印刷をすることが可能となり、利便性の向上が図られた。

(g) 311、312PC 教室のパソコンのリプレースと、ソフトウェアのバージョンアップを行うことにより、情報教育の授業におけるコンピュータ環境の改善が図られた。PC 教室のリプレースに関して、委員会にて入札内容を審議し慎重に決定した。これにより、大学にとって適切な PC 教室の構築ができ、利便性の向上が図られた。

②情報機器の維持・管理

(a) 教職員用 PC の入替を行うことにより、教職員の作業効率の改善が図られた。教職員用 PC の入替を行う際に、現状の教職員の個々のコンピュータ環境について委員会にて情報を共有し、どの PC を優先的に入れ替えるかについて議論を重ねた。これによって、教職員の作業効率の向上が図られた。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

平成 28 年度は以下の新規事業を予定しており、予算申請を行っている。しかし、情報機器の変化は激しく、学生や教職員から求められるものも、立場の違いによって様々である。そのため、いずれの事業においても、委員会で再度検討し、必要なのか否かをきちんと議論してから実施することとする。また、実行した事業の評価も、ある立場からの主観で判断することなく、客観的な評価活動を実施することとする。

① 学術研究・教育の支援

(a) パソコン教室の整備（パソコンリプレース、ソフトウェアのバージョンアップ）

(b) 教職員パソコン定期購入、研究室プリンタ購入

(c) その他

② 情報機器の維持・管理

(a) サーバ機器クラウド化の対応

(b) ネットワーク整備

＜執筆担当／情報センター運営委員会　委員長　小林　俊一＞

６. 国際交流センター運営委員会

本年度の国際交流センター運営部会は、大学院１名、学部は各学科から１名、短期大学部１名、および職員５名の計 11 名で構成された。

１）計画 ＜Ｐ＞

国際交流は、学内の国際化により海外に興味を持つ学生を育成するとともに学内にいながら多文化理解を促す環境の整備と、実際に海外の文化や社会を体験できるプログラムの構築の 2 面性がある。前者については、前年度試行的に行われた「短期日本語プログラム」を確実に実施し、その充実を図ることが今年度の課題であった。また、後者については、短大部を中心に推進されたが、湘北短期大学と共催で実施しているオーストラリアの国立ニューカッスル大学語学研修への参加者を増やすとともに、米国や欧州を含めた海外研修先の開拓が行われた。したがって、当初の計画は以下の 3 点で示すことができる。

①協定校との関係強化：「短期日本語プログラム」の実施と充実等

②海外研修先の整備

③通常業務の充実

２）活動内容 ＜Ｄ＞

２－①　協定校との関係強化：「短期日本語プログラム」の実施と充実等

本年度は、夏と冬の 2 回、「短期日本語プログラム（15 日間）」を実施したが、夏のプログラムには協定校である韓国の東新大学から6名、また中国の嶺南師範学院から5名の学生が参加し、冬のプログラムには嶺南師範学院の学生 2 名が参加した。現状では、協定校の学生だけが参加しているが、欧米の学生の参加が望まれる。また、この「短期日本語プログラム」で来日した東新大学と嶺南師範学院の教員が、短大の科目である「海外事情」を担当する教員交流のプログラムも実施したが、10 名近い学生が参加した。

さらに、協定相手校である中国嶺南師範学院でも 7 月に「サマーキャンプ（10 日間）」が開催され、総合経営学部 1 名と短大部 2 名の計 3 名学生が交通費のみでこれに参加した。また、総合経営学部と短大部の学生各 1 名が、韓国東新大学の 3 月の語学コース（30 日間）に参加し、交流を深めた。

２－②　海外研修先の整備

本年度は、短大部の「国際コミュニケーション・フィールド」充実の観点から、短大部を中心に海外研修先の選定が行われた。米国のニューヨーク市立大学とは授業科目の「Interactive English」で相互交流授業が行われており、短期留学や編入学等についても連携強化で合意した。また、ドイツのフライブルグ大学との連携では、2 月のプログラムを活用して連携を強化することになり、今年度 1 名の学生がこのプログラムに参加した。さらに、英国のリージェンツ大学との連携では、現状で協定を結ぶのは難しいものの、語学研修への参加で協力関係を強化していくことで合意した。

２－③　通常業務の充実

本年度は、総合経営学部の学生 1 名が韓国東新大学に半年間協定留学生として留学した。他方受入は、韓国東新大学から 3 名の学生を 1 年間の交換留学生として受け入れた。また、1 週間から1ヶ月程度の短期プログラムには21名の学生が参加した（中国嶺南師範学院「サマーキャンプ」

（7 月／10 日間）3 名、オーストラリア「国立ニューカッスル大学語学研修」（8 月／15 日間）12 名、韓国済州大学「サマープログラム」（8 月／14 日間）1 名、ドイツ・ハイデルベルグ大学の「語学コース」（8 月／29 日間）1 名、米国メルビル大学「語学コース」（9 月／38 日間）1 名、ドイツ・フライブルグ大学の「語学コース」（2 月／28 日間）に 1 名、韓国東新大学の「語学コース」（3 月／30 日間）2 名）。

その他の活動としては、スピーチコンテストへの参加や本学訪問団への対応、留学生の生活環境改善や「フィールド・トリップ」等の留学生支援、海外研修への事務手続きや引率等本学学生の留学支援を行った。活動の詳細についてはアニュアル・レポートを参照されたい。

３）点検と評価 ＜Ｃ＞

昨年度、政府の「キャンパス・アジア」構想に対応した日中韓の連携体制が構築されたが、今年度は学生交流に加えて教員交流も進めることができた。特に、嶺南師範学院とは、短大部との交流を中心に相互に授業を担当するなど、教員交流の推進による教育の質向上につながった。また、学生の海外留学は、昨年の 4 名から 21 名へと大きく増加し、「短期日本語プログラム」に携わる本学の学生や協定校の教員が担当する「海外事情」等を通して、海外に興味を持つ学生も多くなって来ている。その意味では、当初の計画に対して一定の評価が可能であろう。

４）今後の活動について ＜Ａ＞

次年度以降については、「短期日本語プログラム」の充実を図ることにより、このプログラムに参加する学生をより多様化させ、欧米の学生が参加しやすいプログラムに変えていく予定である。具体的には、「修了書」に加えて「成績証明書兼単位認定書」等の発行を検討する。また、現在、短大部で実施されているニューヨーク市立大学とのコラボレート授業を発展させ、本学の「短期日本語プログラム」にも参加し易い環境を整備する。

他方、派遣については、本学独自で実施する米国ノートルダム大学でのプログラム等の充実を図るとともに、英国やドイツの大学、さらには現在検討しているカナダや東南アジアの大学等とも提携関係を構築し、各地域での交流拠点の形成を図り、本学の学生が海外研修に参加し易い環境を整備する。

＜執筆担当／国際交流センター運営委員会　委員長　糸井　重夫＞

７. 地域健康支援ステーション運営委員会

文部科学省平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマＡ】「食の課題解決に向けた質の高い学士の育成～地域の食に関する課題解決への意欲と実践的能力を有する食の専門家の育成～」が採択された。これにより、本地域健康支援ステーションは人間健康学部健康栄養学科内に設置され、平成 22 年 4 月から本格的に活動を開始した。平成 24 年度からは本学の特徴ある取組として継続された。

さらに平成 25 年 9 月に文部科学省ＣＯＣ事業の採択を受け、健康運動指導士を専任スタッフとして配置し、栄養と運動の両面からの地域貢献を理念とし、スポーツ健康学科も含めた人間健康学部全体の地域活動と学内教育をつなぐ窓口として活動の幅を広げている。

１）組織と会議

①組織：運営委員長１名（健康栄養学科長）　委員３名（スポーツ健康学科長、総合経営学科、観光ホスピタリティ学科各１名）　事務局５名

②運営委員会：2 回　4 月 13 日（文書審議）、6 月 1 日

２）H27(2015)年度当初の事業計画 ＜Ｐ＞

地域健康支援ステーションの H27(2015)年度の事業計画は以下の通りである。

① 健康づくり指導事業

ア：栄養面からの健康教育　　イ：運動実践指導

② 啓発事業　メニュー開発

③ 広報事業

④卒後フォローアップ事業

３）事業報告 ＜Ｄ＞

地域健康支援ステーションの独自の取組と、文部科学省より採択を受けたＣＯＣ事業を並行して実施した。

①健康づくり指導事業

公共機関、企業、団体等からの依頼を受け、個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行った。主として指導教員と専任の管理栄養士・健康運動指導士スタッフが指導を行い、学生はその補助等を行った。

ア：栄養面からの健康教育

依頼元からのテーマに応じて、クイズや食事診断などの参加型の内容を組み入れて講話を行った。学生の同行が可能な場合には、クイズや食事診断など学生の補助により実施した。

「ハイリスク学生個別栄養指導」（3 回）（依頼元：本学健康安全センター、指導教員：廣田直子）

「林業作業士研修の講師」（7 月・8 月）（依頼元：長野県林業労働財団、指導教員：廣田直子）

「食育ＳＡＴシステムによる食事診断」（12 月）（依頼元：長野県諏訪保健福祉事務所ほか、指導教員：廣田直子）

「吉田地区健康教室での栄養指導」（4 回）（依頼元：塩尻市吉田公民館、指導教員：廣田直子）

「本山地区介護予防運動教室での栄養指導」（3 回）（依頼元：塩尻市社協本山分会、指導教員：廣田直子）

「床尾地区健康教室での栄養指導」（2 回）（依頼元：塩尻市社協床尾分会、指導教員：廣田直子）

「せば福祉施設介護予防教室の栄養指導」（2 回）（依頼元：塩尻市社協、指導教員：廣田直子）

イ：運動実践指導・レクリエーション

健康運動指導士スタッフが中心となり、時にスポーツ健康学科の学生も参加して地域住民及び企業社員並びに障害のある方に、講話と運動指導を行った。また、大学において、専門的な機器を使っての保健補導員等を対象とした体力測定を学生とともに支援した。企業からも社員の体力測定を依頼され実施した。年間を通して定期的に開催される運動講座では、参加者が継続して楽しく通えるよう、運動の意義についての資料を毎回配布、その後できるだけ講話に沿

った内容で運動を行った。内容がマンネリ化しないよう、太極拳などの外部講師を招いたりチーム対抗レクリエーションを取り入れるなど工夫した。また、新たに当所所属の管理栄養士による個別栄養指導も取り入れた。高齢者や障がいのある方を対象とするときは、レクリエーションを通して無理なく軽い運動ができるよう配慮した。参加者は、理論と実践によって健康寿命延伸についてより理解を深めたと考えられる。また、定期的に開催されるいずれの講座でも、初期の段階で簡単な体力測定を実施し、参加者一人ひとりがトレーニング目標を持てるよう指導した。今年度、地域及び企業等から講師依頼のあった健康づくり講座等は述べ 124 回で受講者は述べ 2133 人であった。

参加者からは、運動の重要性について改めて認識した、家でも「ながら運動」をするようになった、痛いところがなくなった、家庭での会話が増えた等の感想をいただき好評であった。年間を通して自主参加した学生は延べ 20 人余りであった。学生がサポート体験した運動講座の中には、超高齢者ばかりで、聴覚や四肢が不自由な者への対応の仕方を学ぶことのできる貴重な機会となった現場があった。また、定期的に開催される多人数の講座が、卒業研究のための被験者を募集する学生に役立った。

「吉田地区健康教室の講師」（43 回）（依頼元：塩尻市吉田公民館、指導教員：根本賢一）

「本山地区介護予防運動教室の講師」（21 回）（依頼元：塩尻市社協本山分会、指導教員：中島節子）

「床尾地区健康教室の講師」（24 回）（依頼元：塩尻市社協床尾分会、指導教員：中島節子）

「せば福祉施設介護予防教室の講師」（10 回）（依頼元：塩尻市社協、指導教員：中島節子）

「元気もりもり運動講座の講師」（3 回）（依頼元：朝日村、指導教員：中島節子）

「三ケ組地区地域サロンの講師」（4 回）（依頼元：朝日村、指導教員：中島節子）

「沢上沢下地区地域サロンの講師」（2 回）（依頼元：朝日村、指導教員：中島節子）

「新田上新田下地区地域サロンの講師」（3 回）（依頼元：朝日村、指導教員：中島節子）

「小柴地区農家組合介護予防教室の講師」（1 回）（依頼元：JA 松本ハイランド、指導教員：根本賢一）

「企業社員の健康づくり運動の講師」（1 回）（依頼元：昭和電工セラミックス㈱塩尻工場、指導教員：等々力賢治）

「今井地区農家組合健康づくり運動の講師」（1 回）（依頼元：JA 松本ハイランド今井支所、指導教員：根本賢一）

「朝日村内『66 歳いきいき講座』の体力測定」（1 回）（依頼元：朝日村、指導教員：根本賢一）

「小井戸地区元気づくり広場の講師」（1 回）（依頼元：塩尻市社協、指導教員：中島節子）

「新入社員交流のためのレクリエーション講師」（1 回）（依頼元：昭和電工セラミックス㈱塩尻工場、指導教員：犬養己紀子）

「中野市内障がい児・者交流会レクリエーションの講師」（1 回）（依頼元：中野市社協、指導教員：犬飼己紀子）」

「精神障がい者施設冬場の体力づくりの講師」（1 回）（依頼元：朝日村、指導教員：根本賢一）

「奈良井地区高齢者交流研修会『延ばそう健康寿命』の講師」（1 回）（依頼元：塩尻市社協、指導教員：中島節子）

「軽井沢町保健補導員研修会の体力測定」（1 回）（依頼元：軽井沢町、指導教員：廣田直子）

「立科町保健員会会員視察研修の体力測定」（1 回）（依頼元：立科町、指導教員：中島節子）

「南相木村保健補導員研修会の体力測定及び運動指導」（1 回）（依頼元：南相木村、指導教員：中島節子）

「南牧村健康推進委員研修会の体力測定」（1 回）（依頼元：南牧村、指導教員：中島節子）

「松本管内食生活改善推進員研修会の講師」（1 回）（依頼元：県松本保健福祉事務所、指導教員：根本賢一）

「企業の健康セミナー体力測定」（2 回）（依頼元：㈱サイベックコーポレーション、指導教員：根本賢一）

「松本市食生活改善推進協議会総会講演会『ロコモ予防と健康寿命延伸』講師」（1 回）依頼元：松本市食生活改善推進協議会、指導教員：根本賢一）

「商工会安筑支部職員研修会『健康体操教室』の講師」（1 回）（依頼元：長野県商工会職員協議会安筑支部、指導教員：中島節子）

②啓発事業　メニュー開発

地域等からの依頼を受け、人間健康学部の学生が主体となり、当ステーションの管理栄養士、健康運動指導士の専門的サポートと学科教員の指導のもとに実施した。

また、本学で開催されるイベント等に合わせ当ステーション主催による取組みの企画や、本学の学生有志の取り組みへの支援を行った。

ア：有線放送番組の企画と出演」（毎月放送、収録４回）（依頼元：更北有線放送、指導教員：廣田直子、中島節子）

イ：軽井沢町保健補導員会研修会」（依頼元：軽井沢町保健補導員会、指導教員：廣田直子、中島節子）

ウ：「立科町保健委員会研修会」（依頼元：立科町保健委員会、指導教員：廣田直子、中島節子）

エ：「南相木村保健補導員会研修会」（依頼元：南相木村保健補導員会、指導教員：廣田直子、中島節子）

オ：「南牧村保健推進委員研修会」（依頼元：南牧村保健推進委員会、指導教員：廣田直子、中島節子）

カ：「食育イベントでのおにぎりチャレンジ隊」（6 月）（依頼元：松本市農林部農政課、指導教員：廣田直子）

キ：「食育ＳＡＴシステムによる食事診断」（10 月）（依頼元：長野県立こども病院、指導教員：廣田直子）

ク：「松本山雅スタジアム『食』第６期メニュー開発」（依頼元：株式会社 松本山雅、指導教員：廣田直子、石原三妃、成瀬祐子）

ケ：「世界健康首都会議 健康弁当提案プロジェクト」（依頼元：松本市ほか、指導教員：廣田直子、成瀬祐子、水野尚子、石澤美代子）

コ：「全国植樹祭 おもてなし弁当検討会」（依頼元：全国植樹祭長野県実行委員会、指導教員：廣田直子、石原三妃、硲野佐也香、大森恵美）

サ：「6 次産業安曇野そばスイーツアイディアコンテスト支援」（依頼元：安曇野そばの郷振興委員会、指導教員：矢内和博）

シ：「わさびを使った商品アイディア提案」（依頼元：株式会社マル井、指導教員：矢内和博）

ス：「社員食堂ヘルシーメニュー提案」（依頼元：㈱サイベックコーポレーション、指導教員：廣田直子）

セ：「ポリ袋で料理を作ろうコーナー」（参加イベント：ものづくりフェア、指導教員：廣田直子）

ソ：「カフェ ポタジエ運営」（参加イベント：大学祭、指導教員：廣田直子）

タ：「一日限りのレストラン」（健康栄養学科主催の事業の運営支援）

チ：「エコクッキング料理集作成」（地域づくり考房「ゆめ」の活動支援）

③広報事業

ホームページ、学報「蒼穹」、キャンパスガイド等で、内外に当ステーションの活動内容等を紹介したほか、在学生へのオリエンテーションにて当ステーションの活動を紹介し学生の参加を促した。

また学外の講演会や研修会、イベント等において当ステーションの活動と具体的な取組みを発表した。

ア： 地域健康支援ステーションホームページのブログ記事の更新（随時）

イ：「蒼穹」第 119、120、121、122 号原稿執筆

ウ： 在学生オリエンテーション（3 月）

エ： 第 6 回松本大学地域貢献大賞選考会 （10 月） 学生委員長賞受賞

オ： 第 62 回日本栄養改善学会学術集会 示説発表 演題「管理栄養士養成課程の学生が実施した『健康弁当』提案の取組み～課外活動を通した学生の学びの実践報告～」（9 月）

カ： 松本地域産学官交流ネットワーク月例会学外連携取り組み事例発表「松本大学地域健康支援ステーションを通じた学外連携」（9 月） 主催：松本地域産学官連絡会

キ：「食を育むつどい」食育活動事例発表「学生と地域が連携する食育」（11 月）
主催：松本地域食を育む連絡会議、長野県松本保健福祉事務所

ク： 食育イベント 活動事例発表「愛ディアあふれる健康弁当の取り組みについて」（2 月）
主催：健康と食と農のつどい実行委員会

ケ： 卒後フォローアップ事業
卒業した学生を中心に健康知識の習得やキャリアアップをめざし、実施した。
卒業生フォローアップ研修会 特別講演「声は生きるエネルギーを高めるカギになる」 村松由美子氏

4）点検・評価の結果 ＜C＞

①健康づくり指導事業

ア：栄養面からの健康教育 イ：運動実践指導

地域からの依頼を受け入れた健康づくり指導事業は 32 件で受講者は延べ 2,531 名であった。

そのうち、学生の同行した事業は11件で延べ30名の学生が参加した。

ステーションスタッフが講師となって出向き指導したことにより、本学の専門的知識等を地域の資源として還元することができたと考えられる。

また、学生にとっては、現場に同行した活動においては健康教育におけるプロセス（ＰＤＣＡサイクル）を、実践的に学ぶことができ、学内で既習の内容を実際の教育現場で活用することで自身の専門知識の不足を知り、更に深く学び直す等省察につながった。また、学外に出て地域の人々と接する中で言葉づかいや態度等を学び、就職活動や就職後の就業にも活かされる経験となった。学生の同行が難しい講座では、事前に教育教材の作成補助など、教育現場を想定しながら健康教育の内容を企画立案する形で学生と連携する活動も行った。

指導の依頼主の中には、学生が関与することで講座全体に活気が生まれる相乗効果を期待されることもあるが、この観点においても概ね好評であった。

②啓発事業　メニュー開発

啓発事業とメニュー開発は17件の取組みを実施し、活動に参加したのべ315名の学生が、今までの学習の積み上げを実際の成果と結びつけることができた。

指導教員とステーションスタッフのコーディネートのもと、学生が主体となって活動した。メニュー開発については、アイディアを提案するものから、学生自身が実際に試作調理するもの、飲食業者に採択され商品化されるもの等、幅広い活動を展開することができた。実際に商品化された物として、松本山雅フットボールクラブのスタジアム飲食物は９品目で、販売日にはそれぞれ完売した。世界健康首都会議で販売した健康弁当は当日300食が完売、その後も業者が注文販売に応じており、その売り上げを始め話題の提供等大いに地域に貢献することができた。学生にとって、自分のアイディアが具体化され商品となって実際に購入していただくことによる達成感は大きいものであった。このような事例は、テレビ・ＦＭラジオ・新聞等に数多く取り上げられ、学生の活躍が広く知られることとなった。

③広報事業

ホームページへの訪問数は5,999であり、多くの方に当ステーションの活動を伝えることができた。学報「蒼穹」への原稿執筆は年4回あり、それに対応することで多くの読者に広報を行うことができた。

在学生へのオリエンテーションや掲示板にて学生の参加を促すと共に、学外の講演会や研修会、学会、イベント等において当ステーションの活動と具体的な取組みを発表し、健康づくり関係機関等にステーションの存在を広くアピールできた。

④卒後フォローアップ事業

在学時に登録した卒業生や在学生、地域の方々を対象にキャリアアップや専門知識習得をめざし、ＣＯＣ講演会と併催で行った。今年度は卒業生の参加は得られなかった。

４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

地域から当ステーションに依頼される件数は、口コミや広報により年々増加している。昨年来よりの課題であるが、限られた専任スタッフでは、すべての依頼に対応することが難しくなってきており、今後ステーションとして派遣できる人材の確保をどうするのか、地域の要望にどのように応えていくのかなどについて解決していく必要がある。

また、受託した事業への学生の参加者をできる限り増大させ、その活動を通じて人間健康学部として広い視野を持った学生の育成にも寄与したいと考えている。

①健康づくり指導事業

運動指導、栄養指導と個別に依頼されることがほとんどであるが、健康づくりには栄養と運動のバランスも重要な事柄である。そこで、地域の健康づくりを効果的に支援するために、管理栄養士スタッフと健康運動指導士スタッフが有機的に連携した活動を展開していく必要がある。そのため本年度は、定期的に開催される運動教室の受託事業において管理栄養士スタッフが運動教室の参加者に食と栄養の面から個別指導を試みた。今後においてもこうした連携により、人間健康の視点を意識した活動を充実させるとともに、栄養と運動の両面から地域活動をさらに推進したいと考えている。

②啓発事業　メニュー開発

啓発事業は、広く地域住民とふれあえる貴重な機会であり、大学のゼミナール活動や実習にも応用できる取り組みも多いため、さまざまな機会を捉えて学生にそのメリットを伝え、興味ある多くの学生が参加できるよう工夫していきたい。メニュー提案は専門知識の学習がまだ十分ではない低学年でも行いやすい取り組みであり、活動を通じて学年を超えた交流ができるという特徴を生かすことができるよう、学生への働きかけを工夫したいと考えている。

③広報事業

活動報告を記事としてまとめ、積極的にホームページや学報等に掲載していくとともに、内外へステーション活動のアピールについて機会を捉えて行っていく。

④卒後フォローアップ事業

人間健康学部の卒業生の資質の充実および向上を図るとともに、卒業生相互の交流の場として、有益となる事業（研修会等）を企画し、卒業後のネットワーク構築につなげていく。

＜執筆担当／地域健康支援ステーション運営委員会　委員長　廣田　直子＞

８. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会

本年度は、事務課長職が配置され充実した体制となる予定であったが、地域づくり考房『ゆめ』（以下『ゆめ』という）専任教員が退職し、学生と地域を実質的にコーディネート及び学生の教育的なサポートをする常駐スタッフが不在となった。運営委員は、学部各学科より教員１名、短大部１名（運営委員長）、事務職員３名にて運営した。このような体制変化に伴い、今年度は新たな活動を展開するより、現時点で活動している学生へ及び地域への支援に重点を置いた１年であった。

地域づくりコーディネーター養成講座については、第４期の実践講座が終了し地域からも参加者からも一定の評価を得ている。しかし学生の参加は少ないこと、学生にとっても魅力あるプログラム・到達目標の構築が難しいことから、次期募集を停止している。

１）平成 27 年度当初の事業計画 ＜Ｐ＞

地域づくり考房『ゆめ』の平成２７年度当初の計画は以下のとおりである。

① 学生の地域活動促進事業

② 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

③　『ゆめ』自主事業
④　『ゆめ』運営組織の整備
⑤　広報啓発事業

２）平成 27 年度事業報告 ＜Ｄ＞

①学生の地域活動促進事業

新入生の『ゆめ』への活動促進を図るため、ウェルカムパーティーにて活動紹介を行ったり、各プロジェクト等の活動を紹介する小冊子を配布したり、学生スタッフ及び各プロジェクトによる説明会「ゆめカフェ」を行った。また、1 年生の必修科目「地域社会と大学教育」において活動紹介を行い、活動への参加を促した。

今年度の『ゆめ』に対して地域からの年間受入れ件数は 59 件、そのうち学生の年間参加件数は 24 件あり、参加学生の延べ人数は 186 人となった。

②学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

ア：学生の自主企画

学生の自主企画による活動は、学生チャレンジ奨励制度対象プロジェクトが７チーム、対象外プロジェクトが２チーム、松本大学支援によるプロジェクトが１チーム稼働した。

イ：地域からの依頼による活動

行政や企業、自治会、NPO 等からの依頼を受けて学生が参加したイベントは24件あった。また、新村地区との関係も重視し、地域づくりセンターや公民館との情報交換を行い、新村地区運動会のお手伝いやオープン大会・新村文化祭への参加などにつながった。

③ 『ゆめ』自主事業

ア：平成 27 年度学生チャレンジ奨励制度と企画書作成指導

平成 27 年度の地域づくり学生チャレンジ奨励制度審査会は、継続的事業については３月（前年度）に行い、１年生などが加わることができる新規事業については、９月に行った。昨年までは９月応募はなかったが、今年度は後期に活動する２団体のプロジェクトを加えた。

プロジェクトについては、これまで『ゆめ』の専任教員が個別指導や活動の指導を行っていたが専任教員が不在となったため、運営委員が分担し活動の担当を決め、『ゆめ』の職員と協力して活動の指導や相談、会計指導・報告書作成指導などの支援を行うことで、奨励金の適切な運用を管理しつつ自主事業の支援を行った。また、3 月 16 日には、学生チャレンジ奨励制度の活動報告会を実施した。さらに、同日次年度の学生チャレンジ奨励制度の審査を行い、プロジェクトが認定された。

イ：コーディネーター養成講座

平成 26 年度からの継続事業として、第４期松本大学地域づくりコーディネーター養成講座を実施し、実践講座・審査会を行なった。講座開始時は１０名の受講者であったが、最終審査まで残り６名が認定された。しかし、学生は途中棄権となり準認定者は輩出されなかった。

④ 『ゆめ』運営組織の整備

専任職員３名（課長・パート２名）、学生スタッフ４名により、学生活動の相談・支援体制に加え、運営員５名が分担して各プロジェクトの補助的支援を行った。また、専任職

員が地域からのニーズの相談窓口となり、活動に関する情報の収集・整理、学生への活動紹介等行い、学生が地域活動をスムーズに展開できるよう支援した。

⑤広報啓発事業

学内外に向け、ウェブサイト（ゆめＨＰ）・学生ブログによる情報発信やゆめ通信による広報紙発行、蒼穹への活動記事掲載を行った。また、(株)アルピコの好意で設置していただいている北新松本大学駅前の掲示板を活用し学生や地域の駅利用者への情報発信を行った。新聞社各社にも記事として学生の活動が取り上げられた。月刊イクジイには、毎号活動を紹介し学生プロジェクトへの参加者を募った。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

①学生の地域活動促進事業

新入生の入学時のオリエンテーション、ゆめカフェ、ゆめ掲示板等による情報提供により、学生の地域活動への参加促進を行ったが、昨年度と比較して新規に活動する学生の獲得に繋がらなかった。専任教員が不在となったことで、ゆめカフェなどを運営する学生スタッフへの支援体制及び教育・指導体制が機能しなかったためである。

『ゆめ』の体制が変化した（専任教員不在となった）ことから、学生の地域活動促進のため、新村地区との関係再構築を目指した。大学と地域づくりセンター（新村公民館・福祉ひろば）との距離も近く、学生も参加しやすく『ゆめ』スタッフも情報交換し教育的な支援につながった。本年度は、新村地区と松本大学は「地域づくりに係る包括連携協定」を締結したことで、学生の地域活動への参加も期待された。

また、３月９日に行われた『ゆめ』活動報告会では、一緒に活動してきた地域の皆様にも参加いただき、情報交換や地域の人の思いを学生が直接受け止める機会となった。

② 考房『ゆめ』自主事業

平成 27 年度地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、平成 26 年度からの継続及び在学生の新規事業の募集を３月に行い、追加募集として１年生の企画も含めて９月に追加募集を行った。しかし、３月の募集は６件、９月の追加募集では２件であった。例年９月の募集は０件であったが、今年度は一時活動を中止してきたが就職活動などが終了したことをきっかけに後期から活動を再開したいといったプロジェクトもあり、９月の募集についても教職員の関わりによってニーズがあることが分かった。

第４期松本大学地域づくりコーディネーター養成講座は、昨年度からの継続により、社会人６名が認定となった。しかし、学生の参加は少なく、修了認定を受けるまでに途中棄権してしまうなど、学生にとっては難しいプログラムであった。学生と社会人が共に学べるプログラムの再構築が求められるため、第５期の募集は休止することとした。

③『ゆめ』運営組織の整備

学生が自主的に『ゆめ』を運営していけるようにするために、学生スタッフが中心となり、各プロジェクトの横の繋がりを知り、お互いに支え合っていけるような体制を目指した。昨年まで行っていた夏の研修会を、学生スタッフが中心となってプログラムを検討し「国立信州高遠青少年自然の家」にて合宿形式で行った。中間ではあるがこれまでの活動内容について報告集をまとめ、それぞれの団体によるプレゼンテーションやワールドカフェにより、後期からの『ゆめ』の活動を活発

にするための意見交換がされた。また、3月９日の活動報告会も学生スタッフが中心となり企画し、地域の皆様も参加できるような工夫をし、学生だけではなく地域の皆様にも活動を紹介する場を設けることができた。学生の企画力やプレゼンテーション能力、そして地域の人との交流を通して、地域のニーズを直接受け止めることができた。

④広報啓発事業

毎年４回発行してきた広報誌「ゆめ通信」については、本年度は職員体制の変化により、２回の発行とした。内容も学生が中心となって情報を発信できるようにするため、学生へ記事の作成を依頼し、教職員で内容の確認をした。分かりやすい広報誌を目指し、活動や本学の教育･学生支援活動への理解が深まり、学生と地域住民との円滑な連携を促すことができた。

４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

地域社会の創造と発展に寄与する人材を育成するために、『ゆめ』を拠点に、施設・人材の両面で拡充をはかり、支援体制の一層の充実・発展を目指して事業展開していく。

①学生の地域活動促進事業

・学生の地域活動の原点となる開設以来の地域受け入れ票については、学生の参加状況や活動内容の再確認を行い、学生のスムーズな地域活動への受け入れ体制を整えていく。学生が地域活動に興味を持っていただくような情報提示を模索する。

②学生と新村地域とのコーディネートの促進

・新村地区と松本大学は「地域づくりに係る包括連携協定」を締結したことで、学生の地域活動への参加も期待されている。学生も勉学と両立しやすい新村の活動に参加しやすいようにコーディネートを促進したい。また、新村地区も学生に参加だけではなく、学習の場となるように工夫する姿勢もあり、学生成長の場として期待したい。

③考房『ゆめ』自主事業

・地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、３月と９月年の２回の募集とすることで、既存プロジェクトは年度当初から事業展開をすすめ、未熟な自主企画についてはじっくりと時間をかけて企画から支援を展開していく。専任教員が確保できない場合は、本年度と同様に運営委員による補助的支援を行うこととなる。しかし、学生の活動の補助だけではなく、教育的支援や精神的サポートも重要であり専任教員の配置が望ましい。

④『ゆめ』運営組織の整備

・専任教員が不在のままでは、これまでのような学生への支援が展開できないことが分かってきた。専任教員にこだわるわけではないが『ゆめ』として、学生活動を支援し地域との関係調整を行うコーディネートスタッフが必要である。学生への教育的支援及び学内の組織及び教員との連携を図ることが求められる。

⑤広報啓発事業

・ホームページやブログ、掲示板での的確・迅速な情報発信を進める。また、活動の動画配信等学生の視点からの情報発信を進めていく。掲載する情報量を吟味し、分かりやすい紙面を工夫するなど、読み手に伝わるような工夫が求められている。

＜執筆担当／地域づくり考房『ゆめ』運営委員会　委員長　廣瀬　豊＞

Ｂ：学生支援部門

1. 学生委員会

(1) 全学学生委員会

平成 27 年度、全学学生委員会は各学部より選任された学部主任 3 名及び委員である教員 3 名（各学科より 1 名）、学生課長及び学生課職員 4 名によって構成され、計 12 回の全学学生委員会を開催して議論を重ねてきた。

1）計画 ＜Ｐ＞

学生委員会では正課教員と課外活動が大学教育の両輪であるとの認識のもと、これまでの積み上げを最大限に活用し、課外活動全体の活性化を図ってきた。こうした学生の活動の活性化に伴い、結果が出始め、学生からの要望も従来以上に多彩なものとなってきており、本委員会における課外活動への援助は重要なものと位置付けられるようになっていきている。特に新学部創設に伴う工事の関係で、体育館等が使用できない一年になることなど留意しながらの計画であったが、全学学生委員会では平成 27 年度の計画を以下のように立てた。

a）学友会活動の支援
b）クラブ活動の支援
c）学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み
d）その他（学生生活支援）

2）実績・現状 ＜Ｄ＞

①学友会活動の支援

本学には、短期大学部、総合経営学部及び人間健康学部の各学部に学生の自治組織である学友会が存在する。この各々による独自の活動に加えて、全学的な連携を図り、学生同士の横の繋がりを積極的に活動へと展開してきた。今年度、全学的に取り組まれた主な行事は以下のとおりである。

・3 学部合同新入生歓迎会（4 月 4 日）：新入生歓迎とクラブ・サークルの紹介等
・松本子どもまつり（5 月 3 日）：地域の子どもに記念手形づくり提供
・花火大会（7 月 14 日）：学内での花火大会
・松本ぼんぼん（8 月 1 日）：湘北短大学友会を招き松本大学連として参加
・大学祭（10 月 17 日 18 日）：テーマ「五臓六腑で騒ぎ出せ」
・学部合同体育大会（M カップ）（11 月 21 日）
・焼き芋大会（11 月 25 日）：短大中庭にて実施
・学友会主催クリスマスパーティー（12 月 17 日）
・学友会 3 学部合同リーダーズキャンプ（2 月 17 日）：3 学部学友会役員が来年度の活動を議論
・学友会新聞「Page.1」の発行（7 月・12 月）：豊富な学生の話題を提供

以上の行事を通して 3 学部学生間の交流が促進され、連携が強化された。

②クラブ活動の支援

・「松本大学課外活動団体運営要綱」に基づいて運営されている。その要綱に従い、クラブ等の部長については学長より毎年、委嘱されている。
・学生の自主的な活動であるクラブ活動におけるリーダー育成の観点から、従来通り、「松本大学ク

ラブ協議会リーダーズキャンプ」を今年度も開催した（8 月 21 日）。

・新規の同好会として、聖書研究同好会、松本地域研究会の設立を審議し、承認した。

・強化部・重点部の監督・コーチ等の選定・継続について必要性の検討、新規選考においては面接等を行った。また、学外指導者規程（内規）に基づき、学外指導者の更新を行った。

・スポーツ特待生の継続審査を行った。

・その他必要に応じてクラブ活動、競技において授業に差し支えない範囲での対応を本委員会でその都度協議した。

③学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み

a）学内マナー向上への取り組み

・キャンパスルールブックの内容の見直しを行い、新年度配布へ向け検討を行った。

・マナー向上、健康維持の観点から、禁煙への取り組みを強化した。健康安全センターの受動喫煙調査を参考に学生への取り組みを呼びかけた。喫煙場所、喫煙時間の縮小へ進む。

b）不正乗車撲滅に向けた取り組み

・本委員会において学生処分の検討、及び今後の抑止策について検討を行った。従来同様、不正乗車の撲滅に向けた大学としての姿勢を強く示すことを目的に、警告文の掲示、メールでの事前配信、オリエンテーション時での呼びかけ、キャンパスルールブックでの注意喚起等を行った。

・処分決定の起算日について、明確に申し合わせを行い対処した。処分については厳正かつ慎重に対応した。

④その他（学生生活支援）

・学生の修学支援に関連し、日本学生支援機構奨学金の貸与に際した面接や対応、及び経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査、面接を行った。

・経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度の運用に当たり、学生本人の自助努力の確認、利用後の効果性等、細部にわたり検討を数回行う。

・同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰に関わる機会が多いため、その都度、全学的に協力を求め、学生の活躍に敏感に対応するよう対処した。

３）点検･評価の結果 ＜C＞

①学友会活動の支援

・第 49 回梓乃森祭を中心に活発な学友会活動が展開されており、その後方支援を行う。特に予算管理について強化した。一部工事の関係で調整が必要であったため調整を合わせて行った。

②クラブ活動の支援

・新規同好会結成への働きかけ、及びリーダーズキャンプの研修内容充実化などより活性化しているクラブ活動に対して支援を行った。

・「松本大学課外活動団体運営要綱」に基づく運用で指導者の充実、責任の所在など明確になり適正な運用に寄与している。

・学生課の「松本大学課外活動団体運営要綱」に基づく年度更新業務が明確になった。

③学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み

・悪質な不正乗車が本年度発生した。件数は減少傾向にあるが、抜本的な改善には至っていない。

・学内マナー向上はみられるも、一部不当なマナー行為が見られる。徹底した対処が必要である。

④その他（学生生活支援）

・今年度は、「日本学生支援機構奨学金」「経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度」について、利用率やその推移、全国比較等、データの分析を委員会にて行った。そのことによって学生の動向（実態）を適正に把握することに努めた。

・各種学生表彰について、運動系の学生の活躍が目立つことを評価した。また文化系の実績について積極的に情報収集行った。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

①学友会活動の支援

・従来同様、正課教育と課外活動が大学教育の両輪であるとの共通認識の基、より多くの学生に学友会活動や行事への参加を促していく。

・3 学部共通して、学友会活動が学生の自主的、かつ主体的な活動となりつつあり、積極的な支援を継続していく。

・予算管理や活動内容等、より精度の高い学友活動を求めていく。

②クラブ活動の支援

・クラブ・同好会の設立、運営等の対し支援を積極的に行い、活動の活発化に寄与する。

・リーダー研修会等を通じ、学生が成長する機会を継続して設ける。

・「松本大学課外活動団体運営要綱」及び「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」を基に、責任の所在を明確にし、より活動に専念できる環境整備を今後も検討していく。

③学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み

・日々の生活の中から、適正な学生への注意喚起を働きかけていく。

・不正乗車撲滅については、安易な厳罰化に配慮しつつ、発生件数 0 件を目指す。許されない社会的マナーの理解を学生に求めていく。

④その他（学生生活支援）

・既存の制度や各種表彰の運営上の充実を図る。特に学生支援の観点から、その必要性を常に念頭に置いて検討を重ねることとする。

・学生の健康に留意しつつ、それに必要な取り組みは積極的に行う。

＜執筆担当／全学学生委員会 委員長　尻無浜　博幸＞

（２）総合経営学部学生委員会

総合経営学部の学生委員会は、全学学生委員会の下部組織に位置付けられ、全学学生委員でもある主任１名と学部委員５名の計６名と学生課の職員によって構成されている。学部単独の会議は２回開催した。

1）当初の計画 ＜P＞

学部部会においては、平成 27 年度において以下のような計画を立てた。

① 不正乗車の撲滅とその厳正な対処

② 学部学友会の組織強化と事業の実施

③ 学内でのマナー徹底

2）現状の説明 ＜D＞

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

全学委員会と関連する議案として、本学部に関与する不正乗車は、今年度は 1 件発生した。対処過程を掌握した上で学部において共有した。その他盗難事件等は起きていない。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

学部学友会が主催する行事は多くありその活動ぶりは充実している。両学科の学生が平均的に学友会の執行部に加わり盛り上げている。大学祭に発表する「地域貢献大賞」があるが、普段の学部の活動を丁寧に精査しその賞へのエントリーを学部的に試みた。平成 27 年度卒業生向けに卒業文集が昨年度に引き続き作成され、式当日配布された。

③学内でのマナー徹底

全学的な取り組みに関連して、学部においてもより丁寧に共有し学内マナー向上に取り組んだ。特に男子学生が多いことから、喫煙マナーについては、本質的なアプローチを行った。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

不正乗車が起きたことから、不正乗車が発生しそうな時期を想定して注意喚起を行ったことは一定の効果があったと思われる。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

「地域貢献大賞」へのエントリーを促す試みが奏効し、発表へと繋がった。また、学友会が企画する事業への学生参加は確実に増え、一定の評価はできる。また新しい活動、例えば、選挙啓発活動など実施することができた。

③学内でのマナー徹底

マナー違反の学生に対しては、その都度指導を徹底することとした。また、必要に応じて掲示板等で働きかけた結果、マナー向上の文化を多少なりとも作りあげることが出来た。

4）成果と今後の改善点 ＜A＞

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

学生への注意喚起を継続して行う。また盗難事件等発生の場合は、社会的責任を果たすべく対処を厳正に行う。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

活動が安定してくると活動が内向きになる傾向になるため、事業内容の見直しによってその充実を図っていく。3 学部共通のバランスを引き続き保っていく。

③学内でのマナー徹底

全学的な取り組みの中で、学部でできる教員の協力、意識の統一を図っていく。マナー向上とは日常性のもので、その都度対応できる体制、取り組みを心がける。

＜執筆担当／学生委員会　総合経営学部主任　尻無浜　博幸＞

（3）人間健康学部学生委員会

平成 27 年度、人間健康学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員 4 名、学生課長および学部担当の学生課職員 1 名によって構成され、議論を重ねてきた。

1）計画 ＜P＞

学部部会においても、全学と同様、学友会活動やクラブ活動等の課外活動の活性化、及び、より快適な学生生活への支援を目的とし、平成27年度当初の計画を以下のように立てた。

①学友会活動の支援

②その他（主に学生への生活支援）

2）実績・現状 ＜D＞

①学友会活動の支援

・人間健康学部の学友会は、執行部、学祭局、体育局、渉外局、及び報道局により構成されており、各局員が各クラスより選出されている。

・人間健康学部学友会が独自に行った行事は、フレッシュマン・フェスティバル、学生大会、体育大会（K-1）及び卒業文集の発刊であった。

・上記に加え、他学部の学友会と協同で行ったものは、ウェルカム・パーティー、まつもと子どもまつり、総合経営学部・人間健康学部合同体育大会、花火大会、松本ぼんぼん（湘北短期大学との交流会含む）、大学祭「第49回梓乃森祭」、3学部交流会、学友会主催スノーボード教室、学友会学内放送、及びフリーペーパーの発刊、であった。

②その他（主に学生への生活支援）

・交通防犯講話を実施した。

・人間健康学部では21年度より、在学生全員が大学生協の「学生総合共済」に必ず加入することになっている。今年度も必要に応じて、加入者の確認や未加入者への呼びかけを行った。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①学友会活動の支援

・学部の枠を超えた学友会活動が活発に展開され、その支援を行った。

②その他

・各学部で計画した行事にも、積極的に他学部の学友会執行部が積極的に運営に協力した。

・総合経営学部の学生傷害保険に関しては、傷害保険の掛け金が学納金に含まれれたため、全員が加入対象となった。（ただし、休学者は除く）

4）次年度へ向けた改善・改革に向けた方策　＜A＞

①学友会活動の支援

・昨年度に引き続き、学友会活動が学生の自主的で主体的な活動となってきており、より積極的な支援を行っていきたい。

②その他（主に学生への生活支援）

・学生の状況を把握した上で、交通防犯講話等も継続して実施していく。

・本学部では、在学生全員に学生総合共済（又は同等の保険）への加入を義務づけており、来年度以降も必要に応じて加入者の確認や未加入者への呼びかけを行っていく。

・学部としても、様々な機会を通じて不正乗車の撲滅に向けた取り組みを行っていく。

・禁煙および喫煙マナー（喫煙可能時間の厳守や歩きタバコやポイ捨て）の指導を継続して行っていく。

＜執筆担当／学生委員会　人間健康学部主任　呉　泰雄＞

（４）松商短期大学部学生委員会

１） 年度当初の予定 ＜Ｐ＞

松商短期大学部学生委員会の平成 27 年当初の計画は以下の通りであった。

① 学生の自主活動の支援

② 学生生活における健康・安全

③ ルール・マナーの教育

２）現状の説明 ＜Ｄ＞

①学生の自主活動の支援

ｉ）学友会活動の支援

松商短期大学部の学友会は 40 名で構成される常任委員会がリーダーとなって以下のようなイベントを行った。

a）松商短期大学部学友会単独で行ったイベント

・新入生歓迎会（4 月 4 日）…短大生対象の新入生歓迎会

・夏の体育大会（7 月 3 日）…やまびこドームにおいて開催

・湘北短大リーダーズキャンプ参加（8 月 20 日、21 日）…湘北短大学内：短大生 17 名、教職員 2 名が参加

・秋の体育大会（11 月 10 日）…信州スカイパーク体育館において開催

・学友会常任委員改選（11 月～12 月）…選挙および互選により決定

・代議員会から学長へ生活改善要望書提出（12 月 4 日）…1 月 7 日に学長より回答を受け取る。

・湘北短大との交流会（12 月 5 日）…本学で松商短期大学部学生 56 名、湘北短期大学 58 名が参加し、学友会交流、スポーツ交流が行われた。

・次期学友会リーダーズキャンプ（12 月 23 日）…学友会役員と次期役員が集まり、次年度活動の構想などを相談

・「学友」の発行（3 月）…教職員や学生が寄稿

b）松本大学総合経営学部学友会及び人間健康学部学友会と合同で行ったイベント

・3 学部合同新入生歓迎会（4 月 4 日）…主としてクラブ・サークルの紹介

・松本子どもまつり（5 月 3 日）…地域の子どもを対象とした記念手形づくり

・花火大会（7 月 14 日）…学内での花火大会

・松本ぼんぼん（8 月 1 日）…松本大学連として参加

・大学祭（10 月 17 日、18 日）…テーマは「五臓六腑で騒ぎ出せ！！」

・ハロウィンパーティー（10 月 30 日）

・焼き芋大会（11 月 25 日）…短大側中庭にて実施

・学友会主催クリスマスパーティー（12 月 17 日）

・クラブ協議会＆サークル連合リーダーズキャンプ（2 月 15 日）

・学部・短大合同スノーボード教室（2 月 16 日）…大町市爺ヶ岳スキー場にて開催

・学友会 3 学部合同リーダーズキャンプ（2 月 17 日）…3 学部学友会役員が来年度活動について議論

・学友会新聞「Page. 1」の作成（7 月、12 月）

・学友会ブログの運営（通年）

ⅱ）サークル活動の支援

平成 27 年度の短大部のサークルは以下の通りであった。

・男子バスケットボール　・女子バスケットボール　・女子バレーボール　・フットサル

・ファッション

なお、大学部クラブ協議会に属する団体に短期大学生が所属する場合は、その団体に対して予算から分担金を拠出した。

本学および後援会の支援を受けて参加した大会は以下の通りである。

・全国私立短期大学体育大会（8 月 3－6 日）

・長野県私立短期大学体育大会（9 月 11 日）

前者には女子バスケットボール部、女子バレーボール部、女子ソフトテニス部、男女卓球部、男女バドミントン部の計 31 名が参加した。女子ソフトテニス団体第 3 位、男子卓球ダブルス第 3 位、シングルス第 3 位、男子バドミントンシングルス第 3 位という素晴らしい結果を収めた。後者は、本年度は上田女子短期大学が主幹大学となり行われた。女子バスケットボール部、女子バレーボール部、女子バドミントン部の計 30 名が参加し、女子バスケットボール部、女子バドミントン部が優勝という素晴らしい成績を収めた。

ⅲ）他者理解、自己研さんのきっかけ及び場の提供

昨年度同様学生が他者との関わりを通して、能動的で責任感や自覚のある活動をすることができるよう指導するため、以下のような研修会、イベントを行った。なお、リーダー研修会については本年度は成果をよりゼミ活動に活かすことができるように、リーダー研修会で学んだことを、それぞれがゼミに持ち帰り、ゼミでフィードバックを行うようにした。

・リーダー研修会（9 月 15 日、16 日）……昨年度同様 1 日目をうみてらす名立（新潟県上越市）、2 日目をラボランド黒姫（長野県信濃町）で実施した。

・ウェルカムフェアでの学生スタッフ起用（3 月 12 日）

……本年度は各ゼミのボランティアで、定員数以上の応募があった。

②学生生活における健康・安全

学生の健康は健康安全センターが担当し、心理面では嘱託非常勤のカウンセラーもおり、さらに 24 時間電話対応の外部業者による健康相談も利用した。また、1 年生に対しては本学保健師作成による資料を使って、各ゼミで禁煙講習も行った。

交通安全および防犯についての講習は入学後のオリエンテーションの中で松本警察署から講師を派遣して頂き、実施した。

③ルール・マナーの教育

ルールやマナーは入学直後の 1 年生オリエンテーション内で「松本大学キャンパスルールブック」を用いて伝えた。また、電車の不正乗車については後期オリエンテーションや進級オリエンテーションの中で厳重に注意を与えた。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①学生の自主活動の支援

本年度も学友会は常任委員長を中心に各局との連絡を密にして活動した。学生委員会はできる限

り学生の自主活動を促す方向で支援した。

本年度、学生委員会の重点目標のひとつにサークル活動の支援を掲げた。スポーツ系のサークルは大会などで昨年以上の好成績をあげ、文化系サークルも大学祭などで日頃の活動の成果を発表できた。また本年度も夏期、冬季に短期研修、交換留学生の受け入れがあり、学友会に加えて国際交流クラブ、茶道部、ラート部などに留学生と交流する場を提供し、自主活動の支援を行った。しかしながら、男子学生数の少なさに加え、サークル加入数に偏りがあり、全国、県レベルの大会に出場できない部が昨年以上増加するという結果となってしまった。本年度、サークル活動の支援を強調したにもかかわらず、サークル活動参加の促すシステムの構築には至らなかったことが反省点である。

もうひとつの重点目標であるゼミ担当教員との連携については、まず、ゼミ長、副ゼミ長とゼミ担当教員とのリーダーに関する共通理解を促すことを試みた。リーダー研修会においてゼミ長・副ゼミ長自身が学んだことを各ゼミに持ち帰りフィードバックを行うようにした。ゼミ担当教員にも協力を仰いだが、その成果を、フォロー、検証できなかった。ゼミ教員との連携は大学祭開催においては改善がみられた。大学祭では準備について例年各ゼミへの情報伝達に問題があったが、ゼミ長、副ゼミ長を通して諸連絡を行うことで、ゼミ担当教員、ゼミ員に確実に情報が伝わるようにした。

新入生への時間割づくりのアドバイザーなどを経験できる貴重な場の提供については、本年度はボランティアの学生がほぼ定員に達したが、ゼミにより人数の偏りが著しかった。授業のアドバイスという仕事内容を考えると、興味の多様性に配慮すべきで、ゼミの偏りの是正が必要だと思われる。

②学生生活における健康・安全

学生の健康や安全については一定の対策ができていると思われる。

禁煙については、昨年に引き続き、喫煙時間を制限し、さらに喫煙の健康被害について周知した。

③ルール・マナーの教育

たばこのポイ捨てが著しく減少したという報告があがっており、喫煙のマナーは向上したと思われる。

電車の不正乗車に関しては、本年度も１件発生したのが悔やまれる。学生課、学生委員会が対応し、規則に照らして罰則を与えた。上高地線の一部に改札がないという構造上の問題もあり、アルピコ側へも改善を求めた。

また、学祭時に本学の学生の不正駐車もあり、近隣の住民の方にご迷惑をかけてしまった。行事におけるマナーの教育も怠らないようにしたい。

４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

①学生の自主活動の支援

学友会活動の支援（ゼミ担当教員との連携）、サークル活動の支援（サークル加入者数の増加を目指して）、他者理解、自己研さんのきっかけ及び場の提供（ゼミ担当教員との連携）

②学生生活における健康・安全

相談・交通安全・禁煙への取り組み

③ルール・マナーの教育

不正乗車に対する注意喚起

喫煙マナーの徹底

行事等開催に当たってのマナー教育

＜執筆担当／学生委員会　短期大学部主任　中村　純子＞

２．就職委員会

(1) 全学就職委員会

全学就職委員会は、平成 24 年度より新設された委員会であり、平成 27 度で 4 年目の活動となる。3 学部の就職委員会の主任及び大学院研究科の委員、及び事務局としてキャリアセンター職員が参加して構成され、委員長には平成 24 年度から継続して短大部就職委員の藤波が就いた。本委員会の目的は、各学部及び大学院研究科で共同して行う就職支援活動の調整にある。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

全学就職委員会としては各部及び大学院研究科の就職支援活動についてその特色、すなわち文系 4 大、理系 4 大及び大学院、そして短大があることを勘案し、具体的な計画は各部に一任することとした。

但し、各学部共通のスタンスとして、内定率の維持、就職環境の好転を受けた量と質の充実、多様化する学生への就職支援の充実を目指すこととした。

共同で行う就職支援としては、就職活動の後ろ倒しに伴い、平成 27 年度は、学内合同企業説明会は、4 月、10 月、3 月の開催を計画した。

また、キャリア面談は、新入生、大学部 2 年生、短大部 1 年生、大学部 3 年生、全学部の卒業年度未内定者について、年間 4 回ないし 5 回実施することとした。また、個別企業説明会の回数は増加を目指すこととした。

そして、証明書の自動発行を平成 27 年 3 月の開始に引き続き、継続して実施することとしたが、その申請書については 1 週間以内にキャリアセンターに学生から提出を求め、学生への就職支援の充実を目指すこととした。

また、平成 25 年度から始めた全学合同の業界研究会は平成 27 年度も継続することとした。

なお、就職先の開拓として、キャリアセンターにおいて①就労環境への配慮が出来ている企業、中小企業（総合経営学部）、②県外企業や優良企業（人間健康学部）、③地元に根付いた中小企業等（短大部）を開拓することを目指すことは従来通りとした。

更に、キャリアセンターの閉館時間を、昨年度同様、5 月 7 日から 7 月 24 日まで、17 時から 18 時に延長することとした。

２）現状の説明 ＜Ｄ＞

全学が共同で行う学内合同企業説明会については、かつては、就職活動開始直後の 12 月は大企業を中心とし、2 回目以降の 3 月､6 月は地域の企業中心に行うことが例年の内容となっていた。

この開催については、大企業は採用計画が早期に設定され、採用活動への取組も早いこと、また、地域の企業は大企業の後に採用活動を活発化させる傾向があることを踏まえた結果となっている。し

かし、平成27年度は就職活動スケジュールの後ろ倒しに伴い、第1回目を4月に行い、予定した10月については9月に変更し、3月は翌年度の4月開催を前倒しして2回開催した。

キャリア面談については、引き続き、その多くを県内人材にシフトして実施した。また、そのキャリア相談の情報はメソフィアに入力されてゼミナール担当教員が閲覧できることとなっていたが、就職活動支援で個々の学生の個性に合せた指導が目指された。

キャリアセンターの企業開拓は調査役を中心に県内全域を、県外企業は課長以下の職員によって出張等を含めた活動を行った。

3）点検・評価の結果　＜C＞

9月に実施した学内合同企業説明については学生の参加者数が少なかったため、来年度は開催時期の変更が必要と考えられるが、これは売り手市場の状況において約8割の企業が8月より前に面接を開始したことに対応するものである。

3月に開催した次年度卒業生対象の2回の合同企業説明会は盛況であり、就職環境の好転を反映していた。今年度は業界研究会を11月から1月にかけて11回行なう予定であったが、セイコーエプソン社等を追加し、合計15回実施した。その参加合計人数は943名であり、昨年度の11回合計1、005名と比較し、実施回数は増えた一方で、参加人数は減少する結果となった。

キャリア面談員については、県内の面談員を新規に3名追加採用することになり、平成28年度の登録者は24名となった。その結果、県内の面談員比率は66.7%（平成27年度）から79.2%（平成28年度）と、さらに高まる見通しとなった。

キャリアセンターの企業開拓についても少ない人員の中で相応の成果を上げているが、学生の一部に就職活動が低調な者もいることから学内の個別企業説明会の効果的な実施を目指している。平成27年度の実績は前年比10社減の42社となったが、これによる内定者数は前年比6名増の62名であった。

なお、平成27年度は499件の企業訪問が行われた。

また、証明書自動発行については就職関係書類申請書のキャリアセンターへの事後提出は概ね良好であった。

更に、キャリアセンターの閉館時間は、5月7日から7月24日まで、17時から18時に延長された。しかし、学生のニーズは高いとは言えなかった。

4）次年度に向けた対応 ＜A＞

平成28年度は就職活動において、試験解禁日が8月1日から6月1日と若干の前倒しとなったが、全学就職委員会としては各部及び大学院研究科の就職支援活動についてその特色、すなわち文系4大、理系4大及び大学院、そして短大があることを勘案し、従来通り、具体的な計画は各部に一任することとした。

なお、就職関係書類は機械発行となっているが、昨年度と同様、その申請書については、1週間以内にキャリアセンターに学生から提出を求め、学生の就職活動の状況把握に努めることとする。

各学部共同で行う就職支援としては、6月と、3月に2回行う合計3回の学内合同企業説明会があるが、体育館での授業と兼ね合いも考え、土曜日開催も含めて適切に開催する。また、個別企業説明会の回数は増加を目指す。

そして、平成25年度から始めた全学合同の業界研究会は平成28年度も継続する。

就職先の開拓としては、大学・短大合わせて毎年500名前後の学生が就職する実情を踏まえ、企業訪問・企業開拓に関しては毎年定期採用を行っている企業、また就職実績のある企業との信頼関係構築に主眼を置く。それによって採用情報収集のほか、学生の就職活動状況の把握と支援、学内企業説明会のほか各種就職関連行事への協力依頼を併せて行うこととする。

また、キャリアセンターの利用状況が高まっていること、及び各学部によってゼミの状況が異なることを勘案、可能な範囲でゼミ担当教員による添削等の協力を得る方策について検討すると同時に契約制キャリア面談員の配置等も含めてキャリアセンターの人員増について検討する。

＜執筆担当／全学就職委員会　委員長　藤波　大三郎＞

（２）総合経営学部就職委員会

総合経営学部就職委員会は本学部の教員7名(総合経営学科3名、観光ホスピタリティ学科4名)とキャリアセンターの事務職員で構成され、全学就職委員会のメンバーとしては、成と八木が参加している。本委員会活動の主な目的は、本学部の就活生への就職活動支援である。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

平成27年度総合経営学部就職委員会の重点課題は、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上」であった。それを実現するための具体的な業務改善計画は、次の通りである。

〔計画1〕引き続き、2・3年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」(従来のキャリアカウンセリング)、夏期就職合宿、保護者就職説明会等については実施の有無から再検討を行っていく。

〔計画2〕本学部就職委員会では、学部の特色をふまえ、公務員（警察・消防・役所など）への就職試験対策を強化していく。委員会内に専門の担当教員を配置し、より具体的な就職支援体制を構築していく。引き続き次年度も、10名以上の公務員の輩出を目指していきたい。

〔計画3〕ゼミ担当教員との密接なコミュニケーションによって4年生の状況と動向等をより細かく把握する。ゼミ担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、受け持っている就活生に何らかの進捗が見られた場合には、教職員と学生の間で速やかに連絡が取れる体制を構築していく。

〔計画4〕学部全体の就職支援体制の構築、とりわけ学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。たとえば、就職活動関連の諸行事に、就職委員のみならず、他の教員も積極的に参加するよう依頼・誘導をしていく。

２）現状の説明 ＜Ｄ＞

上記の当初の計画に対する主な改善の実施状況は、次のとおりである。

〔計画1〕に対しては、3年生に集中している就職関連諸行事の開催について、根本的な見直しがせまられている時期にきていると認識している。とくに、キャリアセンターの事務職員においては、3年生対象の就職関連諸行事に多くの時間と労力が割かれ、実際に就職活動を行っていて、マンパワー的にもよりきめ細かなケアが必要な4年生に対する支援が疎かになるおそれもある。そして、各々の行事に対し、従来開催してきたから開催するという認識ではなく、より効率的に就職率を向上させるという重点課題に照らし合わせ、精査していくべきであろう。しかしながら、ほとんどの行事はその開催の必要性と成果面から本年度も開催されることになった。このような行事の開催の

有無に対する議論は本学部就職委員会だけでは限界があり、引き続き、全学就職委員会にて議論・検討を重ねていくべきである。

〔計画 2〕に対しては、委員会内に専門の担当教員をおき、公務員志望の就活生への積極的な支援を行っている。たとえば、担当教員が公務員試験対策の講座を週 1 回開設し、試験対策のきめ細かな支援を重ねてきている。しかしながら、公務員試験には一般企業への就職活動とはその性格が少し異なり、とくに科目筆記試験に重点があり、本学部におけるこれまでの対策だけでは高いハードルになっているのも現状である。結果として、4 名の就活生が公務員職に就き、今後、10 名という目標を達成するために一層、工夫を重ねて行きたい。

〔計画 3〕に対しては、ゼミ担当教員から月に 1 回、定期的に就活生の状況を把握し、就職活動進捗状況確認シートを送付していただいている。このシートに基づき、委員会として就活生一人ひとりに対するきめ細かな就職支援の基礎資料として大いに活用している。また、日頃よりゼミ生の状況変動に対する情報を逐次共有している。

〔計画 4〕に対しては、全学就職委員会を中心に、大学全体としてのサポート体制のひとつである「キャリア面談」のあり方について見直しが進められた。また、キャリア面談員に対しても県外の比率を減らし、新たに県内から 3 名を採用することになり、県内の比率を高めた。そして、他の委員会と連携については、今後も継続的な取り組みが必要不可欠である。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

平成 27 年度には、当初の計画に沿う形で、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上」を強力に進めてきた。たとえば、前述したとおり、キャリア関連科目、就職合宿、そして 3、4 年生のための各種就職講座など多様なチャネルをつうじて、就職率の向上に努めてきた。こうした取り組みの効果が目に見える形で現れたと思っている。しかしながら、就職活動というのはあくまでも学生の自主活動であることなどから、学生自身が大学卒業後のキャリアを真摯に考えることこそ、就職実績向上への近道と考え、今後もさまざまな創意工夫を重ねて最大限支援していきたいと思っている。各種就職関連行事について、学生への積極的な告知などにより、前年度と比べて参加状況も大きく改善しつつある。

なお、今年度は全学就職委員会において「キャリア面談」のあり方について議論を進めているが、今後は他の委員会とも連携を深めながら、「大学全体としてのサポート体制の検討」を進めていくことが重要になってくるものと思われる。しかしながら、次年度以降も対処すべき課題は少なくない。

なお、平成 27 年度の総合経営学部 4 年次生（3 月卒業生）の就職状況（下記の表を参照）については、就職率が 96.4%となった。これを学科別に見ると、総合経営学科（就職希望者 89 名、就職内定者 89 名）が 100.0%、観光ホスピタリティ学科（就職希望者 65 名、就職内定者 64 名）が 98.5%であった。つまり就職希望者 154 名の中で 1 人だけが就職できなかったことを意味する。これは下記の表でもわかるように平成 21 年度から見ると、最も高い就職率を達成していることになる。今後、地域経済の動向を見極め、地域企業のさまざまなニーズに積極的に応えられるような体制と活動を行っていき、このレベルの就職率を維持していくことが重要である。

総合経営学部 4 年次生（卒業生）の就職率の推移

年　度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
就職率（%）	89.3	90.0	92.9	94.5	93.2	96.5	99.4

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

次年度においては、大学全体の委員会構成の中で、キャリア教育と就職支援（企業開拓）の 2 つの役割分担を明確することとなった。しかしながら、実際の委員会の活動の中では、上記の役割分担が明確には実施されていないのも現状である。その故、就職委員会は就職支援（企業開拓）に特化する移行期である点を踏まえ、キャリア教育の側面を教務委員会等に段階的にシフトさせながら、実際に就職活動を行っている学生一人ひとりに集中し、「きめ細かな就職支援体制を構築することで、就職率の大幅な向上と維持等」を目指していきたい。そのために、以下のような改善・改革に向けた方策を引き続き取っていくこととする。

〔方策 1〕2・3 年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）、夏期就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナー、保護者就職説明会等について再検討を行っていく。

〔方策 2〕本学部就職委員会では、学部の特色をふまえ、公務員（警察・消防・役所など）への就職試験対策を強化していく。委員会内に専門の担当教員を配置し、より具体的な就職支援体制を構築していく。引き続き次年度も、大変厳しいとは思いつつ、10 名以上の公務員の輩出を目指していきたい。

〔方策 3〕クラス担当教員との密接なコミュニケーションによって 4 年生の状況と動向等をより細かく把握する。クラス担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、受け持っている就活生に何らかの進捗が見られた場合には、教職員と学生の間で速やかに連絡が取れる体制を構築していく。とくに、このキャリア形成のクラス制は就職支援を目的に新たに作られた体制で、従来の専門ゼミとは異なり、就活生へのよりきめ細かな支援が可能になると思う。この体制はできる限り長く続けていきたい。

〔方策 4〕引き続き、上記のキャリア形成クラス担当のみではなく、学部全体の就職支援体制の構築、とりわけ学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。たとえば、就職活動関連の諸行事に、就職委員のみならず、他の教員も積極的に参加するよう依頼・誘導をしていく。

＜執筆担当／就職委員会　総合経営学部主任　成　耆政＞

（３）人間健康学部就職委員会

1）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

本年度も前年度と同様に、就職内定時期の早期化を目指し、可能な限り早い段階から就職活動を進められるよう、就職活動の心構えを持たせるような講義や各種希望制講座を計画した。

その理由は、学科により異なっているが以下の通りであった。

健康栄養学科においては早期に就職活動を終了し、国家試験のための勉強時間を確保することと、優良企業への内定を決定させることであった。比較的遅い時期に募集、選考が行われる病院直営管理栄養士や公務員の希望者とその他の学生に分け、後者に対しては、早期に選考が始まる給食委託会社や食品関連企業への就職を勧めた。

スポーツ健康学科においては、最終的に一般企業への就職を決める比率が非常に高い中、就職活動解禁直後の優良企業の求人が多く出る時期に就職活動を積極的に行う者が少ないことが過年度の動向

からも明らかであった。しかし、企業側から人物評価で好印象を受けるケースが多いことから、より多くの求人がある時期に学生自身に企業を選択する就職活動を経験させ、より良い採用につなげるためであった。

平成27年度は採用選考開始が8月1日に繰り下げられたが、実際に解禁日以降に採用選考を始めたのは経団連加盟の大手企業で、本学学生の多くが応募する県内企業は春先より採用活動を始めていた。このような背景から、4年生への支援のみならず、現3年生（健康栄養学科、スポーツ健康学科）187名が就職活動解禁直後からスムーズに就職活動が行えるよう、就職委員会活動・就職指導体制をより強化・活性化することを目指した。

2）実績・現状 ＜D＞

①2年生に対しての就職支援

A：キャリア面談

大学入学後から約1年経過した、5～6月に一年間の自己振り返りと、今後の目標設定を定めるためのキャリア面談を実施した。健康栄養学科 98.4%、スポーツ健康学科 99.0%と高い参加率を維持した。大学生活において、学業面、課外活動面においても自由度の高い時間が使える大学2年次の過ごし方を無駄にしない指導に力を注いだ。

B：後期必修講義「キャリアデザインⅠ」

後期の「キャリアデザインⅠ」を通して、働くことの理解と社会人になるために必要な力について理解を深めた。学科別に、様々な分野で働く卒業生をお招きし、新卒1年目のグループと、社会人3年目以上となる先輩方のグループのお話を分けて聞かせていただいた。その中では、様々な仕事、職種の理解とともに、社会人になっても成長をし続ける先輩方の姿を意識させた。この他、自己理解、企業講演等も実施し、3年次の就職活動準備に繋げるものとなった。さらに、時事問題を苦手とする学生が多いことの理由として、新聞を読まないことが要因としてあったため、新聞の読み方についても外部講師の講義を行った。

②3年生に対しての就職支援

A：前期必須講義「キャリアデザインⅡ」

前期の「キャリアデザインⅡ」において「就職」に対する意識向上を促し、先輩たちの実績やデータから目標とする就職活動の流れを確認させる内容とした。学生の強み、弱み、特性を知るため、適性検査として PROG 検査を実施した。その結果のフィードバックは学生本人に返却し、今後の活動に活かすとともに、就職委員ならびにキャリアセンター職員にも学部学科別特性、傾向について説明を受け、指導に活用した。

B：後期「就職支援ガイダンス」

後期の「就職支援ガイダンス」は単位科目ではないことから、出席率の低下が心配された。そのため、具体的な就職活動準備の提示、事例紹介、情報提供を行うとともに、ゼミナール担当からも参加を促すことに力を入れた。また前期からの繋がりを意識させ、本科目で情報を得ることの大切さも伝えるよう努力した。

C：各種希望制講座の実施と参加強化

過年度同様、夏季就職合宿、12月、2月の学内対策講座、メイクアップ講座、企業業界研究勉強会等、様々な支援講座を企画、実施した。これら希望制講座の参加率向上を目指すため、学科会議

において各学生のこれまでの参加状況をゼミ担当にも知ってもらい、動きの鈍い学生のゼミナール経由での指導を強化した。特に、スポーツ健康学科においては合宿、12 月、2 月の学内対策講座のどれかに必ず 1 回は参加するよう、指導体制を強化した。さらに、企業業界研究勉強会へのスポーツ健康学科生の参加人数が極端に少ないのは、一般企業への就職を希望する学生は、実際に就職活動を始めるまで希望業界を定めにくいことが要因の一つと考えられたため、参加企業における各学部・各学科の採用実績を配布資料に記載した。

D：キャリア面談

就職活動解禁が 3 月に迫った 2 月の後期試験終了後にキャリア面談を実施し、参加率は健康栄養学科 98.9%、スポーツ健康学科 96.8%と高い参加率であった。

④ 4 年生に対しての就職支援

A：ゼミ担当による就職活動状況調査の徹底

毎月 1 回、ゼミ別に就職活動状況を確認し表にまとめてキャリアセンターに報告を行った。これは、ゼミ生同士の情報交換やゼミ担当教員の状況把握とリアルタイムな指導にも繋がり、動きの鈍い学生の就職活動を促すことにつながった。

B：キャリアセンターとの連携

ゼミ担当からの報告を受け、キャリアセンターでの企業マッチングや学生指導に注力した。また、学生自身がキャリアセンターを活用する方向に導くようゼミ担当が指導を行った。また、履歴書添削は従来のようにキャリアセンターでの添削に加え、それぞれの学生の人となりを知ったゼミ担当が関わる事でより一層ブラッシュアップされたと考えられる。

C：キャリアセンタースタッフのゼミ訪問

後期以降は、ゼミ終了時間を利用し、未内定者に対してキャリアセンタースタッフが訪問し個別面談を行った。学生の活動状況から提案できる求人を案内するなど、実際の活動に結びつける指導が行われた。

D：未内定者対象の「キャリア面談」の義務化

未内定者向けのキャリア面談については、平成 26 年度からその時点の進路未決定者に対して全員必須で面談を受けるよう指導していたが、本年度もこれを踏襲した。また、キャリア面談実施にあたっては、面談内容に応じて、具体的な指導、企業選定、企業マッチングが必要な学生はそのままキャリアセンターに移動し、指導を受ける流れを徹底した。平成 27 年度は未内定者向けキャリア面談を夏休み開始時期と後期開講前とに分割し、特に不安のある学生を夏休み開始時期に、夏の間には決定できそうな学生は後期開講前に面談を設定する事で、夏休み期間の有効な利用を促すとともに就職活動における自信喪失やモチベーションの低下を防ぎ、夏からの就職活動を加速させる効果を生んだ。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①就職支援

単位がつかないため、例年出席率の低下が懸念される就職支援ガイダンスであるが、平成 27 年度の 15 回を通しての出席率は健康栄養学科 93.3%（前年度 86.7%）、スポーツ健康学科は 83.7%（前年度 80.5%）と前年度を上回る結果となった。これは、実績・現状でも記述した通り、具体的な就職活動準備の提示、事例紹介、情報提供といった学生にとって有益と思える内容を実施し

たことに加え、ゼミ担当からも出席を促したことが高い出席率の維持につながったと考えられる。

3 年生の各種講座への参加は、健康栄養学科延べ 172 名、実数 70 名、スポーツ健康学科は延べ 38 名、実数 26 名で微増した結果となった。企業研究勉強会においては、実施・現状にも記載したように各回お越しいただく企業への各学部・学科の採用実績がわかる資料を作成し参加を促した。しかしながら、これらの希望制講座の参加者実数は、スポーツ健康学科においては昨年より微増しているものの他学部と比較しても動きが少ない結果となった。また、学外の合同企業説明会への学生参加を支援するためのバスツアー（東京、長野）を実施し、東京ツアーは定員 70 名の所を 67 名、長野ツアーは定員 160 名の所を 137 名の参加となった。

昨年度の実績から、夏季就職合宿、12 月、2 月の学内対策講座のいずれの対策講座においても、参加した 3 年生に対し、本学部の就職活動を終えた先輩 4 年生からアドバイスをもらえる機会を増やした。先輩 4 年生の内定先についても職種、業界等豊富なラインナップを揃え、その可能性を大きく広げ視野を広げさせることにも繋げられた。参加した学生の振り返りには、履歴書の添削指導や模擬面接が役立ったという回答に加え、特に評価が高かったのは、4 年生先輩の体験談を聞き、助言を得たことだったと回答した参加者が目立った。また、スタッフとして参加した 4 年生先輩にとっても自分の就職活動を振り返り、自分が入社する予定の企業への思いを新たにする機会となったことが、アンケート結果から明らかとなった。

②就職状況

人間健康学部の今年度の就職内定率は 98.8%（健康栄養学科 100.0%、スポーツ健康学科 97.8%）と良好であった。（平成 26 年度 98.2%、平成 25 年度 97.4%、24 年度 93.9%、23 年度 96.5%）。この要因は、主には日本の景気回復による企業の採用活動の活発化である事は明らかであるが、それに加えてこれまでのキャリア関連の各講座や就職合宿がブラッシュアップされたことに加え、何より、キャリアセンタースタッフによるゼミ別での学生個別面談の実施が、学生の就職活動をさらに支援して内定へ導くものであった。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

① 就職先の質の確保

学部全体の就職内定率はこれまで通り 95%を維持しつつも、健康栄養学科、スポーツ健康学科ともに、各学科の専門に関する分野でのさらなる就職先の開拓と質の獲得に力を入れていく必要がある。

② 学生の就職先選択の多様化への試み

本学学生の希望勤務地は県内、あるいは学生の出身地が多い。人間健康学部生においてはさらに専門性を生かした分野を希望する者が多く（健康栄養学科：管理栄養士・栄養士、スポーツ健康学科：健康運動指導士・健康運動実践指導者）、そのこだわりのため苦戦する学生も散見する。学生にとってのより良いキャリア形成のためにも、就職希望先を県外や出身地外に、また、就職希望分野を専門分野だけでなく関連領域、あるいはその学生の適性に応じた異分野へ広げるよう、学生の意識改革をしていく必要がある。

③ 就職活動解禁後早期からの活動を促すこと

過年度からの懸案事項であったスポーツ健康学科生における就職活動解禁直後の動きの少なさに関しては、今年度は過年度と比較して改善が見られたものの、本学学生を積極的に採用してい

る優良企業の採用ピーク時期であった 5 月から 10 月における内定率の伸びが思わしくなかった。選択肢が多い採用ピーク時に学生が積極的に就職活動を行い、より良い採用へとつながるよう、今後も様々な働きかけや取り組みが必要であると思われる。その一環として、3 年次における夏季就職合宿、学内実施の 12 月・2 月の就職対策講座のいずれかへの全員参加は次年度も促していくとともに、ゼミ単位での就活状況管理についても継続して行っていきたい。

④ 教職センターとの連携強化

スポーツ健康学科においては「保健体育」（中・高校）教員、健康栄養学科においては、「栄養教諭」の希望者が少なからずいる。本学においては、すでに総合経営学部において教員免許取得の指導を行ってきたが、教員免許の取得までの指導にとどまり、採用試験合格への積極的な指導は制度的になかった。しかし、人間健康学部においては、教員採用試験合格への要求は極めて高く、かつ今後の学生募集にもその結果が大きく影響するように推測される。したがって、新 3 年生の教員試験対策における教職センターの役割は極めて重要となる。これまでのように教員免許取得指導担当としてだけでなく、教員採用試験対策担当としての役割を果たすことが期待される。また、教員採用試験の合否、不合格者となった者の非常勤教員としての採用の情報等を、キャリアセンター（就職委員会での情報共有）と教職センター間での連携強化が密になることを昨年度に引き続き期待する。

⑤ 管理栄養士国家試験と就職活動の兼ね合い

健康栄養学科においては、早期に内定を獲得する学生は国家試験も合格し、内定までに時間がかかった学生は国家試験も不合格となる傾向がある。本年度より 1 年次、3 年次の保護者説明会において、就職委員会からの就職活動に関する説明において管理栄養士国家試験についても言及した。その中で、保護者にも普段の勉学や学業成績の段階から国家試験を意識していただくよう促し、就職活動が早期に終えられるよう保護者の支援と理解をお願いした。次年度以降もこれを継続し、学生がより良い進路決定と資格取得が出来るよう、学生と教職員、保護者が一丸となって就職活動、国家試験対策に取り組めるよう支援していきたい。

＜執筆担当／就職委員会　人間健康学部主任　沖嶋　直子＞

（４）松商短期大学部就職委員会

就職委員会は、キャリアセンターをはじめとする各事務局と教員の連携を図り、進路支援カリキュラムの作成・実施を行う組織として設置され、平成 27 年度においては、委員長 1 名、主任 1 名、委員 3 名、事務局 3 名の計 8 名で構成され、16 回会議を設けて、進路支援に当たった。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

経済情勢の回復傾向が継続した平成 26 年度においては、松商短期大学部学生の就職状況も引き続き好調に推移し、内定率は 97.1％と平成 25 年度をさらに上回る高い数値となった。平成 27 年度においても引き続き経済情勢の好転が見込まれるものの、就職選考会解禁が 8 月に後ろ倒しされることに伴い、学生の負担増加が懸念されるなど予断を許さない状況であった。

このような情勢を踏まえ、2 年生の就職活動支援については、平成 26 年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開することとした。また、「キャリアク

リエイトⅢ・Ⅳ」を引き続き必修科目として実施し、「キャリアクリエイトⅢ」においては、業界・業種研究、マナー研修をはじめとする実践的な就職活動支援を、「キャリアクリエイトⅣ」においては、早期離職防止を目的とする社会人としての必須知識の習得を狙った講義を展開することとした。さらに、2年生後期において内定を得ていない学生に対するヒアリングおよび個別相談を昨年度の1回から2回へと増加させることとした。なお、平成24年度より原則として全学生の保護者に対し、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送することとしている。さらに、8月、11 月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促す取り組みを継続して行うことにした。

1年生に対しては、フリーター等で満足してしまうような学生数をより減少させるため、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイトⅠ・Ⅱ」を引き続き必修科目とし、「キャリアクリエイトⅠ」で「現代社会の理解」「働くことの意味」「高等教育機関で勉強することの意味」「学ぶことの意味」「本学で学ぶことの意味」などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と就業意識の形成を促すことにした。また、12 月から1月にかけてキャリアセンター主催で行われる「業界研究勉強会」への参加を促すこととし、2月には、従来どおり集団面接講座を実施することとした。

2）現状の説明 ＜D＞

短期大学部における進路支援は多岐に渡っており、これは大きく分けて、①キャリア系講義、②インターンシップ、③面接練習および就職相談、④キャリア面談、⑤資格取得、⑥ゼミ担当教員による個別指導という6つから構成されている。これらの進路支援のうち、特に、①キャリア系講義のシラバス作成から始まる講義運営や②インターンシップの実施、③④の面接練習・相談・キャリア面談については、「就職委員会」および「キャリアセンター」がその中心的役割を担っている。本学キャリアセンターが収集した情報は、キャリア系講義内で、学生に周知徹底される。これは、紙ベースのみならず、学生全員が所有する IT 端末へも配信される。なお、キャリアセンター内では、さらに細かい情報や、卒業生の就職活動報告書を整備し、学生はこれらの豊富な情報をいつでも閲覧可能である。最新の情報は、就職委員会で逐次把握するとともに、学生の応募状況や就職内定状況等の情報をすべての教員・事務局と共有することで、状況に即応できる体制を構築している。

2年生の就職活動支援については、平成26年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開した。なお、2年次の必修科目として、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅲ・Ⅳを実施した。「キャリアクリエイトⅢ」では、業界・業種研究、マナー研修、講演など就職活動にあたり必要な知識の習得を目指すとともに、具体的企業情報の提供を行った。

「キャリアクリエイトⅣ」においては、就職内定者教育を強化することとしつつ、就職活動が遅い未内定学生に対しても当初計画通り、ヒアリングおよび個別相談を2回実施するなど、卒業間際まで就職支援を行えるようにした。

1年生の就職活動支援については、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅰ・Ⅱを実施し、「キャリアクリエイトⅠ」で現代社会の理解、働くことの意味、学ぶことの意味などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と職業意識の形成

を促した。これら「キャリアクリエイトⅠ」の必修化は、本学学生の「就業力」と「学士力」の向上に資するものであり、目的意識を持って積極的に就職活動に取り組む態度を育成するものである。

「キャリアクリエイトⅡ」においては、1年次3月にスタートする就職活動に向けた実践的知識の習得を目指した内容の講義を実施した。これにより、就職活動期にスムーズに移行することが可能となる。さらに、1年次2月末には、全学生を対象として、本学教職員を面接官とする集団面接講座を実施した。

「キャリアスタンダードⅠ・Ⅱ」においては、就職活動のうち、筆記試験対策に特化した内容の講義を実施することとし、進路支援に万全を期している。

正規科目以外には、昨年度から引き続いて実施された、キャリアセンターが主催する「業界研究勉強会」への参加を短大1年生に促したが、これは多様化する進路先に対しての理解をより一層深め、ミスマッチの解消を狙うことが目的である。さらに、本年度から松本市が主催する「企業見学会」への参加を学生に促した。これは、本年度中に2回実施され、それぞれ10名前後の学生が参加した。

保護者に対しては、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送した。そして、8月、11 月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促した。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

2年生に対する支援については、まず、キャリアセンターを利用する学生の数が昨年度に比べて急増した。これは、就職活動時期の変更という要因もさることながら、キャリアセンターの取り組みの成果でもある。

内定率については、学生の就職希望先企業・業種の多様化に対応するよう積極的に学生に働きかけた結果、平成25年度の95.1%、平成26年度の97.1%を上回る「99.5%」を達成することができた。この結果は、経済の回復傾向を背景とした地域企業の旺盛な採用意欲に後押しされたところが大きいが、1年次から引き続くキャリア面談や業界研究、マナー研修をはじめとするキャリア支援プログラムとともに、ゼミナール教員による手厚い個別指導により、不安解消とサポートを充実させた成果であると考えている。

また、基礎学力の高い学生から低い学生まで多様な学生の入学に対応するため、入学前教育を活用して『社会教養』等のテキストを配布し、入学前から基礎学力向上に力を入れ、1年次の早い段階から一般常識・基礎学力の模擬試験を行い、効果測定を実施している。これらの取り組みが本年度の結果に好影響を与えたとも考えられよう。

一方で、平成27年度のインターンシップ参加者は7名と減少の一途をたどっており、改革が求められる点である。この点に関しては、前節でも触れたように松本市主催の「企業見学会」へ参加を促すなど新たな試みも行われたが、より一層の議論が必要である。

また、最重要課題は学生の就職活動の活発化にある。学生を「求職カードを提出した形式的な就活生」とするのではなく、「就職活動を積極的に行う実質的な就活生」とすることが求められる。平成27年度においては、内定率こそ99.5%とこれ以上ない結果となったものの、進路未決定者のうち就職意思のないものが若干名いることも事実である。これらの進路未決定者の減少も今後の課題である。

4）次年度に向けた対応 ＜Ａ＞

次年度は、日本経済の回復傾向が継続し、それに合わせて雇用環境の改善も継続すると予想される。しかしながら、平成 28 年度においては、就職活動スケジュールが 2 年連続で見直しとなり、就職選考会解禁は 6 月となる。事実上の就職活動開始時期は平成 28 年 3 月と変更がないものの、様々な混乱等が生じる恐れもありうることから予断を許さない。

これらの状況を見据えながら、インターンシップ参加者の減少という問題に対して、具体的改革に着手する予定である。インターンシップについては、これまでも様々な議論を重ねてきところであるが、これまでの学内インターンシップのみならず学外主催のインターンシップへの参加を促すなど多くの学生が参加できるような環境を整え、単位化を含めた具体的な改革案の構築を目指す予定である。

最も重要な課題として挙げた学生の就職活動の活発化については、就職活動が遅い未内定学生に対して卒業間際まで就職支援が行えるようにし、特に未内定者への個別のヒアリングの実施回数を増やし、個々の事情に合わせた就職支援を行ったが、この成果も着実に表れているため、平成 28 年度も継続していく予定である。

なお、本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として従来同様に集団面接の面接練習を行うこととした。これによって就職活動の不安を軽減することを目指している。

＜執筆担当／就職委員会　短期大学部主任　木下　貴博＞

Ⅱ．研究推進及び管理部門

１．研究推進委員会

１）役割 ＜Ｐ＞

平成 25 年の委員会構成の変更によって、教員の研究活動に係る委員会が研究推進委員会のもとに集約された。これにより、従来からの研究推進委員会に加えて研究誌出版委員会、地域総合研究センター、松本大学出版会が研究推進委員会の下部組織と位置付けられ、学長、学部長、研究科長、学科長により構成された。基本的には一つの組織であるが、取り扱う内容の違いに関する歴史的な経緯があり、適宜別な部会として開催し、議事の決定を行った。

研究推進委員会の目的は、もちろん本学教員の研究活動の支援であり、そのための研究資金の配分と実際の研究活動実施の支援を委員会は司っている。残念ながら、本学では研究資金として大学が支援できる金額には限界があり、教員各人が外部資金を獲得して研究を実施することが望まれる。大学教員の研究活動のための重要な外部資金は科学研究費補助金であり、教員それぞれが科研費を取って研究を行うことが好ましい。しかしながら科研費は採択率が 3 割程度の競争的資金であり、基本的に過去の実績を重視する審査である。したがって、科研費に応募するための準備研究に関しては、個人研究費や大学の学術研究費で積極的に支援していきたい。

２）活動目標の実施状況 ＜Ｄ＞

① 科研費の萌芽研究と同様に、過去の実績を問わない、次年度や次々年度での科研費申請の準備になるような研究をするための萌芽研究の枠組みを学内の学術研究助成にも作った。

② 学術研究助成費を旅費に使う際に、学会や研究会での「当該研究での成果発表」に制限されていたが、研究の助成期間と成果発表の時間差や、共同研究の成果である場合を鑑み、過去の学術研究助成の発表や共同研究者の発表の場合であっても良いように、規定を変更した。

③ さらに、分野によっては現地での資料収集や調査が重要になることもあるので、そのための出張にも旅費を使えるようにした。

④ 研究評価の適正化を行うために、学術研究助成には成果の出版を義務付けた。

⑤ 現在ＣＯＣ事業予算による地域志向研究の支援があるため、学内研究予算での地域志向・教育志向の研究に関しては、ＣＯＣ予算での活動予算申請との調整を行った。

３）点検・評価 ＜Ｃ・Ａ＞

① 平成 25 年度に申請した科研費の新規採択は 2 件であった。科研費の採択数が減少しており、それにもまして、近年科研費への応募数が減少している。教員の研究環境の改善が望まれる。

② 学術研究助成の萌芽分野に関しては 6 件の応募があり、予算査定の後採択された。研究成果に期待したい。

③ 平成 26 年度学術研究助成の査定にあたっては、過去の成果発表の実績や今年度の科研費申請との整合性を厳格に判断した。

④ 近年、学術研究助成の申請が減少し、特定教員による申請に限られるという傾向がみられる。できるだけ多くの教員が研究を行うような環境整備と研究活動を重要視する教員の意識改革が必要である。

⑤ 科研費以外の外部資金に関しては、専門分野ごとに状況が大きく違うので、各部局ごとに適切な

情報収集に努め、応募を促していく必要があるであろう。

⑥ 日本私立学校振興・共催事業団の私立大学等経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」を活用するために、該当する学内の研究を積極的に補助するよう学内制度を整える。

＜執筆担当／研究推進委員会　委員長　室谷　心＞

（１）研究誌編集部会

研究誌編集部会は大学院研究科長、総合経営学部学部長・両学科長、人間健康学部学部長・両学科長、松商短期大学部学部長・両学科長を委員として運営した。事務には管理課・総務課があたった。

１）年度当初の目標 ＜Ｐ＞

「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」の両誌を研究誌編集部会が管轄する。研究誌規定の有効性を確認しながら運用していく。

２）目標の実施状 ＜Ｄ＞

①「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」の両誌原稿募集、編集出版を行った。「地域総合研究」16 号には、原著論文５編、研究ノート１編、調査・事例報告２編、教育実践報告１編、資料１編の計 10 編が掲載された。「松本大学研究紀要」第 14 号には原著論文 7 編、研究ノート 2 編、調査・事例報告 1 編の合計 10 編が掲載された。

②著者からの意見や質問を取り入れ、執筆規定の若干の修正と運用の安定化を図った。

３）点検・評価の結果（目標の達成状況）＜Ｃ＞

①論文執筆に関しては、規定の修正と執筆側の習熟によって苦情の数は減少した。今後も改善して生きたい。

②形式査読に関しては、“形式査読”の概念自体が不明瞭で編集委員会内で安定しておらず、査読者によって作業内容にばらつきがあった。また、査読の労力が大きく、効果に見合うのかどうかも疑問である。しかし第三者が読みチェックすることによって、論文の最低限の質保障には確実に寄与しているといえる。

４）次年度に向けて ＜Ａ＞

① 本学の研究誌編集委員会の目指すものは、本学所属教員の活発な研究成果発表である。教員が論文発表を円滑に続けていけるように、今後もプロセスや規定などを改正していきたい。

② 論文スタイル統一の方向で進んではいるが、各分野での論文作成の習慣に違いがあり、統一的な基準に関しては、関係者の意見を聞きながら模索中である。多岐にわたる専門性の違う教員が混在する本学本センターの研究論文で、そもそも統一的なスタイルが必要なのかどうか、どの分野を基にして統一すべきかなど、執筆者の意見を聞きながら修正を行う必要がある。執筆者にも査読者にも苦労の多い「形式査読」に意味があるかどうかの評価を進めて行きたい。

③ CiNii の廃止に伴い必要となる事務作業の変更を確認し、本学教員の成果発表の場を確保していくことは重要である。

＜執筆担当／研究誌編集部会長　室谷　心＞

（２）松本大学出版会運営部会

１）年度当初の計画・本年度の活動状況 ＜Ｐ・Ｄ＞

a）出版予定と結果

①出版

昨年度より計画をしていた、2014 年 9 月 27 日～12 月 6 日に 9 回にわたり実施した COC 公開講座の講演録をまとめた書籍を出版できた。

「地域づくり再考～地方創生の可能性を探る～」（COC 戦略会議編）

A5 版、本文 356 頁、2015.3.31 発行　500 冊

②松本大学東日本大震災災害プロジェクト活動の出版準備

プロジェクトの活動内容を書籍として出版するための準備を進めるという計画通り、平成 26 年度の活動を報告書としてまとめて、『地域総合研究第 16 号 Part 1』に掲載した。

b）広報活動

①昨年度末に出版した「松本大学の挑戦～開学から 10 年の歩み～」について、下記へ献本し積極的に本学への理解を促した。

＜献本先＞　長野県知事・教育長、県会議員（大北～木曽選出）、長野県内市町村長、長野県内図書館、長野県内大学・短大、長野県内高等学校および結びつきが深い県外高等学校、長野県内市町村長野県図書館、報道関係、視察受入先（過去 3 年間）、理事者、評議員、後援会役員、梓友会参加者　等（約 500 冊）

②出版時に媒体へのプレスリリース等を行い、販売促進を行った。

＜新聞での紹介実績＞　長野日報 5 月 14 日付、教育学術新聞 5 月 20 日付、

また、既存の書籍についても機会あるごとに広報活動を行い、販売に力を注いだ。

③講演会・研修会・学会・授業等、教員にも販売協力を引き続きお願いする。

④販売の見込みが薄い既存書籍について、有効活用をはかり本学の広報に役立てた。

＜例＞　高校教員説明会での配布、合同企業説明会での参加企業への配布等

c）その他

①保管場所が数カ所になっていた在庫書籍を一括管理するために、4 号館北倉庫に集めた。

②長野県出版協会会員として、図書目録「信州の本」への情報提供、および、8 月より幹事社となり活動を行った。

２）点検評価 ＜C＞

a）出版書籍について

昨年度より計画をしていた COC 公開講座の講演録をまとめた書籍「地域づくり再考～地方創生の可能性を探る～」を出版できたことは、成果であった。

b）広報活動

① 「松本大学の挑戦～開学から 10 年の歩み～」については、献本という形ではあったが、　多くを配布し、本学を理解いただく一助となった。

② 従来通り、機会（講演会、シンポジウム、学会等）を捉えて、書籍やＤＶＤを販売するよう努めたが、特段、売上の変化はみられなかった。

③ 販売方法について、アマゾンへ店舗を開設する検討を進めていたが、実現しなかった。

c）検討事項

現在在庫として抱えている書籍についての有効利用を検討したい。従来からの提案のように、本学の広報活動の一環として、関係機関や来訪者に提供することを学内に周知し、有効利用していただくことを学内関係各位に提案したい。また、出版からかなりの歳月が経ち、内容的にも情報が古く販売の見込みが無い書籍についての処分を検討したい。

３）来年度の事業計画 ＜Ａ＞

① 松本大学出版会規定を見直す。これにより出版の目的、対象、手続き等を再確認して運営をはかる。

② ①の上にたって、出版希望者を募り、希望者の中より１件選定し平成 28 年度中に書籍を出版する。

③ 広報活動を積極的に行い販売の促進をはかる。また、アマゾンへ店舗開設を検討する。

④ 在庫書籍の有効活用をはかる。また、販売の見込みが無い書籍についての処分を検討する。

⑤ 事務処理のマニュアル化をはかる。

＜執筆担当／松本大学出版会運営部会長　室谷　心＞

（３）地域総合研究センター運営部会

地域総合センター運営委員会は研究を司る部門の一つとして、研究推進委員会のもとにおかれ学長、学部長、研究科長、学科長により構成され活動した。センターの研究員は従来通り本学の全専任教員であり、外部研究員として中野和朗、建石繁明の２名、さらに今年度新たに特別調査研究員５名を加え活動した。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

平成 27 年度の活動計画は次の通りであった。

①地域総合研究第 16 号の発行。Part Ⅰ，Ⅱの２部形式を踏襲し、Part Ⅱ部アニュアル・レポートとする。ただし、地域総合研究センターは出版を受け持つものであり、Part Ⅰの編集作業は研究推進委員会研究誌編集部会が行い、Part Ⅱは自己点検・評価委員会がデータの収集整理を行う。

②外部団体等から大学宛に持ち込まれる、新規・継続を含めた受託事業（研究、共同事業、調査など）の受付窓口となる。運営部会において適任者を決めてお願いし、その活動のサポートを行う。また、教員個人の受託事業についても当センターがその受入窓口となり、受託費管理等の実務を担当し、報告書作成などの支援も行う。

③松本市と連携して実施する事業

（ア）［地域づくりに係わる松本大学との連携協力に関する協定］に基づく事業

a) 人材育成（地区コーディネーター、職員等育成・研修事業他）

b) 地域づくり・市民活動に関する研究集会事業

c) 各地域への指導・助言

d) 上記を実施するために必要とみなされた、調査研究

（イ）観光ホスピタリティ・カレッジにおいて、企画立案を含めてその運営に主体的に取り組む。

④講演会、シンポジウム、フォーラム等のバックアップ（特にチラシ作成、報告集の作成など）。

⑤石巻市から文部科学省緊急スクールカウンセラー派遣事業における業務委託を受け、松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトの活動（主にスクールカウンセラーおよびスクールカウンセラーに準ずる者の派遣）について、運営管理と会計処理等を行う。

２）活動状況 ＜Ｄ＞

本年度の活動計画に沿った活動を実施することが出来た。

① について。地域総合研究誌 16 号は、少し予定が遅れたが無事発行できた。

例年のように、本誌の PartⅡはアニュアル・レポートとした。

② 受託事業については 13 件の事業の窓口となり活動した。（内５件は生坂村連携・協力協定による活動）

また、スムーズで明確な対応をはかるため、受託研究取扱規程の見直し、および受託研究実施フロー、受託研究受入申込書、受託研究完了報告書の整備に着手した。

③ 松本市と連携活動については、今年度新たに松本市と「地域づくりインターンシップ戦略事業業務委託契約」を締結し、地域総合研究センター特別調査研究員５名が松本市内の各地区において地域づくり活動等を行った。

その他、継続的な活動については COC 戦略会議および、観光ホスピタリティ学科が松本市と連携しながら活動を行った。

④ 講演会、シンポジウム、フォーラム等に関しては、今年度は COC 事業として行われ、広報等の協力を行った。また、これについては来年度の地域総合研究 Part1 へ講演録等を掲載する予定であり準備を進めた。

⑤ 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトについては、今年度から石巻市からの委託事業という形に変わったが、引き続き例年通り活動の支援を行った。特に、スクールカウンセラーや学生の派遣などにともなう事務処理や、報告書の作成にも積極的に関与した。

３）点検・評価 ＜Ｃ・Ａ＞

①受託事業については、今年度着手した受託研究取扱規程の見直し、および受託研究実施フロー、受託研究受入申込書、受託研究完了報告書の整備を早急に行い、これにのっとりスムーズで明確な活動を行う。

②松本市と新たに締結した「地域づくりインターンシップ戦略事業業務委託」は、今年度従事した調査研究員５名は継続（３年契約）する上に、来年度も新たに調査研究員が加わる予定であり、COC 戦略会議等と連携し、業務の目的を達成するよう支援する。また、その他事業についても必要なサポートを続けて行く。

③講演会、シンポジウム、フォーラム等に関しては、COC 戦略会議が主体となって行っており、その一員として連携しながら今後も必要なサポートを行う。

④松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトは、次年度を一応の区切りとする計画であり、活動のまとめへの協力も含めて業務を遂行する。

〈執筆担当／地域総合研究センター運営部会長　室谷　心〉

２. 研究倫理委員会

１）年度当初の目標 ＜Ｐ＞

従来から行っているヒトを対象とした申請研究が倫理的・法的および社会的観点から適正に遂行されるための要件を満たしているかを審議することに加えて、本年度は全国の大学に対する研究倫理教育の実施初年度であるため、全教員・院生に対する研究倫理の啓蒙・普及を行うことを目標とした。

２）目標の実施状況 ＜Ｄ＞

本年度、研究倫理委員会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて３名が参加した。

〇学長が指名する大学院及び各学部から選出された教員

山田　一哉、室谷　心、矢崎　久、河野　史倫、糸井　重夫

〇研究に関する倫理的及び法的事項を総合的に判断するにふさわしい識見を有する者

増尾　均、福島　智子

〇一般の立場を代表する学外者

瀬川　格淳（専称寺住職）

a）研究計画審査

2015 年度に当委員会へ研究倫理審査申請のあった案件は以下のとおり８件であった。

[第 15-01 号]

研　究　者　名：大学院健康科学研究科　教授　廣田直子

研 究 計 画 名：食を伝える新しい異世代間地域ネットワークづくりのための参加型アクションリサーチ

研究の意義・目的：健康寿命の延伸に結びつく食を伝える新しい異世代間地域ネットワークづくりを推進し、参加型アクションリサーチという研究手法を用いて検証して、全国へ発信したいと考え、本研究に取り組む。具体的には、異世代間地域ネットワークとして、食生活改善推進員であるシニア世代と高校生がともに行う活動のモデルプログラムを構築し、高校生による食改ユースの組織化をめざす。活動成果をみるにあたって、プロセス評価としてルーブリツクによるポートフォリオ評価を導入して教育手法を検討し、参加者のアウトカム指標を加えて評価法を検証したうえで活動の推進を図り、その成果を科学的に検証する。さらに、その活動プログラムを地域や行政と連携して長野県全体への普及を図り、さらに全国へと発信する。

研 究 対 象 者：320 名（予定）（研究趣旨や目的等について説明し、研究協力に承諾していただいた市町村の食生活改善推進員と中学校および高等学校の生徒）

研　究　期　間：承認日より平成 30 年 3 月 31 日まで

[第 15-02 号]

研　究　者　名：大学院健康科学研究科　院生　今井三枝子

研 究 計 画 名：保健補導員活動の意義と支援のあり方について

研究の意義・目的：諏訪市の保健補導員の意義を健康・地域のつながり等からまとめる。また、組織支援のあり方についての検討をし、保健補導員活動を活発にまた有意義な活動が継続して行われ、その活動が今後の市の施策に有効につなげることを目的としたい。

研 究 対 象 者：保健補導員経験者 1000 名（予定）

研　究　期　間：承認日より平成 28 年 3 月 31 日まで

[第 15-03 号]

研　究　者　名：大学院健康科学研究科　准教授　呉泰雄

研 究 計 画 名：トレーニングを行う中高年を対象としたペプチドの筋力増強作用に関する研究

研究の意義・目的：サルコペニアを予防するためには運動およびたんぱく質の補給が重要となる。本試験では、松本市熟年体育大学に在籍する４０歳以上の中高年を対象とし、トレーニングとペプチド摂取を組み合わせた際の筋肉増強作用を評価する。

研 究 対 象 者：240 名（120 列×2 群）トレーニングを実施する中高年者

研　究　期　間：平成 27 年 8 月 1 日から平成 28 年 9 月 30 日まで

[第 15-04 号]

研　究　者　名：大学院健康科学研究科　教授　江原孝史

研 究 計 画 名：大学生の生活習慣病のリスクに関する研究

研究の意義・目的：生活習慣病は、長い間の生活習慣が原因で主に発症するが、近年では、成人のみならず、子供のころから生活習慣病にかかる場合も増えている。糖尿病のように遺伝が関係する疾患も存在する。そのため、同じ食事を食べても食後の血糖値の変化は個人によって差がある。生活習慣病の多くはその初期には無症状であることが多く、血液を調べ脂質や血糖値、ヘモグロビン A1c 等を測定することが必要である。若い時に自分の血液検査値を知って、生活習慣に気を付ければ、将来生活習慣病になるリスクを減らすことができる。

研 究 対 象 者：100 名（松本大学人間健康学部スポーツ健康学科２、３、４年生）

研　究　期　間：承認日より平成 28 年 3 月 31 日まで

[第 15-05 号]

研　究　者　名：人間健康学部・スポーツ健康学科　専任講師　中島節子

研 究 計 画 名：小学生の口唇力と体力の関係

研究の意義・目的：噛むことは、脳の働きを助け、免疫力を高める、発音をはっきりするなど様々なメリットがあると言われています。また、スポーツをする時など歯を食いしばる場面が多々あります。成人については、咀嚼力と体力との関係の報告があるのですが、子どもについての報告は少ないため、今回調査することで関係性を明らかにします。咀嚼力を測定することは、歯牙の損傷などの危険性があるため、咀嚼力と関連のある口唇力を測定することで関連性を検証します。

研 究 対 象 者：50 名（塩尻市の小学校に在学している５，６年生の児童）

研　究　期　間：承認日より平成 29 年 3 月 31 日まで

[第 15-06 号]

研　究　者　名：人間健康学部健康栄養学科　助手　石澤美代子

研 究 計 画 名：血液検査からみた高校硬式野球部員における望ましい体重増加量

研究の意義・目的：野球という競技において体重は多い方が有利であり、近年、中学野球・高校野球では体重増加の推奨がなされているが、反面、体重増加は生活習慣病を誘発する可能性があると言われている。また過度の体重増加は、健康状態への影響とともに、俊敏性等競技関連運動能力の低下が懸念される。今回、高校球児を対象に、体重の増加が、血液・尿検査各値、競技関連運動能力に及ぼす影響を調べることを計画した。本研究により、体重増加の程度によって、出現する血液・尿検査の異常や、低下する競技関連運動能力の種目を明らかにすることができ、ひいてはそれらの異常や低下を引き起こさない体重増加量を推測ことができると考える。ただし、今年度は被験者少数のためパイロット研究として位置付け、次年度に検査・測定項目を絞り対象者を増やし今回の傾向を追認していきたいと考えている。

研 究 対 象 者：25 名（屋代高校、須坂高校の野球部員の１年生）

研　究　期　間：承認日から平成 28 年 3 月 31 日まで

[第 15-07 号]

研　究　者　名：大学院健康科学研究科　教授　廣田直子

研 究 計 画 名：世帯および地域の社会経済的要因が食生活や健康状態に絶える影響－栄養疫学的検討

研究の意義・目的：近年、健康格差への関心が高まっている中、健康が社会経済的要因により規定されることが世界的に多数報告されてきている。所得やソーシャルサポートのような「個人（世帯）レベル」の社会経済的要因やソーシャルキャピタル（社会関係資本）のような「社会・環境（地域）レベル」の社会経済的要因と QOL や健康状況との関連が本邦でも報告されてきている。しかし、食事内容、食事パターン、食習慣との関連を報告した研究は大変少ない。本邦での栄養疫学研究デザインにおける栄養疫学研究による、この分野での研究が望まれる。本研究は、世帯あるいは地域の社会経済的要因（所得、学歴、ソーシャルキャピタルなど）が食事内容や食習慣、健康状況に与える影響を栄養疫学的手法に則って明らかにすることを目的とする。何をどこまで明らかにしようとするのかについては、以下のとおりである。

（１）世帯レベルの社会的要因と食事内容、食習慣、健康状況との関連

（２）マルチレベル分析による、ソーシャルキャピタルと食事内容、食習慣、健康状況との関連

（３）食事内容、食習慣、健康状況に関連する多要因間の関連を包括的に検討

研 究 対 象 者：200 名（大学に、自宅から通学している学生の父親と母親とする）

研　究　期　間：承認日より平成 30 年 3 月 31 日まで

[第 15-08 号]

研　究　者　名：健康科学研究科　准教授　呉　泰雄

研 究 計 画 名：中高年を対象としたペプチド飲料摂取における体感調査

研究の意義・目的：ロコモティブシンドロームおよび生活習慣病の予防は、高齢化社会において重要となる。本試験では、松本ヘルスラボに在籍する主に中高年者を対象とし、ペプチド摂取による筋肉、膝痛、血圧に対する作用を評価する。

研 究 対 象 者：60 名

研　究　期　間：平成 28 年 2 月 1 日から平成 28 年 9 月 30 日まで

b）教員向け研究倫理教育について

平成 27 年 4 月 1 日の合同教授会において、本年度は全国の大学で研究倫理教育の実行年度であり、今後実行したかどうかを検証されると報告した。また、日本学術振興会編集の「科学の健全な発展のために -誠実な科学者の心得- 」を全教員に配布するので、勉強してもらうよう依頼した。

教員向けに、研究倫理教育の一環としてデータ扱いのスキルアップを目指して、講習会を開催した。

7 月 23 日（木）11:20-12:50

研究倫理委員会主催　講習会「標本データと仮説検定のしくみ」

講師：総合経営学部　林昌孝教授

出席者：34 名

c）大学院生向けの研究倫理教育について

大学院生の必修科目である「健康科学特論」の第 1 回目に研究倫理に関する内容を導入した。また、希望者には、研究倫理に関する DVD 「The Lab」を貸与した。

d）倫理審査委員会報告システム操作マニュアルについて

研究倫理委員会において、審査後、倫理審査委員会報告システム操作マニュアルにしたがって情報公開する方向で合意した。

e）研究倫理に関する全国の大学の取り組みに関する情報収集

研究倫理教育の導入の実際について、委員長が平成 27 年 8 月 7 日（金）に開催された地域科学研究会高等教育情報センター主催の「研究倫理教育の責務とプログラム展開Ⅳ」のセミナーや、平成 27 年 11 月 27 日（金）に開催された学術研究フォーラム　第 7 回学術シンポジウム「科学研究のよりよき発展と倫理の確立を目指して」に参加した。様々な大学が研究倫理教育に関して、試行錯誤をしていることが理解できた。また、今年度、本学の全教員に配布した日本学術振興会編集の教材の e-learning システムが次年度より日本学術振興会から導入されるという情報を得た。

３）点検・評価の結果（目標の達成状況）＜Ｃ ＞

a）研究計画審査について

審議の際、すべての研究計画について規程・ガイドラインに照らした問題点の指摘とその解決策の例示を行った。委員長から、各申請者にそれらの点について修正を要求した。修正の確認に

関しては委員会で委員長に一任した。委員長は、関係委員と申請書の適切な修正がなされたことを確認したあと、承認したというメールを全委員に配信した。また、修正審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

b）教員・大学院生に対する研究倫理教育

研究倫理に関する最低限の教育・講演会を導入することができた。セミナーやシンポジウムに参加したことで、今後の方向に関して多くの情報を得ることができた。

４ ）次年度に向けて ＜Ａ＞

次年度も研究倫理の厳格なる審査と研究倫理教育を推進していく。研究倫理教育に関しては、日本学術振興会の「科学の健全な発展のために -誠実な科学者の心得- 」の e-learning 教育を導入することも検討課題である。生データの保存期間を 5 年間と定めることを周知していく必要がある。

＜執筆担当／研究倫理委員会　委員長　山田　一哉＞

（１）動物実験部会

１）年度当初の目標　＜Ｐ＞

今年度の目標は、従来通り動物実験の審査を適切に行うことと、公私立大学実験動物施設協議会に入会し、大学における動物実験のあり方に関する最新情報の提供を受けるとともに、外部評価の受審に向けた規程等の整備やさまざまな体制を整えていくこととした。

２）目標の実施状況 ＜Ｄ＞

本年度、動物実験部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて 3 名が参加した。

○動物実験等に関して優れた識見を有する者　　山田　一哉、河野　史倫、川島　均

○倫理等の学識経験を有する者　福島　智子

○実験動物に関して優れた識見を有する者　実験動物管理者（羽石　歩美）

a）動物実験審査について

本年度は下記の 5 件の申請を審査した。

[第 15-01 号（新規）]

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科　河野　史倫准教授

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴や重力の感受が骨格筋にどのような影響を与えるのか追求する。

動物実験実施者名：　人間健康学部スポーツ健康学科　竹田　弘紀

人間健康学部スポーツ健康学科　中村　圭介

実験実施期間：承認日（平成 27 年 4 月 15 日）～平成 28 年 3 月 31 日

使用動物：ラット（雄）90 匹　ラット（雌）40 匹

マウス（雄・雌）計 50 匹

[第 15-02 号（新規）]

動物実験責任者：松本大学松商短期大学部　川島　均准教授

研究課題：マウス走運動習慣はストレス時の海馬 microRNA 発現量に影響するか
研究目的:マウス自発的走運動習慣がストレス時の海馬 microRNA 発現量の及ぼす影響を追跡する。
動物実験実施者名：川島　均准教授
実験実施期間：承認日（平成 27 年 4 月 15 日）～平成 28 年 3 月 31 日
使用動物：マウス（雄）約 50 匹

［第 15-03 号（新規）］
動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科　髙木　勝広教授
研究課題：インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングと作用機構の解析
研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。
動物実験実施者名：　松本大学大学院健康科学研究科　髙木　勝広教授
健康栄養学科　青木　来未、赤津　志保、牛丸　礼子、関　みず穂、
田中　みすず　他に学部生 30 名
実験実施期間：承認日（平成 27 年 4 月 15 日）～平成 28 年 3 月 31 日
使用動物：ラット（雄）50 匹　マウス（雄）40 匹

［第 15-04 号（継続変更なし）］
動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科　山田　一哉教授
研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析
研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。
動物実験実施者名：健康栄養学科　浅野　公介助手、羽石　歩美助手、他に学部生 19 名
実験実施期間：承認日（平成 27 年 4 月 15 日）～平成 28 年 3 月 31 日
使用動物：ラット（雄）50 匹　マウス（雄）40 匹

［第 15-05 号（継続変更なし）］
動物実験責任者：大学院健康科学研究科　山田　一哉教授
研究課題：生化学実験（健康栄養学科 2 年後期）
研究目的：絶食時および高炭水化物食摂食後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する。
動物実験実施者名：健康栄養学科　浅野　公介助手、羽石　歩美助手
実験実施期間：平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 1 月 31 日
使用動物：ラット（雄）15 匹

b）規程等の改訂

平成 23 年 10 月 25 日開催の文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針について」に沿うように、松本大学動物実験規程・松本大学動物実験規程の利用細則・松本大学動物実験規程に関する動物実験委員会内規・松本大学動物実験規程の運用・松本大学における実験動物の飼養保管マニュアルを改訂した。

c）動物飼育室・実験室の承認

規程等の改訂に伴い、あらためて飼養保管施設と実験室の設置承認申請書を審査した。

＜飼養保管施設設置承認申請書＞

受付番号　第 15-01 号

申請部局長氏名：山田　一哉

飼養保管施設：松本大学　動物飼育室

施設の管理体制：管理者氏名　山田　一哉

実験動物管理者　羽石　歩美

飼養者　なし

＜実験室設置承認申請書＞

受付番号　第 15-01 号

申請部局長氏名：山田　一哉

実験室の名称：松本大学動物実験室

実験室の管理体制：管理者氏名　山田　一哉

d）動物実験に関する自己点検・評価報告書

公私立大学実験動物施設協議会の第 1 期目外部評価基準に従って、自己点検・評価報告書を作成した。

e）公私立大学実験動物施設協議会総会・研修会への参加

平成 27 年 6 月 12 日に開催された公私立大学実験動物施設協議会総会に委員長山田と実験動物管理者羽石助手が参加した。協議会として第 2 期目に入った外部評価基準等に関する重要な情報を得た。また、羽石助手は平成 27 年 6 月 13 日に開催された平成 27 年度第 1 回研修会「実験動物管理者の教育訓練」、平成 27 年 8 月 21 日に開催された平成 27 年度第 2 回研修会「実験動物の基礎的取扱い及び動物実験の基礎技術研修」を受講し、修了証を受領した。

f）動物実験に関する情報開示等

最新の規程・自己点検評価・実験動物の飼育数・教育訓練参加者数・動物実験部会委員構成をホームページ上で公開した。

g）教育訓練

下記の日程で教育訓練を実施した。

平成 27 年 7 月 30 日　教育訓練（教職員・院生向け）　参加者　11 名

平成 27 年 9 月 29 日　教育訓練（学生向け）　参加者　63 名

h）その他

例年学内で行われている動物慰霊祭を、平成 27 年 5 月 20 日に挙行した。川島均准教授が、実験動物に対する慰霊の言葉をのべた。

３）点検・評価の結果（目標の達成状況）＜Ｃ＞

今年度で動物実験を行うにあたって最低限必要な体制を全国基準で整えることができたと思われる。

a）動物実験計画・動物飼育室・実験室審査について

すべての実験計画・施設について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、異議なく承認した。審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

また、本年度の実験に用いた動物数は、ラット 49 匹、マウス 50 匹であった。

b）規程等の改訂

最終的に、改訂された規程は理事会で、その他は全学協議会で正式承認された。

c）動物実験に関する自己点検・評価報告書

公私立大学動物施設協議会の平成 27 年 3 月 31 日までの旧基準で作成した自己点検・評価報告書を委員会で承認した。本来は、その報告書に基づき、平成 27 年度中に公私立大学実験動物施設協議会の外部評価を受ける予定であったが、平成 27 年 4 月 1 日から新たな基準での自己点検・評価フォームに変更となったため、今年度は、新基準に対応するための準備期間とした。

4）次年度に向けて　＜A＞

次年度は、公私立大学実験動物施設協議会の評価員による新基準での外部評価審査を受けて、動物実験をより良く実施できる体制に持って行くことが重要である。

＜執筆担当／動物実験部会長　山田　一哉＞

（２）遺伝子組換え実験安全部会

１）年度当初の目標　＜P＞

目標は、遺伝子組換え実験が安全に行われるように、遺伝子組換え実験計画および実験施設の審査を厳格に行うこと、および規程等の改訂を行うことである。

２）目標の実施状況＜D＞

本年度、遺伝子組換え実験安全部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて 3 名が参加した。

〇遺伝子組み換え実験等に関して識見を有する者　山田　一哉、河野　史倫

〇倫理等の学識経験を有する者　福島　智子

〇学長から任命された安全主任者　浅野　公介

a）遺伝子組換え実験計画の審査について

本年度は、下記の機関承認実験計画 6 件と教育目的実験計画 1 件を審査した。

[第 15-01 号（機関承認実験）]

実験管理者：健康科学研究科　河野 史倫准教授

実験課題名：筋特性の発生・維持・変化に関わる分子メカニズムの追求

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室、動物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：平成 27 年 4 月 15 日～平成 28 年 3 月 31 日

実験目的：骨格筋への代謝的刺激、メカニカルストレス、神経活動が、どのようなメカニズムで筋肥大や代謝特性の変化を引き起こすのかを追求する。

[第 15-02 号（教育目的実験）]

実験管理者：健康科学研究科　高木 勝広教授

実験課題名：酵母の形質転換

場所名称：共同実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：平成 27 年 7 月 6 日～平成 27 年 7 月 20 日

実験目的：お酒の発酵等に用いられる麹菌（*Asperugillus oryzae*）由来のアミラーゼ遺伝子を、

酵母菌（*Saccharomyces cerevisiae*）に導入する。アミラーゼ遺伝子が導入された酵母はアミラーゼを分泌するようになることを確認する。

[第 15-03 号（機関承認実験）]

実験管理者：健康科学研究科　山田 一哉教授

実験課題名：高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：平成 27 年 4 月 15 日～平成 28 年 3 月 31 日

実験目的：1）高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。

2）各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

[第 15-04 号（機関承認実験）]

実験管理者：健康科学研究科　山田 一哉教授

実験課題名：新規転写因子ファミリーZHX の生物学的役割の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：平成 27 年 4 月 15 日～平成 28 年 3 月 31 日

実験目的：1）新規転写因子ファミリーZHX の機能解析と標的遺伝子の検索

2）ZHX ファミリー、グルコキナーゼ（GCK）、Brd ファミリー、LacZ および EGFP 遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

[第 15-05 号（機関承認実験）]

実験管理者：健康科学研究科　高木 勝広教授

実験課題名：インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングと作用機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物接種実験

実験期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

実験目的：（1）インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングし、その作用機構を解析する。

（2）各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

[第 15-06 号（機関承認実験）]

実験管理者：人間健康学部　浅野 公介助手

実験課題名：時計遺伝子と長寿遺伝子の発現相関は、糖代謝調節に関わるか？

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実 験 期 間：平成 27 年 4 月 15 日～平成 28 年 3 月 31 日

実 験 目 的：1) Sirtuin(Sirt)と SHARPs（SHARP-1 および SHARP-2）遺伝子が関わる発現調節機構の解析を行い、肝臓での糖代謝調節における両遺伝子群の発現相関を明らかにする。

2) 1)に挙げた各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

[第 15-07 号（機関承認実験）]

実験管理者：人間健康学部健康栄養学科　羽石 歩美助手

実験課題名： ZHX ファミリーと BET ファミリーの相互作用メカニズムと生物学的役割の解析

場 所 名 称：分析機器実験室、微生物実験室

実 験 種 類：微生物使用実験、動物使用実験

実 験 期 間：平成 27 年 4 月 15 日～平成 28 年 3 月 31 日

実 験 目 的：1) ZHX ファミリーと BET ファミリーの相互作用領域を同定する。

2) ZHX ファミリー、グルコキナーゼ（GCK）、BET ファミリー、LacZ および EGFP 遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

b) 規程等の改訂

遺伝子組み換え実験安全管理規程および松本大学遺伝子組み換え実験安全規程に関する内規を改訂した。

c) 動物飼育室・実験室の承認

新規遺伝子組み換え実験施設の設置承認申請書 3 件を審査した。

[第 15-01 号（遺伝子組み換え実験施設設置）]

申請者氏名：等々力　賢治

実験施設名：理化学実験室

実験室で行う実験のレベル：その他（P1）

安全を確保するための設備・拡散防止のための設備

設備名：ドラフト

形式・性能：DALTON　DF-12AK

実験室に設置する主要研究設備

設備名：クリーンベンチ

形式・性能：AIRTECH　KVM-754F

[第 15-02 号（遺伝子組み換え実験施設設置）]

請者氏名：等々力　賢治

実験施設名：動物実験室

実験室で行う実験のレベル：その他（P1A）

安全を確保するための設備・拡散防止のための設備

設備名：なし

形式・性能：なし

実験室に設置する主要研究設備

設備名：トレッドミル

形式・性能：LE8700 シリーズ

設備名：クライムトーム

形式・性能：Leica　CM1860

設備名：吸入麻酔装置

形式・性能：シナノ製作所　SN-487

設備名：実験台

形式・性能：DALTON 社製

[第 15-03 号（遺伝子組み換え実験施設設置）]

申請者氏名：等々力　賢治

実験施設名：動物飼育室

使用予定の組換え生物等の区分・種類：動物（ラット、マウス）

実験室で行う実験のレベル：P2A

安全を確保するための設備・拡散防止のための設備

設備名：安全キャビネット

形式・性能：オリエンタル技研工業株式会 LAL-1300XA2

設備名：オートクレーブ

形式・性能：三浦工業株式会社　ST-6EL

設備名：アイソレーター飼育ケージラック

形式・性能：三浦工業株式会社　7-70-7-10-1-4-5TM

実験室に設置する主要研究設備：なし

３）点検・評価の結果（目標の達成状況）＜Ｃ＞

a）遺伝子組換え実験計画の審査について

すべての実験計画について審議の結果、規程に沿った実験計画であり、問題を含んでいないため、異議なく承認した。それぞれ審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

b）規程等の改訂

最終的に、改訂された規程は理事会で、その他は全学協議会で正式承認された。

c）動物飼育室・実験室の承認

すべての施設について実地検査を行い、審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、異議なく承認した。審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

４）次年度に向けて ＜Ａ＞

本学では遺伝子組換え実験を行っている研究者が少ないため、詳細にわたって実験計画を審査することができる。次年度も、このような体制で進め、安全に実験が行われるよう努めていきたい。

＜執筆担当／遺伝子組換え実験安全部会長　山田　一哉＞

Ⅲ．入試広報部門

１．入試委員会

（１）全学入試委員会

全学入試委員会は、各学部･学科の代表委員計 7 名および入試広報室の職員により構成され、2015 年度は総合経営学科代表が委員長の職を担っている。全学入試委員会の役割は、大きく以下の 3 点に集約できる。

①学生募集関連業務

松本大学への受験者の増加を目的に、主体的な役割を担っている。大きく、A)オープンキャンパスに代表される高校生を対象にした大学内での説明会の運営、B)大学外で実施される高校生を対象にした説明会への参加、C)高等学校内での説明会への参加や高等学校への訪問、D)大学総合パンフレットに代表される、学生募集用各種媒体の作成、確認と発行、に区分できる。

②入学試験関連

入試問題の作成ならびにその確認、さらには入試当日における試験の円滑かつ失敗なく遂行する役割を担っている。また各入試制度をチェックし、必要に応じて制度の新設･変更を実施する。

③全学的なコントロールと調整

上記①②に関連し、各学部・各学科からの提案を審議し、承認する。またその提案が全学的に影響を及ぼすことが想定される場合には、各学部・各学科、さらには全学運営会議／全学協議会との調整を担当する。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

2015 年度（2016 年度学生募集）は下記項目の達成を目標とした。

①学外での学生募集への関与とその選別

例年どおり、より効果的に松本大学を認知してもらい、多くの高校生に関心を抱いてもらえるよう、全学をあげて学生募集説明会を主催、または外部の説明会に参加する。2016 年度学生募集についても PR の最適な方法を模索するとともに、これらに積極的に関与していく。

②オープンキャンパスの充実

学生募集における中心業務の一つにオープンキャンパスがある。これまでも毎年、その充実を図ってきたが、2016 年度学生募集においても引き続き、各学部入試委員会と連携の上その内容や時間配分等の充実に努めていきたい。

また大学間や専門学校との競争の激化から、効果的・効率的なオープンキャンパスの開催についても、議論を深める。

③円滑かつ失敗のない入学試験の実施

入学試験におけるトラブルは絶対にあってはならない。そこで入試委員会各学部会と連携した上で、これまで以上に教員間、または教員と職員間のコミュニケーションを密にしてトラブルを防ぐ。また入試問題検討部会とともに、入試問題のチェックに万全を期する。

④高校生向け授業公開の運営

昨年度から実施を始めた「高校生向け授業公開」も引き続き実施する。オープンキャンパスという特別な場だけではなく、「普段の大学」を見たいというニーズの高まりから、この授業公開というイベントは重要な意味を持っていると考える。この運営に関し、昨年度の内容をベースに

再度検討を行う。

⑤WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

2015 年度より WEB 出願を開始するとともに、WEB 上での募集要項の公開を実施する。これに向けた準備をきちんと行うとともに、どのような問題点が存在するか、明らかにしたい。

⑥松商学園高校との連携の強化

同じ学校法人が運営する松商学園高校からの志願者を増加させるべく、全学をあげて同校との連携を強めていく。

2）現状の説明 ＜D＞

①学外での学生募集への関与とその選別

参加数については十分な回数であったと考える。ただし、残念ながら着席学生数が少ない説明会等が少なからず見られた。

②オープンキャンパスの充実

オープンキャンパスはさらに充実したと考える。ただし、時間遵守という観点からはやや問題があり、少なからずスケジュール通りに進行しないことがあった。

③円滑かつ失敗のない入学試験の実施

昨年度の反省を踏まえ、事前準備を徹底し、複数によるチェックを実施した結果、入学試験においてミスやトラブルは発生しなかった。

④高校生向け授業公開の運営

7 月ならびに 10 月に授業公開を実施したが、予想よりも多くの来場があり、また事後のアンケートをみても大変好評であった。

⑤WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

開始当初は数件の問い合わせはあったものの、大きなトラブルもなく順調に機能した。

⑥松商学園高校との連携の強化

松商学園高校との連携を深めるべく、大学は学科ごとに、また短大は学部として、松商学園高校内にて連携講座を実施した。また同校への訪問回数や電話回数を増やすなど、より多くのコミュニケーションを取るよう努めた。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①学外での学生募集への関与とその選別

これまでにも増して費用対効果の観点から、より精緻な分析を進める必要がある。また単純に費用対効果だけでは判断できないことも明らかになった。例えば着席数が少ないという理由で特定の地域をしばらく訪問しないと、着席数がさらに減じるという負のスパイラルが生まれるということを経験的に学習した。この点と費用対効果をどのように両立するかが重要である。

②オープンキャンパスの充実

オープンキャンパスの運営において問題は生じていない。反面、マンネリ化しているというジレンマがある。何らかの新しい取り組みを考える必要があるため、引き続き内容のあり方について検討が必要である。

③　円滑かつ失敗のない入学試験の実施

特段の問題は生じなかったものの、ミスがないことが当たり前である。油断せずに引き続きチ

ェック体制の強化に努める。

④高校生向け授業公開の運営

昨年度に続き、授業公開に対して大きな反響があった。次年度も引き続き取り組んでいく方向である。ただし内容のあり方、時間割とのバランス、広報のあり方など、より充実したものにするための検討が必要である。

⑤WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

大きな問題は生じていない。引き続き注視する必要がある。

⑥松商学園高校との連携の強化

卒業生そのものが減少していることもあり、昨年度よりも志願者数が減少した。再度志願者数を増加させるため、次年度も同校との連携をより強めていく必要があろう。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

①学外での学生募集への関与とその選別

費用対効果の観点を維持しつつ、各地の高校生徒とある程度以上のコミュニケーションが確保できるよう、引き続き説明会の取捨選択を進めていきたい。

②オープンキャンパスの充実と授業公開の充実

オープンキャンパスをさらに充実させるべく、新たな取り組みを模索していく。併せて高校生向け授業公開の充実も議論するとともに、オープンキャンパスと授業公開の融合についても、その可能性や現実性を議論していく。また授業公開については早めの広報活動を行う。さらに一部学科で学びの柱が変更となるため、これに合わせた PR 活動にも注力する必要がある。

③円滑かつ失敗のない入学試験の実施

引き続きミスのない運営を目指す。そのためには、現状のチェック体制に関し、再度見直しを行い、三重、四重のチェック体制を構築するなど、さらに完成度の高いシステムを模索する。

④WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

2017 年度学生募集における運用状況を監視するとともに、想定外のトラブルについては迅速に対応する。

⑥松商学園高校との連携の強化

さらに連携を深めるべく、松商学園高校ではなく大学内での連携講座の実施、連携講座の内容の充実、さらには高校生以外の関係者、例えば教員や保護者向けの連携講座やイベントの実施などを模索していきたい。

＜執筆担当／全学入試委員会　委員長　上野　隆幸＞

（２）総合経営学部入試委員会

総合経営学部の入試委員会は、教員 7 名と入試広報室の職員により構成されている。会議は通常は 2～3 ヶ月に一回程度、また入学試験実施期間中は頻繁に開催される。なお 2012 年度より学生募集業務が入試委員会の業務に付加された。そのため、入試委員会総合経営学部会の役割は、大きく以下の 2 点に集約できる。

①学生募集関連業務

総合経営学部受験者の増加を目的に、主体的な役割を担う。大別すると、A)オープンキャンパ

スに代表される高校生を対象にした大学内での説明会の運営、B)大学外で実施される高校生を対象にした説明会への参加、C)高等学校内での説明会への参加や高等学校への訪問、D)大学総合パンフレットに代表される、学生募集用各種媒体の作成、確認と発行、となる。

②入学試験関連

入試問題の作成ならびにその確認、さらには入試当日における試験の円滑かつ失敗のない遂行という役割を担っている。また入試結果に基づいた上で、総合経営学部受験生の合否判定においても判定会議の素案作成等の重要な役割を担う。またさらに総合経営学部における各入学試験をチェックし、必要に応じて制度の変更を実施する。

1）年度当初の計画 ＜P＞

2015 年度（2016 年度学生募集）では下記項目の達成を目標とした。

①系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園高校からの進学者の増加は、学生募集という観点からは非常に有意義であり、また質の高い学生を多く獲得できるといったメリットがある。他方で人間健康学部の創設以降、総合経営学部への松商学園高校からの進学者はやや低迷しているといえる。そこで松商学園高校との連携をより一層強め、同校からの進学者の増加に努めたい。

②オープンキャンパスの充実

学生募集における中心業務の一つにオープンキャンパスがある。これまでも毎年、その充実を図ってきたが、2015 年度学生募集においても、引き続き全学入試委員会と連携の上、その内容や時間配分等の充実に努めていきたい。

③ミスのない入試運営

例年に引き続き、入学試験における様々なミスを皆無にする。

2）現状の説明 ＜D＞

①系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園からの進学者を増加させるべく、全学入試委員会とともに松商学園との連携を強化し、高校生が受講する大学プログラムの拡充を図った。また松商学園が実施する大学説明会への参加はもちろんのこと、当大学単独で松商学園の教員や生徒への説明会を実施した。また進路担当者と密に連絡を取り合うなど増加のための取組を試みた。

②オープンキャンパスの充実

各学科で実施されるミニ講義や体験講座の内容やそのタイトルについて議論した。ただしその前年に大幅な変更を行っているため、2015 年は変更なしで臨むこととなった。

③ミスのない入試運営

例年以上に事前の打ち合わせを多く実施した。また委員が習熟してきたことも手伝って、ミスのない入試運営を実現することができた。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①系列校からの進学者の増加

2016 年度学生募集において、系列校である松商学園高校からの進学者数を見ると、急増した昨年とは異なり、総合経営学科では 24 名が 18 名に、観光ホスピタリティ学科では 18 名が 8 名へ

と減少した・結果として学部としては 42 名が 26 名と大きく減じることとなった。早急な対応が必要であることは言うまでもない。

②オープンキャンパスの充実

昨年に続き、高校生に対するわかりやすさという点では非常に効果的であったと考える。事実、オープンキャンパスにおける動員数が増加しており、これは魅力的なミニ講義や体験講座をアピールできたことが大きく寄与していると考える。

③ミスのない入試運営

今年度の入試では特筆すべきミスは生じなかった。ミスがないことが当たり前ではあるものの、高く自己評価している。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

①系列校からの進学者の増加

総合経営学部への進学者を再度増加させるべく、松商学園高校とのより緊密な連携を模索する。その一環として同校との連携講義を増やすことを考えている。また同校の進路指導教員はもとより、担任レベルの教員とのパイプもより太くする試みが必要であろう。

②オープンキャンパスの充実

次年度も引き続き、各学科の特徴訴求できる内容の講義・講座を提案すべく、議論していく。また次年度より学部をアピールする柱が総合経営学科で４つ、観光ホスピタリティ学科で３つ、それぞれ新設・変更されるため、こちらについても積極的な PR が必要となる。

③ミスのない入試運営

引き続きミスのない入試運営を目指す。そのためには今年度の入試を再レビューし、ミスを生じさせる可能性が残っていないかを委員会として確認していく。同時に慢心から生まれるミスもあるため、学部の教員すべてに対して再度、注意喚起を行う。

＜執筆担当／入試委員会　総合経営学部主任　上野　隆幸＞

（３）人間健康学部入試委員会

平成 27 年 4 月、健康栄養学科には 92 名（定員 80 名）、スポーツ健康学科には 105 名（定員 80 名）が入学した。また、健康栄養学科では 5 期生（平成 26 年度卒業生）の管理栄養士国家試験の合格率が 88.3%（合格者：68 名／77 名、全国管理栄養士養成課程平均合格率 95.4%）、スポーツ健康学科では平成 26 年度卒業生の健康運動指導士の合格率は 75.0%であった（合格者：15 名／20 名、全国平均合格率：56.6%）。

大学を取り巻く社会環境について、まず県内では平成 27 年 4 月に大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校松本校・大原スポーツ公務員専門学校松本校が開校したことが挙げられる。特に大原スポーツ公務員専門学校松本校では、大好きなスポーツを仕事にする、スポーツ業界への就職を目指す！ことを掲げていることから、スポーツ健康学科の学生募集に多少の影響は避けられないと考えられる。また、平成 30 年度には長野県立大学が開校予定となっている。特に管理栄養士養成を含む健康文化学科は本学健康栄養学科と重複するため、入試での影響は避けられない。その他、長野大学は平成 29 年 4 月に公立大学法人化に向けて、諏訪東京理科大学もまた平成 30 年を目指して公立化にそれぞれ動いている。

さらに県外に目を転じてみると、平成 28 年 4 月に、山梨学院大学スポーツ科学部スポーツ科学科[定員 170 名]が新設（既設：健康栄養学部管理栄養学科）、また、石川県内初の管理栄養士養成課程である金沢学院大学健康栄養学科[定員 80 名]（既設：スポーツ健康学科）がそれぞれ新設された。平成 27 年北陸新幹線が開通したことにより、長野県下の受験生は首都圏のみならず北陸へも流出することが想定され、ここ数年は受験動向にも注意が必要である。

平成 27 年度は、こういった状況を見極めながら第一義的には定員確保を目指し、さらに質の高い学生を獲得するために活動した。

1）年度当初の目標 ＜P＞

(a) 入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。

(b) 年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。

(c) 入学後のミスマッチを起こさないようにするため、オープンキャンパスの学科説明時や高等学校の先生に、学部・学科としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する。

(d) 編入学受験者の増加を目指す。

(e) キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。

(f) アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

2）目標の実施状況 ＜D＞

(a) 入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。

例年通り健康栄養学科では、1～5 期生の管理栄養士国家試験合格結果を基に、合格者の本学入試区分・出身高等学校での評定値・本学の管理栄養士必修科目での GPA、就職決定時期、全国模擬試験での偏差値等に関する詳細な分析を行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での評定値を変更した。

スポーツ健康学科においても、これまでの全入学者の GPA 値や異動（退学者・休学者）に関する分析を同様に行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での評定値を変更した。

また指定校枠・評定値については、各学科会議での確認と相前後して、入試広報室との議論を通して作成した最終案を教授会に上程し、承認・決定された。

(b) 年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。

両学科会議において、本年度入試の方針について議論した。

健康栄養学科では定員確保のため、年内入試（推薦入学＋AO 入試）による入学者数を 50～53 名を目標にすること、全体で 80～88 名を目指すことが確認された。また、本学科の志願者数を増やし、学力を担保した学生の獲得を目指す取り組みの一つとして、昨年に引き続き、松商学園高等学校への特別模擬講義（試験を含む、全 12 回）を実施することになった。また、スポーツ健康学科では、学科定員に配慮しつつ、良い成績が期待される学生を積極的に取っていくこと、また志願者の動向に応じて審議していく方向性が確認された。松商学園高等学校への特別模擬講義（全 3 回）を実施することとなった。

(c) 入学後のミスマッチを起こさないようにするため、オープンキャンパスの学科説明時や高等学校の先生に、学部・学科としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する。

高等学校で化学や生物を履修していないため、良い資質を持ちながらも入学後の勉学についていけなくなるケースが見受けられる。そこで、高等学校入学時、あるいは入学後の可能な限り早い時期に、健康栄養学科は理系であることを強調してもらい、進学を希望する生徒には、必ず化学や生物を履修しておくことを生徒に説明してもらえるように、引き続き依頼した。

また、進学説明会における出席者や県内の高等学校の先生方にも、同様に入学者の動向について説明し、高等学校のうちからどういうことに気をつけて大学入学に向かうべきかを説明した。

(d) 編入学受験者の増加を目指す。

編入学受験者増加のため、大学公式ホームページやオープンキャンパス等において、編入学を検討している学生に対して、学科における学びの特徴や取得可能な資格等を分かりやすく提示または説明することに努めた。

健康栄養学科の編入学受験者は1名で、またスポーツ健康学科では0名であった。

(e) キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。

キャンパス見学会、出前講義及び模擬授業の回数は表の通りである。

◆キャンパス見学会

回数（全6回）	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
日　程	5月17日	6月21日	8月2日	8月22日	9月27日

◆出前講義及び模擬授業等の回数　平成26年度（人間健康学部）

模擬講義・出前講義	学校見学に於ける講義	オープンキャンパス ミニ講義	オープンキャンパス 体験講座	高大連携の模擬講義（岡谷東高校）	松商学園高校特別模擬講義
48講座	2講座	12講座	10講座	12講座	15講座

また、高校生の大学選びとしてキャンパス見学会だけではなく、ふだんの授業や学生態度をみるという流れが、本学でも始まった。実績を以下に示す。

◆高校生のための公開授業

回数（全2回）	第一回	第二回
日　程	7月20日	10月12日

(f) アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な能力を持った学生の確保を目的として、学部・学科ごとに入試を実施しているが、入試問題の作成においては、以下の流れにしたがって行った。

推薦入試における「文章理解」問題及び一般入試試験問題については入試委員会の専門部会である入試問題検討部会において、アドミションポリシーに沿った出題方針を科目ごとに検討している。5月に外部作題者を交えた入試問題検討部会を開催し、本学のポリシーや出題範囲、難易

度等の意見交換を十分に行い、両者の意見に齟齬が無いことを確認後、後日、正式に外部作題者に依頼を行った。外部作題者は、部会での内容に基づき問題を作成し、その後、学内担当者・外部作題者間で校正と訂正を繰り返し行い、最終的に学内の入試委員会において校正を行い試験問題として採用した。

3)点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

（a）年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。

両学科とも、年度当初の学科会議で、大枠を了承してもらったおかげで、円滑に入試業務を進行することが出来た。

（b）入試区分及び成績と入学後の成績動向等を分析し、よりよい選抜につなげる。

健康栄養学科では一昨年度の定員割れ、昨年度定員確保の流れから、本年度再度定員確保に向けてスタートを切り、最終的に 83 名の入学生を獲得した。

本年度におけるキャンパス見学会および公開授業の参加者数（累計）は、健康栄養学科では昨年とほぼ同数であったが、スポーツ健康学科は 60 名近く増加した。リピーター数は、両学科とも昨年とほぼ同数であった。

健康栄養学科の志願者、合格者および手続き者（歩留まり）について述べる。

指定校の志願者数は昨年より若干減らし一昨年並であったが、公募制推薦は十数名増加した。また AO 入試の志願者は過去最高の 22 名であった。年内入試では志願者数が順調に増加したことを受け、56 名の入学者（内訳；指定校推薦：16 名、公募推薦：24 名、AO 入試：16 名）を出すことができた。一方、年明け入試（一般入試およびセンター入試）における志願者数は、昨年と比べ 30 名近く減少し、定員割れを起こした一昨年に近い状況となった。過去 5 年間の歩留まりを参考にしながら、試験結果から合格ラインを決定した。その結果、一般入試における入学者は 11 名、センター入試は 16 名で、健康栄養学科として合計 83 名（定員 80）となり、入学定員を確保することができた。なお 4 年連続で推薦入試による入学者数が定員の 50％ 以下に抑えられたことも追記する。

スポーツ健康学科では、指定校の志願者数は昨年並であったが、公募制推薦は十数名増加した。また AO 入試の志願者は昨年より数名増やした。その結果、年内入試では 84 名の入学者（内訳；指定校推薦：42 名、公募推薦：30 名、AO Ⅰ期入試：10 名、AOⅡ期入試：2 名）を獲得することができた。一方、年明け入試（一般入試およびセンター入試）における志願者数は、昨年とは異なり 30 名近く減少した。過去 5 年間の歩留まりを参考にしながら、試験結果から合格ラインを決定した。その結果、一般入試における入学者は 14 名、センター入試は 5 名で、スポーツ健康学科として 103 名の入学者を獲得することができ、定員を大幅に上回った。

（c）入学後のミスマッチを起こさないように、高等学校の先生に、本学部として求める人材像及び必要履修科目を説明する。

松商学園高等学校および県内の高等学校の進路指導の先生に対する説明会を行った。説明会で、両学科が求めている学生像は十分に伝わったと思われる。

（d）編入学受験者の増加を目指す。

引き続き、編入学受験者の増加のための編入希望者への対応を行っていく。特にスポーツ健康学科での編入希望者が、どの分野・領域にいるのかを検索する必要がある。

（ｅ）キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。

表に示したように、2015 年度のキャンパス見学会参加者（全学年および 3 年生）は、前年度と比較して健康栄養学科は約 20 名の減少が、スポーツ健康学科は 10 名ほどの増加であった。このうち、リピーター数は、前年度と比較して両学科ともほぼ同数であった。昨年に引き続き、高校生からの注目度が維持している結果だと思われる。したがって、広報活動が効果的に機能していると思われる。

表．オープンキャンパス参加者数（春のオープンキャンパスを除く）

	2015 年度				2014 年度			
	全学年		３年生のみ		全学年		３年生のみ	
	素数	ﾘﾋﾟｰﾀｰ	素数	ﾘﾋﾟｰﾀｰ	素数	ﾘﾋﾟｰﾀｰ	素数	ﾘﾋﾟｰﾀｰ
栄養	176	42	109	39	197	38	128	36
スポーツ	220	51	164	50	208	50	156	49
合計	396	93	273	89	405	88	284	85

（ｆ）アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

先に示したスケジュールにしたがって、無事に行われた。

4)次年度に向けて ＜Ａ＞

入学定員確保を第一義とし、かつ恒常的に定員を維持していくことは最重要課題であると捉えている。したがって、次年度も精力的に本学・学部・学科のアドミッション・ポリシー及びそれに基づく多様な情報を、オープン・キャンパスはもちろん、高等学校等進路室訪問、高等学校及び相談会場等において受験関係者に直接伝える機会を増やしていくことに努める。また、大学案内、募集要項、大学ホームページへなどに加え、SNS など様々な媒体をとおして、広く内外に周知し、受験生や保護者、高等学校の教員が必要とする情報を詳しく精査したうえで、正しく理解されるよう工夫を凝らし、積極的な広報活動を通して認知度を一層高め、最終的に志願者増に結びつけるべく取り組んでいくべきである。

特に学修内容と就職先との関連については、個人情報に配慮しつつも、その成果を見える化して示していくことが、高校教員への深いアピールになるであろう。

[健康栄養学科]

今年度、健康栄養学科では 83 名の入学生を獲得することができ、昨年に引き続き学科定員を確保することができた。しかし、その内容を精査してみると、決して楽な道のりではなかったといえる。年明け入試（一般入試・センター入試）では、志願者数が昨年よりも 30 名近く減少した。それに加え、歩留まりも定員割れを起こした一昨年並であったこともあった。その結果、年明け入試合格者からの入学者数は 27 名に留まった。結果論ではあるが定員確保できた最大の要因は、年内に 56 名の入学者を獲得できたことが大きいと考えている。

健康栄養学科は、次年度もまた定員確保を第一に掲げ、取り組んでいくべきであると考える。しかし、定員確保をめざすあまり基礎学力が足りない学生を入学させるのは、4 年後の国家試験の合格率に大きく影響するため、決して良い選択とはいえない。したがって、次年度入試では、上述の内容を総合的に判断し、受験動向などを見極めながらバランスよく合否を判断していきたいと考え

ている。

[スポーツ健康学科]

スポーツ健康学科として103名の入学者を獲得することができ、定員を大幅に上回った。順調に進んだことになるが、特に気になるのは、一般入試およびセンター利用入試の志願者数を大きく減らしている点である。今年度より他県にスポーツ関連の大学が２つ新設されたが、それらの影響をみるためにも、今後も注意が必要である。しかし、他大学には追随できない本学の強みがあるので、それを強く意識した募集活動を強化すべきであろう。また、定員を超過していることが、入学後の教育面を圧迫していないか、引き続き点検をすべきである。

５）委員会業務内容等について

〇予備合否判定会議

・入学試験の合否について、学部長・学科長を交えて事前に「予備合否判定会議」で検討し、原案を作成することにより、教授会判定会議における審議に役立てた。

〇主な学務内容

・学部・学科教育理念・教育目標の入試要項への記入及び説明による、進路指導教員や受験生への本学の教育理念等の明確な提示と工夫。工夫の一つに就職・進学先の実績を取り入れる必要がある。

・アドミッションポリシーの高校教員及び受験生等への徹底。この際、コースを意識したアドミッションポリシーも必要になろう。

・入試関係書類の誤記載防止への協力体制

・入学生選抜のための分析

・指定校及び指定校評定値の見直しについて

・編転入試験に伴う作問委員会への作問依頼

・編転入学試験受験者の査定と伝達

・編入における指定校の検討及び実施

・入試実施ごとの教員担当業務についての割り振りと依頼

・入試問題作成・校正・採点についての依頼

・入試当日の責任業務

・入学試験の実施・評価・合否判定会議までの進行

・次年度入試関連業務の検討事項の抽出

・キャンパス見学会・公開授業・出前講義・進路説明会の担当教員についての割り振りと依頼

・キャンパス見学会での学科説明会の内容検討

＜執筆担当／入試委員会　人間健康学部主任　髙木　勝広＞

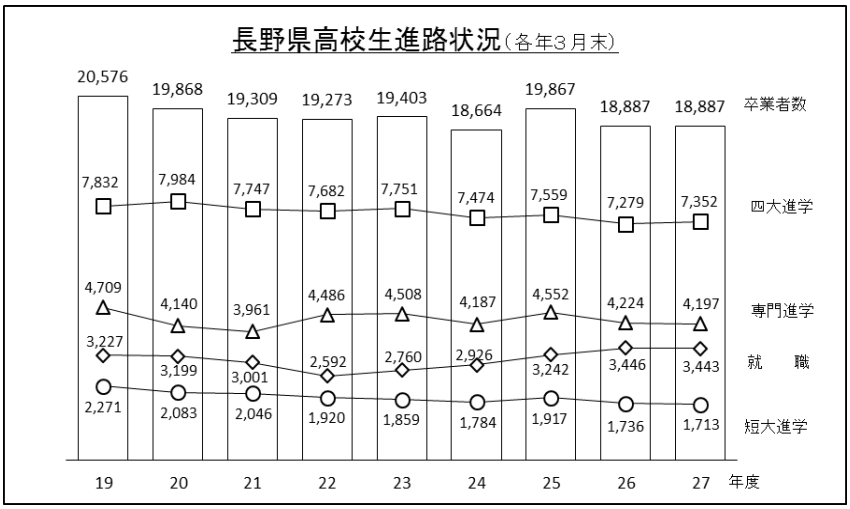
（４）松商短期大学部入試委員会

１）平成27年度当初の計画 ＜Ｐ＞

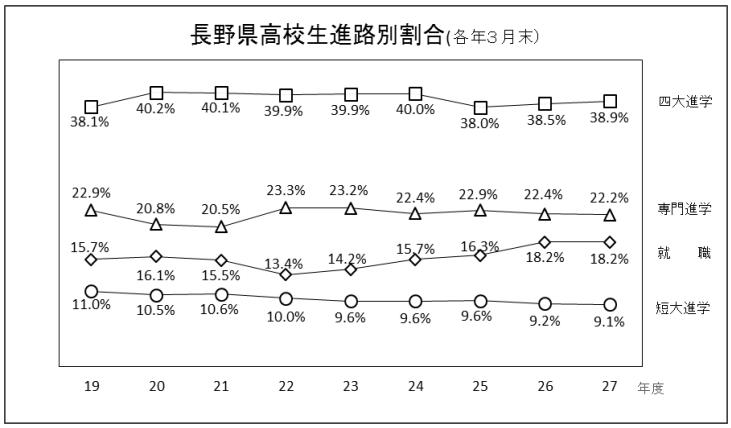
短期大学部入試委員会の平成27年度当初の目標は、入学志願者250人・入学定員200人の確保である。

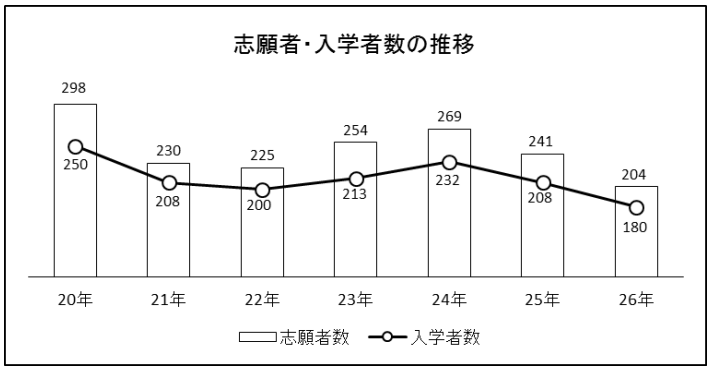
文部科学省学校基本調査によれば、平成19年度から平成27年度までの長野県高校卒業者の進路

別人数は、以下の通りである(各年 3 月末)。県内高校卒業者は平成 20 年度以降、2 万人を割り込み、平成 25 年度にやや増加したものの、ここ 2 年間は 1 万 8 千人台で推移している。一昨年度 3 月と比較した昨年度の特徴は、卒業者数が横ばいの状況において、四年制大学進学者のみが 73 人の増加、他はすべて減少となり、短期大学進学者が 23 人、専門学校進学者が 27 人、就職者が 3 人の減となっている。総じて、県内高校生の進路状況は、この 2 年間ではそれほど大きな変動がなかったと言える。



卒業者に対する進路先の割合で見ると、以下の通りとなる。平成 23 年度以降の 5 年間で見ると、四年制大学進学率は 40%で頭打ちとなり、専門学校進学率は 22%台で落ち着き、短大進学率は 9%台後半から前半へと減少している。それに対して就職者の割合は、この 5 年間で約 4%の伸びを示している。ここから、最近 5 年間の短期大学の学生募集の苦戦の一因を高卒段階での就職者の増加と捉えることもできる。





本学の志願者数は、平成 22 年度の 225 人という危機的な状況から、翌年度 254 人、平成 24 年度 269 人と回復したものの平成 25 年度 241 人、作年度は平成 22 年度を下回る 204 人と減少し、その結果、入学者 180 人と 11 年ぶりの定員割れとなった。四年制大学進学率が微増し、短大進学率、専門学校進学率、就職率がいずれも伸び悩む中で、本学は前年比マイナス 15%と大幅に志願者を減らす結果となった。県内高校生の進学状況を見る限り、数字の上では、高校生の四年制大学進学志向の上昇が、本学に厳しい状況をもたらしたと言わねばならない。したがって、四年制大学志向によって本学への志願者が減った分を、専門学校や就職を志向する層から如何に本学の志願に結びつけていけるのかがポイントとなる。つまり、今年度の学生募集活動は、高校就職希望者および専門学校志願者に対する働きかけが、例年以上に重要となるということである。昨年度の

本学の教育実績を踏まえた、専門学校に対する本学の優位性、就中、就職面での優位性を強くアピールした募集活動の展開が必然となる。

２）平成 27 年度(平成 28 年度入試)の実績～現状の説明～）＜Ｄ＞

①松商短大部入学志願状況

今年度を含む過去３年の入試区分別志願者数は次表の通りである。

入試区分		特待生	推薦	一般	センター･留学	AO	計
27年度 (28年3月末)	商＆経営情報	経済支援 7 学業学力 7	指定 137 一般 36 自己 7	A 17 B 5 C 2	センター 21 留学 0	Ⅰ期 15 Ⅱ期 12 社会人 0	
	計	14	180	24	21	27	266（入学235）
26年度 (27年3月末)	商＆経営情報	経済支援 6 学業学力 9	指定 110 一般 25 自己 1	A 12 B 1 C 1	センター 11 留学 2	Ⅰ期 15 Ⅱ期 11 社会人 0	
	計	15	136	14	13	26	204（入学180）
25年度 (26年3月末)	商＆経営情報	経済支援 8 学業学力 17	指定 136 一般 35 自己 4	A 12 B 0 C 0	センター 14 留学 0	Ⅰ期 7 Ⅱ期 8 社会人 0	
	計	25	175	12	14	15	241（入学208）

今年度の志願者数は昨年度から 62 人増の 266 人となり、年度当初の目標 250 人を 2 年ぶりに達成することができた。入試区分ごとの増減は表の通りであるが、特待生入試、ＡＯ入試で昨年度とほぼ同数であったほかは、すべての区分で昨年度を上回った。特に、推薦入試での 44 人増、一般入試・センター利用入試での各 10 人増が全体の志願者数を押し上げる結果となった。

②本年度入学試験区分別状況

入試区分毎の志願者・合格者・入学者数を過去３年で比較してみると以下のとおりである。

27年度 試験日	入試区分	志願者数			合格者数			入学者数		
		27年	26年	25年	27年	26年	25年	27年	26年	25年
11月 1日	特待生(経済支援)	7	6	8	2	2	2	2	2	3
	(学業学力)	7	9	17	1	2	3	1	2	2
11月 8日	推薦前期(指定)	137	110	136	136	110	136	136	110	134
	(一般)	31	22	32	31	22	32	31	22	32
12月14日	推薦後期(一般)	5	3	3	5	3	3	5	3	3
	(自己)	7	1	4	7	1	4	7	1	4
12月14日	留学生	0	1	0	0	1	0	0	1	0
9月19日	ＡＯⅠ期	15	15	7	15	15	7	15	14	7
	社会人AOⅠ期	0	0	0	0	－	0	0	－	―
11月 1日	ＡＯⅡ期	12	11	8	12	11	8	12	11	8
	社会人AOⅡ期	0	0	0	0	－	0	0	－	―
年内計		221	178	215	209	167	195	209	166	193
1月31日	一般 A	17	12	12	16	12	11	10	9	6
3月 6日	一般 B	5	1	0	5	1	0	5	1	0
3月19日	一般 C	2	1	0	2	1	0	2	1	0
2月	センター Ⅰ期	15	5	11	15	5	10	8	1	6
3月	センター Ⅱ期	3	5	2	3	5	2	0	1	2
3月	センター Ⅲ期	3	1	1	2	1	1	1	0	1
2月20日	留学生	0	1	0	0		0	0	1	0
年明け計		45	26	26	43	25	24	26	14	15
総計		266	204	241	252	192	219	235	180	208

昨年度に比べた年内実施の試験における志願者数の増加は 43 人であり、これに年明け実施の試験におけるその増加 19 名が上積みされ今年度全体の志願者数の増加となった。年内入試においては、推薦前期入試で 36 人の増加、その内訳は指定校推薦入試 27 人、一般推薦入試 9 人であり、推薦後期入試では自己推薦入試で 6 人の増加となった。特待生入試およびＡＯ入試について

はほぼ昨年と同様の志願者数であり、今年度の志願者数の回復は指定校推薦入試におけるその増加が大きかったと言える。その結果、２年ぶりに年内の 12 月において、定員を超える入学者 209 人を確保するに至った。

年明けの入試に関しては、一般Ａ･Ｂ･Ｃのいずれにおいても志願者数が増加し、全体で 10 人の増加となった。またセンター利用入試については第Ｉ期入試において 10 人増加し、年明けの入試における入学者は計 26 人となった。その結果、今年度入学者は 235 人となり、昨年度の定員割れを１年で克服し、平成 24 年度の水準(志願者 269 人、入学者 232 人)にまで回復することができた。

③志願者・入学者の出身地区別状況

過去３年間の志願者･入学者の出身高校地区別一覧は次のとおりである。

地区	27年			26年			25年		
	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者
中信	20	147	134	18	113	105	19	142	122
南信	21	60	50	13	45	37	15	41	36
北信	17	38	34	13	24	20	13	31	27
東信	7	12	9	5	8	8	8	17	14
計	65	257	227	49	190	170	55	231	199
県外	8	9	8	6	12	8	9	10	9
計	73	266	235	55	202	178	64	241	208
留学	0	0	0	2	2	2	0	0	0
計	73	266	235	57	204	180	64	241	208

県内外を合わせて志願実績のあった高等学校数は 73 校(留学生は除く)で昨年度から 18 校の増加となった。内訳は中信地区で２校、南信で８校、北信で４校、東信で２校、県外で２校の増であり平成 20 年度以降の８年間で最多となった。志願者数では、中信地区で 34 人、南信で 15 人、北信で 14 人、東信で 4 人が増加し、県外でのみ 3 人の減となった。 入学者は、中信地区で 29 人、南信で 13 人、北信で 14 人、東信で１人の増加であった。

④入学者の出身高校別状況

過去３年で本学への入学実績が５人以上であった高校は次表の通りである。今年度、本学に志願者のあった学校数は 73 校、昨年度は 55 校(留学生を除く)、一昨年度は 64 校であったが、入学実績５人以上で比較してみると、今年度が 11 校 126 名、昨年度 10 校 98 人、一昨年度が 11 校 121 人であった。入学者５名以上では昨年度より 1 校のみ増ではあるものの入学者で 28 名の増加となり、入学者数の上位３校の合計では今年度 64 人、昨年度 53 人、一昨年度 61 名となり、上位 10 校では今年度 121 人、昨年度 98 人、一昨年度 116 人となった。今年度は、本学を志願する高校の増加といわゆる常連校からの入学者の回帰が目立つ結果となった。

上位校の顔ぶれは、1 位が 3 年連続で松商高校、2 位には 3 年ぶりに穂高商業が返り咲き、3 位はこの３年間で大口常連校となってきた松本美須々ヶ丘高校が入った。4 位はＶ字回復を見せた田川高校と初めて 2 桁の入学者数となった都市大塩尻高校が分け合った。6 位は昨年度から 3 人減らした塩尻志学館高校と 4 人増やした梓川高校であり、ともに 9 人の入学者となった。上位校の顔ぶれは、田川高校が復活、都市大塩尻高校と岡谷東高校が躍進した一方で、一昨年度、昨年度と 2 位であった豊科高校が大きく順位を落とし、また昨年度 6 位の諏訪実業高校も圏外とな

った。

28年度入学(27年)		
①	松商	30
②	穂高商業	21
③	松本美須々ケ丘	13
④	田川	10
	東京都市大学塩尻	10
⑥	塩尻志学館	9
	梓川	9
⑧	岡谷東	8
⑨	豊科	6
⑩	大町北	5
	下諏訪向陽	5
	計	126
⑫	岡谷南	4
	長野南	4
	明科高校	4
	赤穂	4
	上伊那農業	4
	東海大学付属第三	4
	計	150

27年度入学(26年)		
①	松商	28
②	豊科	13
③	塩尻志学館	12
④	穂高商業	10
	松本美須々ケ丘	8
⑥	諏訪実業	7
⑦	梓川	5
	伊那西	5
	大町北	5
	辰野	5
	計	98
⑪	岡谷南	4
	松本筑摩	4
	田川	4
	東京都市大学塩尻	4
	計	114

26年度入学(25年)		
①	松商	31
②	豊科	17
③	穂高商業	13
④	田川	12
⑤	松本美須々ケ丘	11
⑥	長野商業	9
⑦	塩尻志学館	7
⑧	下諏訪向陽	6
⑨	岡谷東	5
	松本第一	5
	辰野	5
	計	121
⑫	小諸商業	4
	松本蟻ケ崎	4
	松本筑摩	4
	大町北	4
	計	137

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

今年度は志願者 266 人、入学者 235 人といずれも年度当初の目標を達成し、昨年度の 20 人の定員不足分も取り戻し、２学年分の総定員 400 人も超えることができた。

入試別に見てみると、特待生入試を除くすべての入試区分で昨年度の志願者数を上回り、入学者数を増加させた。特に年内実施の推薦前期入試の指定校推薦入試および一般推薦入試の人数が昨年度を大きく上回り、一昨年度の水準にまで回復したこと、また、年明けの一般入試およびセンター利用入試についても志願者で 20 人、入学者で 13 人の増加となったことが今年度の好結果を支えたと見ることができる。また、特待生入試(経済支援･学業学力)の志願者数は、今年度 14 人、昨年度 15 人、一昨年度 25 人であり、その合格者は、今年度 3 人、昨年度 4 人、一昨年度 5 人であるが、例年、この特待生入試の不合格者のほとんどは前期の一般推薦入試の志願に回り、その合格となる傾向が極めて強い。この点を踏まえて、この 3 年間の前期一般推薦入試の人数を見てみると、今年度は、志願者 31 人のうち 11 人が特待生不合格者であり、昨年度は 22 人のうち 11 人、一昨年度は 32 人のうち 20 人がその人数となる。したがって、特待生入試の影響を受けない前期一般推薦入試の純志願者数は、今年度 20 人、昨年度 11 人、一昨年度 12 人ということなり、この点でも今年度の人数の実質的な増加が確認される。

年明けの入試全体での合格者に対する入学者の割合いわゆる歩留率は、60%(昨年度 56%、一昨年度 62.5%)であったが、一般入試の歩留率は 74%(昨年度 78.6%、一昨年度 54.5%)と昨年度よりやや低下し、センター利用入試の歩留は 45%(昨年度 27%、一昨年度 69%)とやや回復したと言える。

平成 23(2011)年度から始めた高校時代の専門資格の取得状況に応じた入学金割引制度、本学への兄弟姉妹入学者についての入学金割引制度の利用状況は、推薦入試段階で専門資格取得割引の対象者が昨年度と同じ 10 人、兄弟姉妹免除が 16 人(昨年 4 人)、一般入試段階(センター試験利用含む)で資格割引が 1 人(昨年 3 人)、兄弟姉妹割引が 1 人(昨年 3 人)であった。また、作年度から、松商学

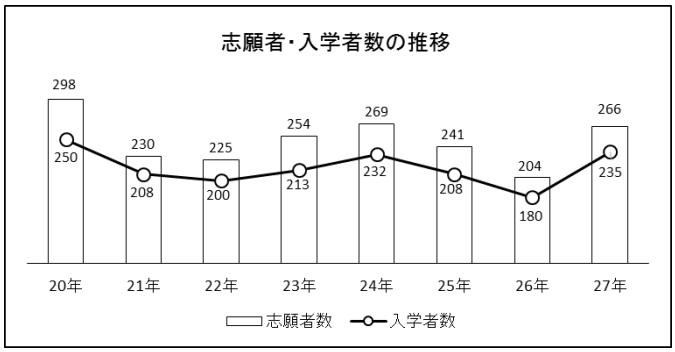
園高校出身者に対しては入学金の全額免除を実施し、今年度は推薦入試段階で 27 人、一般入試段階で 3 人が該当した。資格割引の 4 月入学時申請が昨年と同じ 12 人あり、入試合格時点から入学までの学習目標としての効果が大きく、高校から短大への教育接続の面でも良い傾向にあると言える。今年度の資格割引の対象者は計 23 人であり、その内訳は、漢字検定 2 級 12 人、英語検定 2 級 2 人、日商簿記 2 級 6 人、IT パスポート 3 人であった。

入学者の出身地区をみると、昨年度に比べて県内では中信･南信･北信･東信の全地区で増加し、特に中信地区での増加が大きかった。また、一昨年度と比較しても、東信地区での 5 人減を除き、増加している。今年度志願のあった学校数についても、南信地区での 8 校増を筆頭に、県内全地区また県外でも増加となり、きめ細かい地道な高校訪問の成果が現れている。

地区別の志願者に対する入学者の割合は、中信で 93%(昨年 93%、一昨年 86%)、南信で 83%(昨年 82%、一昨年 88%)、北信で 89%(昨年 83%、一昨年 87%)、東信で 75%(昨年 100%、一昨年 82%)であり､県内計では 89%(昨年 88%、一昨年 86%)、県外および留学生を加えた全体でもほぼ同様の割合となった。

入学者の出身高校を見ると、入学者数上位校では、穂高商業高校･田川高校･岡谷東高校の復調が大きく、松本美須々ヶ丘高校の堅調な伸びと都市大塩尻高校の躍進が目立った。その一方で、豊科高校および諏訪実業高校の減少、長野商業高校の低調さが気になるところである。今年度は、豊科高校においては、四年制大学志向が強く、また、諏訪実業および長野商業高校については就職志向が強かったと推察される。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞



昨年度志願者 204 人、入学者 180 人から今年度志願者 266 人､入学者 235 人へと数字の上ではいわゆるＶ字回復となった。しかしながら、ここまでの回復を誰が予想できたであろうか。昨年度と今年度で本学の教育内容には特に大きな変化はないが、昨年度の本報告書で述べたとおり、今年度の学生募集活動においては昨年度の本学の好調な就職実績のＰＲに力を注いだ。この点が功を奏したと同時に、受験生の家庭を取り巻く経済環境が、昨年度よりもいくらか改善され、金銭的な面での短期大学進学に対する追い風となったのとの指摘もある。

しかしながら、本学を取り巻く状況は、決して予断を許さない。県内高校生の進学状況を見る限り、中堅クラス以上の高校生の四年制大学進学志向の上昇、中堅クラス以下の高校生の就職・専門学校志向の増大が予測され、本学は依然として厳しい状況に晒されている。そんな中、本学にとっては、今年度も引き続き好調な就職実績が学生募集最大の強みとなる筈である。この本学の就職における優位性をさらに積極的にＰＲして高卒就職希望者、専門学校進学希望者を本学志願に取り込んでいかねばならない。

また、四学期制カリキュラムの構築、ＩＣＴを活用した最新の教育手法、外国語を基礎とした異文化コミュニケーション能力育成教育など、ビジネス系の専門学校と本学の教育内容の違いを鮮明

に打ち出し、専門学校にはない本学独自の「学びの多様性・専門性」を具現する教育システム「フィールド･ユニット制」とそれに基づく質の高い就職の実現をこれまで以上に強力にＰＲし､志願者増に結びつけていく。同時に、経済的な支援の面でもこれまでと同様に、本学独自の学費免除制度、入学金割引制度、就学支援制度を強くアピールして志願者増につなげていかなければならない。昨年度と同様、長野県内各地域を中心に、新潟県、山梨県も視野に入れての学生募集活動も重要になる。

ビジネス系であるならば、専門学校よりも松商短大という点を強力にアピールしながら、来年度も入学志願者 250 名・入学定員 200 名の確保を目指したい。

＜執筆担当／入試委員会　松商短期大学部主任　山添　昌彦＞

（５）入試問題検討部会

入試問題検討部会は各学部・学科の代表計 9 名および入試広報室の職員により構成され、2015 年度は全学入試委員長が部会長を兼任している。具体的には、国語・数学・現代社会・地理・日本史・英語については総合経営学部から、生物・化学については人間健康学部から委員が選ばれており、また国語については短期大学部からも委員が選ばれている。

入試問題検討部会は昨年度に新設された部会であり、入試委員会の下部組織となる。

同部会の役割は、大きく以下の 4 点に集約できる。

①入試問題の出題方針の決定

一般入試（計 4 回）に出題される試験問題に関し、各科目の出題方針を決定する。この際、科目担当委員と出題者との間で綿密なコミュニケーションを取る必要があり、最終的には両者合意の上で出題方針が決定されることとなる。出題方針が決定できなかった際には、入試問題検討部会ならびに入試委員会で審議の上、出題方針を決定することとなる。

②入試問題案の途中チェック

作題者より試験問題案が提出された後、各担当者は方針通りに試験問題が作成されているか、また出題ミス等が生じていないかチェックする。方針と異なる出題やミスが発見された場合には、作題者に連絡の上、修正を要請する。

③入試問題案への責任

上記②のプロセスを経た上で、最終的な試験問題が確定するが、確定後もミスがないか、再度、入試問題の確認を実施する。その際、教員のみならず事務職員にも協力を依頼し、複数によるチェックを行う。

④作題者との綿密なコミュニケーション

上記プロセスでは作題者との非常に多くのやりとりが生ずることとなり、担当委員には非常に重い負荷となる。しかしこれは大学が作題を丸投げしていないことの証でもある。

やりとりには郵便の他、E メール、電話等が用いられるが、可能な限り入試委員会ならびに入試問題検討部会にその内容を報告することとなっている。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

上述の通り、設置後間もない部会であるため、試行錯誤の連続でもあったが、その中で 2015 年度は以下の項目の達成を目標とした。

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

大学の出題方針を明確にするために、作題者ならびに担当委員を全員招集する会議を、年度の早い段階で開催する。

②ミスのない試験問題の作成

当たり前だが、出題ミス等が生じないよう、万全のチェック体制を整える。

2）現状の説明 ＜D＞

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

同会議を 5 月に開催し、作題案の最終締切や今後の流れなどについて説明を行った。その後、作題者も含めて意見交換等を行い、白熱した議論となった。

②ミスのない試験問題の作成

チェック体制の整備に努めた結果、今年度の入試問題にミスは生じなかった。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

会議の開催を 6 月から 5 月に変更したことにより、作題に対しては時間的に余裕が生まれた。これにより、試験問題案の大きな差し替え等にも余裕を持って対応することができた。

②ミスのない試験問題の作成

試験問題にミスがなかったことは評価できる。ただしミスがないことが当たり前なので、引き続き緊張感をもって試験問題のチェックに臨む。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

引き続き会議を 5 月に開催し、最終締切までの時間的余裕をもてるように配慮する。また同会議において、試験問題の作成が完了するまでの流れを再度、議論したい。

②ミスのない試験問題の作成

現状のチェック体制の制度をさらに高めるよう、再度チェック体制の整備を行う。

＜執筆担当／入試問題検討部会長　上野　隆幸＞

2．広報委員会

18 歳人口が減少期に入る「2018 年問題」も間近にせまり、本学を取り巻く社会環境も大きく変化している。県内では平成 27 年 4 月に大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校松本校・大原スポーツ公務員専門学校松本校が開校した。平成 30 年度には長野県立大学が開校予定で、グローバルマネジメント学部、健康発達学部（管理栄養士養成を含む）を有する。さらに長野大学は平成 29 年 4 月に公立大学法人化に向けて、諏訪東京理科大学もまた平成 30 年を目指して公立化にそれぞれ動いており、今後の動向に注意が必要である。

いうまでもなく本委員会の役割は、受験生、在学生・父母、地域住民等に対して、大学が行っている教育・研究・社会貢献活動等の情報を的確に発信していくことで、大学としての社会的使命を果たしている姿を内外に知らせることである。具体的には、公式ウェブサイトの運営管理と学報『蒼穹』の編集発行（年 4 回）を行う。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

一昨年（2013（平成 25）年度）の基本方針「情報収集活動及び情報発信活動を強化し、広く大学を PR していく」を引継ぎ、①公式ウェブサイトの一層の充実を図るとともに、②学報『蒼穹』を広く大学を PR するためのツールとして利用できるような広報誌に衣替えする。

２）実施した活動の概要 ＜Ｄ＞

①公式ウェブサイトの運営管理

リニューアルした公式ウェブサイトを基本に、さらに情報発信力を高めるため、内容の充実を図った。

②広報誌としての学報『蒼穹』の編集発行

編集にあたり、編集会議を兼ねた全学広報委員会を定期的に開催し、情報収集・編集体制を強化する等内容の充実に努めた。

なお、今年度の特集は、「『学内の国際化』めざし海外の教育力を活用」（2015 年 6 月号）をはじめ、「教育で地域を『元気』に～松本大学の双方向の学び～」（2015 年 9 月号）、「大学職員のレベルアップへ団結～本学で『大学人サミット』開催～」（2015 年 12 月号）、「発展する高大連携事業‘地域づくりのひとづくり’」（2016 年 3 月号）を取り上げた。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

①公式ウェブサイトの運営管理

公式ウェブサイトの情報の更新および追加を行ったことにより、内容の充実化等が図られた。

②学報『蒼穹』の編集発行

編集会議を兼ねた全学広報委員会を定期的に開催することによって、情報収集・編集体制の強化が図られた。「本学の特色ある取り組み」をもっとも効果的に世間に伝えられるよう、特に巻頭特集の内容については、編集会議でよく吟味し、広報誌として役割に一定の改善が図られた。

４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

①公式ウェブサイトの運営管理

今後も、利用者の要望等を踏まえ、公式ウェブサイトの利便性の向上、内容の充実化等を図る。

②広報誌『蒼穹』の編集発行

今後も、「本学の特色ある取り組みをわかりやすく伝える広報誌」になるよう、さらなる改善に努める。そのためにも、大学・学部・学科等における取り組み情報をできるだけ多く収集するシステム作りに努めて参りたい。

③その他

卒業生 Web キャリア図鑑の戦略的情報収集について、次年度からは就職委員会・キャリアセンターと連携する仕組み作りをすることが提案され、それぞれの学部就職委員会で話しがもたれた。

＜執筆担当／全学広報委員会　委員長　髙木　勝広＞

３．高大連携推進委員会

１）平成 27 年度当初の計画 ＜Ｐ＞

地方創生が最優先の課題として位置づけられる中で、若者の地元定着は重要な課題である。した

がって、地域の若者を育て地域に定着させることを目的に掲げる本学にとって、高校との連携は広報・学生募集活動にとどまらず、地域の若者を育てることそのものである。本学では開学以来、高大連携事業は本学の地域連携事業の一つとして、地域の協力を得ながら取り組んでいる。

平成 26 年度までに本学が連携協定を結んでいる高等学校は、松商学園高校、飯田 OIDE 長姫高校、丸子修学館高校、エクセラン高校、岡谷東高校、穂高商業高校の５校であったが、平成 27 年度においては南安曇農業高校との間に新たに連携協定を締結した。また、県内の商業高校と連携した実践的な商業教育であるデパートサミット事業において連携を深めてきた長野県商業教育研究会とは、あらたに連携協定を結び、さらに活動を深化させることになった。また、飯田長姫 OIDE 高校とは、地域人教育を推進するとともに、田川高校、梓川高校、辰野高校など近隣の高校とは、事業ベースで協力連携関係を築いている。

学部別の当初計画は以下のとおりである。

（1）総合経営学部

総合経営学部においては、これまでの連携事業を継続させるとともに、①高大連携事業は具体的なテーマや課題を切り口にして実践的な取り組みから始める、②高校生と大学生に加えてそれを支える地域の人々にも参画してもらう、③協定など形にとらわれずに、実践を積み重ねる中で信頼関係を築くことを大切にしてより教育的な効果をあげることができるような取り組みを行なう。

また、連携事業を担当する教員が観光ホスピタリティ学科に偏っていることから、総合経営学部の取り組みとしてより多くの教員の参画を促すとともに、広報活動との連携を深める。

（2）人間健康学部

人間健康学部では、スポーツ健康学科が岡谷東高校との連携事業を継続的に実施する。この岡谷東高校との連携事業は８年目となり、これまでと同様に①スポーツ及び健康科学における同様の専門を有することより、それぞれの立場からお互いの利点を活用することによって、双方の教育力、専門性の向上を図ること、②教職関係授業における実習の場としての活用及び専門的内容を高校生にも分かりやすく伝達する教育スキルの向上、③スポーツ健康学科の特色等を実際に理解してもらうことにより、よりよい入学者の確保を目的として、取り組む。

（3）松商短期大学部

例年通り、穂高商業高校、松商学園高校商業科との連携事業を中心に取り組む。具体的には高校生が大学の授業に挑戦するチャレンジ型連携、本学教員が定期的に高校に出向いてより高いレベルの講義を行うグレードアップ型連携の２つである。

２）平成 27 年度の実績～現状の説明～　＜Ｄ＞

（1）新たな協定の締結

県内の商業高校に学ぶ高校生を対象として地域を担う人材の育成の取り組みである「デパートサミット事業」をさらに連携して発展させるために、長野県商業教育研究会と「高大連携教育の推進に関する協定」を締結した。具体的には、時代に対応した商業教育の推進や主体性、実践力を育成する新たな学びの展開、地域に関心を持った地域に貢献する人材の育成、高校と大学を通じた一貫したキャリア意識の醸成などをめざすことを目的として、生徒に対する連携教育の計画と実施、連携教育における大学生による生徒の指導、大学教員と教員の共同による教育研究などに取り組んでいく。

また、長野県南安曇農業高等学校との間で、連携して両校の特色を活かした教育活動を推進し、相互の教育の充実を図ることで、地域社会の中核となる産業人を育成し、地域の発展に資するために、「高大連携教育に関する協定」を締結した。

（2）総合経営学部の取組

総合経営学部では今年度、以下の取り組みを行った。

① デパートサミット（マーケッティグ塾・デパートゆにっと）

〈第3期　平成26年12月~平成27年10月〉

第3期として9回に亘りマーケッティング塾を開催し、その成果の発表として、平成27年8月にながの東急にて、「デパートゆにっと」として2日間実施し、県内の10校から高校生53名、教員23名が参加した。また県外の高校4校も参加した。

〈第4期　平成27年12月～平成28年3月（継続中〉

第4期のマーケッティング塾として3回（平成28年3月まで）実施し、11校から高校生75名、教員27名が参加した。第4期より南安曇農業高校がオブザーバーとして参加して商業高校の高校生と共に学び、連携して商品開発に取り組んでいる。

またデパートサミット事業に高校時代に参画して本学に進学した学生を中心にデパートサミット事業を支援することを目的とした学生組織「ゆにまる」が結成され、マーケティング塾における運営アシスタントの役割を担うとともに、「ゆにまる」として商品開発を行ないデパートゆにっとにも参加した。

〈バレンタインスイーツ販売　平成28年2月6・7日〉

2日間にわたり、諏訪実業高校、穂高商業高校、丸子修学館高校、辰野商業高校、松商学園高校、長野商業高校とかんこう観光ホスピタリティ学科白戸ゼミ、松商短期大学部金子ゼミ、健康栄養学科矢内ゼミ、「ゆにまる」が参加して商品開発を行なったスィーツの販売をアイシティ21（井上百貨店）にて行なった。また、事前に商品発表会等を行った。

② 地域人教育

飯田市と、飯田長姫OIDE高校、本学の3者で平成24年度に地域人教育の推進に向けての連携協定を締結。1年次から3年次まで様々なプログラムで地域人教育を実践した。3年間で160時間のプログラムを大学と飯田市が協力して実施するものである。本年度は、総合経営学部より述べ6名の教員が高校にて講義を行なったほか、松本市内置けるフィールドワーク実習やリヤカー販売実習、飯田市内におけるフィールドワーク、高校生の活動を大学生が評価する交流事業などを実施した。また、地域人教育の円滑な推進のために、高校教員や飯田市職員との協議や学習会、研修などを行い、信頼関係を構築するとともに、事業の目的などの共通理解を図った。

本年度は1年次から地域人教育を受けた高校の卒業生が、本学に入学し7年間一貫教育の一歩を踏み出した。

③ 梓川高校・田川高校と地域の連携教育への支援

梓川高校には、観光ホスピタリティ学科から5年前より福祉の科目について講師として教員を派遣している他、学校評議員会にも委員を派遣している。その結果、地元地域と高校との間で連携協力関係が構築されている。

また、田川高校については、平成25年度から、高校の地元村井駅前の商店街より高校との連

携を発展させたいとの要望が本学に寄せられたことをきっかけとして、毎年７月に開催される「村井商工祭」において、高校生と大学生のコラボレーションによるカフェ等の出店を実施した。

（３）人間健康学部の取組

①岡谷東高校との連携事業

実施概要（期日・場所・内容）については以下の通りである。なお、本事業実施に向けての打合せは、メール、電話を利用すると共に教育実習校訪問、高大連携成果発表会（岡谷東高校）時に行った。

○高校生の大学授業・キャンパスライフ体験　※場所はすべて松本大学

№.	月日	対象	時間	内容	担当	講義タイトル
1	７月４日（月）	１年生	9:40～ 9:55	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中島　弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	齊藤　茂	スポーツにおけるこころのあり方
			11:10～12:10	模擬講義	中島　弘毅	運動の脳に及ぼす影響
			12:10～13:00	昼食	中島　弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	江原　孝史	肥満について
2	７月５日（火）	２年生	9:40～ 9:55	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中島　弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	犬飼己紀子	レクリエーション・GWT
			11:10～12:10	模擬講義	呉　泰雄	スポーツ栄養学
			12:10～13:00	昼食	中島　弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	田邉　愛子	体力について
3	９月12日（月）	１年生	9:40～ 9:55	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中島　弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	岩間　英明	スポーツを学ぶということ
			11:10～12:10	模擬講義	中島　節子	養護教諭・健康
			12:10～13:00	昼食	中島　弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	等々力賢治	スポーツおもしろ講座
4	９月13日（火）	２年生	9:40～ 9:55	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中島　弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	新井喜代加	スポーツ法学
			11:10～12:10	模擬講義	河野　史倫	宇宙生理学
			12:10～13:00	昼食	中島　弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	根本　賢一	体力測定と評価

（４）松商短期大学部の取組

以下の通り、夏と春のチャレンジ型連携、年間を通したグレードアップ型連携を実施した。

① 大学授業チャレンジ型連携

高校の夏休み・春休みを利用して、本学において大学の経済・ビジネス系等の専門科目を受講しながら、学食利用、教室移動等の具体的なキャンパスライフを高校生に体験してもらうことを内容とした連携であり、今年度は、７月１４日～１６日の３日間で松商学園高校商業科生徒のべ約 400 名を、７月 29 日～31 日で穂高商業高校 77 名、29 日のみで諏訪実業高校 21 名を受け入れ、３月 14・15 日に穂高商業高校の生徒 76 名、諏訪実業高校 10 名を受け入れた。開講科目・時間割は以下のとおりである。

松商学園高校商業科チャレンジ講座2015

		3時限 14:00～15:00	4時限 15:10～16:10
7月14日	(火)	マーケティング(金子)132教室 1年生42名　2年生32名　3年生8名　計82名	経営分析(山添)132教室 1年生31名　2年生23名　3年生8名　計62名
7月15日	(水)	国際コミュニケーション(糸井)132教室 1年生26名　2年生35名　3年生3名　計64名	ブライダル入門(小澤)132教室 1年生30名　2年生42名　3年生5名　計77名
7月16日	(木)	**金融の基礎(藤波) 132教室** 1年生31名　2年生22名　3年生5名　計58名	医療事務(浜崎)132教室 1年生25名　2年生32名　3年生5名　計62名

大学授業チャレンジ型連携(2015年夏)　講義時間割

	1時限 9:40～10:40	2時限 10:50～11:50	3時限 13:00～14:00	4時限 14:10～15:10
7月29日(水)	マーケティング①(金子) 523教室 穂商77名　諏訪実21名	銀行論①(藤波) 523教室 穂商77名　諏訪実21名	キャリアクリエイト①(糸井) 521教室 穂商77名　諏訪実21名	経済学入門①(糸井) 523教室 穂商77名　諏訪実21名
7月30日(木)	パソコン演習①(浜崎) 212教室(穂商44名)	Excel経営分析①(山添) 212教室(穂商44名)	マーケティング②(金子) 523教室 穂商77名	経営分析①(山添) 525教室 穂商77名
	Excel経営分析①(山添) 322教室(穂商43名)	パソコン演習①(浜崎) 322教室(穂商43名)		
7月31日(金)	会計学入門①(香取) 521教室 穂商77名	銀行論②(藤波) 521教室 穂商77名	実業高校からの 進学・就職を考える 中村入試広報室長) 232教室 穂商77名	アンケート記入 232教室 穂商77名　14:30終了

7月29日(水)9時20～40分　開講式　523教室

大学授業チャレンジ型連携(2016春)　講義時間割

	1時限 9:40～10:40	2時限 10:50～11:50	3時限 13:00～14:00	4時限 14:10～15:10
3月14日(月)	実業高校からの 進学・就職を考える (中村入試広報室長) 521教室　穂商72　諏実10	経済学入門②(糸井) **515教室** 穂商72名　諏実10名	銀行論③(藤波) **232教室** 穂商72名　諏実10名	マーケティング③(金子) **121教室** 穂商72名　諏実10名
3月15日(火)	銀行論④(藤波) 514教室 **穂商76名　諏実8名**	パソコン演習②(浜崎) 332教室:穂商50名 会計学入門②(香取) 232教室:穂商27、諏実8	会計学入門②(香取) 232教室:穂商50名 パソコン演習②(浜崎) 332教室:穂商27、諏実8	キャリアクリエイト②(糸井) 515教室 **穂商76名　諏実8名**

② 高校授業グレードアップ型連携

穂高商業高校において既に日本商工会議所簿記検定2級を取得したか、それと同程度の実力があると認められる生徒を対象に、本学教員が同校に週1回出向いて日商1級の「商業簿記・会計学」「工業簿記・原価計算」を講義することを内容とした連携であり、毎週月曜日の2・3時限目(10時20分～12時10分)に今年度は全24回実施した(本学担当は香取・山添)。参加生徒は例年15名前後であったが、今年度は40名と過去最大人数となった。講義日程・内容は以下のとおりである。

高校授業グレードアップ型連携2015 講義日程(穂高商業高校)

回	日 程		科　　目	テ　　ー　　マ*	担当
1	4月13日	月	工業簿記・原価計算Ⅰ	意思決定会計総論～ディズニーランドへ行く～	山添
2	4月20日	月	工業簿記・原価計算Ⅱ	意思決定のための利益計算方式～焼きそば屋台の利益計算～	
3	5月11日	月	工業簿記・原価計算Ⅲ	業務執行的意思決定会計(1)～特別注文がきたらどうする？～	
4	5月25日	月	工業簿記・原価計算Ⅳ	業務執行的意思決定会計(2)～部品を作るか、買うか？～	
5	6月1日	月	工業簿記・原価計算Ⅴ	業務執行的意思決定会計(3)～最適セールスミックス～	
6	6月15日	月	工業簿記・原価計算Ⅵ	業務執行的意思決定会計(4)～リニア・プログラミング～	
7	6月22日	月	商業簿記・会 計 学 ①	簿記と財務諸表の相違(1)　売上高と売上原価の表示①	香取
8	6月29日	月	商業簿記・会 計 学 ②	簿記と財務諸表の相違(2)　売上高と売上原価の表示②	
9	7月6日	月	商業簿記・会 計 学 ③	簿記と財務諸表の相違(3)　現金預金と銀行勘定調整表	
10	8月24日	月	商業簿記・会 計 学 ④	簿記と財務諸表の相違(4)　債権と債務	
11	8月31日	月	商業簿記・会 計 学 ⑤	簿記と財務諸表の相違(5)　有価証券①	
12	9月7日	月	商業簿記・会 計 学 ⑥	簿記と財務諸表の相違(6)　有価証券②	
13	9月14日	月	商業簿記・会 計 学 ⑦	簿記と財務諸表の相違(7)　有価証券③	
14	9月28日	月	商業簿記・会 計 学 ⑧	簿記と財務諸表の相違(8)　有価証券④　有形固定資産①	
15	10月5日	月	工業簿記・原価計算Ⅶ	構造的意思決定会計(1)～正味現在価値の計算～	山添
16	10月26日	月	工業簿記・原価計算Ⅷ	構造的意思決定会計(2)～設備投資の意思決定モデル～	
17	11月2日	月	商業簿記・会 計 学 ⑨	簿記と財務諸表の相違(9)　有形固定資産②	香取
18	11月9日	月	商業簿記・会 計 学 ⑩	簿記と財務諸表の相違(10)　外貨建取引	
19	11月16日	月	工業簿記・原価計算Ⅸ	構造的意思決定会計(3)～法人税の支払いを考慮する～	山添
20	11月30日	月	工業簿記・原価計算Ⅹ	構造的意思決定会計(4)～設備の自動化～	
21	12月7日	月	商業簿記・会 計 学 ⑪	簿記と財務諸表の相違(11)　引当金①	香取
22	12月14日	月	商業簿記・会 計 学 ⑫	簿記と財務諸表の相違(12)　引当金②	
23	1月18日	月	工業簿記・原価計算ⅩⅠ	構造的意思決定会計(5)～取替投資～	山添
24	1月25日	月	工業簿記・原価計算ⅩⅡ	構造的意思決定会計(6)～リースか、購入か？～	

(10:20～12:10)

3）点検・評価の結果 ＜C＞

（1） 総合経営学部の取組

全体としては、目的に沿って前年度と比較しても多様な取り組みが行われ、ほぼ当初の目標を達成した。

デパートサミットでは、合同販売会には新たに農業高校が参加し、参加する高校の拡がりがみられた。また、第２期より開始された生徒の実行委員会による高校生主体の運営が定着するとともに、デパートサミットを経験した本学学生が高校生を支えるアシスタントとして参画した。また、当初とは異なり、単なる商品開発や実習販売の枠を超え、地元の伝統野菜や和紙などの特産品を地域の様々な人々の協力を得て商品化するなど、地域資源を活用し地域を振興する意識と能力を持った若者を育てるという地域を支える人材育成として確立された。

また、本取り組みは本学を会場に年間を通じて実施することもあり、高校生や高校教員が本学の教育を理解し関心をもってもらう機会としても重要な意味を持ち、結果として本学に進学する商業高校生の増加が昨年度に引き続き見られた。さらに県内の商業高校の生徒募集にも大きな影響を及ぼし、各高校の入学者の増加にもつながった。また、文部科学省が提唱する「アクティブ・ラーニング」の実践事例としても県内外から注目を集めている。

地域人教育については、昨年度に引き続き、大学生の指導の下で研修として松本市内のフィールドワークや地域人教育の円滑な実施に向けた高校教員と飯田市職員を対象とした研修会の開催に協力を行なった。課題としては、地域人教育の成果として地域における就職が増加し、大学に進学する生徒が少ないために高大７年間の一貫教育の実現が不十分である。ただし、１年生にお

いては本学に対する関心が高まっており今後の展開に期待できると考えらえる。

全体を通じての、今後の課題としては、依然として連携事業を担当する教員が観光ホスピタリティ学科に偏っており、総合経営学部全体の取り組みとする必要がある。一方で、課題であった広報活動との連携が徐々に図られ、学生の進路選択により結び付くべく、学内での連携が深められつつある。

（2） 人間健康学部の取組

ア：スポーツ健康学科の岡谷東高校との高大連携事業

本事業により、高校生にも大きな好ましい変化が現われている。また、本事業を活用した形で、高校生の学びを深める取り組みを高大連携成果発表会という形で高校側も実施している。主な評価ポイントは以下のとおりである。

①高校側とのこれまでの話し合いの成果により、高校生の受講態度が真剣なものとなり、各教員から高い評価を頂いている。

②高校側における高大連携成果発表会の開催が文化祭時ならびに別途日時を設定して継続的に他大学を含めて行われるなど、本学との取り組みが学内外に対するアピール材料として活用されている。

③ 進学者対象の各大学の出前講義に指名される。当該専門方面進学希望者への強いアピールができると共に学習意欲の高い生徒の存在確認ができた。当該高校より、意欲有る生徒の入学が認められた。

今年度の取組から次年度に向け、以下のような課題及び検討事項がある。

①事業内容においてはこれまでのものを堅持し、実施してゆく。また、特定専門科目授業担当者との連携を深め、事業内容を更に深めたい希望を有している部分もあるので、更に検討を深めてゆきたい。また、本学からは教職課程履修学生が、実際の教育現場に行き、1週間程度の教育実習的な授業補助体験などをさせて頂くことによって直接的に学ぶ場としての協力をお願いし、検討して頂いている。

（3）松商短期大学部の取組

穂高商業高校との大学授業チャレンジ型連携および高校授業グレードアップ型連携については、本年度で10年目となり、この間若干の科目担当者変更があったものの、年中行事として定着してきている。また、松商学園高校商業科のチャレンジ講座は、３年目となり、穂高商業高校とは一部異なる実施形態ではあるものの、徐々に定着しつつある。

夏のチャレンジ型は、７月29日から31日の日程で、穂高商業高校生徒が参加、また、29日のみではあったが諏訪実実業高校の生徒が参加した。松商学園高校についても昨年度と同様に、７月14日～16日の同校の夏休み直前の三者面談日の午後３日間を活用して、同校商業科１年生から３年生までの各生徒が受講希望の科目に自由に出席する形態での実施となったが、参加人数は昨年の延べ200名から400名へと倍増した。

春のチャレンジ型は、例年夏同様の３日間であったが、今年度は、本学の入試日程との関連から、２日間の短縮開催となった。夏と同じく穂高商業と諏訪実業の参加であった。

参加高校生の終了アンケートの回答によると、チャレンジ型に対する評価は今年度も良好であった。特に各科目の内容に非常に興味を持ち、プロジェクター等の利用による学習環境の良さに

驚きながらも満足していることが覗われる。また、ほとんどの学生が学生食堂の味･値段にとても満足し、学食利用や教室移動を通して大学生活に対する具体的イメージが持てたと記している。中には、進学の意欲が増した、本学への進学意欲が高まったという感想も少なからずあった。

グレードアップ型連携については、毎週月曜日の午前中、穂高商業高校の２・３時限目の授業として実施されており、日商簿記検定１級レベルの会計学と意思決定会計を内容としているが、高校生にとっては、やや難易度の高い内容となっている。参加生徒の「教えてもらう」という受け身の姿勢を、「自ら学ぶ」という能動的姿勢に変化させるような内容面での見直しが課題である。

４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

高大連携事業は高校との信頼関係を基盤とした取り組みであり、中長期的な視点から継続性を重視して取り組まれている。したがって、中長期にわたって取り組むことができるような体制を学内に確立することが必要である。高大連携委員会の構成や事務局体制など現在の取り組みを踏まえてさらに強化を図る必要がある。

さらに現状では、商業教育やスポーツなどのテーマを明確にした高大連携が中心であるが、今後は他の専門分野や普通科の高校生を対象とした幅広い取り組みも必要になると考えられる。

また、松商学園高校とは、学生募集にとどまらず、学園としてどのような若者を育成するのかを共有して、本学の全学部全学科を挙げての定期的、安定的な連携事業の展開が重要である。

＜執筆担当／高大連携推進委員会　委員長　白戸　洋＞

４．センター入試委員会

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

センター入試委員会の平成 27 年度当初の計画は以下のとおりである。

① 平成 28 年度試験の実施内容の早期把握と対応

平成 28 年度は新課程科目のみの試験となる。しかし、変更点があるので早期に内容を把握し、センター入試委員および関係部署への通知を行う。

② 監督者への事前研修の実施

事前研修の時期と回数、説明内容について、委員会にて検討を行う。

③ 試験に向けた的確な準備と業務の実施

監督者の割り当て作業と準備作業を含む試験当日の業務を的確に行う。

２）計画の実施・現状の説明 ＜Ｄ＞

①平成 28 年度試験の実施内容の早期把握と対応

6 月 22 日に信州大学松本キャンパスにて第 1 回長野県地区連絡協議会が開催され、県内の各試験場における受験者推計数に基づいて収容数の設定と受験者の割り振り方法について協議した。前年度初めて行われたグループ化による受験者の割り振り方法が、効率的な試験室運用という点で概ね有効に働いたことを受け、今年度も可能な限りグループ化を行うことで意見が一致した。グループ化による受験者の割り振り方法とは、比較的近距離にある複数の試験場を、1 つの試験場とみなして受験者の割り振りを受験科目パターンによって行うもので、本学は前年度に引き続き信州大学松本キャンパスとグループ化を行うこととなった。

入試関連業務の詳細については、8 月 18 日と 12 月 1 日に都内にて開催された大学入試センター主催の連絡協議会に参加し、前年度からの変更点を中心に確認を行った。会議で使用された資料はデジタル化したものをセンター入試委員および関係者に配付し情報共有を行った。

②監督者への事前研修の実施

全学の関係者に対し、12 月 2 日と 1 月 15 日の 2 回に分けて監督者会議を実施した。全ての試験科目に共通する監督業務の流れや各種様式の取扱い方、事故対応などを中心に解説を行った。これに加え、英語リスニング試験を担当する監督者向けに 12 月 9 日と 12 月 24 日に予行演習を実施した。1 回目は基本的な監督業務について、2 回目は事故対応について解説と演習を行った。これらの研修を欠席者した監督者へのフォローアップは各学部のセンター入試委員が行った。1 月 14 日には連絡員、警備担当者らを対象にスタッフ会議を開催し、業務内容を確認した。

③試験に向けた的確な準備と業務の実施

試験当日に向けた準備作業については、問題冊子および解答用紙の仕分けをセンター入試委員が中心となって作業を行い、前日の試験室準備を事務職員が中心に作業を行ってセンター入試委員がチェック作業を行った。また、試験前日までに数回にわたり本試験場と大学入試センターとの定期報告システムの動作チェックを行い、正常に機能していることを確認した。

当日の円滑な試験実施のために、近隣の交通機関や医療機関等への周知と依頼を本学の担当部署を通じて行った。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

①平成 28 年度試験の実施内容の早期把握と対応

グループ化を行った本学と信州大学松本キャンパスとは滞りなく連携することができた。また、大学入試センター主催の連絡協議会などで得た情報のセンター委員間での共有も例年通り問題なく行えた。今年度の変更点は、試験の開始・終了合図のチャイムを原則として鳴らさない点とリスニングの音声再生機に若干の変更があった点ぐらいであったので、特別な対応を要する事項がなかった。

②監督者への事前研修の実施

平成 28 年度より新課程科目のみの試験となったことで新旧両課程の試験科目に対応しなければならなかった前年度よりも試験室の運営負担が軽減されることが予想された。そこで、今年度の監督者会議は例年通りの 2 回としたが、問題なく実施することが出来た。リスニング予行演習に関しても、前年度からの変更点は殆どなかったため、円滑に実施することが出来た。

③試験に向けた的確な準備と業務の実施

例年、長野県内の試験会場の世話係である信州大学に受験者割り当てを一任しているが、今年度は受験者の受験科目パターンが多様化したことによるものと推測されるが、本学の試験室を１室増やして運営することとなった。これに対し、割り当てが可能な監督者数が前年と同じ 62 名という状況であった。そこで、比較的受験者数の少ない試験室の監督者数を削り、さらに 2 名の連絡員を監督業務と兼務してもらうことで対応した。

結果として、当日の業務は円滑に行うことが出来た。監督グループ間で申し送り事項を座席表などに書き込んで引き継ぐ工夫が見られ、スムーズな対応に繋がった。また、一部の監督者には２科目試験で空白時間となる試験室の掲示作業や中間時間の監督補助作業に携わっていただけた

ことで、心配された２科目試験の運営がスムーズに行うことができた。今年度は気温が低かった様で、ひざ掛け使用を希望する受験生が目立ったが、引き継ぎが上手く出来たことで、グループ間での混乱が起きなかった。しかし、別室受験者や監督者交代要員が発生するなどの十分に予測し得る事態に対応出来ていたかを考えると難しかったと言わざるを得ない運営体制であった。

その他細かな点ではあるが、試験当日に２科目試験での助監督の具体的な作業内容について問い合わせがあり、助監督の作業内容を列記したプリントを作成して「理科②」の担当者に配付するという事例があった。監督者会議での説明だけでなく、適宜プリント化することで作業内容を再確認させることが重要と思われる。

４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

①監督者への事前研修のスムーズな実施

事前研修の円滑な実施のため、開催時期、回数、説明内容などについて、委員会にて検討を行う。

②試験に向けた的確な準備と業務の実施

今年度は試験室が例年の７教室から１室増え受験者数は 520 人と過去最高となった。一方、試験監督者数は例年と同じ 62 人で監督者の割り当て作業が難航した。事務局から２名の職員をお借りして対応したが、待機人員が実質ゼロの状態でリスクを抱えたままの運営となってしまった。結果として緊急の欠員が出なかったので問題は起こらなかったが、次回に向け万全を期した対策を検討する。

③試験本部と各試験室との連絡体制の強化

本部の業務に関しては、試験室と本部とのやり取りに一部課題が残った。今年度は、試験開始２０分後に本部に集めるＢ票を本部要員が各試験室へ回収に出向く方法をとった。昨年までは連絡員の業務であったのだが、教職員から寄せられた意見にあるような「リスニング」終了時の再開テストの有無を確認する作業が本来の手順で行われなかった事例が発生してしまった。問題冊子等の引き渡し時に本部と各試験室で再確認しておくことで防げたはずであった。リスニング試験に詳しい本部要員が監督者として出払ってしまったことも一因だと考える。来年度に向けて改善したい。

＜執筆担当／センター入試委員会　委員長　矢野口　聡＞

Ⅳ．管理部門

Ａ：大学運営管理

１．全学協議会

学長、副学長、各学部長・学科長並びに事務局長及び総務課長、学生センター長を構成員とする全学協議会は、平成 23(2011)年度の組織改革の中で、最高意志決定権者である学長の下に設置された学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関と位置付けられた。以降、短期大学部も含めた学部横断的課題・事項について審議・結論を得ると共に、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めてきている。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

平成 27(2015)年度も、上記の設置主旨を踏まえ、当該月に開催された全学運営会議で事前に確認、整理された審議事項について慎重に審議し決定すること並びに、報告事項について適切かつ適確に周知を図るべく努める。とりわけ、前年度に一年前倒しを決定した日本高等教育評価機構による第三者評価受審に向けた「自己点検・評価報告書」の作成並びに諸規程の整備、既存学部・短期大学部の改革・改変に対する連携しての取組など、それぞれ関連する諸業務の円滑な推進に主導的役割を果たすべく取り組む。また、平成 29（2016）年 4 月の教育学部・学校教育学科開設に関連する教育課程整備については設置準備室から適宜報告を受ける。

２）計画の実施と現状の説明 ＜Ｄ＞

年度当初の計画に基づいて、今年度もまた、8 月をのぞく毎月一回、定期で計 11 回開催された。審議事項は、事前に全学運会議における議論を経たものを中心に、全学委員会から各「担当」を経て適宜上程されたものも含めて審議し結論を得て、実施に移してきた。また、報告事項についても、事前に全学運営会議において扱われたものに加え、全学委員会等からのものも適宜取り上げ、情報の全学的周知・共有化が図られた。

なかでも、第三者評価受審については、関連する既存規程の改廃が下記のように急速に進められ、「自己点検・評価報告書」の作成についても適宜点検がなされるなど、準備が順調に進められた。また、学部改革については、それぞれの自主性の尊重という観点から、報告」という形でその取組状況が適宜紹介され共有化が図られた。新学部についても、健康栄養学科を除く学部三学科の編入学定員の削減及び、採用人事並びに教養教育を中心とする教育課程などについて必要に応じて審議、報告され、その円滑な実施に努めた。

・松本大学地域総合研究センター規程（4 月 22 日、第 1 回）
・入試関連規程（同 上）
・松本大学遺伝子組換え実験安全管理規程（5 月 27 日、第 2 回）
・松本大学動物実験規程（同 上）
・松本大学 FD・SD 運営部会規程（6 月 24 日、第 3 回）
・松本大学入学者選抜規程（7 月 22 日、第 4 回）
・松本大学松商短期大学部入学者選抜規程（同 上）　　他

くわえて、専任教員の退職に伴う「地域づくり考房『ゆめ』」の運営体制、平成 28（2016）年度からの図書館運営、文科省による「教職課程認定大学等実地視察」に伴う総合経営学部の教職関

連科目の見直し、学長裁量経費の予算化とその対象者等々、その都度課題として提起された事柄について適切に対応し、それぞれの円滑な実施並びに解決に務めた。そのほか、学部以外の人事、国際交流事業の推進に関わる諸取組の推進などの案件について議論を進め、それぞれ成案を得て実施に移すべく態勢を整えた。

報告事項は、学長の情報共有重視の姿勢もあって実に多岐にわたったが、その中でも県内他大学の動向、各種補助金申請、高大連携事業、学生募集状況などについて適宜情報が収集・提供され、それを基に今後の対策を練る下地づくりともなった。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

全学協議会は、審議・決定機関であって通常の業務遂行の任を負うものではないことから、必ずしも日常的な評価・点検には馴染まないと思われる。が、教育学部設置に伴う三学科の編入学定員の削減や教養教育の見直しに対する方向性の提示など全学的課題への迅速な対応に見られるように、全体状況を把握、点検した上で、適切な方向性を指示し取組を促進してきた。

4）次年度に向けた課題 ＜A＞

平成 28（2016）年度は、来年 4 月の教育学部設置に向けて必要な事柄を遅滞なく進めると共に、平成 30 年 4 月の新県立大学開学並びに、周辺私立大学の公立大学化という動向の中で、各学部・学科の改革を着実に進めねばならない一年となる。したがって、それが遅滞しないよう適宜チェックし、推進策を適切に講じていかねばならない。そのためにも、各方面に情報を求め把握に努め、それを踏まえた上で適切な方策を練り決定していくなど、積極的に議論を展開し学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関として主導性を発揮していく。

また、昨年度に引き続き諸規程の整備をいっそう進め、この間の懸案に決着をつけるべく取り組む。さらに、「地域づくり考房『ゆめ』」の人的体制について検討し具体的方策を施すこと、図書館の業者委託について検証しその円滑な運営を促進することなど、前年度に引き続いて目配りの必要な事項についても適宜点検していかねばならない。

また、報告事項は、不要不急のものについては資料配付によって周知を図るなど省時間化を図り、その分議論時間を拡充すべく努める。

＜執筆担当／副学長・人間健康学部長　等々力　賢治＞

2. 自己点検・評価委員会

この委員会は、ＩＲ推進部会、コンプライアンス推進部会、認証評価準備部会の３つの部会を束ねた委員会である。部会に関しては、各担当者に点検・評価の報告書作成を委ねている。

本委員会独自には①アニュアル・レポートの発行、②学生版アニュアル・レポートの発行、③自己点検・評価報告書の発行がある。この発行は単なる作成手続きではなく、その過程において大学全体の管理運営に対する洞察が必要となってくるのは言うまでもない。　その他に、３つの部会が円滑に機能しているかどうかを見届ける役割を担っている。

1）年度当初の事業計画 ＜P＞

今年度は、認証評価準備部会との連携を強め、大学機関別認証評価（以後「外部評価」と称す）に怠りなく対応する。これとは別に、例年通り「自己点検・評価報告書」「アニュアル・レポート」「学生版アニュアル・レポート」を、例え発行時期が遅れてもきちんと発行する。

自己点検・評価委員会の下に置かれた「ＩＲ推進部会」「認証評価推進部会」「コンプライアンス推進部会」の３つの部会の内、「認証評価準備部会」を除いては、全学運営会議構成員と同じメンバーになっているため、全学運営会議の一部が自己点検・評価委員会等に当てられ、合理化を図っている。委員会は部会と連携を取りながら、大学運営全体の点検・評価が出来るように配慮する。

２）平成 27 年度事業計画の実施状況 ＜Ｄ＞

全 40 回開催された全学運営会議の中で、「外部評価」に関しては第 1 回から第 20 回までほぼ毎回、話題として取り上げられた。各章の担当者の選定から始まって、大凡どのような論調で執筆するかを確認して、担当箇所毎に分かれて取り組んだ。それを持ち寄って進度を確認したり、必要に応じて「認証評価準備部会」の協力を得て、報告書の完成に向けて詳細に詰めることが出来た。

こうした内容で 6 月末には提出したが、それに対する質問事項に敏速に対応することや 10 月の現地調査に向けた準備もあったため、通常の３つの文書作成に時間を割く余裕はなかった。しかし、担当職員（柄山）がコツコツと原稿を集めていたお陰で、年度末近くにはなったが例年通りの報告書とレポートを完成することができた。今年度は特に教育学部設置準備に、学長はじめ管理職の教職員が多くの時間を取られることになったため、担当職員の奮闘がなければ発行は覚束なかった。

３）平成 27 年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 ＜Ｃ＞

「外部評価」に関しては、大学、短大部ともに留意事項を指摘されることもなく、逆に優れた点も二点ほど取り上げて頂けたので、今回の認証評価は上出来だったのではないかと思われる。評価を受けた大学の中から本学とびわこ学院大学が選ばれ、全国からおよそ三百校も集まった（公）日本高等教育評価機構が主催する「評価充実協議会」にパネリストとして招待され、受審経験談を発表させていただいた。

さて本学独自の「自己点検・評価報告書」「アニュアル・レポート」「学生版アニュアル・レポート」の３つの文書も、期限内に発行できただけではなく、通常と遜色ない出来で遂行できた。

４）次年度に向けて＜Ａ＞

次年度は外部評価への対応がないため、３つの文書の早期発行を目指したい。「アニュアル・レポート」と「自己点検・評価報告書」は夏期休業前、「学生版アニュアル・レポート」は９月中を目標とする。

３ポリシー策定の法制化や教育学部の設立もあるため、必要と見なされた場合には、全学、研究科、学部、学科などそれぞれの部署において見直しをかけ、全学的な意思統一を図る。

３つの部会との連携を図り、各部会において研究された内容を全学に活かせるように取り組む。

＜執筆担当／自己点検・評価委員会　委員長　住吉　廣行＞

（１）ＩＲ推進部会

この部会は、大学改革を推進するという前提に立ってその施策を構想する際の、或いは施策の善し悪しを判断する際の、根拠となるデータを提示することがテーマとなっている。そのために日常的に集積している大量のデータから、意味ある内容に加工し、表示することが求められる。

逆に言えば、改善策を打ち出そうとしなければ、殆ど何もすることが無い部会であるとも言える。今年度の部会は、教員では研究科長、二学部長、短期大学部長と学長という全学運営会議メンバーで構成された。職員の側では、過去にＩＲに関与していたあるいは情報系を担っている職員が指名

されている。

1）平成 27 年度事業計画 ＜Ｐ＞

外部評価を控えて、必要なデータが何かを判断し、その収集を行う。これまで実施して来た学生行動調査結果についての分析を行い、学生支援に向けて何が必要とされているかについて研究を進める。それ以外にも、各部署において解決すべき課題があれば、それに関するデータを収集し必要な手立てを分析結果に基づいて具体的に提起する。そのような活動を積極的に行うことができるように、部会として支援する。

2）平成 27 年度事業計画の実施状況 ＜Ｄ＞

教員の側では、全学運営会議の際に意見交換を随時行うことができた。しかし、職員は全学運営会議メンバーではないため、部会を開催しなければ教職協働で計画を実施することはできない。今年度は、教員職員共に他の部署の仕事が数多く、そこでの課題意識を持ち寄って合同で協議する時間が持てなかった。わずかに、職員個人と全学運営会議メンバーとが意見交換を行うことが出来ただけであった。

3）平成 27 年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 ＜Ｃ＞

部会の開催が出来なかったことにより、改善の目的やその方向性について全体的な意思統一無く実施されているケースも散見された。特にシステムの変更などが絡む場合は、多くの意見を聴取しながらベストな解を探せるような改善が必要となっている。

4）次年度に向けて ＜Ａ＞

部会の定期的な開催を実施し、教職員それぞれが抱いている問題意識を交換し、効率的で意義深い改善策を講じることができるようにする。

改善すべき内容とそれを裏付けるデータ作成などを集中的に議論する場を設け、部会として継続的に取り組むテーマをいくつか設定する必要が有る。「教員の評価指標」を開発することも、アニュアル・レポートの発展版として考えているが、テーマが大きいため部会としての進め方に難がある。

また学生ポートフォリオと同じ内容の別な表現でもあるが、学生個々人が入学から卒業までどのような成長を遂げているのかを可視化できるようにしたい。その際、学生行動調査や卒業時アンケート結果なども参考になるであろう。

こうした課題はいつも部署横断的な取組になることが予想されるため、取り組むべきテーマを設定できれば、課題毎にプロジェクトを組みながら継続的・持続的に取り組む必要がある。しかも、必ずしも単年度で結果を出すことに拘る必要もない。

＜執筆担当／ＩＲ推進部会長　住吉　廣行＞

（２）コンプライアンス推進部会

1）取組の概要 ＜Ｐ＞

学校法人松商学園コンプライアンス推進規程に基づき、大学内にコンプライアンス推進部会を設置している。部会長は学長であり、委員として研究科長、学部長、事務局長、総務課長、管理課長が配置されている。年度初めの合同教授会、定例教授会、職員会議等を通じて全学的にコンプライ

アンス精神の醸成と啓発に努めていく。

また、研究倫理委員会の主導により、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」の遵守の徹底について継続的に取り組む。

２）取組みの実施 ＜Ｄ＞

4 月 1 日開催の合同教授会において、議題として「コンプライアンスについて」を挙げ、全員に「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」を再配付し学長から説明がなされ、全学的にコンプライアンスついての依頼をした。また、管理棟（4 号館）の教職員の通路に「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」を掲示した。

研究倫理に関しては、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」も配付し、全教員から署名入りの確認書を提出してもらった。更に、全学的に研究倫理教育を推進するため、『科学の健全な発達のために』（丸善出版）を研究図書費の共通支出により購入し、教職員全員が熟読することを確認した。

３）点検・評価 ＜Ｃ＞

これまでの継続的な取組により、コンプライアンスに対する意識は全学的に高まっており、コンプライアンスに関するトラブルは発生していない。また、事務局の出納業務や研究費の使途等については、日常的に内部監査室のチェックを経ており、適正な処理がなされている。

４）今度の課題 ＜Ａ＞

コンプライアンス意識の啓発に対する取組は継続的に進め、常に個々の意識レベルの向上とその維持に努めることが大切である。これまでの取組を継続しつつ、観点を変えた外部講師による研修会等についても積極的に検討していく。

＜執筆担当／コンプライアンス推進部会長　柴田 幸一＞

（３）認証評価準備部会

認証評価準備部会は自己点検・評価委員会の下部組織であり、各学部の代表委員計 3 名および事務職員により構成される。2015 年度は総合経営学部代表が部会長の職を担っている。

その業務は、第一に外部認証評価団体である公益財団法人日本高等教育評価機構（以下、評価機構と記す）や公益財団法人短期大学基準協会（以下、基準協会と記す）による評価受審の際の準備や対策を主体的に行うことである。なお、2015 年度は大学及び短期大学部ともに認証評価を受審した。第二に評価機構や基準協会の活動に対して評価員として参加し、他大学の評価を行うことで、受審に際しての情報やノウハウを収集することである。

１）年度当初の計画　＜Ｐ＞

2015 年度は下記項目の達成を目標とした。

①情報の収集

2012 年度より認証評価の基準が大幅に変更された。そこで変更点に関する情報を収集し、かつ前回の認証評価との相違点を明らかにする。併せて認証評価準備部会員がその内容を熟知する。

②自己点検評価および資料等の確認

上記①に関連し、変更による自己点検評価の体裁やその内容のあり方、また必要となる資料等

を明確にする。同時に必要に応じて関係各部署にその情報を提供し、認証評価受審の準備を整える。

③評価員としての活動

評価機構や基準協会からの要請があった場合には、認証評価準備部会員の中から評価員を選出し、他大学・他短期大学の認証評価を行う。

2）現状の説明 ＜D＞

①情報の収集

委員は認証評価団体の主催するセミナーに参加し、評価基準の変更点についてレクチャーを受けた。また下記③のとおり、部会長は評価員として評価機構の要請に基づき、2014 年度に引き続き、他大学の認証評価を担当し、情報やノウハウを収集した。

②自己点検評価および資料等の整理・確認

上記①で得られた情報を基に、当大学での自己点検評価におけるに問題点や、今後の認証評価受審に際して必要な資料やエビデンスについて整理した。またその情報を認証評価受審に関係する学内の教職員に公開・説明し、認証評価受審に備えた。

③評価員としての活動

今年度は部会長が評価機構の要請に基づき、評価員として他大学の認証評価を担当した。

3）点検・評価の結果 ＜C＞

①情報の収集

前年度に引き続き、今年度も基準の変更点をさらに深く把握できた。とりわけ部会長が評価員として他大学の認証評価を担当したことは、評価基準や評価項目の詳細な情報を得ることにつながり、非常に有意義な経験であった。

他方で情報が部会長個人に留まり、認証評価準備部会員のすべてと情報の共有が図られていないという問題もある。

②自己点検評価および資料等の確認

9 月および 10 月に認証評価を受審し、その結果が 3 月に伝えられた。大学・短期大学ともに適合の認証を受けるとともに、その内容も十分満足のいくものであった。

③評価員としての活動

既述のとおり、部会長が評価機構の要請に基づき、他大学の認証評価を担当した。これにより、非常に有益な情報を収集することができた。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

①情報の収集

引き続き、基準も含めた認証評価全体に対する知識を深める必要がある。その際、実際の生きた情報を得る必要があるため、積極的に評価員として活動する。

②自己点検評価および資料等の確認

7 年後の受審に向けて、必要となる情報や資料をさらに明確化する。

③情報の共有

認証評価準備部会員が持つ情報を可能な限り、学内の各学部、各学科、そして各事務部門に伝達し、情報の共有を図る。

④評価員としての活動

認証評価団体からの要請があった場合には、引き続き積極的にこれに応ずる。

＜執筆担当／認証評価準備部会長　上野　隆幸＞

３. 人権委員会

人権委員会は、ハラスメント防止部会及び個人情報保護部会の二部会で構成されており、委員は各学部学科からの教員委員 8 名、職員は学生課・教務課、情報センター、入試広報室、キャリアセンターの各部署から 12 名の総勢 20 名という組織である。年度当初の会議で、前年度からの引き継ぎ案件について PDCA サイクルの確認を通して振り返り、あらためて 27 年度委員会職務についての共有を図った。その後、ハラスメント防止部会に委員 13 名、個人情報保護部会に委員 7 名の二部会を分担して担うこととし、委員会全体を機能させていくこととした。

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

①全学教職員対象に研修会を実施し、本学人権教育についての意識を高める。

②委員は各種研修会に積極的に参加し、本学人権教育についての意識を高める。

③松本大学委員会規定だい第 28 条に従い、ハラスメント防止部会より各学部 2 名の相談員候補者を推薦する。

④ハラスメント防止に向け、新入生にリーフレットを配布する。

２）現状の説明 ＜Ｄ＞

①松本大学委員会規定第 28 条に従い、ハラスメント防止部会の推薦に基づいて、学長が 7 名の相談員(大学院担当含む)を任命した。

②委員会及び各部会は、基本的に 2 ヶ月に 1 回程度の委員会を開催予定であったが、開催日等及び開催時間等の折り合いがつかず、必要に応じてメールでの諸連絡となった。

③健康安全センターに設置されていた、相談窓口電話を総務課長及び管理課長とした。

④啓発ポスターを新しいものに貼り換えた。

⑤ハラスメント防止に向け、新入生にリーフレットを配布した。

⑥全教職員対象の人権研修は、「今日のメンタルヘルスの課題」と題し、長野県精神保健福祉センター所長の小泉典章氏を迎え実施した。（2 月 16 日）

３）点検評価の結果 ＜Ｃ＞

①人権の啓発を効果的に推進するためには、人権教育や啓発の実施主体の委員会の体制を充実させる必要がある。今年度も委員会に多くの教職員が委嘱されての大組織の委員会となったが、関係者の横断的なネットワークにより連携協力がとれた。

②27 年度は前年から継続の件を含め相談員に 2 件の相談があった。2 件とも相談専用メールに一報がなされた相談であった。2 件ともマニュアル通りのルートで解決の方向に向かったが、今後とも信頼性のある相談窓口として、いかなる相談内容であろうとも、窓口での判断とせず、人権委員長と相談員の連携をとり早期対応を心がけていくことが重要である。

③本学では、人権侵害防止研修へのこれまでの取り組みにより、本学構成員の大多数が、研修受講経験を持つようになってきている。

４）次年度への改善改革に向けた方策 ＜Ａ＞

①「ハラスメント防止啓発標語」を募り、教職員及び学生に意識を高める。

②相談業務についての課題として、相談員の人選、委嘱について検討を要する。

③人権委員会委員を中止に、人権問題に関する学外研修への参加を促す。

④大学教職員向けの人権研修内容のさらなる充実を図るとともに、教職員のニーズや人権侵害をめぐる状況の変化に即した段階的な研修体系の確立に取り組む。

⑤本学の教職員採用時に、ハラスメントの多様な内容を理解させ、共通した問題意識を持たせるような研修実施の検討を行う。

＜執筆担当/人権委員会　委員長　根本　賢一＞

４. 健康安全センター運営委員会

センター長を中心に学生・教職員の健康問題や、健康の維持・促進に組織的に取り組んできた。

１）年度当初の計画＜Ｐ＞

今年度は、昨年度から継続して学生・教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

①心肺蘇生法の普及

②健康教育の充実

③教職員ストレスチェック体制の整備

を掲げた。

２）今年度の活動実績＜Ｄ＞

①学生の健康管理

・外傷や体調不良、心身の健康相談などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談して、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。

・教職員と連携し、心身の健康状況に問題を抱える学生に関する相談に対応し、ケアカンファレンス、保護者面談への同席などを実施した。

・週２回、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士がカウンセリングを実施した。

・学生定期健康診断を実施した。受診率は学生全体で約 98%と高い水準を維持している。再検査の指導、精密検査の指導、心身の健康問題に関する保健指導、また地域健康支援ステーションの協力も得て、希望する学生に対して栄養指導を実施した。

・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、感染予防のためのワクチン接種について保健指導を実施した。

・体育大会、オープンキャンパス、入学試験などに伴い、それぞれの管轄部署からの依頼を受け、救護対応を実施した。

・学生センター連絡会に参加し、学生に関する情報共有と、対応についての検討を実施した。

②教職員の健康管理

・外傷や体調不良、心身の健康問題などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談し、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。

・教職員定期健康診断・教職員胃検診を実施し、精密検査・治療の必要な教職員に対する事後指導、生活改善が必要と認められる教職員に対する保健指導を、個別のリーフレットを作成して実施した。人間ドック受診者は、受診医療機関での保健指導を受けているが、個別に希望する教職員に対して、保健指導を実施した。
・教職員の健康状況に応じて医療機関を訪問し、職務内容等に関するカンファレンスを実施した。
・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、ワクチン接種について保健指導を実施した。

③学生への健康教育

総合経営学部、人間健康学部健康栄養学科、短期大学部からの依頼に基づき、「禁煙について」「新しい創傷ケアについて」「実習・実験中に起こるケガへの応急手当について」「学校感染症について」に関する健康教育および資料の提供を実施した。

④心肺蘇生法の普及

・総合経営学部両学科、人間健康学部健康栄養学科からの依頼に基づき、AED の使用方法を含む心肺蘇生講習会を実施した。

⑤感染症発生への対応

・健康診断協力医療機関と連携し、強化部（硬式野球部・ソフトボール部）・重点部（陸上部）の学生と、希望する教職員に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。
・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出席停止期間を決定し、学生および教職員への周知を図った。
・インフルエンザ発症の連絡を受けた場合、ゼミ担当や部・サークル活動の責任者への報告、濃厚接触者に対し感染予防のための保健指導を実施した。

⑥アレルギーへの対応

・食物アレルギー症状を持つ学生の入学に伴い、該当学部の全教員および学生対応する職員を対象に、緊急時の対応について（エピペン®筋肉注射を含む）の講習を実施した。

⑦外部相談機関との連携

㈱ティーペック社と提携し、学生・教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

①学生の健康管理

学生定期健康診断時に、受診学生全員に保健師(外部委託保健師を含む)の事後指導を実施している。集合健診であるため、個別の対応を要するものについては、後日健康安全センターへの来室を促し、フォローアップに努めている。また精神面に関しては、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士のカウンセリングを実施している。健康安全センター保健師がカウンセリング受付を実施し、面談時の情報を連絡したり、カウンセラーのフォロー状況を適宜検討しケアに当たっている。

カウンセリングについては、学生自ら希望して来室する場合もあるが、担当教員と相談する中で紹介されてくることも多い。混乱して自分の状況を判断できない学生もいるため、今後も教職員と連携して対応していく必要がある。

②教職員の健康管理

教職員健康診断の受診(人間ドックを含む)の受診率はいまだ100%に至っていない。また、健康診断で必要と診断された精密検査や治療に関しても、未受診のままとなっているケースもある。現状としては、健康管理が個々の意識に任されている部分もある。健康診断の受診が教職員の義務であり、健康管理は組織として重要であることをさらに周知していく必要がある。

③学生への健康教育

禁煙・創傷ケアなどについて健康教育を実施している。来室してくる学生の中には、事前にインターネットで検索した情報をそのまま信じこんでいるケースも多く、誤った処置をしてしまうこともある。健康安全センターが正確な情報収集に努め、それをできるだけわかりやすく学生に伝えていく必要がある。継続的な健康教育の実施を含め、今後の課題である。

④心肺蘇生法の普及

総合経営学部（総合経営学科・観光ホスピタリティ学科）1年生全員、人間健康学部（健康栄養学科）3年生全員を対象に心肺蘇生法講習会を実施した。

先行研究では、心肺蘇生法の定着率は1年後には激減しているという結果もあり、1度だけではなく、定期的な講習の実施を検討していく必要がある。

4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

今年度と同様、学生・教職員それぞれの健康問題に対して迅速に、また的確に対応していくために、さらに組織的な運営を目指していく。

①心肺蘇生法の普及

引き続き学生への講習を実施していく。ゼミや部・サークルなど特性に応じた講習ができるよう、さらに工夫していく。

教職員に対して各学部・課と連携して、100%の普及をめざし、一度受講した教職員に対するフォローアップ講習をスタートさせる。学生向けの講習に一緒に参加できるよう周知していく。

③健康教育の充実

入学時に配布している健康手帖を活用できるよう、ウェブサイト等での紹介を含め検討していく。授業だけではなく、部活動・サークル活動等学生の自主的な活動の場での講習を充実させていけるよう、働きかけていく。

④教職員ストレスチェック体制の整備

ストレスチェックの実施だけではなく、職場環境の点検を組織的に実施していけるよう検討していく。教職員のメンタルヘルス対策について、ストレスチェック後のフォロー、精神科相談医の設置、教職員専用のカウンセリングルームの開設等をすすめていく。

＜執筆担当／健康安全センター運営委員会　委員長　江原　孝史＞

B：施設管理

1. 施設管理センター運営委員会

1）取組の概要 ＜P＞

施設管理センター運営委員会は大学事務局長と環境保全部会の委員に総務課長、管理課長、総務課員数名が加わったメンバーで運営している。平成27年度においては、次の施設整備に取り組む。

①総合グランド及び女子ソフトボール部グランドの夜間照明を整備
②5 号館教室の音響・映像設備の改修及びインターネット環境の整備
③硬式野球部野球場及び女子ソフトボール部グランドの散水栓の改修

2）計画の実施 ＜D＞

上記計画の①②につては、補助金を活用して次の通り取り組んだ。

①総合グランド及び女子ソフトボールグランドの夜間照明

私立大学等教育研究活性化設備整備事業のタイプ 2「地域発展」に申請した。

②5 号館教室の音響・映像設備の改修及びインターネット環境の整備

私立学校等改革総合支援事業のＩＣＴ活用推進事業に申請した。

③については、総務課で計上している修繕費で対応した。

当初計画した上記の事業以外に、私立大学等教育研究活性化設備整備事業の補助金を活用し、次の環境整備を行った。

・学生用端末プリンタ（4 号館）、光学式マークシートリーダー、関連ＰＣの整備
・1・2 号館教室（125、126、331）の机・椅子の入替え、学生用ＰＣ、図書館アクティブラーニングコーナーと書架の整備
・7 号館コモンルームのラーニング・コモンズ機能（椅子等）の整備

3）点検・評価 ＜C＞

文部科学省の予算調整により、補助金収入は申請額の 100%ではなかったが、補助金制度を活用して必要な設備を整備することができた。

平成 26 年 12 月から稼動させた太陽光発電設備の効果が平成 27 年度から顕著に現れてきた。平成 27 年度 1 年間の電気料金は 41,607,702 円で、前年度の 45,936,044 円に対して 4,328,342 円の減額となった。

4）今後の課題 ＜A＞

教育学部専用棟（8 号館）の建築工事に併せて、老朽化した第 2 体育館、部室棟の建替を進めていく。また、教育学部開設に伴う学生数の増加に対応する学生食堂、学生駐車場の整備は今後の課題である。同時に、生協に委託している学生食堂の累積赤字が年々増加しているため、その運営の在り方についても早急に検討していく必要がある。

更に、老朽化が進む 1・2 号館（特に設備関連）については、随時修繕することで対応しつつも、短期大学部の将来の在り方等を含む新たな中長期計画において校舎への対応も位置づけ、教育環境の再整備に関する方向性を検討していく必要がある。

＜執筆担当／施設管理センター運営委員会　委員長　柴田　幸一＞

2. 危機管理委員会

現代社会における大学に求められるリスクメネジメントの対象となる事象は、非常に広範囲に亘るものである。全体を俯瞰すると、①大規模災害等への対処、②インターネット社会における情報セキュリティの確保、③研究倫理の定着とコンプライアンス、④キャンパスの安全確保とハラスメント対策、⑤海外留学・研修等における事故・トラブルに大別できよう。これらの課題に対する具体的な取組は、各分野を管轄する各委員と各部会で進められている。ここでは、各分野に対する本

学としての全体方針のみを示す。

①大規模災害への対処

大学ＣＯＣ事業において、松本広域消防局、新村地区消防団と連携し、防災対策を推進していく。定期的に防災訓練を実施し、有事に備える。また、防災士養成講座の開講と正課授業をリンクさせ、防災・減災教育に取り組む。さらに、災害時に対応できる機器備品の整備にも継続的に進める。

②インターネット社会における情報セキュリティの確保

情報センター運営委員会と情報センターの職員による専門性の高い取組により、サーバーの学外移転、キャンパス・セキュイリティ対策を計画的かつ迅速に進めていく。また、全教職員が学校法人松商学園情報セキュリティー・ポリシーに基づき、本学の情報資産を保護し、情報セキュリティの適正な管理を遂行していく。

③研究倫理の定着とコンプライアンス

研究倫理に関する諸規程の見直しを進め、我が国の研究倫理のガイドラインに沿うものとして整備していく。また、全教職員に対して、研究倫理に関する研修機会を提供し、高次の研究倫理観の醸成とその啓蒙に継続的に取り組んでいく。また、学校法人松商学園コンプライアンス推進規程及び学校法人松商学園コンプライアンス行動規範の遵守を推進する。

④キャンパスの安全確保とハラスメント対策

既に整備している学内管理下の事故防止策や損害賠償責任に対する保険、実験・実習の安全管理と傷害保険等の点検をする。また、校舎、校地内の危険箇所の点検を進める。学生の通学に係る車輌（バイクを含む）運転による事故防止に向けた安全教育に取り組む。現在、運用しているキャンパスハラスメント防止の体制を点検するとともに、全教職員に対して、キャンパスハラスメント防止意識を啓発するための研修機会を定期的に設定していく。

⑤海外留学・研修等における事故・トラブルの回避と対応

平成 27 年度から国際交流センターの体制整備に着手し、国際交流センター運営委員会の取組の拡張と充実を図る中で、学生の海外留学（長期・短期）の機会は増加し、また、授業科目「海外研修」の履修者も増えている。現在、国際交流センターと学生課が連携し、学生が出国する場合には、危機管理（事件・事故等の緊急事態への対応）上、所定の「海外渡航届」の提出を求めている。日常的には、国際交流センターの職員が文部科学省等が主催する学生の海外渡航に関する研修会にも積極的に参加し情報収集に努めている。また、大学が関わる学生の海外留学については、本学として事前に留学先と綿密な打合せを行い学生の安全を確保している。

しかしながら、今日の世界規模でテロや日本人学生が事件や事故・トラブルに遭遇するケースの多い現実を踏まえて、今後、学生のみならず教職員も含めた海外渡航中における安全マニュアル等と整備していく必要がある。

＜執筆担当／危機管理委員会　委員長　柴田　幸一＞

（１）環境保全部会

１）年度当初の計画 ＜Ｐ＞

学内におけるエネルギー利用の合理化や資源利用の適正化を進めること、もしくは、その活動を

支援し、年１～２回ニュースレターを発行する。これらの活動を通じて、（１）事業所の環境活動を進め、（２）高等教育として環境配慮の人材育成に努めること、を部会としての目的とした。

２）今年度の活動実績 ＜Ｄ＞

①環境部会の活動の目的を改めて検討する時期となった

②ニュースレターを後期に発行した。省エネ及び環境配慮にかかる情報を、全学生、および教職員に提供した。

③情報を共有、浸透させるために、学生による環境活動団体「エコナビ」の活動を支援すると同時に、学友会等との連携が図れないか、文書により関連部局の設置検討をお願いした。

④太陽光発電を導入して１年が経過し、契約電力量を上回る状態は概ね回避でした。一方、大学全体の１年間の電気使用量は太陽光発電分が増加した量となり、経費削減や現状維持にはつながらなかった。

⑤資源回収については、古紙、段ボールを障がい者就労事業を経由し、コムハウスと契約して発生量に合わせた頻度で回収している。また、エコ・キャップについては、学生と NPO が回収している。

３）点検・評価の結果＜Ｃ＞

① 環境部会の活動の目的が、委員会委員の中で十分に共有できないままであった

②ニュースレターを全学部、教職員を対象に発行した。新入生が読んでも理解しやすい内容に務めた。ニュースレター作業の分業化の課題は解決できなかった。

③学生活動の支援や体制づくりは、相互に連携を取りながら進めている。次年度以降の学友会の返答により対応する

４）改善・改革に向けた方策　＜Ａ＞

1 年間の委員会の活動は、積極的と言えない部分があり、反省が残る。ニュースレターが発行でき、学内の環境情報を一覧として「見える化」できた成果の一方で、学生や教職員に対する情報公開の波及効果が十分に得られていない点は課題である。本部会については実質運営の組織化が十分にできておらず、これは担当者の力不足であるが、大学全体から見た委員会の位置づけを再度確認したい。

＜執筆担当／環境保全部会長　中澤　朋代＞

（２）防災防犯対策部会

危機管理委員会内に環境保全部会と並び設置されている本部会は、１，自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施、２，構内の防犯体制整備を目的としている。

１）活動方針 ＜Ｐ＞

本年度の事業計画は以下の項目である。

［自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施］

① 防災訓練実施（本年度は人間健康学部で実施）　6 月

② 新村地域との合同防災訓練　8 月

③ 日本防災士機構「防災士」養成講座開講（第 2 回）　9 月

④ 防災対策先進地（鹿児島大学地域防災教育研究センター）視察　　平成 28 年 2 月
⑤ 自主防災組織（仮称：松本大学消防隊）の結成　　年度末を目途

［構内の防犯体制整備］

① 「松本大学防犯カメラ運用に関するガイドライン」に沿った運用　　通年
② 画像不鮮明および死角等による不具合箇所の洗い出し　　通年

2）活動内容 ＜D＞

［自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施］

① 防災訓練

・防災訓練実施担当者会議開催（533 教室）　6 月 22 日（火）12 時 20 分 1 号館発本年度は訓練の企画段階から防災士を取得した学生の参画を得て発災状況の設定、定められた避難経路の確認、避難時の危険箇所の点検、避難状況の評価シートの作成をおこなった。
・防災訓練実施　6 月 30 日（火）12:30 に「松本市を震源とした震度 7 の地震が発生、6 号館 1 階調理室より出火、6 号館玄関ホール及び渡り廊下付近が破損」を想定。6 号館で講義を受けていた学生および教職員約 400 名が訓練に参加した。

② 新村地区との合同防災訓練

・「地域の防災」をテーマとした PBL 型授業と連携して 8 月 25 日（火）に松本大学構内および新村地区にて実施。大学構内の地下貯水タンクを水源とした自衛消火ポンプの操法・放水訓練をおこなった後、大学に隣接する地区に設置されている消火栓設置箇所の確認と操作方法の訓練を松本市消防団第 11 分団（新村地区消防団）の指導でおこなった。大学学生および教職員 20 名、新村地区住民 30 名参加。

③ 「防災士」養成講座開講

・9 月 19 日（土）、20 日（日）　514 教室ほか
受講者：74 名（内訳：一般 51 名、本学学生 23 名）
本学学生は最終日の認定試験に全員合格した。

④ 防災先進地の視察

・鹿児島大学地域防災教育センター視察　　平成 28 年 3 月 3 日（木）～5 日（土）
地震および豪雨暴風災害と噴火災害における防災・減災対策のありかた、鹿児島大学における防災士養成の取り組みについて話をうかがった。

⑤ 自主防災組織（仮称：松本大学消防隊）の結成

・8 月 25 日（火）午前、新村地区との合同防災訓練において自衛消火ポンプの操法・放水訓練をおこなった。

3）結果と評価 ＜C・A＞

［自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施］

① 防災訓練は例年 6 月を開催月としており本年度の対象は人間健康学部である。6 月 30 日（火）は 2 時限目の中途で発災を 6 号館内に一斉放送、訓練の対象者は避難経路図に従い整然と多目的グラウンドに避難することができた。昨年度の＜C・A＞に掲げた防災士の資格を訓練の企画・運営に参画させることができた。
② 新村地区との合同防災訓練は、「地域の防災」をテーマとした PBL 型授業（地域課題研

究）と連携して 8 月 25 日（火）におこなった。大学構内および大学隣接地域に設置されている消火栓の位置確認ならびに操作方法について確認することができた。

③「防災士」養成講座開講を 9 月 19 日（土）～20 日（日）の両日開催した。受講者は小坂共栄元信州大学教授、東尾正元消防庁次長などによる講義を受講した後、小グループに分かれて図上訓練をおこなった。

④防災先進地視察の候補として鹿児島大学地域防災教育センターを選定、訪問した。地域防災で果たすべき大学の役割について、また、現在の学内外を対象とした 2 日間の集中講座形式に加えて、学生のみを対象とした指定科目を履修する形式で資格を取得させる取り組みについて学ぶことができた。

⑤自主防災組織（仮称：松本大学消防隊）を念頭に置いた新村地区との合同防災訓練を 8 月 25 日（火）に開催することができた。

［構内の防犯体制整備］

①昨年度の＜Ｃ・Ａ＞で掲げた「松本大学防犯カメラ運用に関するガイドライン」を策定、新年度よりこれに沿った運用をすることができた。

②6 号館北側の学生駐輪場付近、公用車駐車場付近が不鮮明であることが明らかとなった。今後の整備計画にて改善する必要がある。

＜執筆担当／防災防犯対策部会長　矢﨑　久＞

第３部　事務部門の点検・評価

Ⅰ．全学的事務部門

（1）事務部門の課題 ＜Ｐ＞

1）教育学部設置認可申請及び校舎建設工事

平成 26 年度から継続的に開催してきた将来計画委員会の基本計画は、教育学部の新設という形に具体化され、平成 27 年 3 月開催の理事会において同計画が承認された。平成 29 年 4 月開設を目指し、文部科学省への設置申請に向け、教育学部設置準備室の教員と職員が連携しながら申請書の作成に取り組む。また、教育学部専用棟（8 号館）の建築工事に着手していく。

2）大学機関別認証評価の受審

大学機関別認証評価の受審義務は、学校教育法第 109 条 2 項に規定されており、7 年毎に対応する必要がある。松本大学は平成 28 年度の受審予定であったが、平成 27 年度に受審義務のある松商短期大学部と併せて、松本大学も同時に受審することの意思決定がなされた。自己点検・評価委員会の方針の下に、各委員会に属する事務職員が今回重要視される各種エビデンスを整備し、報告書の内容との整合性を図る役割を果たしていく。

3）人事を含む組織強化

全体の年齢構成を考慮し、将来に向けて事務組織を段階的に強化していくため、中堅にあたる専任職員の採用について具体的に取り組む。

4）「大学人サミット」の開催

平成 27 年 11 月 7 日・8 日の 2 日間の日程で、本学を会場に「大学人サミット」をＳＤ活動の一環と位置づけて開催する。学内の実行委員会が中心となり実施計画を立案し、松本大学らしい「大学人サミット」を実施する。

5）学生募集と財務

平成 27 年度入学生の学生募集においては、短期大学部商学科が平成 15 年度以来、入学定員を割り込んだ。平成 27 年度予算の執行に際しては、可能な限り無駄を省く努力をしつつ支出を抑える。本学を取り巻く他大学の動きによる学生募集環境の変化に対応すべく、長野県の高等学校と中心とし、更に密度の濃い募集活動を展開する。

（2）具体的な取組 ＜Ｄ＞

1）教育学部設置認可申請及び校舎建設工事

平成 27 年 6 月、教員と職員で構成する教育学部設置準備室を立ち上げた。6 月、8 月、11 月、12 月、2 月の文部科学省の各窓口に対する事前相談を経て、当初の予定通り平成 28 年 3 月末、文部科学省に設置認可申請書を提出し受理された。申請書は①設置認可申請、②課程認定申請、③寄附行為変更認可申請の 3 種類に亘った。8 号館建築工事業者について、適正な手続きを経て業者選定を行い、平成 27 年 12 月に着工した。

2）大学機関別認証評価の受審

松本大学においては、日本高等教育評価機構による認証評価を受審した。平成 27 年 6 月までに所定の自己点検・評価報告書を機構に提出し、事前質問を受けたが、内容的には軽微なものであ

り、適正なエビデンスを揃えた完成度の高い自己点検・評価報告書となった。更に、10 月 20 日及び 21 日の 2 日間に亘り実地調査を受けた。

松商短期大学部においては、短期大学基準協会による認証評価を受審した。大学と同様に平成 27 年 6 月に自己点検・評価報告書を協会に提出した。各審査項目に的確に対応した内容であったため、事前質問はなかった。その後、9 月 8 日及び 9 日の 2 日間にわたり実地調査を受けた。

3）人事を含む組織強化

定年を迎える職員とのバランスを勘案した人事配置を考慮し、総務課に 2 名、交際交流センターに 1 名、入試広報室に 1 名の計 4 名の社会人経験のある中堅にあたる専任職員を新規に配置した。

4）「大学人サミット」の開催

平成 27 年 11 月 7 日・8 日の日程で第 9 回大学人サミットを本学で開催した。大学人サミットは大学に関わる諸問題についての意見交換や大学自慢、情報交換会などで構成し、大学職員のＳＤとしての意味合いが強いものである。企画から運営に至るまで、本学の若手職員が中心となり取り組み、テーマとして「地域の、地域による、地域のための、大学人サミット」を掲げた。

5）学生募集と財務

長野県内の高等学校に大きなウェイトを置いた学生募集活動を重視した。高等学校の土曜日の行事が増加する実情を踏まえ、オープン・キャンパスの開催日程を従来の土曜日から日曜日に変更し実施した。

平成 27 年度予算に計上している物品の購入や事業の実施であっても、現時点において執行する必要性があるのかを再点検しながら進めるように依頼した。また、将来の消費税率のアップに鑑み、学納金の値上げ案（施設費の一律 3 万円増）を理事会に提案した。

（3）取組に対する評価＜C＞

1）教育学部設置認可申請及び校舎建設工事

最終的に新設する学部学科の名称は、教育学部学校教育学科に決定した。本学部の「設置の趣旨」については、現在、長野県で求められている教員像を的確に捉えていると言える。また、「学生確保の見通し」については、80 名定員に対して 215 名の「入学したい」とのアンケート結果を得ている。これらのことは本学が新たに設置しようとしている教育学部が社会のニーズや養成に応えたものであることの証左と言えよう、

2）大学機関別認証評価の受審

大学、短期大部とも最終的に指摘事項は一切なく、平成 28 年 3 月、適格認定の評価を得ることができた。自己点検・評価報告書の本文に対するエビデンスの整備が事務職員にとっての大きな役割であった。今回の受審を通じて、学内の教職協働が更に進展するという副次的な成果も得ることができた。

3）人事を含む組織強化

総務課に 2 名、国際交流センターに 1 名、入試広報室に 1 名の計 4 名の社会人経験のある中堅専任職員を配置したことにより事務体制が強化され、平成 27 年度に計画していた各種業務を円滑に進めることができた。

４）「大学人サミット」の開催

本学独自の企画に対して、参加者から高い評価が集まると同時に、「大学人サミット」の開催は本学職員にとってもＳＤの観点から意義あるものとなり、また、全国の大学職員との交流の輪が拡げる意味で大きな成果を得た。大学自慢コンテストの総合順位は 9 大学中、僅差で第 3 位であった。

５）学生募集と財務

本学を取り巻く学生募集の環境が激しく変化する中にあって、平成 28 年度入学生の学生募集においては、大学院、各学科とも入学定員を上回る好結果を得ることができた。

平成 27 年度予算の執行に際しては、可能な限り無駄を省く努力をしつつ、支出を抑えてきた。また、今後の消費税率アップの動きを捉え学費を見直し、平成 28 年度入学生から健康科学研究科、各学部とも施設費について一律 3 万円の値上げをすることで、平成 28 年度入学生から教育活動収入の強化を図ることができた。

（４）次年度の展開に向けて ＜Ａ＞

１）教育学部設置認可申請及び校舎建設工事

設置申請のスケジュールが順調に進めば、平成 28 年 8 月末の認可となる。今度は学校法人審議会大学設置分科会の審査意見伝達に確実に対応し、補正申請に取り組んでいく。また、課程認定の答申は 11 月末であり、12 月中旬に認定されるスケジュールである。今後は設置認可申請書との整合性を取りつつ、短時間で確実に対処していく必要がある。また、一方では、学生募集に向けた下準備を確実に進めていかなければならない。

教育学部専用棟（8 号館）の建築工事については、平成 28 年 1 月から 1 週間おきに現場において業者との定例会議を開催し、工事の進捗状況を管理している。設計管理者と密に連携し、行程に合わせた適正な工事の遂行を期す。

２）大学機関別認証評価の受審

機関別認証評価の実施要領の変更に伴い、従来のように受審年度から 7 年間に亘り、質保証するものではなく、受審時のその時点のみにおいて適格性を認定するものとなっている。今後は、毎年実施している学内の自己点検・評価の実質化に向けて、職員も教員と連携しながら自主的、主体的に取り組んでいくことが肝要である。

３）人事を含む組織強化

平成 29 年 4 月からの教育学部設置に向けた事務組織の対応について、平成 28 年度から段階的に取り組んでいく必要があるため、学内での部署異動、担当業務の見直しと組換え、新たな人員の補充等を組み合わせていく。第一段階として、総務課の経理部門の強化、教務課の人員増等を進めていく。

４）「大学人サミット」について

平成 28 年度「大学人サミット」への参加についての在り方等について検討し、ＳＤとしての目的を達成できるように考慮していく。

５）学生募集と財務

平成 29 年度生の学生募集の好調を維持し、財務基盤の更なる安定化を目指す。また、新たな受

験者層を開拓していくことも同時に望まれる。特に新設する教育学部の第一期生の受入は重要課題であり、4年後の教員採用試験の合格情況を占うものでもある。

平成27年度決算を受けて、教育学部の設置資金の回収について中長期的なシミュレーションが適正にできる体力を保持していく。その意味で、既存学部と教育学部の定員確保は必須条件である。

＜執筆担当／大学事務局長　柴田 幸一＞

Ⅱ．総務課・管理課

〔はじめに〕

総務課・管理課の業務は多岐に亘る。日常業務を適正に遂行していくためには、幅広い大学運営に関する知識が必要である。ともすると、専門性が高いが故に個人が分担する業務のみの知識に偏重し、視野が狭くなりがちである。総務課、管理課の業務においては、直接的に学生との接点を持たないものが多いが、単に機械的に事務処理をするのではなく、その背景に学生がいることを常に念頭に置き、幅広い視点をもって個々の業務に対して意義付けをすることが大切である。

学生を直接的に教育する立場にある教員との日常的な事務連絡、会計処理、教育環境の整備、労務管理等、すべての面において、その立場を慮る姿勢が根底にあり、その上で様々な基準や規則に基づき、的確に判断することが事務職員に求められる。学生を中心において、教員と職員が協働するということの背景には、有り体に言えば「教員にとって痒いところに手が届く職員」であることがベースラインである。誤解があってはならないが、職員は教員の命により労働するわけではないからこそ、このような心持と協力的な行為が組織人として必要なのである。こうした考え方を基本として総務課・管理課に分掌された業務の意味や、その役割を常に考えることこそが地に足の着いた新たな提案や改善に繋がる。

総務課・管理課の事務処理の基本事項を再点検し、大学の全体的な動き、各委員会・各会議の動き、教員の教育研究活動等について正確に理解したうえで、個々の立場で考え工夫することを常とし、一人ひとりが配慮の行き届いた実務の遂行に心がけることが肝要である。

また、加速度的に進む我が国の高等教育政策、刻々と変化する本学を取り巻く環境の変化に深い関心と危機感を持ち、現代の大学運営に求められる生きた知識の獲得に努力し、新たな発想により本学の揺るぎない永続性の確立に向けて前進していかなければならない。

１．総務課（総務・会計）

（１）基本計画 ＜Ｐ＞

１）サーバー上のデータ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

①サーバー上のデータの整理・整頓を進める。

②各種保存書類、各種台帳等の再整理をする。

２）定例会議・各種委員会への対応

①各教授会開催に向けた正確な資料準備と適正な資料の管理に努める。

②業務の効率化を図り、ペーパーレス化を推進する。

③各種委員会における事務担当者の役割を再認識し、的確な対応に努める。

３）適正な会計処理の遂行と予算管理

①日常会計の証憑書類の適正な整備に努める。

②物品購入納品時の第三者による検品の徹底を進める。

③適正な稟議と適正な予算執行に努める。

④ランニングコストの節約に努める。

４）規程の整備

①認証評価受審に向けて、規程集の総点検を進める。

②全学運営会議からの諮問を受けた規程整備部会の下で規程の改正及び未整備の規程制定を進める。

③規程集の電子化を推進する。

５）特別補助金および競争的補助金の獲得

①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団の各種補助金に係る情報収集に努める。

②上記の競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進めていく。

③補助金申請のエビデンスを明確し、確実に資料を保存する。

６）教育研究施設設備および環境の整備

①新学部の開設に必要となる教室棟（8 号館）の建設に取り組む。

②老朽化した第 2 体育館の解体工事に着手し、8 号館と一体化させた建造物とする。

③老朽化が進む 1 号館 2 号館等の設備の改修工事を効率的に進める。

④私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金の制度を効果的に活用していく。

７）情報公表

①公式ホームページの情報公表におけるデータの見せ方をさらに工夫する。

②広報委員会、広報担当者と連携し、私学事業団が管轄する「大学ポートレート」の掲載内容を充実させていく。

８）各種調査・アンケートへの対応

①学校法人としての基本データを的確に整備する。

②公的調査に対する適正な対応に努める。

③民間機関の調査・アンケートに適正に対応する。

④回答した調査・アンケートの整理・整頓に努める。

９）後援会の運営

①役員会・総会の円滑な運営を進める。

②予算に基づく、効果的な学生活動の支援を進める。

10）認証評価への対応

①平成 27 年度は大学・短期大学部ともに認証評価を受審予定であり、自己点検評価書の提出及び実地調査の受入が円滑に進むよう取りまとめを行う。

（２）実際の取組み ＜Ｄ＞

１）サーバー上のデータ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

①平成 26 年度に引き続き、サーバー上に分散している各種データの保管様式の定型化を進めた。

課員が共有することを前提としたフォルダ名称の設定、関連フォルダの統合、ナンバリング、個人ファイルとの区別、不要な文書の廃棄を進めた。

②保存資料の整理整頓に着手した。また、学内に散在する倉庫について、鍵の管理が十分になされておらず、不都合が生じていたため、整理を進めた。

2）定例会議・各種委員会への対応

①教授会資料の定型化を進め、分かりやすさと効率化を進めた。総務課共通サーバー上で複数の課員が対応できるようにし、チェック機能を働かせ、正確に資料を準備できるような体制の構築を進めた。

②短期大学部教授会では、総務委員会を含め9月定例教授会よりペーパーレス化し、総合経営学部では9月の総務委員会より実験的にペーパーレス会議を導入した。

③全学共通の議事録様式を統一化し、内容を分かりやすく標記するとともに効率よく管理できるように取り組んだ。

3）適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

①日常会計の証憑書類について、特に物品購入の会計書類として、見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることを全員で推進し、取引業務の公正性を担保するために、総務課員による検品の徹底を進めた。

②工事等については、軽微なものも含め業者に対して工事完了報告書等の確実な提出を求め、万が一の瑕疵に対応できるように関係書類を整備した。

③予算の執行に際しては、金額の多寡に拘わらず、可能な限り安価な支出とするために、業者との交渉に努めた。

④光熱水費をはじめランニングコストは上昇傾向にあるが、太陽光発電の効果が出始め、6月以降は前年対比でいずれも減少に転じた。また、電燈の消灯、空調機の設定温度の調節等、環境保全委員会と連動した取組も継続して行った。設備面においては、老朽化により破損した照明設備を順次LED化するよう着手した。

4）規程の整備

①認証評価の受審に向けて、現行規程の改正、新規程の制定及び書式の統一を進めた。

②認証評価の実地調査の後に、規程改正及び規程制定に着手した。

③規程管理を効率的に行えるよう、法人事務局と協力し、「松商学園規程管理システム」の導入を推進した。

5）特別補助金および競争的補助金の獲得

①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）の各種補助金に係る情報を収集し学内に周知した。文科省「大学教育再生加速プログラム（AP）」、私学事業団「私立大学等改革総合支援事業」（①私立大学経常費補助金　②私立大学等教育研究活性化設備整備事業　③私立大学等教育研究設備整備費補助）等である。

②「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」については、信州大学等の求めに応じ、「参加校」として平成27年度に採択された。

③上記の競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進め、最終的に

次の補助金を獲得することができた。

・「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）」（4 年目）　37,000 千円

・「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（1 年目）　9,200 千円

・私立大学等教育研究活性化設備整備事業　8,515 千円　（大学タイプ１）

5,148 千円　（大学タイプ２）

9,723 千円　（短大タイプ１）

1,996 千円　（短大タイプ２）

・ICT 活用推進事業　36,433 千円

・未来経営戦略推進経費（3 年目）　6,000 千円　（SD 大学職員力向上）

合計：114,015 千円

・「大学教育再生加速プログラム（AP）」　短期大学で申請したが面接審査進出も不採択

6）教育研究施設設備および環境の整備

①8 号館の設備・備品について具体的な検討を進めた。

②8 号館建設に向け、第二体育館及び旧部室棟の解体を行った。

③老朽化による上記配管設備の修繕に取り組んだ。

④教育研究活性化設備整備費補助金の獲得により、総合グラウンド及び多目的グラウンドへの夜間照明設備整備、図書館をはじめとする各教室等の設備整備を行った。また、ICT 活用推進事業の獲得により、5 号館全教室の AV 機器の入替えを行った。

7）情報公表

①学校教育法施行規則に基づく、大学の教育情報の公表義務のある９項目に加え、私学事業団が努力義務としているすべての項目を公表した。これは経常費補助金の増額に反映されるものである。

②広報委員会及び大学広報担当者と連携し、公表している情報の見せ方の工夫に着手した。

③私学事業団が管轄する「大学ポートレート構想」へ参加した。各委員会と関連事務部署が連携し、掲載原稿を作成した。

8）各種調査・アンケートへの対応

①文科省、私学事業団の公的調査に不整合を生じることなく適確に回答できるよう、基本データの一元管理に努めた。

②公的調査および意義ある民間機関の調査・アンケート等に対応した。

9）後援会

①役員会及び総会の円滑な運営に努めた。

②資格取得支援センター運営部会において、検定・資格取得に対する奨励金の減額についての検討を進めた。

③効率的な支出に努め、その分を学生補助として生協券 1,000 円を全学生に配付した。

10）認証評価への対応

①受審に向け、教員・各部署の協力を得ながら、報告書作成の取りまとめ及び資料作成を行った。

②実地調査に対応するため、高等教育評価機構担当者との打合せ、実地調査用資料の取りまとめを行った。

（３）取組みに対する点検 ＜Ｃ＞

１）サーバー上のデータ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

①サーバー上に分散している各種データの保存形式を定型化することで、定型的な書類およびデータの共有を進めることができた。

②倉庫の鍵について、どこに何を目的とした倉庫があるかを明らかにした上で、倉庫の鍵をまとめて総務課で管理することとしたことで、スムーズに使用できるようになった。

２）定例会議・各種委員会への対応

①各教授会の事前配布資料の準備方法を定型化し、効率良く正確に資料準備をすることができた。

②短期大学部教授会は、議題と議事録を除くすべての資料をペーパーレス化することで、資料の印刷・配付準備を効率化し、以前より早く資料の事前確認が可能となったことに加え、直前に上がった議題を１ヶ月先送りすることなく議事に加えることが可能になった。

③各委員会の委員長と担当事務局が連絡を密にするよう心がけ、各委員会が概ね円滑に運営された。

３）適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

①見積書・納品書・請求書等の証憑書類の不備が減少し、監査指摘を大幅に減らすことができた。

②物品購入の際の検品の体制を確立することができた。

③各種工事に関する完了報告書を確実に保存する体制を整えた。

④コスト意識をもって予算の執行にあたることを課内で徹底した。特に消耗品の節約に努めた。灯油代は価格の下落と暖冬により、大幅に節約することができた。

４）規程の整備

①規程集の電子化、書式の統一化を終え、「松商学園規程管理システム」にスムーズに移行することができた。

②規程、内規、規則・基準等の整理とそれぞれの取扱方法を明確にしていく必要がある。

③「松商学園規程管理システム」を年度末に稼動させることができた。今後、未整備の規程制定と各規程間の整合性の再点検が必要である。

５）特別補助金および競争的補助金の獲得

①文科省と私学事業団がジョイントした「私立大学等改革総合支援事業」における補助金交付基準は、個々の大学の大学改革に対する取組状況に応じて傾斜配分する特別補助金の割合がますます高くなる傾向にあり、実質的には競争的補助金に近い形に変化してきている。平成 27 年度においては、大学、短大とも「タイプ 1 および 2」の調査票おいて基準値を超え、ICT 活用推進事業を獲得でできたことから、全体としての補助金交付決定額は平成 26 年度を上回ることができた。

②短期大学部において AP（アクセラレーション・プログラム）に申請したが、面接審査に残るも不採択であった。新たな取組を計画する背景となる本学の学内改革の現状を踏まえ、必要な改善を進めつつ次年度への申請に繋げていく。

③各種補助金の申請に際しては、適正な根拠資料に基づき判断し、その根拠資料を確実に保存することが大切である。後追いとなることがないよう、事前準備を丁寧に行う。

6）教育研究施設設備および環境の整備

①教育研究活性化設備整備費補助金は、年々補助率が下がり、自己負担額が増加する傾向にあるため、費用対効果を勘案しながら慎重に申請する必要が出てきている。

7）情報公表

①Web の特性を最大限活用し、時宜を得た幅広い情報発信を行った。

②平成 26 年度からスタートした「大学ポートレート」の掲載内容について、実情に合わせて適宜変更してく。

8）各種調査・アンケートへの対応

①多岐に亘る公的調査および民間機関の調査・アンケートに対して効率よく対応できるようにする。

②自己点検・評価報告書の「エビデンス集」でほとんどのものをカバーできる。各種調査・アンケートは当該年度の 5 月 1 日を基準日としているため、学校基本調査、学校基礎調査等と並行して進める。

9）後援会

①検定・資格取得奨励金の給付基準について見直しを行い、奨励金の支出は大幅に減少した。平成 28 年度予算では前年と同額としながら、給付基準を継続的に検討する。

②活発化する学生の課外活動の支援をさらに拡大していくことを基本方針とする。

③生協券利用率は 100%となり、直接的な学生支援につながった。

10）認証評価への対応

①期限通りに書類提出等を行い、スムーズな受審体制を整えることができた。

②各部署と連携を取りながら、実地調査に向けた万全の受け入れ態勢を整えることができ、評価員に対し丁寧な対応ができた。

（4）今後の取組みに向けて ＜A＞

1）電子データ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓（仕事の効率を上げるために）

①サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。

②書庫・書棚の整理・整頓及び倉庫の使用者について再配分を進める。また、8 号館の増設に伴い、新たに鍵が増えることが予想されるため、鍵類の分かりやすい管理にいっそう努める。

2）定例会議・各種委員会への対応

①各教授会開催に向けた事前配布資料の準備の定型化をさらに進め、正確な資料準備に努める。

②ペーパーレス会議は、該当者全員が同じノート PC 又はタブレットを必要とするため、初期投資を必要とする。予算的な課題はあるが、維持費は安価であり、メリットが大きいと考えられるため、他学部へも導入を進めたい。

③各委員長に対し、担当事務職員からきめ細かな連絡、相談を行うことで円滑な委員会運営に努める。

3）適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

①コスト意識をもって予算の執行にあたる。

②消耗品の節約に今後も継続して努める。

③できる限り相見積りを取って交渉材料とし、経費節減にいっそう取り組む。

④環境保全部会と連携しながら、更なる光熱水費の節約に努める。

4）規程の整備

①未整備の規程について継続的に整備を進めるとともに、各規程間の整合性の再点検を進める。

②規程、内規、規則・基準等の取扱い及び管理方法について明確化する。

③「松商学園規程管理システム」が適切に運用されているか検証を進める。

5）特別補助金および競争的補助金の獲得

①補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。

②学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。

③補助金申請の根拠資料の整備について再点検する。

④「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査票の内容を精査し、得点アップに向けて本学の実情を踏まえつつ積極的に取組む。

6）教育研究施設設備および環境の整備

①教育学部の開設に向け、遺漏のないよう確実に整備計画を進める。

②老朽化が進む短期大学部棟の改修工事を計画的かつ効率的に進める。

③補助金制度は今後も積極的に獲得を目指しつつ、必要性と補助率減少に伴う自己負担の増加とを慎重に検討して進める。

7）情報公表

①公式ホームページの情報公表におけるデータの見せ方をさらに工夫する。

②各部署から情報発信しやすいよう、入試広報室と連携しつつ、システム整備を進める。

③各部署等から発行される広報物・印刷物について、電子ライブラリー化してより広く大学情報の公表ができるよう検討を進める。

8）各種調査・アンケートへの対応

①社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。

②全学的にデータの一元化･共有化を進め､各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

9）後援会

①後援会の予算規模に照らし、学生活動の有効な支援方策について検討を進める。

②資格支援センター運営部会の検討も踏まえ、奨励金の予算を減額させたことを点検・評価していく。

③平成 28 年度は「梓乃森祭」が記念となる第 50 回を迎えるため、例年以上に学生の支援に取り組む。

10）認証評価への対応

①大学・短期大学ともに高評価で「適格」認定を受けることができた。

②引き続き情報収集を行い､機関別認証評価の第三サイクルを視野に入れつつ体制整備を進める。

総務課の業務はここに掲げた項目以外のものも多々あり、その内容も多岐に亘るため、総務課は効率性を重視し適正に業務を遂行し得る組織でなければならない。特に平成 28 年度においては、新学部の立ち上げ業務に対応すべく、新たな事務体制を構築していく。

＜執筆担当／総務課長　赤羽　研太＞

２. 管理課

地域の地（知）の拠点として松本大学における研究や教育、地域連携活動の特色や成果を学内外に知らせて継続させる事が大学のブランド形成につながっている。

研究や教育に携わる教員や学生、院生にとって有益となる外部資金情報を迅速にかつ効果的に紹介して、研究資金を獲得するだけでなく、成果の知的財産化につなげる役割が委員会事務局には求められる。

また、専任・嘱託・派遣という雇用形態の特性を踏まえつつ、事務局員の力量を向上させるためのＳＤ活動の強化、労務管理や作業、職場環境の改善、メンタルヘルスへの配慮など外部専門機関と連携を図ることも重要になっている。

（１）課題 ＜Ｐ＞

１）外部資金の獲得に向けて

①私学事業団、文部科学省をはじめとして他省庁や各種財団の公募情報を Ridoc で系統的に案内を継続する。

②教員の研究成果についても、学会発表や受賞などを HP 等で発信し、更なる資金や委託業務の獲得につなげる。

③大学への間接経費の効果的な執行について事務局内でたたき台を検討する。

２）産学連携、知的財産権の保護

①研究室の研究成果による特許や製品化にあたっての商標登録、ライセンス化について研究推進。委員会の意思を反映させて、関係機関や企業との折衝を進める。

３）教職協働につながるＦＤ・ＳＤの発展

①学生の学修成果・研究成果に直に接し理解することで、学生の成長ぶりを教学面から教員を共有するため、卒論発表会、修論発表会に参加する。

②社会が求めるニーズや学生の就業環境の変化を職員が敏感に捉えるため、教員と協力してキャリア教育を進める体制の確立を図る。

４）働きやすい職場づくり

①有休消化の推進、労災や交通災害などの防止活動、メンタルヘルス向上につながる学内での連携など職場や現場に即したシフトや業務の把握に基づいた外注化の検討などを行う。

（２）平成 27 年度の実践とまとめ ＜Ｄ・Ｃ＞

１）外部資金の獲得

①平成 26 年度より Ridoc 共有ファイルにて各種財団などからの公募情報を適宜掲載している。過年度においては科研費等の外部資金の獲得増加に向け、獲得の顕著な実績を持つ教員による、事務職員対象の説明会を実施したが、継続性がない状況にある。今後、外部講師を招いての研

修を実施していく必要がある。

②第4回目となる「教育研究発表会」は3月9日、10日に実施され17件（理科系11件、人文・社会科学系6件）の研究発表が行われた。事務局では、抄録集の編集と発表時間管理などの運営を担当した。

③研究資金の採択にかかわる間接経費は、日本学術振興会の科研費への外付けのみが認められており、他の省庁、企業、財団の補助金には間接経費が認められていない。研究費の経費執行に伴う、領収書などの証憑書類や出張記録、アルバイト名簿などはコンプライアンスの視点で精度を上げる必要があり、今後も事務部門で的確かつ系統的な処理と管理が求められる。こうしたマンパワーを伴う業務遂行には間接経費が必要である旨を今後とも提起する必要がある。

2）産学連携、知的財産権の保護

①松本大学を主会場に『2015まつもと広域ものづくりフェア』を開催した（2010年以降6回目）。

フェア期間中は天候にも恵まれ、延べ15,100名の来場者は、企業、団体等による展示・デモンストレーション・多様なものづくり体験教室コーナーを楽しんだ。目玉となるものづくり体験教室コーナーには、38 種類のメニューが用意され、その数と内容の充実さに参加者の満足度は高かった。参加者へのアンケート調査によると、来場者の大多数が松本大学での継続開催を望んでいる。

②本学が地域連携や高大連携を通じて人材育成や地域資源を生かした産業創出につなげている実績に対して農林水産省からのヒアリングを受けた。

これは、松本大学と安曇野市商工会が共同で運営する中信地区6次産業協議会において大学と商店、メーカー、観光面などに成果が拡大している成果としていることを評価してのことである。

③知的財産権取得の取組

大学への委託業務として行われた研究者個人の研究成果に基づく知的財産権をどこまで帰属させるかについては明文化にされていない。

3）事務局職員の能力開発を推進して、教職協働の実行、事務局内の連携を強化する

①ＦＤ・ＳＤ活動

専任職員・嘱託職員・派遣職員については、FD・SD委員会、人権委員会主催の下記学内研修への参加を位置付けた結果、延べ64名が受講した。

またこの他、専任職員には、朝礼時の3分間スピーチ、月例の職員会議冒頭部分では旬のテーマによる研修を行っている。

テーマ	人数	期日	講　師
松本大学の 全学部学科の取り組みを理解する	31	5月28日	室谷　心（総合経営学部長） 田邉愛子（人間健康学部入試委員） 山添昌彦（松商短期大学部長）
ルーブリック評価スタートアップ	12	9月14日	俣野秀典（高知大学　講師）
今日のメンタルヘルスの課題	21	2月16日	小泉典章（長野県精神保健福祉センター所長）

②資格取得など自己研鑽の取組

資格取得状況は、厚生労働省認定資格であるキャリア・コンサルタントが2名、国家資格であ

るＦＰが１名、EQ アセッサーが１名である。

また、大学行政管理学会に３名が入会し、学会発表に向けて、各自のテーマに取り組んでいき、さらに多くの職員の研修の場として位置づけていく。

４）コンプライアンス重視の労務管理と職場環境改善

専任職員については時間外労働の削減、休日出勤に伴う振替休日取得を年度初めに呼びかけた。ストレスや長時間のパソコン作業などから慢性疲労やストレス性の疾病を誘発するリスクがあるためその対策が求められる。平成 27 年度においては、労災や通勤途中の事故に関して届出と発生はなかったものの、一層の事故防止のための注意喚起が求められる。

５）その他の取組

①「防災士養成研修講座」の運営補助

２回目となる本年では 74 名（本学学生 23 名、社会人 51 名）が受講し、資格取得検定試験には全員が合格した。松本市（講師派遣）、松本商工会議所（後援）の協力が得られたとともに、本学学生と社会人がグループワークやワークショップを行い、事務局は運営補助を担った。

今後、保護者や卒業生への浸透、後援会や同窓会との連携を図っていく。

（３）平成 27 年度への改善・改革に向けた方策　＜Ａ＞

１）外部資金の獲得に向けた取組

①大学の組織あげての公的補助である文部科学省、私学事業団補助項目に関しては、実施主体となる部門との情報や記録の共有と結果のフィードバックを行う。

②科研費獲得に向けた分野を超えた学内における先進事例の共有や、各種財団、文部科学省以外の研究志向の補助金についても適宜情報提供を継続する。

２）委託業務、産学連携のワンストップ化、知的財産権申請の支援

①委託業務の内容掌握については、特に経費の取扱いについては、学内ルールに基づき適正な事務処理に努める必要がある。ややもすると、研究者が自ら獲得し、自らに帰属する研究資金であるといった意識のため、出張の事後報告や経費の個人判断に基づく執行などによる大学ルールからの逸脱が監査で指摘されており、十分な意思一致をはかる必要がある。

②産学連携のクライアント側のニーズは多岐にわたっており、松本大学における窓口となる地域総合研究センター、地域健康支援ステーション、地域づくり考房『ゆめ』の相互の役割と強みを発揮するための事務局同士の緊密な連携も図る必要がある。

③知的財産権の適正な保護及び活用を図るため、規程整備が必要となる。

＜執筆担当／管理課長　赤羽　雄次＞

Ⅲ．学生センター

2011 年度から、大学内の各部署で様々な業務を経験し、総合職（ゼネラルマネージャー）としての人材の育成を目的とした若手・中堅職員・課長の定期的、計画的な人事異動を行っている。2014 年度は大きな人事異動はなく、業務を習熟する時期と捉えている。部署ごとの業務内容はそれぞれ特色があり、一年をひとつのサイクルとして業務内容が変化するため、移動のなかった嘱託職員のキャリアに頼るところも大きい。継続的に業務を遂行し、途切れないようにするため、中・長期的な人事計画が喫緊の課題となっている。

また、本学では、開学以来、教職協働による大学運営を重視している。教員とともに大学の発展に寄与する人材となるべく、大学職員としての専門性と幅広い教養を身に着けるため、各種研修会への参加を積極的に促している。

（1）学生連絡会・相談員の役割の再点検 ＜Ｐ・Ｄ＞

①学生連絡会

2010 年 12 月に立ち上げられた学生センター連絡会（学生課・教務課・キャリアセンター・国際交流センター・情報センター・健康安全センター・基礎教育センター・図書館の職員で構成）は、2013 年度より若手職員の自由闊達な意見交換や情報共有の場として、学生連絡会に名称が変わった。主な目的は従来と変わらず退学者の抑制、休学している学生の複学促進を主な目的としている。学生の抱える様々な問題や悩みに対し、事前に問題を把握し、深刻な事態になる前に学内における学生情報を共有し、他部署およびゼミナール教員と連携しながら解決方法を見出すことで、一定の効果を上げてきている。また、休学が継続し退学へとつながるケースも多いことから、長期にわたる学生のケアにいかに関わっていくか、特に下記の 3 点について注意深く対応をとっている。

a)　授業の出席状況と欠席理由の把握

b)　悩みを持つ学生の気軽な相談窓口の設置

c)　生活習慣が過度に乱れている学生の把握と改善に向けたアドバイス

②学生相談員、ファイナンシャル・プランナー

2012 年 6 月より、上記学生情報への対応策として学生がいつでも相談できる学生相談員の配置を行っている。学業や友人関係、クラブ・サークルのことなど悩みや相談がある場合、気軽に相談できるよう、カウンセラーの有資格者を中心にカウンター業務と並行して行っている。

また、経済的に修学が困難な学生に対して経済的な相談を行うため、ファイナンシャル・プランナーの有資格者の相談員を配置している。

＜学生相談員＞

教務課：山本由紀（育休中）　キャリアセンター：白澤聖樹、片庭美咲、松澤久由

情報センター：伊藤健

（相談員のサポート役：丸山正樹、田中雅俊）

＜ファイナンシャル・プランナー＞

教務課：上條直哉

③授業料免除制度

休学・退学する学生の中には、経済的な理由によるものが少なくない。学内の制度として 2009 年度より「経済状況悪化に伴う修学困難な学生への支援制度」を設け、家計を支えている方の失職、

破産、事故、病気、もしくは死亡等により、入学後、修学が困難となった学生に対し、授業料の半額を免除している。2015 年度に採用された学生は、前期後期合せ６名であった。

また、全学生の約 40%にあたる学生が奨学金を受給し、学費や生活費に充てている。ここ数年この割合は横ばいで推移しているが、就職してからの返済について、学生支援機構の方針が強化されており、次の受給者のためにも在学中からの学生指導の徹底が必要となっている。

（２）学生連絡会・相談員の役割の再点検 ＜Ｃ・Ａ＞

①学生連絡会議

学生連絡会は、原則月に 1 度の開催で、毎回 10 名程度の職員が参加している。各部署から持ち寄られた学生の情報を共有しながら、休学者・退学者が少しでも減少するよう、対策について議論を重ねている。また、それぞれの部署を超えて若手・中堅職員が問題意識を持つことの習慣化にもつながっており、連絡会の意義（原点）を忘れずに今後も継続して行きたい。

②学生相談員

学生相談員は、学生の日常的な悩みを幅広く受けつけることを目的として設置されたが、2015 年度、相談員を目当てに窓口に来た学生は 0 人であった。学生の悩みは、日常会話の中に見え隠れしており、相談員は窓口での対応で、その会話の中に感じた悩みに対しアドバイスを行うケースがほとんどである。今後、SD 研修の一環として取り組んでいるキャリアカウンセリング等資格の取得や産業カウンセラーの資格取得の推進によって効果が上がることを期待している。

＜執筆担当／学生センター長　丸山　勝弘＞

１．教務課

2015（平成 27）年度の教務課は、総合経営学部、人間健康学部及び大学院、松商短期大学部、教職及び資格取得の各担当を専任職員及び嘱託職員の計 10 名の体制で教学業務に従事した。

（１）2015 年度の基本計画 ＜Ｐ＞

2014 年度の自己点検・評価を踏まえ、2015 年度の取り組みを以下に掲げた。

１）教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、他大学の事例等を情報収集し、認証評価を念頭に置き、諸規程・諸規則等を整備する。

２）認証評価の受審

9 月に短大部が短期大学基準協会の認証評価を、10 月に大学が日本高等教育評価機構の認証評価を受審する。関係部門と連携し、万全な準備をして対応する。

３）外部テストの実施

昨年度の検討を経て、新入生オリエンテーションのプレイスメントテストにおいて 3 科目の外部テストを実施する。

４）教員免許状更新講習の実施

県内のほとんどの大学では教員免許状更新講習が開設されている。本学でも教職センターと連携し、平成26年度より開設に向けての準備を進め、平成27年度からの開設を行うことになった。スムーズな運営を目指して準備をしていく。

５）正課外講座の充実

TOEIC 対策講座の導入や公務員試験対策総合講座の充実を図る。

（２）課題に対する取組 ＜Ｄ＞

１）教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、３つの規程等の整備に向け検討を行った。

（新設）

①「台風、積雪その他不測の事態に対する休講措置の申し合わせ」

②「松本大学大学院長期履修学生規程」

③「松本大学教育学部履修規程」

２）認証評価の受審

大学、短大とも適格となった。教務として検討を要する事項として、大学について以下の検討を今後進めていくこととなった。

①成績評価基準の明確化

「受講態度」および観点別評価の導入などについて検討する。

②事前事後学修の実施確認

単位の実質化に向け、他大学の事例等から確認方法について検討する。

③公欠制度

公欠制度の導入の有無について、他大学の事例等も参考に検討する。しかし、公欠であろうと無かろうと授業を受けていないことは変わりがないため、何らかの補習的授業が必要であろう。

④クラスサイズの上限

アクティブラーニングを充実させるため、クラスサイズについて検討する。

３）外部テストの実施

基礎学力の把握や英語のクラス分け等の観点から、従来の英語 1 科目実施から英語・数学・国語の 3 科目を実施した。試験問題は、学部においては、英語は TOEIC Bridge、数学と国語は㈱旺文社、短大部については、英語は TOEIC Bridge、数学は IRT、国語は基礎教育センター作成の問題で人文社会として実施した。

４）教員免許状更新講習の実施

必修講習 1 講座、選択講習 19 講座を開設した。延べ約 450 名の受講があった。事後アンケートから見ても、受講者からの高い評価を得たことが見て取れ、また、円滑な運営を行うことができた。

５）正課外講座の充実

①TOEIC 対策講座

正課の授業で入門・初級・中級・実践とレベルに応じた段階的な学修指導を行っているが、さらに点数をアップしたい学生を対象に正課外で講座を開講した。前期は 21 名が受講し、後期はレベル別に 2 クラスで開講（700 点クラス 8 名、500 点クラス 16 名）した。

②公務員試験対策総合講座

資格取得支援センターと連携し、全学年を対象に、各学年に応じた公務員試験対策講座を総合講座として開講した。

・講座：

対象	講座	回数	前期	後期	土曜
学部４年	実践演習講座（教養）	15 回	木５	－	－
学部３年	基礎講座（教養）	60 回	水５	火５	左記のうち 30 回
学部２年	プレ基礎講座（教養）	30 回	月５	木５	－
学部２年	プレ基礎講座（専門）	30 回	金５	月５	－
学部１年	基礎力養成講座	30 回	火５	水５	－
短大２年	実践演習講座（教養）	15 回	金５	－	－
短大１年	プレ基礎講座（教養）	50 回	月５	木５	左記のうち 20 回

（３）課題に対する点検 ＜Ｃ＞

１）教務に関する諸規程・諸規則の整備

①「台風、積雪その他不測の事態に対する休講措置の申し合わせ」

平成 28 年１月 18 日（月）の大雪による一斉休講に伴い、自然災害等での休講措置の申し合わせについて検討を行うこととなった。現在、危機管理委員会に上程し、検討が行われている。

②「松本大学大学院長期履修学生規程」

職業を有している等の事情により、標準修業年限の２年を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認めるもので、平成 28 年４月１日施行となった。平成 28 年度入学生 10 名のうち、２名から申請があり、２名とも適用となった。

③「松本大学教育学部履修規程」

教育学部の教職課程認定の必要書類として規程整備がなされた。

２）認証評価の受審

認証評価への対応として、未整備な部分を数年かけて補っていったが、本来必要であるべきものは、認証評価の有無に関係なく整備されている必要がある。

３）外部テストの実施

英語は TOEIC の受験推進を目的に TOEIC Bridge を実施した。正課科目の TOEIC の履修者が増え、また、TOEIC 受験者も増大した。学部の国語・数学については、全国レベルの把握や分野別でのウィークポントの把握が可能となった。短大の人文社会では、入学前教育で使用した問題集からも出題することにより、問題集へのモチベーションを高めることとなった。

４）教員免許状更新講習の実施

2015 年度は初めての開設であったため、受講生の事後アンケートや教員からの要望などの分析を行い、さらなる改善を進めていく。

５）正課外講座の充実

①TOEIC 対策講座

正課外講座の開設により、ある程度実力をもった学生の受け皿となり、さらなる学修意欲を

喚起することができた。特に留学経験者が帰国した後、学力維持・向上として重要な役割となっているほか、留学未経験学生への指導的役割を担っており学生同士の学び合い、自主学修が日常的行われるようになったことは得点にも反映し、大きな成果であった。また、学内ＩＰテストの実施により、定期的に学生の学修成果を測定することができ、教授方法や授業内容にフィードバックできるようになった。また、受験負担（受験料・申し込み手続き・学内受験）が大幅に減ったため、結果として受験者増加につながった。

②公務員試験対策総合講座

受講者数が全講座で 157 名であった。次年度本番の受験を向かえる 3 年生の受講者は 37 名であったが、講座の回数が進むにつれ出席者が減少していくことが課題である。

（４）課題に対する改善 ＜Ａ＞

１）教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等を整備した。実情を鑑み、不十分な点が生じた場合、各種規程等の整備を検討して行く。

２）認証評価の受審

7 年後の認証評価に備え、日頃より準備をしていくことが重要である。実情を踏まえながらも、他大学の事例も参考に対応していく。

３）外部テストの検討

2015 年度の新入生オリエンテーションで 3 科目のプレイスメントテストを初めて実施したため、経年での変化を観察し、今後の改善を図っていく。

４）教員免許状更新講習の実施

受講生の要望のある講習を増やすこと、文部科学省から開講の要望のあるテーマを扱うなど、教職センターと連携し、検討を進めていく。

５）正課外講座の充実

①TOEIC 対策講座

この１年で本学英語教育に一定の結果は出たが、授業や講座による学修時間だけでは十分とはいえない。本学にはリスニングやスピーキングを自学自習できる場所・機材がないため、小規模でよいので e-ラーニング環境を実現したい。また、短期語学研修とも連携も図り相乗効果を発揮したい。

②公務員試験対策総合講座

資格取得支援センターと連携し、受講者を増やすべく学生への告知を進めて行く。合格者を増やすこと、さらに上級職への合格者も増やすべく講座担当とも連携していく。

＜執筆担当／教務課長　丸山　勝弘＞

２．学生課

＜現状＞

本学は「教育・研究を通じた地域社会への貢献を目標としている」ことを掲げ、社会で行われる実際の事業に学生を関わせることで、地域の人たちとの繋がりを持てるよう学生への支援を常に心

がけている。また学部別の担当を配置しながら、奨学金事務、共通の企画、全学行事の事務を遂行した。

（1）年間計画 ＜P＞

1）学生の指導に関する事項

・学内での生活全般
・危機管理対応（事故・事件の対応）
・病気、怪我、体調不良等の相談、対応（健康安全センターとの連絡）
・日常の生活マナー指導（喫煙、駐車違反、不正乗車、アルバイト情報の提供、掲示物等）
・松本警察署生活安全課及び交通課との連携
・留学生への生活全般助言

2）学生証、通学証明書、ＪＲ学割証の発行に関する事項

・上高地線通学定期不正使用禁止の徹底指導

3）学生の課外活動に関する事項

・学友会、クラブ協議会、サークル連合への支援
・強化部、重点部、強化指定選手への大会手続及び支援
・寮生活の指導・健康状況、会計状況、生活状況相談
・松本子どもまつり、松本ぼんぼん参加申請、企画、引率等
・全国私立短期大学体育大会への参加申込、宿泊手配、引率
・長野県私立短期大学体育大会への参加申込、引率
・学部及び短期大学部の体育大会等への協力、支援
・各種リーダー研修会への助言、支援
・新村地区情報交換会（新村音楽祭・新村地区運動会への支援と学生派遣協力）
・ 松本大学地域懇話会（新村地区長会長・市議との懇談）
・各種発刊物への企画アドバイス
・湘北短期大学との交流会（リーダー研修会・スポーツ交流等）

4）学友会会則の見直し等

学友会活動を始めとした課外活動の広がりと成果を多くの学生が参加、利用できる仕組みづくりを行う。

5）大学祭をよりアカデミックさを強調しながら成功させる。

6）修学支援に関する事項

①「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」
②「日本学生支援機構の奨学金」
③「松本大学同窓会奨学金」
④「地方公共団体・民間育英団体」
⑤ その他

7）障がいをもつ学生への支援

（2）活動内容 ＜D・C＞

1）学生生活の広がりに対応した支援業務

①修学支援（奨学金、緊急支援制度他）

全学生の４割にあたる 769 名（院生含む）が日本学生支援機構奨学金の貸与を受けており、親元の経済事情を反映した相談が日常的に増加している。返還誓約書の早期提出など事務取扱いが煩雑となる一方で、奨学金の月額変更や緊急、応急貸与の個別相談にきめ細かく対応するべく課員の業務水準をあげるための研鑽につとめた。（下表参照）

	在学生数（3/29 現在）			奨学金受給学生数・比率		
	2013 年	2014 年	2015 年	2013 年	2014 年	2015 年
総合経営	718 人	733 人	724 人	283 人 39.4%	278 人 37.9%	283 人 39.1%
人間健康	758 人	738 人	734 人	348 人 45.9%	351 人 47.6%	338 人 46.0%
大 学 院	13 人	12 人	10 人	4 人 30.8%	3 人 25.0%	4 人 40.0%
短期大学	447 人	438 人	382 人	167 人 37.3%	149 人 34.0%	144 人 37.8%
合　　計	1936 人	1921 人	1850 人	802 人 41.4%	781 人 40.7%	769 人 41.6%

また「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」として、学費半額免除の制度を継続した（前期・後期）。親元の経済急変の背景となる事案が多様化しており、審査委員会として審査基準と手順を改善した。

学部のみになるが、スポーツ特待生制度の学力基準（GPA 目標値：2.0、GPA 基準値：1.0 以上）を設け、条件を明確にして継続している。

②生活支援（マナー、社会人基礎力）

全学学生委員、学生課、学友会役員、クラブ協議会及びサークル連合会により、たばこの吸い殻、ごみ拾い、体育館（第１・第 2）及び部室棟周辺の清掃を実施した。

新入生には交通安全や防犯、ＩＴ犯罪対処の予防について松本警察署の協力で講話を実施し、一定の抑止効果を見せている。また薬物依存への警告を行うための同署生活安全課の支援を得た。

車通学の学生による違法駐車に対し近隣から苦情が寄せられ、警備員による大学周辺の巡回や悪質なケースへのタイヤロックなど強化に努め、その結果、効果が出たと思われる。一方で学生駐車場ゲートの不具合等にとりパーキングユニットの交換をしたが、パーキング機器の摩耗が激しいため、業者とのメンテナンス契約を締結した。（年３回）

また不正乗車禁止の呼びかけを行い、犯罪を防ぐために警察との連携を密にした。

③コミュニティ形成としての居場所づくり

学生たちが仲間づくりや共同行動を通じて成長をはかり、社会性を身に付ける重要性が大学教育で強調される以前から松本大学では学友会やサークルを通じた人づくりを重視している。

総合グランドは学校法人松商学園との共有グランドのため、高校と大学から運営委員を選出し、授業優先の原則のもと本学サークルと高校部活動のすみわけをはかった。7 号館 1 階のコモンルームは多目的空間として勉学、語らい、発表、食事など平日はほぼ満席となりニーズの高さを示している。

④危機管理

学生たちが安心、安全に学生生活をおくるために事故防止や事故に対し健康安全センターとの連携で対応をはかった。

2）学友会のサポート

体育祭、大学祭といった学友会主催のイベントで、担当する学生たちがいかに主体性をもって企画運営に携わることができるかを意識しながらアドバイスなどを行った。その結果、学生たちが達成感を味わい、自信を所有することにつながった。

それぞれの学友会間の連携を意識して、学友会会則の改訂を行い、基本的な総則や組織、役職の統一化をはかった。また、学部の学友会は役員改正の選挙を実施するなど、学友会活動の発展に努めた。

3）クラブ協議会、リーダーズキャンプ

総合経営学部・人間健康学部両学部の学友会が協力して組織したクラブ協議会は代表の学生により、年間計画や予算作りの指針をクラブ代表にはかり、各クラブ内における活動レベルを引き上げた。

同時にリーダーズキャンプは短大方式を参考に、クラブ協議会リーダーズキャンプ（9 月）

3 学部合同リーダーズキャンプ（2 月）と行われ、相互交流と研鑽の機会となりつつある。学生課はこれらの円滑な運営のサポートを行った。

4）大学祭の成功

梓乃森祭は年々規模の拡大と参加者の増加がみられる。今回のテーマは「五臓六腑で騒ぎ出せ！！」を設定した。また本学では木曽御嶽山噴火災害へバザーでの収益金を寄付した。（支援金 61,711 円）

全学学生委員会では、①松本大学の教育や研究実践のアピール、②学生の更なる参加と教職員との協力を意識した大学祭とするべく、5 月より準備を行い、松本理容美容専門学校とのコラボレーションによる「松コレファッションショー」など、好評であった。今回で第 6 回目となる地域貢献大賞には最多となる 3 学部から 7 グループが参加し、日ごろの学習成果を発表した。審査員には、学外より新村公民館長、ＥＰＳＯＮ労働組合執行委員長、後援会役員に加わっていただき、「地域の問題に真摯に取り組む学生と大学の姿」へ賞賛が寄せられた。

7 号館コモンルームには、サークルポスター展示、ゼミナールの実践発表と展示スペースを設けてアカデミックさと日頃の学生の活動をアピールした盛大な大学祭となり大いに成功を収めた。

5）障がいをもつ学生への取組

本学には心身になんらかの障がいをもつ学生が在籍している。学生委員会は、健康安全センターと密に連携を取り、学生生活に支障の無いよう支援をしたい。

6）留学生への対応

今年度より、国際交流センターの専任の職員を配置し、留学生が、勉学及び生活に支障の無いよう、日本の風土に馴染めるように適切なアドバイスをしたい。

7）松大ブログ、発行物

大学ホームページに主要サークルのブログコーナーを開設したが、いまだ全体的に使用頻度が低い。また、学友会報道局の「大学新聞」は年 2 回発行、また総合経営学部、人間健康学部及び松商短期大学部の卒業文集も好評を得ている。

毎年全学生に配布する「CAMPUS GUIDE 2015」の内容を見直し、学友会・サークル紹介ページを別冊子（名称：Start）版で発行した。3 学部の学生編集スタッフが中心となり、行事の紹介やサークルの魅力を伝えるために学生の生の声や写真を取り入れるなど読みやすくなっている。

こうした取組を行うために学生課では、学生たち自身のやる気やアイデアを引き出すため行事のふりかえりや編集スタッフ同士のチームワークを通じて達成感が得られるよう配慮を行った。

（３）次年度への課題 ＜Ａ＞

更なる現場事業の強化へ

１）3 学部の学友会活動のベクトルを合わせ、協力できるところは協力し、独自に行うところは別に行い、自治を確立するといったメリハリを考慮した活動を支援する。

２）学部・クラブ協議会と短期大学部・サークル連合会の組織を融合し、スムーズな運営体制を確立する。またクラブ活動がより活発化するために支援する。

３）大学祭・体育大会等のイベントが、より学生主体で行えるような仕組みを引き続き構築する。

４）高等教育コンソーシアム信州学生支援部会では加盟大学とのネットワークを広げ、各大学祭の情報交換の場を設け、学生の交流ができるよう支援する。

５）学生生活の基盤を支える

① 学生のほぼ 4 割にあたる奨学金貸与学生へのスムーズな手続きとともに、親身になった相談活動を行う。また、日本学生支援機構以外の奨学金にも注目し、広く学生に紹介できるよう情報収集に努める。

② 一人暮らし、悩みをもった学生、サークル・学友会のリーダーなど学生たちの抱える問題解決の支援を教員や健康安全センターなど部署同士の連携で行う。また障がいをもつ学生への有償サポートスタッフ制度の運用を通じて、バリアフリーの大学づくりを継続する。

③ 学生と教職員同士の信頼、学部を越えた学生同士の交流などの本学が持つ強みを最大限に発揮する課外活動の展開。

④ 学内指導者の招聘などにより、強化部、重点部、個人強化選手の役割と結果を出すサポートを行う。

⑤ 健康的で快適なキャンパスライフを送るために、一人ひとりが高いモラルをもってマナー向上に取り組むために、ルールブックを作成する。また悪質なルール違反防止に向け、ペナルティを科すことを明記する。

⑥ 永年の夢であった硬式野球部の寮が新築（借家）され、平成 28 年度 4 月より入寮が予定されている。

⑦ 留学生の良きパートナーとなり、慣れない異国での生活のアドバイスを行う。

６）学生課職員の標準化

どの学生に対しても公平なサービスを提供するために、打合せの頻度を多くするなど職員の情報共有に努める。今後、配置転換があっても、スムーズな運営ができるよう、マニュアルを作成し、円滑な事務を引き継げるようにする。

学生にとって最も身近な「社会人」として、ときには社会の厳しさを指導することも私たち職員の責務と考え、学生対応を行い、学生を育てるといった視点を所有する。

＜執筆担当／学生課長　丸山　正樹＞

３．キャリアセンター

2015(平成 27)年度のキャリアセンターは、就職活動や就職活動準備をはじめとする学生のキャリア支援を目的とし、課長１名のほか専任職員３名、派遣職員１名、嘱託職員３名の計８名により業務に従事した。キャリアセンターの業務は主に、①大学４年生と短大２年生対象の就職活動支援、②大学３年生と短大１年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援、③企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）、④保護者への情報提供、⑤就職委員会の運営支援、⑥キャリア面談の運営、⑦入学前教育プログラムの企画・運営の大きく７つに区分される。各業務を全員が協力して遂行した。

（１）2015(平成 27)年度当初の計画 ＜Ｐ＞

１)大学４年生と短大２年生対象の就職活動支援

①各種相談対応（面接練習、履歴書添削、各種窓口相談等）、②企業説明会の企画・運営（学内合同/単独企業説明会）③求人情報の収集と提供、④学生への情報提供（企業説明会、採用試験情報、公務員試験、編入学試験）、⑤進路状況データの作成と教職員の情報共有、⑥ガイダンスの運営（短大）、⑦進路未決定者対象ガイダンスの企画・運営

２)大学３年生と短大１年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

①ガイダンスの運営（各学部）、②各種就職支援講座の企画・運営、③インターンシップ（大学・短大）

３)企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）・ガイダンス等の協力依頼

①求人依頼、②企業訪問、③学内合同/単独企業説明会への参加依頼、④長野県内外の自治体等が企画する、大学と企業との情報交換会参加、⑤ガイダンス等への協力依頼（授業、就職支援講座、就職合宿）

４)保護者への情報提供

５)就職委員会の運営と議事録作成（各学部）

６)キャリア面談の計画・運営

７)入学前教育プログラムの企画・運営

（２）現状の説明 ＜Ｄ＞

１)大学４年生と短大２年生対象の就職活動支援

①各種相談対応（2015/4/1～2016/3/31）

・面接練習：330 件、履歴書添削：818 件、窓口相談：1487 件、ヒアリング：125 件

・ヒアリング（就職活動状況の聞取り）の計画と実施　【大学】11 月、【短大】1 月

②企業説明会の企画・運営

・学内合同企業説明会（会場：松本大学第 1 体育館、513 教室(5 号館 1 階)）

9/18(金)：57 事業所、学生 93 名出席、3/4(金)：72 事業所、学生 445 名出席、

3/24(木)：68 事業所、学生 402 名出席

・学内単独企業説明会

期間：3/23(月)～11/20(金)、実施回数：42 回、参加学生数：356 名、内定者数：62 名

・学外合同企業説明会バスツアー

3/14(月)幕張メッセ（東京）57 名参加、3/17(木)ビッグハット（長野）125 名参加

③求人情報の収集と提供

・求人票の受付・整理・公開。→大学：1270 件、短大：887 件

・ハローワークの求人情報収集・公開→長野県内を北信・東信・中信・南信に分けて公開

・最新の求人情報をまとめた「今週の求人情報」を毎週発行→4/23～2/18　のべ 39 回発行

④学生への情報提供

○今週の求人情報配布：39 回発行　○合同企業説明会の一覧表作成・案内：222 件　○個別企業説明会の一覧表作成・案内：49 件（学内）　○公務員試験日程の案内：161 件　○SPI テストセンター開催日程の案内　○編入学・大学院進学の試験案内→短大生向け編入学情報：30 校、人間健康学部生向け大学院進学情報：23 校、総合経営学部生向け大学院進学情報：20 校　○採用試験状況報告書の公開→大学：244 件・短大：464 件　○短大部「キャリア・クリエイトⅢ・Ⅳ」を通じた求人情報をはじめとする情報提供　○新聞・雑誌・書籍等の設置：新聞 5 紙・雑誌：3 冊・四季報等企業情報関連冊子：4 冊・その他採用試験関連の参考書・問題集等：約 130 冊

⑤進路状況データの作成と教職員の情報共有

・「ゼミ別進路状況一覧表」を通じて、就職活動の進捗状況を把握（1 回/月）

・「就職活動進捗状況確認シート」に学生個々の就職活動進捗状況をゼミ担当教員が入力し、キャリアセンターへ報告（1 回/月）大学

・「今週の求人情報」を学生と併せて配布（1 回/週）

・就職委員会の開催（大学：1 回/月、短大 2 回/月）

⑥ガイダンスの運営（短大）

・松商短期大学部 2 年生…キャリア・クリエイトⅢ、キャリア・クリエイトⅣ

キャリア・クリエイトⅢ（前期 15 回）	集団面接講座、マナー講座、エントリーシート対策講座、ＯＢ・ＯＧ講演、筆記試験対策講座、求人等企業情報の提供など
キャリア・クリエイトⅣ（後期 15 回）	社会保険講座（労務管理、雇用・失業保険、年金制度等）、就職活動リスタート講座、組織のマナー講座（社内コミュニケーション等）、講演会など

⑦進路未決定者対象ガイダンス（ハローワークと共催）

・開催日時　11/11(水)4 限、2/4(木)4 限、3/7(月)4 限

・郵送時点で進路未決定の学生全員の保護者宛に案内文書を郵送。

2）大学 3 年生と短大 1 年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

①ガイダンスの運営

・総合経営学部 3 年生…キャリア形成Ⅱ

・人間健康学部 3 年生…キャリアデザインⅡ、就職支援ガイダンス

・松商短期大学部 1 年生…キャリア・クリエイトⅡ

キャリア形成Ⅱ（通年 30 回）	【総合経営学部・人間健康学部共通】ライフプラン、採用試験、ＳＰＩ受験対策、適性検査、採用に関わる社会情勢と就職活動サイトの活用、講演会（社会の求める人材）、自己分析、企業研究、ＯＢ・ＯＧ講演、履歴書の作成、就職活動の流れ、ＳＰＩ模試受験、先輩の就職活動報告会、ビジネスマナー（身だしなみ・電話・メール・手紙等）、エントリーシート作成など
キャリアデザインⅡ、就職支援ガイダンス（前期・後期　各 15 回）	

キャリアクリエイトⅡ （後期 15 回）	就職活動スタート講座、ＳＰＩ対策試験、適性検査、先輩の就職活動報告会、一般教養対策試験、卒業生体験報告会、自己分析講座、業種・職種研究、企業分析の手法と企業訪問の心構え、メイクアップ講座、集団面接対策講座など

②各種講座の企画・運営

【大学】

・夏季就職合宿：9/3(木)・4(金)池の平ホテル(茅野市)61 名、9/10(木)・11(金)信州松代ロイヤルホテル(長野市)46 名参加

・就職対策講座（松本大学内）：12/24(木)46 名、12/25(金)45 名、2/22(月)33 名・2/23(火)28 名参加

・メイクアップ講座：12/3(木)31 名、12/15(火)32 名、2/10(水)27 名参加のべ 90 名参加

・インターンシップマナー講座：7/15(水)27 名、8/3(月)44 名参加

・自己ＰＲ作成講座：2/10(水)55 名参加

【短大】

・自己分析講座（キャリア・クリエイトⅡ）：12/3(木)・10(木)・17(木)

・メイクアップ講座（キャリア・クリエイトⅡ）：1/14(木)

・集団面接対策講座（キャリア・クリエイトⅢ）：2/24(水)・25(木)

【大学・短大】

・企業業界研究勉強会　全 15 回、17 事業所の協力、学生 943 名参加
職種研究会(55 名)11/19(木)、サービス業(64 名)11/24(火)、小売業(69 名)11/26(木)、医療・福祉(74 名)12/1(火)、特別開催（61 名)12/2(水)、建設業(51 名)12/3(木)、製造業(97 名)12/8(火)、金融業(62 名)12/9(水)、卸売業(49 名)12/10(木)、サービス業(61 名)12/16(水)、小売業(122 名)12/17(木)、職種研究会(7 名)1/18(月)、合同企業説明会参加方法(117 名)1/20(水)、観光業(21 名)1/21(木)、合同企業説明会参加方法(33 名)1/22(金)

③インターンシップ

【大学】募集説明会：6/24(水)、事前研修会（マナー講座）7/15(水)・8/3(月)・8/31(月)、インターンシップ参加者数：8 名　【短大】募集説明会：10/1(木)、事前研修会（マナー講座）11/11(水)、インターンシップ参加者数：6 名　【就職サイト利用】14 名参加

３）企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）・ガイダンス等の協力依頼

①求人関連…前年度末に約 12000 事業所に求人依頼を行い、2015 年度に次の通り求人票を受理した。

→求人受理数…【大学】1270 件（前年度 1020 件）、【短大】887 件（前年度 654 件）

②企業訪問…専任担当者 1 名が 20～30 件/月の訪問を計画した。年間の訪問状況は次の通り。

→499 事業所（2015/4/1～2016/3/30）

③学内合同企業説明会→197 事業所、単独企業説明会→42 事業所

④情報交換会参加　のべ 9 回参加（長野県内:5, 新潟県:2, 東京都:2）→約 90 事業所

⑤ガイダンス等への協力依頼

・授業における講演等依頼…【大学】24 事業所【短大】10 事業所

・夏季就職合宿（9/3(木)、9/10(木)）…13 事業所

・企業業界研究勉強会（11/19(木)～1/22(金)）…17 事業所

４）保護者への情報提供

①保護者説明会の企画・開催

・大学3年生保護者対象「保護者説明会」　5/30(土)13時～
全体会…115家族・169名参加、個別相談会…34名参加

・短大1年生保護者対象「保護者就職説明会」　11/28(土)10時～
全体会…104名参加、個別相談会…42名参加

②郵送による情報提供と協力依頼

・大学…5/30保護者説明会の開催案内→5/1(水)、保護者説明会欠席者へ当日資料送付→6/3(水)

・短大…11/28保護者就職説明会の開催案内→10/13(火)、保護者就職説明会欠席者へ当日資料送付→12/1(火)、就職活動支援のお願い→6/1(月),12/17(木)

・共通…9/18学内合同企業説明会ほか→9/1(火)、2/4就職支援講座開催案内→1/19(火)、3/7就職支援講座開催案内→2/26(金)

5）就職委員会の運営と議事録作成

【総合経営学部】4/6(月)、5/13(水)、6/3(水)、7/1(水)、8/19(水)、10/1(木)、10/29(木)、12/2(水)、1/6(水)、2/3(水)、【人間健康学部】4/2(木)、5/12(火)、6/9(火)、7/7(火)、8/26(水)、10/8(木)、11/10(火)、12/8(火)、1/12(火)、2/9(火)、3/8(火)、【松商短期大学部】4/7(火)、4/21(火)、5/12(火)、5/26(火)、6/9(火)、6/23(火)、7/7(火)、7/21(火)、9/29(火)、10/14(水)、10/27(火)、11/11(水)、11/25(水)、12/8(火)、1/6(水)、1/20(水)、【全学就職委員会】11/18(水)

6）キャリア面談の運営

対象	キャリア面談のテーマ（目的）
在学中/大学2年	大学生活1年間の振り返り、学びへの動機付け・学生生活充実のための計画
就職活動中/大学4年・短大2年の進路未決定者	個々の課題明確化と解決策の検討・相談、未活動者へのアプローチ積極的支援、就活への積極的な取り組みとキャリアセンターの有効利用、不安解消による自信・モチベーションの創出
就職活動前/大学3年・短大1年	就職活動に向けて、進路または就職活動に関する不安・疑問の解消と相談、就職活動の具体的な計画立案補助・やる気創出
入学前/大学・短大	大学生活に向けての期待や前向きな目的意識の醸成、大学進学における疑問・不安の解消

【在学中/大学2年】5/16～6/7（7日間）333名、【就職活動中/大学4年・短大2年の進路未決定者】8/4～6、9/14～18（6日間）255名、【就職活動前/大学3年・短大1年】2/4～2/16（9日間）524名、【入学前/大学・短大】2/27～3/29（10日間）622名

7）入学前教育プログラムの企画・運営

2/13(土)大学：253名、短大：196名出席、3/12(土)短大2回目：29名出席、3/19(土)大学2回目：139名出席

（3）点検・評価の結果 ＜C＞

1）大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

①キャリアセンターの相談対応状況（繁忙期の2015/4/1～2015/6/30を抜粋）

面談内容/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	院	計
履歴書・ＥＳ添削	54	48	125	65	138	91	2	523
面接練習	17	12	39	14	75	53	1	211
その他就職相談	58	60	74	77	184	128	2	583
合計	129	120	238	156	397	272	5	1317

就職活動の鍵となる4月～6月にかけて多くの学生がキャリアセンターを利用した点は評価できる一方で、職員にとって学生対応が際限なく続くといった過酷な状況であった。また、学部・学科によって利用者数に差が見られた。

②内定状況（2016年3月卒業生）

学部/人数	学生数	卒業者	就職希望	内定者	内定率	進学/編入	その他
総合経営	187	167	154	153	99.4%	3	10
人間健康	185	176	168	166	98.8%	5	2
松商短大	205	201	183	182	99.5%	7	9

③内定者数の月別推移（2016年3月卒業生）

学部/月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
総合経営	1	6	19	22	24	14	20	12	12	9	3	10	1	153
人間健康	0	5	20	26	28	20	21	10	10	9	2	7	8	166
松商短大	0	1	15	17	26	32	22	15	16	16	6	4	12	182

内定者数推移の特徴として、6・7月の内定者数が例年と比較して多いこと、8・9・10月の内定者数の落ち込みが少なかった点が挙げられる。企業説明会参加～選考～内定まで約2ヶ月かかることから、夏休み前までの就職支援と学生の就職活動が内定に結び付いた要因のひとつと言える。

④産業分類別就職者数（2016年3月卒業生）

※農業/林業/漁業/鉱業採掘業の就職者はいないため除く

産業分類/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計	順位
建設業	8	5	0	5	4	7	29	6
製造業	14	6	13	3	20	18	74	2
電気・ガス・水道業	0	1	0	3	2	5	11	10
情報通信業	2	2	0	1	0	3	8	13
運輸業	0	1	0	2	3	1	7	15
卸売・小売業	38	19	23	32	27	24	163	1
金融・保険業	2	0	0	2	9	3	16	8
不動産・物品賃貸業	1	2	0	2	3	1	9	12
学術、専門技術サービス業	1	0	0	0	1	1	3	16
宿泊・飲食サービス業	3	3	4	3	6	5	24	7
生活関連サービス業	4	6	26	3	2	4	45	3

教育、学習支援業	1	1	0	14	0	0	16	8
医療、福祉	0	11	6	13	3	10	43	4
複合サービス事業	9	4	4	2	9	9	37	5
サービス業（その他）	5	0	0	2	2	1	10	11
公務	1	3	1	2	0	1	8	13
就職者合計	89	64	77	89	91	91	501	

⑤学内合同企業説明会の参加者数と参加率

説明会日程/内訳	総経	観光	栄養	スポ	商・経	計	参加率
2015 年　9/18(金)	13	10	0	6	62	93	16%
2016 年　3/ 4(金)	81	63	78	60	163	445	81%
2016 年　3/24(木)	65	61	78	47	151	402	73%

採用スケジュールが後ろ倒しされたにも拘らず例年以上に選考スピードが速く、前期中の内定者数が予想以上に多かったため、9 月実施の合同企業説明会参加率が著しく低い結果となった。

⑥学内単独企業説明会の参加者数と内定者数

参加・内定者数/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	院	計
説明会参加者数	56	57	58	47	52	76	2	356
説明会参加後の内定者数	11	7	15	11	9	8	1	62

⑦進学者・編入学者数

進学・編入先/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情
自大学院進学/大学編入	0	0	1	3	1	2
他大学院進学/大学編入	0	2	0	1	1	2
他専門学校	0	1	0	0	0	1
進学者合計	0	3	1	4	2	5

進学・編入学先のほとんどが事前に掲示文書を通じて募集案内できていた。

2）大学 3 年生と短大 1 年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

①ガイダンス出席率の経年比較

学科	総経		観光		栄養		スポ		短大
学期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	後期
2014 年度	86%	86%	84%	86%	96%	87%	94%	80%	92%
2015 年度	93%	91%	90%	87%	96%	93%	92%	84%	90%

前年と比較し同水準かそれを上回る出席率となった。なお出席率については毎月教職員が情報共有しており、一定の出席率を確保している要因のひとつと考えられる。

②企業業界研究勉強会参加者数の経年比較

【2014 年度】11 回開催（1005 名）→【2015 年度】15 回開催（943 名）

3）企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）

①本社所在地を長野県内外別に分類した求人受理数（大学：1270 件の内訳）

長野県本社の事業所求人：458 件（36%）、長野県外本社の事業所求人：812 件（64%）

②長野県内に本社を置く事業所の求人受理数内訳

地域	求人数	求人比率	備考
北信	129	10%	長野市 108
東信	65	5%	上田市 39、小諸市 9、佐久市 9
中信	160	12%	松本市 104、塩尻市 23
南信	104	8%	諏訪市 17、茅野市 15、伊那市 15、飯田市 13

③長野県外に本社を置く事業所の求人受理数

東京都	新潟県	愛知県	山梨県	神奈川県	埼玉県	大阪府	静岡県	その他
380	93	52	38	35	34	33	17	130

4）保護者への情報提供

保護者説明会の参加率	総経	観光	栄養	スポ	商・経
出席数	28	25	28	34	104
学生数に占める出席者の割合	29%	30%	30%	36%	58%

5）就職委員会の運営と議事録作成

各学部の就職委員会	総合経営	人間健康	松商短大	全学
年間開催回数	10	11	16	1

6）キャリア面談の運営…キャリア面談の参加状況（参加率）

対象学部・学科	実施時期	総経	観光	栄養	スポ	商	経情
学部 2 年	5・6 月	96%	96%	98%	99%	―	―
学部 4 年、短大 2 年	8 月	85%	96%	100%	90%	100%	97%
学部 4 年、短大 2 年	9 月	88%	85%	100%	85%	100%	100%
学部 3 年、短大 1 年	2 月	99%	94%	99%	97%	96%	93%
新入生（入学前）	2・3 月	100%	100%	98%	98%	100%	100%

全学年に渡り出席率が高く、過去 1 年間の振り返りと今後の目標意識を醸成させる機会を多くの学生に与えることができたと言える。また、進路未決定の学部 4 年生・短大 2 年生対象に 8～9 月に実施したキャリア面談の出席率が高かったことが、後期以降も内定者数の落ち込みを防いだ要因のひとつと考えられる。

（4）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜A＞

1）大学 4 年生と短大 2 年生対象の就職活動支援

①キャリアセンターにおける相談対応の改善について

昨今の採用方法や学生のニーズにより、履歴書やＥＳ（エントリーシート）の添削希望が激増した年度であった。窓口では学生の要望に応じその場でタイムリーに添削指導を行うことにより、事務作業に若干の支障きたし、また休憩時間の確保が困難であった。こうした状況は職員の健康管理のほか業務に支障をきたす可能性があり、何らかの改善策を講じる必要がある。まずは添削指導も面接指導同様に原則として予約制とすることにより、計画的に業務を遂行する体制としたい。

②時期に応じた学生への段階的な就職支援

全学部を通じて2015年度の内定率が高かった要因として売り手市場が背景にあることはもちろんだが、キャリアセンターにおける時期に応じた段階的な就職支援も要因のひとつと考えられる。4～6月における履歴書添削等の徹底的な学生対応、夏休み中である8～9月のキャリア面談及びヒアリング等が、コンスタントに内定報告を得ることができた要因のひとつと考える。こうした就職支援の段階的な取り組みを、今後もキャリアセンターとして継承していきたい。

③就職の質向上と学生の企業研究に有効な資料の作成

学内合同企業説明会における企業のアンケートから学生の企業研究不足が指摘されており、学生が必要に応じて企業研究ができる資料の作成と設置に取り組んでいきたい。そのために例えば、上場・非上場、従業員数、売上高等に基き、身近な存在となる卒業生の就職先や採用スケジュールを含めて学生に示すことに取り組みたい。一方で産業分類別就職者数から、金融業等就職者数が比較的少ない業種への就職者数を増やすための戦略も必要である。

④求人情報源の分析

学生から内定報告を受ける際に、求人情報源を併せて情報収集することを検討したい。そのデータを分析することにより、大学宛の求人票、ハローワーク新卒求人、就職活動サイトの求人案内をどのように学生へ発信するかを改めて検討してみたい。また、学内合同企業説明会の開催やキャリアセンターによる求人情報の提供が、学生の就職にどう結び付いているのかできるだけ客観的に把握するよう努めたい。

⑤採用試験状況報告書の提出について

学生には採用試験の合否に拘らず、筆記試験や面接試験の内容を「採用試験状況報告書」として記入・提出を求めているが、一部回収できていないケースが見受けられた。積極的に多数受験している学生にとっては負担となるが、優良企業の情報をキャリアセンターから能動的に提出を求める必要がある。

2）大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

①夏季就職合宿をはじめとする就職対策講座のあり方

対策講座名（大学）	実施月	参加人数	実施形態	実施回数
夏季就職合宿	9月	107名	1泊2日	2回
就職対策講座　集中セミナー	12月	91名	1日	2回
就職対策講座　直前セミナー	2月	61名	1日	2回
計	259名　（在籍者数の約65%参加）			

大学で実施している希望制の就職対策講座参加状況は上記の通りである。模擬面接の体制や宿泊施設の状況などから定員を設けざるを得ない一方で、応募者多数の場合は選抜せざるを得ず、就職活動を前向きに考え参加しようとする学生の意欲や保護者の期待に応えられない可能性がある。実際の就職活動はエントリー手続きをはじめ選抜的要素が必ず伴うものではあるが、いずれにしても講座の充実を図りつつ、より良い方策を検討していきたい。

②企業業界研究勉強会の充実

企画当初の3年前から年々充実した内容に進化している一方で、参加者数については未だ増員すべき余地がある。採用に関する広報開始が3月になったことに伴い、それ以前の企業研究の重要性が増しているため、ガイダンスや教職員の協力により動員数を増やしていきたい。

③インターンシップの取り組み

大学・短大共にインターンシップ参加者数の少ない状況が続いている。様々な要因が考えられるが、単位付与していないこと、またそれと関連して大学あるいは教職員としてインターンシップの位置付けを定めきれていないこともひとつの要因と考える。来年度から長野県主導のもと、信州産官学連携インターンシップ事業が開始される。企業募集を、長野県経営者協会をはじめとする経済団体が行った上で、長野県内の大学・短大が学生募集を行い、長野県がマッチングを行うといった内容である。これを本学にとって良い転機ととらえ、他大学との情報交換を含めて新たなインターンシップの位置付けや方法の確立に向けて取り組みたいと考えている。学生がインターンシップを通じて職業観を養成することにより、積極的に就職活動を行う学生が一人でも多くなることを期待したい。

3）企業との情報交換・情報収集・ガイダンス等の協力依頼

採用計画・求人情報の活用

企業訪問を通じて得た採用計画等の情報を、充分に活かしきれていないことを反省し、今後は情報を得た時点でいかにして教員～職員～学生の三者が情報共有をするかを考え実践したい。基本的な事ではあるが、有効な情報は掲示文書にして学生及び教員へ提供することを心掛けていきたい。

4）保護者への情報提供

保護者説明会のあり方

今年度から大学の保護者説明会に教務課が参加しないことになり、基本的には就職についての説明会という位置付けとなった。しかし個別相談の場では成績を含む学生生活全般に渡る相談もあり、保護者のニーズを満たしているのか定かではない。具体的に例えば2年次からの学生生活を含めた保護者説明会が必要なのか、全学的な課題として関係各署に問題提起できればと考えている。

5）就職委員会の運営について

各学部就職委員会と全学就職委員会との関係について

全学就職委員会で検討あるいは決定することが望ましいと思われる事項を整理したいと考えている。具体的にはキャリア面談、保護者説明会、夏季就職合宿、認証評価等で、大学全体に渡る要素が多く各学部の就職委員会では結論を出すことができないのが実情である。今後どのように改善していくべきかそのプロセスを含めて検討したい。

6）その他

次回の認証評価に向けた計画を立て、必要な予算等についても検討を進めたい。具体的には企業アンケート、卒業生アンケートの実施計画とそれに伴う文書等の作成や費用についても調べる必要がある。

＜執筆担当／キャリアセンター　課長　中村　高士＞

4．情報センター

（1）年度当初の予定 ＜P＞

○情報センターの主な業務は、下記のとおりとなっている。

1）教育・研究の支援

パソコン教室７室の整備、コンピュータ関連科目の講義補助、学生向けオリエンテーションの実施。

2）情報機器の維持管理

ネットワークおよびサーバー類の維持管理、パソコン教室の整備、教職員パソコンの管理、貸し出しノートパソコンの管理、

3）資格取得支援管理

各種検定試験の実施に関する学生支援および公務員試験対策総合講座の運営。

4）その他

外部講習会の実施（シニア大学 PC 講座他）

○平成 27 年度当初に計画された情報センターの新規事業は下記のとおりである

1） 学術・研究の支援

① パソコン教室の整備 311、312PC 教室の機器の入替、ソフトのバージョンアップ、ネットワーク配線の全面入替

② 情報機器の拡充（貸し出しノートパソコンの新規購入）

③ 総合経営学部用ノート PC 設定、短期大学部ノート PC 設定、短期大学部高大連携用ノート PC 設定（合計 550 台）

④ Web メール環境の構築（学生）

⑤ Wifi 環境の構築

2） 情報機器の維持管理

① サーバー機器のデータセンターへの移行

② Web メールの変更（ofice365）

③ 学務システムソフトのカスタマイズ

④ 自動発券機ソフトのカスタマイズ

⑤ IO ゲート（ネットワークプリンターシステム）リプレース

3）資格取得支援管理

①情報系科目と連動した検定試験（Wrd・Excel 他）の運営

②教務課と協同で公務員試験対策講座の実施

③奨励金制度の運営

（2）計画の実施・現状説明 ＜D＞

通常事業および新規事業は、ほぼ計画のとおり実施された。当初の計画、予算執行において計画の変更のあったものについて以下に記述しておく。

① PC 教室の機材入替は、入札を実施した結果大幅に予算の削減ができた。

② IO ゲート（ネットワークプリンターシステム）リプレースを実施し、全学 8 箇所へ整備した。また、学生利用の利便性を図るため、年間 200 枚のコピー用紙を自由に使える設定とし、追加申請は券売機より行えるよう、券売機のカスタマイズも同時に行った。

③ Web メールの環境構築により、学生すべてが office365 を利用できるようになった。

④ Wifi 環境の構築については、通信環境の整備に手間取り、講義に支障をきたす場面も多く当初の計画通りには進まなかった、原因が特定できていないため、引き続き調査を進める。

（３）点検・評価の結果 ＜Ｃ＞

平成 26 年度に引き続き、平成 27 年度もサーバー機器等のデータセンターへの移行を行った。現在、情報センター内にあるサーバーの 7 割以上をデータセンターへ移設し、災害・セキュリティー等に対する脆弱性を改善し、専門家の監視の元で効率よく運用できるよう着々と移行業務を進めている。データセンターへ移行し発生する経費については、毎月通信費として支払っている額、電気・空調にかかる経費、トラブル対応に費やす人件費等で賄える額となっており、全面的に移行が進めば、危機管理面および経費面ともに安定した運用ができる計画で、平成 28 年度までの 3 ヵ年計画で完成を目指している。

また、学生が使用するフロアに設置したパソコンや貸し出し用のノートパソコンについて、PC 教室のリプレースにより搬出された PC を有効活用し、40 台程度の機器の入替を新たに行った。

（４）次年度への改善・改革に向けた方策 ＜Ａ＞

平成 28 年度は、下記の事業を予定しており、予算申請を行っている。最優先課題として、中継機器の管理・整備について、不調をきたす前に入替を行うため、順次入れ替えた場合の予算計画を中・長期的に構築した。

１） 学術研究・教育の支援

① 321・322 パソコン教室の整備（両教室ともパソコン本体はそのまま使用し、シンクライアントシステムの導入と配線全てを入れ替える予定である。また、栄養君等のソフトウェアのバージョンアップおよび各種ソフトの追加を計画している。

② 教職員用パソコンの定期購入、研究室プリンターの入替

２） 情報機器の維持・管理

① サーバー機器等のデータセンターへの移行

② ネットワーク整備（特に中継機器と配線の入替）

③ 学務システムのカスタマイズ（Mathfia）

３） 資格取得支援

① 各種検定試験・資格取得試験の支援

＜執筆担当／情報センター　課長　松尾　淳彦＞

Ⅳ．入試・広報室

［組織と委員会］

入試広報室は入試委員会と広報委員会の事務部門を担当した。前者は学生募集に係る広報活動と入試業務、後者は大学広報業務を行っている。

人員構成は入試広報室長他、専任職員３名、嘱託職員１名、パート職員１名の６名体制で活動した。

［職員組織と職務分担］

入試業務及び学生募集、募集広報において①専任職員は学生募集活動全般にわたり高校訪問、説明会、相談会参加、オープンキャンパスの企画・運営及び授業公開、高校生の大学見学の受け入れにおいて主体となって活動した。②嘱託職員は各種学生募集に関わる営業活動補助業務（オープンキャンパス、高校訪問等における各種ツール等の準備や来場者データ管理、アンケート集計管理）、高校生個人情報データの整理及び管理、各種メディアに掲載された記事の収集・整理・保管、出前授業等の報告書管理、入試事務処理等の学内業務を主として行った。③パート職員はパンフレット（大学総合案内、松商短大ナビゲーション他）や大学広報誌「蒼穹」のディレクション及び編集を主に担当した。

１.学生募集活動

（１）平成 27 年度学生募集活動を受けての課題　＜Ｐ＞

少子化や新県立大学問題、私立大学２校の公立化、専門学校新設、高校生の県外流出等本学を取り巻く環境は年々厳しい状況にある。地元中心の学生募集への切り替えにともない県内高校生及び保護者、高校教員への広報活動（営業活動）を強化し、本学の教育・人財育成方針の訴求と地域（行政、企業、一般住民）にとってなくてはならない大学として評価されることがで重要ある。

また、直接的には高校生のオープンキャンパスへの参加数の増加と志願者増が大きな課題である。そのためにも総合経営学部両学科においては高校生や保護者にとってわかりやすいアピールポイントが必要で、それをいかに表現して行くかが課題である。

また、人間健康学部健康栄養学科は全国的に管理栄養士養成校の増加があるため、定員確保とともに質の確保が課題である。スポーツ健康学科については、志願者は増加しているものの運動部希望の志願者が多く、量と併せて質の確保が課題である。

松商短期大学部においては昨年度定員割れをしており、大原学園松本校の開設や専門学校希望の高校生が増加するなかでの差別化と短大進学の有利さを訴求し、志願者増に結び付ける事が課題である。

各学部の編入学生募集についても積極的な PR が課題である。

（２）重点を置いた活動とその結果　＜Ｄ・Ｃ＞

大学開設 14 年、人間健康学部は９年を迎えた。ようやく長野県内における本学の存在も認知されてきている。ただ、本学の教育・人財育成の使命や目的についてはなかなか認知されていない状況である。

１）オープンキャンパス・高校生のための公開授業

オープンキャンパスは広報活動の中で、極めて重要で且つ有効なイベントである。今年度のオープンキャンパスは年間6回実施し、内4月は専門学校対策もあり短期大学のみの内容とした。6月、8月のオープンキャンパスにおいても短大は一日体験入学として、ミニ講義を3コマまで受講できる工夫をした。それぞれの回で核となるイベントを企画し、毎回参加する価値のあるような内容とした。高校生の参加状況は下記の通りであり、健康栄養学科の累計以外全てで増加した。。

・総累計1,743名（昨年度1,625名）、前年比7%増

・総合経営学科　累計274名（前年211名）、3年生素数220名（前年129名）

・観光ホスピタリティ学科　累計154名（前年132名）、3年生素数107名（前年97名）

・健康栄養学科累計270名（前年299名）、3年生素数は210名（前年128名）

・スポーツ健康学科　累計326名（前年291名）、3年生素数255名（前年156名）

・松商短期大学部　累計541名（前年462名）、3年生素数361名（前年238名）

「高校生のための公開授業」は高校生が大学の授業を聴講できるよう、大学授業の前期・後期にある祝日の月曜日（通常授業日）である7月20日、10月12日の2回実施した。

オープンキャンパス、公開授業合わせての合計参加者数は1,973名（前年度1,755名）であり、対前年比＋12%増であった。特に短大希望者の増加と健康栄養学科の3年生の素数の増加が目立った。

2）進学説明会・相談会

高校生と接触できる貴重な機会として、一般会場（ホテル等）での業者主催の説明会には長野県内を中心に山梨県、新潟県、静岡県、石川県、富山県、沖縄県等の会場に全88回参加し、述べ790名（前年729名）の高校生と面談した。昨年より参加回数は減ったが面談数は増加した。

3）高校での説明会・模擬面接、志望理由書の書き方講座

進学業者主催、高等学校主催合わせて147回の説明会（系統別、個別相談、進路講演会等）に参加し2,489名の高校生と面談した。

また、高等学校での推薦・AO入試対策としての模擬面接、志望理由書の書き方講座などにも20回参加した。

4） 高校での出前授業、模擬講義（高等学校主催、業者主催）

高校での出前授業は長野県内を中心に一部山梨県、新潟県において年間72回、高大連携による模擬講義は42回実施した。

また、系列校である松商学園高等学校との連携特別授業も6月～7月に実施し、総合経営学部で5回（19名参加）、健康栄養学科12回（4名参加）、スポーツ健康学科3回（18名参加）実施した。

オープンキャンパス（ミニ講義、体験講座含む）や大学見学における模擬講義は92回にのぼる。

高等学校の出前講座、模擬講義は積極的に受け付けるように、本学ホームページに教員一覧と申し込み用紙を載せ幅広く公開した。

5） 高校生の大学見学（高校主催、業者主催）、一般の大学見学

高校生対象の大学見学は積極的に受け入れ、年間33回、延べ1,239名と引率の教員を受け入れた。大学・短期大学の概要説明と進路講話、キャリア講話は都度実施し、学内施設案内もM@tsu.navi（マツナビ）が中心となって行い好評だった。

また一般の方や高校教員の大学見学も受け入れた。

6） 進路講演会（進路講演・キャリア講演）

高等学校や中学校からの依頼による、進学の意義や目的についての進路講演会にも積極的に講師を派遣した。直接的な学生簿集にはつながらないものの、高校生・中学生への影響は大きい事から、他大学ではできない広報活動の一つとして位置づけて今後も実施したい。

7） 高等学校教員対象の学生募集説明会

6 月に長野会場、松本会場（本学）で実施し、長野会場 12 校 12 名、本学会場 23 校 24 名の参加があり、昨年とほぼ同数であった。

8） 入試相談会

10 月 17 日（土）・11 月 23 日（月）・1 月 21 日（木）・22 日（金）の 4 日間入試相談会を実施し、主に一般入試・センター利用志願者の相談を受け付けた。

参加者数は 10 月 17 日：32 名、11 月 23 日：11 名+保護者 1 名、1 月 21 日：保護者 1 名、1 月 22 日：3 名＋保護者 1 名であり、センター試験後の入試相談会のあり方や広報の仕方を検討する必要である。

9） 学生募集用ツールの制作

学生募集のためのさまざまなツールを制作した。

①パンフレット・チラシ等

・2016 年度版大学案内パンフレット・2016 松商短大ナビゲーション

・保護者向けパンフレット「保護者のみなさまへ」

・オープンキャンパス告知パンフレット・チラシ「OPEN　CAMPUS　2016」

・オープンキャンパス及び入試相談会告知 DM（各回ハガキ）

・松商短大 16 フィールド体験ツアー　告知チラシ

・春の OPEN　CAMPUS　2016　告知チラシ

②学生募集要項・過去問題集

今年度より WEB 出願を開始したため、募集要項は一般入試のみとし、下記を制作した。

・2016 年度松本大学　一般入試学生募集要項

・2016 年度松本大学松商短期大学部　一般入試学生募集要項

・2016 年度松本大学センター試験利用入試　学生募集要項

・2016 年度受験者用　松本大学入学試験問題集 2015

10）媒体等による募集広報活動

進学情報誌は一昨年比 30%までに減らし、県内での PR 活動とガイダンス等直接接触できる機会を増やした。

①進学情報誌・他雑誌広告

25 回掲載

②電波媒体（テレビＣＭ）

・イメージＣＭ／レギュラー：ABN 長野朝日放送「アメトーク」（年間契約）、「グット！モーニング」（年間契約）

・オープンキャンパス告知スポートＣＭ／（6 月～9 月：長野放送・信越放送・テレビ信州・

長野朝日放送・テレビ新潟・山梨放送にて随時放送）

・一般入試、センター入試志願者増を目的としたスポットＣＭ／約１ヵ月間、長野県、山梨県、新潟県で実施

・その他（FM 松本、あずみ野 FM でのレギュラー番組提供）

① 新聞・雑誌を利用した広報

地元新聞・雑誌を中心に長野県内、新潟県、山梨県、沖縄県で実施した。直接的なオープンキャンパス告知、学生募集案内だけでなく、協賛広告も実施し大学のイメージアップをはかった。（信濃毎日新聞、長野日報、山梨日日新聞、新潟日報、朝日新聞他全 34 回）

長野県立大学及び県内私立大学の公立化、北陸新幹線金沢延伸による北陸地域からの学生募集の激化に対応する長野県内学生募集強化のための信濃毎日新聞 4 回シリーズ広告（1 ページカラー）について、昨年度の 2 回に引き続き、今年度 4 月と 1 月（平成 28 年）に広告を掲載した。4 月は入学式に合わせ長野県内出身の新入学生 3 名を紹介、1 月は「それは、一本のネギから始まった」のキャッチコピーで本学の教育の理念や教育手法をアピールした内容とした。これは信濃毎日新聞の話題広告賞に選ばれた。

④Ｗｅｂ媒体

本学入試広報室独自の「LINE」（ライン）を活用し、イベントや入試情報発信した。登録者は高校生を中心に今年度 3 月末までで 1600 人を超え、昨年の 2 倍以上に拡大した。

その他、進学媒体による Web は７件掲載した。

11）マツナビ（M@tsu.navi）の育成

学生募集に関わる広報活動（オープンキャンパス、高校生及び保護者の大学見学、高校教員の大学見学他）において入試広報室を支援する学生自治組織マツナビの力は大きく、さらに活躍してもらえるように育成を行った。

マツナビ学生の新入生登録にあたっては、入試広報室職員とマツナビ役員とで面接し、志望理由を確認した上で登録した。登録の学生は学部・学科の知識や説明能力、マナー、コミュニケーションスキル等を身に着けるべく年間 9 回の研修・勉強会を実施し、こういった能力は学生にとっても大きな財産となり就職活動でも活かされている。。1 月、2 月には EQ 研修と個々へのフィードバックを実施した。

また、マツナビでの活動を松本大学・松商短大志望理由の一つとした新入生もおり、学生募集にもつながっている。オープンキャンパス以外でも新入生の入学前教育やオリエンテーションの際にも活躍しておりその評価は高い。

（３）次年度への課題 ＜Ａ＞

すべての学科の志願者をいかに増やすかが課題である。社会科学系希望者が増加するという全国的な傾向はあるものの、観光ホスピタリティ学科については厳しい状況である。また人間健康学部の志願者は比較的安定してきているものの質という面では課題がある。松商短期大学については、今期は志願者が多く募集定員を上回ったものの、安定しているとは言い難い。

県内の私立２大学の公立化と長野県立大学開校といった公立大学３校の増設に伴い、上位レベルの高校生の出願減少が予想される。そういった中で本学は新たに教育学部開設の計画であり、唯一の県内私立総合大学としての魅力をアピールすることが重要である。また、各学部学科の学

問としての魅力、県内就職率の高さ、経済面での有利さをさらにアピールし、県外私大進学との差別化をはかり、本学進学の有利さを積極的に広報する計画である。

そのためにも今まで以上に高校訪問、高校での説明会、会場での相談会、大学見学等を積極的に活用することが重要である。また県内においては各種媒体を効果的且つ積極的に利用したい。また本学が積極的に取り組んでいる改革や国の補助事業獲得、地域貢献等について関係者の評価は高いものの、高校生や保護者、一般には殆ど伝わっておらず、今後どう広報していくかが課題である。また志願者を増やす観点から、隣接県の高校訪問は更に積極的にする必要がある。

２.平成 27 年度入学試験

（１）実施計画と結果＜Ｐ・Ｄ＞

① WEB 出願導入

今年度から全学部全学科の全ての入試区分で WEB 出願を導入した。これにより、ペーパーレスによる制作物コストの削減、データ取り込みによる入試事務の効率化及び人的ミスの防止といった効用が得られた。また受験生にとっても利便性が向上し、出願書類取寄せの手間がなくなったと同時に、オンライン決済活用により支払い時間の制約もなくなった。さらには志願票の入力についても画面の指示通りに操作することで入力漏れ・ミスが防止され、スムーズな出願を促せた。

この WEB 出願を導入については特に障害はなくスムーズであったことから、次年度は全面的に Web 出願に切り替える予定である。

② 入学試験

入試区分・入試回数については昨年と同様に下記の通り実施した。

総合経営学部は指定校推薦、公募制推薦（前・後期）、自己推薦、AO 入試（Ⅰ・Ⅱ期）、一般（A・B・C 日程）、センター利用（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期）入試をを実施した。また編・転入試験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期、留学生入試も実施した。

人間健康学部は指定校推薦、公募制推薦（前・後期）、AO（健康栄養学科 1 回、スポーツ健康学科Ⅰ期、Ⅱ期）、一般（A・B・C 日程）、センター利用（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期）入試を実施した。また、編・転入試験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期も行った。

松商短期大学部では特待生推薦（公募推薦）、指定校推薦（前・後期）、自己推薦、AO（Ⅰ・Ⅱ期）、一般（A・B・C 日程）、センター利用（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期）、留学生入試を行った。

松本大学大学院健康科学研究科においては一般・社会人共通で前期・後期の日程で入学試験を行った。

一般入試Ａ日程は推薦入試や AO 入試合格者の、学力特待生資格試験も兼ねて実施し、Ａ日程の１日目は本学のほか地方会場（5 会場）も設けた。

（２）入学試験の結果と評価＜Ｃ＞

今期の学生募集活動の結果、志願者・入学者は下表のとおりである。

総合経営学科入学者数は定員の 1.43 倍、観光ホスピタリティ学科 1.25 倍、健康栄養学科 1.04 倍、スポーツ健康学科 1.29 倍、松商短期大学部 1.18 倍となり、短期大学部も含め全ての学部学科において定員を満たした。

総合経営学科は前年に比べ推薦入試、AO 入試、一般入試、センター利用入試において志願者

を増やした。観光ホスピタリティ学科の志願者は全体で微減した。健康栄養学科はAO入試で志願者を増やしたものの一般入試、センター利用入試では減らした。スポーツ健康学科では推薦入試、AO 入試で増やしたものの一般入試、センター利用で減らした。松商短期大学では指定校推薦入試で前年比27人増やし、一般入試、センター利用入試でも増やしている。

総合経営学科は景気の影響か全体に志願者を増やしたが観光ホスピタリティ学科は低迷しており、入試の結果からも特長的なものがないことがうかがわれる。

スポーツ健康学科は推薦入試、AO 入試での志願者は多いものの部活関係での志願者が多く質の確保が課題である。健康栄養学科は大きな変化は無いものの年による志向の変化や他大学との競合が激しく一般入試、センター利用入試での確保の判断が難しい状況であり、やはり管理栄養士合格率を上げることが最重要課題である。編入学については各学科定員を満たすことができなかった。大学院については一般と社会人含め10人の入学者があり充足率は1.67倍となった。

2016年度入試結果

松本大学大学院

研究科	専攻	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B／C	手続者数	入学者数 D	充足率 D／A
健康科学	健康科学	6	10	10	10	100.0%	10	10	166.7%
	合　計	6	10	10	10	100.0%	10	10	166.7%

※留学生を除く

松本大学

１年次入学生

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B／C	手続者数	入学者数 D	充足率 D／A
総合経営	総合経営	80	230	229	148	154.7%	114	114	142.5%
	観光ホスピタリティ	80	167	165	112	147.3%	100	100	125.0%
	小計	160	397	394	260	151.5%	214	214	133.8%
人間健康	健康栄養	80	203	198	140	141.4%	83	83	103.8%
	スポーツ健康	80	196	195	120	162.5%	103	103	128.8%
	小計	160	399	393	260	151.2%	186	186	116.3%
合　計		320	796	787	520	151.3%	400	400	125.0%

※留学生を除く

編・転入学生

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B／C	手続者数	入学者数 D	充足率 D／A
総合経営	総合経営	10	3	3	3	100.0%	3	3	30.0%
	観光ホスピタリティ	10	1	1	1	100.0%	1	1	10.0%
	小計	20	4	4	4	100.0%	4	4	20.0%
人間健康	健康栄養	5	5	4	1	400.0%	1	1	20.0%
	スポーツ健康	10							
	小計	15	5	4	1	400.0%	1	1	6.7%
合　計		35	9	8	5	160.0%	5	5	14.3%

※留学生を除く

松本大学松商短期大学部

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B／C	手続者数	入学者数 D	充足率 D／A
短期大学部	商	100	120	120	133	90.2%	122	122	122.0%
	経営情報	100	146	145	119	121.8%	113	113	113.0%
	合　計	200	266	265	252	105.2%	235	235	117.5%

※留学生を除く

（３）入学試験の課題　＜Ｃ・Ａ＞

学生募集活動、PR活動に帰するところが多いが、志願者増をいかに図っていくかが課題である。長野県内に公立大学が増えることを考えると受験生は先ず授業料の安いところ、また公立大学だ

からというステータスに影響を受けることは必至である。こうした環境下で志願者を増やすことは容易ではない。指定校推薦の枠数や評定値の見直し等も必要ではないかと考える。総合経営学部においては推薦入試での学生確保が重要である。健康栄養学科は質の確保と定員確保のバランスをいかに調整できるかが課題であり、スポーツ健康学科は推薦やAO入試で志願者は増やしているものの部活動関連の志願者が多いため質の確保に課題がある。これも他学部への誘導等も含めバランスを考慮した学生募集が必要である。

松商短大については、今年度定数は確保したものの高校生の就職や専門学校への進学に左右されることが多く、AO入試や指定校推薦入試といった早い段階での確保が必要である。

また、総合経営学部、松商短期大学部においては系列校である松商学園高等学校からの志願者確保がベースづくりには必要であり、来期までは松商学園高校の人数も多く志願者数も一定数の確保は望めるが2018年度入学試験からは難しい状況になることは目に見えており、それまでに対策を練る必要がある。高大接続を考慮した入学試験の模索も必要である。

次年度は全てWeb出願に切り替えるため、紙の募集要項、出願書類は作成せず、スムーズに進められるよう準備したい。

また2017年4月の教育学部新設に伴う入学者選抜試験が実施される予定であり、AO入試、推薦入試、一般入試、センター利用入試、スカラシップ制入試等入試区分も増え、受験教科・科目や併願等複雑化と学部の判定会議も増えるため限られたスタッフでのトラブルの無いスムーズな進行が課題である。

３．大学広報

全学広報委員会の下、主な業務は大学広報誌「蒼穹」の編集及び発行、大学公式ホームページの企画・運用・管理、各種媒体への大学の様々な情報発信（プレスリリース）を行った。

また報道各社との懇談会の開催、新聞媒体等に掲載された記事の収集及び管理を行った。

（１）大学広報の活動 ＜Ｐ・Ｄ＞

１） 大学広報誌『蒼穹』の発行

今年度も年4回（6月、9月、12月、3月）発行した。タイムリーで特色ある取り組みについて巻頭特集で紹介したほか、アウトキャンパス・スタディ、地域づくり考房『ゆめ』や地域健康支援ステーションの活動紹介などを掲載した。各担当教員及び事務担当者から出稿していただき、スムーズな発行ができた。

配布先は大学関係者はじめ学生の保護者、自治体など本学を取り巻く幅広い層に配布した。また高校訪問時にも進路指導室に配布した。

２） 大学公式サイト（ホームページ）と運用

大学公式サイトについては引き続き使いやすく見やすくするために改善をした。ホームページの約30のコンテンツとSNSについても引き続き更新と維持に努めた。

情報のデータベース化を行い、コンテンツ価値を高めた。Webにおける情報発信やコミュニケーションのハブとしての役割を強化し、各部署や教員とのスムーズな情報伝達を行いタイムリーな情報発信を行った。各部署独自運営のポータルサイトの調整や支援を行い、統括的に管理することで、広報の一貫性を保守することに務めた。

（２）大学広報の評価検討 ＜Ｃ・Ａ＞

１）大学広報誌「蒼穹」

年間 4 回の発行であるが、毎回の特集記事の選定と情報収集が課題であった。広報委員会を定期的開催し、テーマを決める工夫が必要である。また、現在約 3,000 部を発行しているが、配布先の検討もできなかった。記録として残すだけでなく、広報誌として、さらなる有効活用を考える必要がある。

２）大学ホームページの運用について

アウトキャンパス・スタディや各種行事、イベント、教員からの情報も集まるようになってきたがまだ偏りがある。ホームページを広報媒体として多くの教職員が関心を持ち、発信するだけでなく自校の情報を得る媒体としても活用すべく啓蒙活動に務める必要がある。

＜執筆担当／入試広報室長　中村　文重＞

Ⅰ．平成27年度委員会構成

		会議、委員会、センター名称	番		委員	責任者	研究科	総合経営	人間健康	短大学部	担当	事務局担当者など　（　）は嘱託等職員
理事会		理事会	0		Z	藤原					住吉	柴田
		常任理事会	0	常務理事会メンバー、各学校長	Z	藤原						柴田
		大学委員会	0	理事側から召集　含：人事案件	Z	石井						柴田
協議会		理事・大学連絡協議会	1	諮問：将来計画(定期会議:7,12,3)	A	住吉	山田	室谷	等々力	山添	住吉	柴田
		全学運営会議	2	諮問:規程整備/教職員評価指標開発	A							柴田　書記：赤羽(研)
管理部門	大学運営管理	全学協議会	3	全学最高決定機関	B	等々力	研究科長・学部長・学科長・事務局長・総務課長				住吉	柴田　書記：赤羽(研)・丸山(勝)
		自己点検・評価委員会	4	３報告書発行	A	住吉	山田	室谷	等々力	山添		柴田・赤羽(研)・赤羽(雄)・丸山(勝)・柄山・中田・(小穴)
		IR推進部会	5		A							赤羽(研)・上條・伊藤・片庭・山本・松島・滝澤
		コンプライアンス推進部会	6		A							柴田・赤羽(研)・赤羽(雄)
		認証評価準備部会	7	大学院・大学/短期大学	B+	上野	呉	上野	福島智	浜崎		柴田・赤羽(研)・赤羽(雄)・丸山(勝)・上條・宮坂・塩原・山本
		人権委員会	8		C	根本	江原	田中浩 益山	伊藤･根本	金子・川島	根本	丸山(正)・赤羽(雄)・中村(高)
		ハラスメント防止部会	9	サブ委員会の設置	C							丸山(正)・関澤・関・白澤・(鈴木(佳))
		個人情報保護部会	10		C							赤羽(雄)・松尾・丸山(勝)・田中(雅)・伊藤・松島
		健康安全センター運営委員会	11	学生の健康管理、教職員も同様	D	江原	江原	清水・眞次	江原	廣瀬	柴田	脇本・丸山(正)・関・(鈴木(佳))・(小田切)
	施設管理	施設管理センター運営委員会	12	施設管理、施設貸出、バス・車管理	E	柴田	進藤	矢崎・中澤	江原	川島・中山		赤羽(研)・赤羽(雄)・小池・中村(礼)・小口
		危機管理委員会	13		E				中島（弘）			赤羽(研)・赤羽(雄)・小池
		環境保全部会	14		E	中澤						赤羽(雄)・丸山(正)・松尾・石川・中牧・中田
		防災防犯対策部会	15		E＊	矢崎						赤羽(雄)・丸山(正)・臼井・白澤・中村(礼)・小池・小口
入試広報部門		入試委員会	16	学生募集、入試運営	F	上野		上野・佐藤・白戸	高木・田邊	金子・山添	山添	入試広報室：中村(文)・松島・滝澤・(笹川)・(赤羽(紀))
		入試問題検討部会	17	試験問題の検討・策定	F							中村(文)・滝澤
		広報委員会	18	大学広報	F	高木	江原			山添		入試広報室：中村(文)・松島・滝澤・(笹川)・(赤羽(紀))
		エクステンション・センター運営部会	19	研究活動などの受付窓口	F							赤羽(研)・松尾・丸山(勝)・小池・松島
		高大連携推進委員会	20	高大接続、高大連携　＊	F＊	白戸		上野・佐藤・白戸・大野	中島（弘）	山添		赤羽(雄)・丸山(勝)・滝澤・中田
		センター入試委員会	21		X	矢野口		田中正・益山	成瀬・河野	矢野口・浜崎		松尾・赤羽(研)・塩原・伊藤・滝澤
研究推進及び管理部門		研究推進委員会	22	外部資金、助成費査定など	G	室谷	山田	室谷・矢崎・増尾	廣田・根本・等々力	山添・篠原・藤波	室谷	赤羽(雄)・中田・(上野田)・(船坂)
		研究誌編集部会	23	２誌の査読・編集・発行	G							赤羽(雄)・柄山・(船坂)
		松本大学出版会運営部会	24		G							赤羽(研)・中田・柄山・(小穴)
		地域総合研究センター運営部会	25	教職員の地域連携窓口　＊	G＊							赤羽(雄)・臼井・松島・柄山・(小穴)・(笠原)
		研究倫理委員会	26	研究倫理一般	H	山田			福島（智）・河野	糸井	山田	赤羽(研)・小口・(筒井)
		動物実験部会	27		H		河野		山田・福島（智）	川島		赤羽(研)・小口・(筒井)
		遺伝子組換え実験安全部会	28		H							赤羽(研)・小口・(筒井)
学生センター部門	教育推進充実部門	教務委員会	29	カリ・履修・試験・成績管理等	I	岩間	木藤	畑井・林	木藤・岩間	浜崎・糸井	等々力	教務課：丸山(勝)・上條・宮坂・塩原・山本・田嶋・(新井)・(土屋)・(柏原)・(伊藤)･(中野)
		共通教養センター運営部会	30	教養教育のＣＰ上での位置付け・理念	I	福島智		林・山根	福島（智）・中島（節）	矢野口		丸山(勝)・上條・宮坂
		キャリア教育センター運営部会	31	位置付け→共通教養化	I	糸井		畑井・小林	岩間・藤岡	糸井		丸山(勝)・中村(高)・白澤・塩原
		資格取得支援センター運営部会	32	資格管理と取得支援	I	浜崎		林・小林	藤岡・河野	浜崎・山添		松尾・伊藤・田嶋・(中野)・(早坂)
		基礎教育センター運営部会	33	リメディアル教育	I	齊藤		畑井・大石	木藤・齊藤	藤波・糸井		丸山(勝)・(鈴木(恵))
		教育改善推進委員会	34		J	増尾	江原	増尾・田中浩	矢内・中島(節)	川島（均）・篠原	増尾	赤羽(雄)・丸山(勝)
		教育企画推進部会	35	学部学科単位のＣＰ改善/個人対応も	J							赤羽(雄)・丸山(勝)
		ＦＤ・ＳＤ運営部会	36	アンケート、講演会、意見交換会	J	川島（均）						赤羽(雄)・丸山(勝)・中村(高)・関
		教職センター運営委員会	37	講義、４分野の部会	K	川島（一）	廣田	川島・室谷・畑井	藤枝・等々力・岩間			教務課：丸山(勝)・田嶋
		教員採用受験指導センター運営部会	38	中高採用試験対策、就職活動支援	K							田嶋・(中野)
		図書館運営委員会	39		L	篠原	江原	太田・山根	伊藤	篠原・藤波・中山	篠原	図書館：松尾・(神田)・(松島)・(前島)・(塚田)
		情報センター運営委員会	40		M	小林俊	杉山	小林・大石	新井	木下・浜崎		情報センター：松尾・伊藤・(早坂)
		国際交流センター運営委員会	41	海外研修、留学生、国際交流	N	糸井	杉山	葛西・大石	中島（弘）	糸井	廣田	学生課：丸山(正)・田中(雅)・関澤・関(鈴木(佳))
		地域健康支援ステーション運営委員会	42		O＊	廣田	廣田	成・佐藤哲	根本			総務課：赤羽(研)・赤羽(雄)・飯澤・(赤津)・(筒井)
		地域づくり考房『ゆめ』運営委員会	43		P＊	廣瀬		成・中澤	中島（節）	廣瀬		臼井・(浅川)・(加藤)
	学生支援	学生委員会	44	学生生活支援	Q	尻無浜	呉	尻無浜・清水	矢内・呉	中村・川島	矢崎	学生課：丸山(正)・田中(雅)・関澤・関・(鈴木(佳))
		人権教育部会	45	行政対応	Q	中山				中山		丸山(正)・田中(雅)
		就職委員会	46	企業開拓、就活支援	R	藤波		成・八木	沖嶋・犬飼	藤波・木下	藤波	中村(高)・白澤・片庭・松澤・今井・(田中)･(飯沼)・(三澤)
地域連携（ＣＯＣ）戦略会議		高大連携推進委員会	20		S	白戸					木村	柴田・臼井・赤羽(雄)・中村(礼)・(柄山)・(橋本)・(笠原)・(筒井) 必要に応じて各委員会担当職員と連携
		地域健康支援ステーション運営委員会	42		S	廣田						
		地域づくり考房『ゆめ』運営委員会	43		S	廣瀬						
		地域総合研究センター運営部会	25		S	室谷						
		地域ＰＲ委員会	47	Public Relation/以前の地域連携戦略委員会	S	木村						
		防災防犯対策委員会	15		S	矢崎						

○全学委員会には、原則各学部から２名（各学科から１名）＋担当者＋担当事務職員
○各学部の事情で必要に応じて委員を増員することがある。
○＊印の委員会等は機能的には表の部門もあるが、主に地域連携戦略部会に属すことになる。
○各学部が必要に応じて独自に開催する委員会や部会は、前に○○学部を付ける。　ex.総合経営学部学生委員会など

Ⅱ．アンケート調査結果(平成27年度)

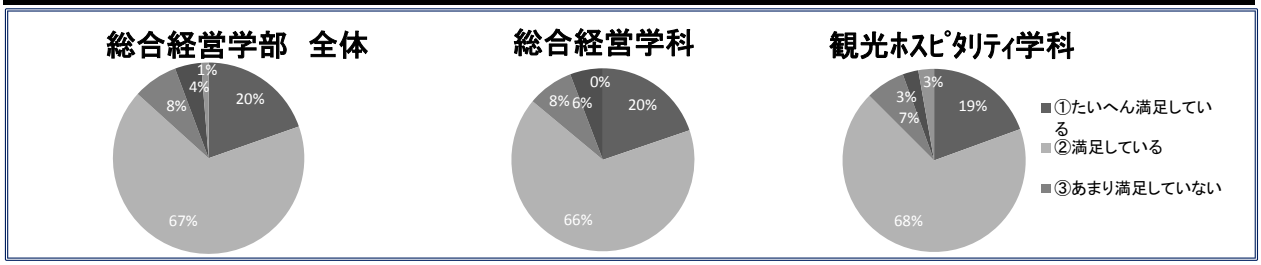
1.松本大学卒業予定者アンケート

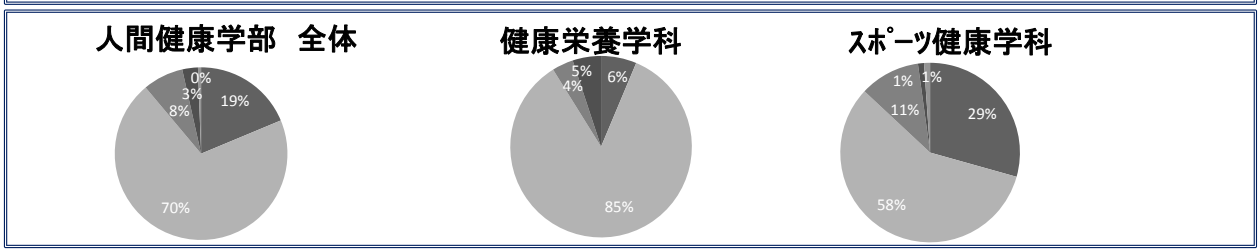
質問1.　所属について

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	77	17	94	43	30	73	167	4	76	80	63	33	96	176
回収数	69	17	86	42	30	72	158	4	75	79	61	31	92	171
回収率	89.6%	100.0%	91.5%	97.7%	100.0%	98.6%	94.6%	100.0%	98.7%	98.8%	96.8%	93.9%	95.8%	97.2%

質問2.　あなたは所属学部の教育に満足していますか。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	15	2	17	12	2	14	31	0	5	5	18	9	27	32
②満足している	48	9	57	26	23	49	106	3	64	67	33	20	53	120
③あまり満足していない	2	5	7	2	3	5	12	1	2	3	8	2	10	13
④全く満足していない	4	1	5	2	0	2	7	0	4	4	1	0	1	5
無回答	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	1	0	1	1





【理由等】

総合経営学科

- さまざまな分野が学べるから
- 授業の科目等が充実しているから
- やりたいことなどが出来たため
- 学びたいことが学べたから
- 講義内容が薄かったり、買った参考書を全く使わない講義が多々見られた
- 授業カリキュラムが充実していた
- 色んな事を学べたから
- 希望していた学習ができた
- 理由はなし！
- これ以外の学科は自分には合わない
- 自分の進路を決めるきっかけができた
- 広く学べたから
- 時間に余裕がある
- 幅広く学べることができたから
- いろんな分野において学ぶことができたから
- 様々な専門知識を学べたから
- 取りたかった講義が取れたから
- なし
- 社会の仕組み、社会人になってからの心構えを学べた
- 経営学部ならではの講義を聴けて身に付いた
- 様々な講義を受けることができるところが良かった
- 自分が興味のある授業があったため
- 経営・マーケ・金融など学びたいことが学べた
- 社会人になるための知識をたくさん学べた
- 経営とホスピタリティの2つを学べてとても興味深いものばかりだった
- 学びたかったことが学べたから
- 社会に出てすぐに使える知識が経営学なので満足しています
- 専門的な講義が少なかった
- 資格などが充分とれて、設備も充実しているから
- 厳しくもなかったから
- 楽しく学習できた
- 良い先生が揃っていて授業が面白かった
- 特に問題がなかったため
- 勉強したかったことを学ぶことができた
- 楽しかった。
- 産業カウンセラーの勉強ができたし、PC等の基礎作業ができるような勉強ができたから。
- ②日常生活で使えるから。
- 宅建の講座が後からできたので、あまり意味がなかった。
- 勉強したかった分野だったから。
- 何の為に通っているのか分からない。
- 授業内容が充実していない.ゼミでの活動をもっとしたかった。
- 学びたい分野が学べたから。
- 本当に学びたいと思っていたものを学べるものが少なかった。話の脱線が多すぎるものも少なくない。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

- 講義等に興味が湧くような事が多かった。
- いい人達との出会いが私の人生をいいものにしてくれた。
- 勉強になった。
- アウトキャンパスが多い。
- 地域のことについて詳しく知れた。
- 観光学科にいながらも経営学科で学ぶ専門的なことを学ぶことができ、何より、コースが多い。
- 良い先生がそろっている。
- 先生もやる気に満ちていてとても解かりやすかった。
- 専門科目と全く関係のない講義が多かった。
- 学科の専門分野と関連つけで見識を広めることができた。経済へ流れを知り、新たな興味がわいた。
- 経済の流れについて知ること、興味をもつことができた。日本が抱えている問題について深い見識を持つことができた。
- 興味のある授業は満足している。
- 商品開発や留学ができたので。
- 実際に地域に出て活動し、学べる。
- 色んな専門分野を学ぶことが出来て楽しく学べたし知らなかったことも新しい知識として蓄えることが出来たと思ったから。
- 特になし。
- 就活に活きた。
- 楽しく学べた。
- 専門的な勉強が出来た。
- 教職も習得でき、自分の学びたいことが学べた。
- 社会に出て大切なことを学べたから。
- 講義の進め方がよく分からない教員が多かった。
- 自分の学びたいことを学べた。
- 特に理由はない。
- 多くの科目と講義が学べる所があるので、入学してから社会に出るまでに必要な事が理解しやすく、考えさせられる所があったので良かった。
- 基礎知識は学べた。
- 自分の学びたいことを始め、幅広く学べた。
- 今まで学べなかった「ホスピタリティ」を学ぶことができたため。
- 他学部に比べて楽で良かったです。ただ頭にはほとんど残っていない。
- どちらとも言えない。
- アウトキャンパスがある。
- 経営の授業が少なかった。
- 観光に関しては、多くの授業があったように感じなかった。福祉のことの授業が多く、講義を選択する時迷うことが多かった。
- 幅広い分野を学べるから。
- 経営についてあまり学べない。
- 楽しく好きなことだけ勉強できたから。
- 資格の科目が充実している。ボランティア活動等がしやすい環境。
- はば広い分野を学べたため。
- やりたかった勉強ができた。学べました。
- 観光の授業よりも福祉メインの講義が学年が上がるにつれ多くなっていると思いました。バリアフリーのこともあるので学べるのはとてもよいけれど、もう少し観光のことについて講義があればよかったです。

健康栄養学科

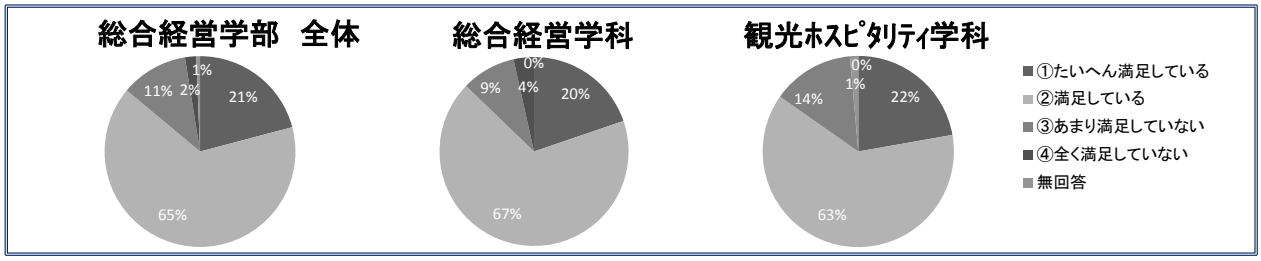
先生方が熱心に指導してくださった。
学習環境が整っていて良いと思う。
地域との関わりを大切にする活動をしたかったのでそこに力を入れていて満足できた。
臨地実習に3つ行く際、教員の指導がとても良かったです。指導だけでなく、支えとなってくれることもありました。巡視で先生が来た際、安心して泣いてしまったこともあった。親身になって指導いただいた。
同じ科目をとっているのに、スポーツと栄養でテストの出し方が違う時があったらしいが、そういうのは嫌だ。
臨地実習や実践学習などが多くあったから。
先生方との距離が近く、親身な対応をして下さる先生方で、とても支えられていたからです。
授業内容は特に不満はないが、どの授業もスポ科の生徒がうるさく、集中できなかった。また、返却物をとりに行く際も時間がかかってめんどうだと感じた。
困ったことがあってもすぐに対応して下さる。勉強は大変だけれど、先生たちも一緒になって協力してくれるところ！
実習とか充実した設備だと思いました。先生たちもとても熱心に指導して頂きました。しかし、授業以外の出費が多く少しきつかったです。実習費や模試など、授業に関係しているものが授業料に含まれないのが謎です。
松大でしかできないこと(シカの解体)ができてよかった。しかし、授業料が少し高い。スポ科と同じ教室での講義はうるさくていやだった。講義の質が悪くなった。
少し問題のある教員がいる。
6号館は、人間健康学部が比較的自由に使用でき、設備も整っているため、教育を受けやすい環境だった。
教員ひとり一人が熱心に授業の中身を考えていたと思います。しかし、時折、これは必要なのだろうかと疑う内容もあると思いました。スポーツ科ともっと連携とれませんか？
他学部との試験内容および成績のつけ方が好ましくなかったため。
スポ科との連携した授業があればいい。栄養学を学ぶ中でスポ科と一緒に関わって栄養の学びを深めたかった。スポ科がある意味が(栄養とスポ科があるという利点)なかった。
学部の授業は、1年時はうるさくて集中できなかった。学年があがるにつれてそれは解消した。
スポーツと栄養が関連するシステムや講義がほとんどない。(同じ学部でくくっている意味がない)
教員によって国試重視の方がいらっしゃり、国試を受験しない人にとって負担や罪悪感だととらえる人もいた。
優しく熱心に指導してくださったと思う。
「人間健康学部」という学部名にあった、「健康」に関わることを様々な面から学ぶことができた。

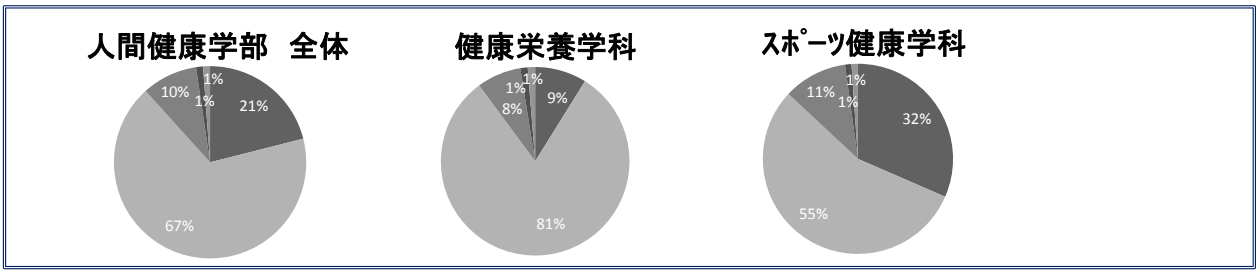
スポーツ健康学科

特に不満がなかった。
教養科目にもっと実用的なものを増やしてほしい。
教職の勉強のみならず、その他の専門性も伸ばせるから。
先生とのキョリが近い。
教職員の方々の熱心で丁寧な指導が受けられたから。
好きな勉強ができた。興味をもって取り組めた。
毎日充実していた。
授業が沢山あるから。
就活で「大学で何を学んできた？(勉強で)」と聞かれ答えられなかった。4年間で一貫して学べる分野があるといい。
ほとんど良いが学年ごと授業がかたよっている。3年4年時も専門的な知識を深める授業がほしい。
特になし。
学びたい専門分野を学んで知識をつけられた。
内容や先生方がとても良い。
自分の学びたいことが学べた。ゼミ活動に大変満足している。
実習等充実していたから。教職と指導士両方とれたから。
ゼミナールでの活動など充実していたから。
ゼミが良かったから。
やりたいことが出来たので。
自分が学びたいと思っていた運動等についての知識を身につけることができたから。
授業時間が30分以上も早く終わることがある。
学習できる場や環境が少ない
特になし
実践を通じて様々なことを学びながら楽しく学習できたこと
良い先生方に恵まれた
教員の方の面倒見がいい。
教員の方が最後まで面倒を見てくれる。
学生に対して、先生方が非常に親切であるから。
学びたいことが学べた
良い友人に出逢えた
充実していた
追試がない
いい友達に出会えた
1.2学年で専門の知識を学んで、3.4年で発展系に移るのはよかったが、教養科目の必修には不満がある。特にマナーと接遇に関しては2年前期なんかより、3年後期や4年前期などの就活前に行ってほしかった。2年前の教養科目は忘れる。
再試がなかった
再試験がなかった
4年間多くのことを学べて楽しい大学生活だったから
先生方の授業が分かりやすい
健康に関連する内容について学習することができた。学生を支援するサービスが充実していた。
自分の好きな事を勉強することができた
学びたいことを学べた
授業内容が、自分の学びたいことに伴っている
ゼミナールを始め、さまざまな事を学べたから。勉強以外も得た物が多くありました。
先生が良かった
資格に必要だから授業を受けるのではなく、もっと興味がわいたから受けるというような授業があるといいと思う。
熱心に教えてくれたため
スポーツにおける専門分野について学べたからです。ありがとうございました。
資格の取得。就職等が多い。
学びたいと思っていたことを学べた
楽しく生活できた
人間の体のことについていろいろ学ぶことができたが、他にも多くのことが学べると思うので、学部を増やしても良いと思う。
むだだった
楽しめた。
取得可能単位数が少ない
取得できる資格数、施設があまり充実していない。
専門分野の内容がよかった
学びたいことを学ぶことができた。
幅広い年齢の人とかかわれたから
いろいろ学べた
自分の学びたかった事を学べたため
4年間充実した学校生活を送ることができました。

質問3.　あなたは自分が所属した学科の教育に満足していますか。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	15	2	17	11	5	16	33	0	7	7	20	9	29	36
②満足している	48	10	58	27	18	45	103	4	60	64	30	21	51	115
③あまり満足していない	3	5	8	4	6	10	18	0	6	6	9	1	10	16
④全く満足していない	3	0	3	0	0	0	3	0	1	1	1	0	1	2
無回答	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	2





【理由等】

総合経営学科

- 厳しくないから
- 授業の科目等が充実しているから
- 学びたいことが学べたから
- 学びたいことを学べたから
- 講義のテンポが悪く、中途半端に終わることがあった
- 先生の教え方が丁寧
- 経営等について学べたから
- 希望していた学習ができた
- 理由はなし！
- 充実していた
- 面白い講義が多かった
- 経営・心理学について4年学べたから
- 時間に余裕がある
- 資格に向けた専門的な講義が受けられたから
- なし
- 社会の仕組み、社会人になってからの心構えを学べた
- 経営学部ならではの講義を聴けて身に付いた
- 様々な分野で学ぶことができたから
- 様々な講義を受けることができるところが良かった
- 自分が興味のある授業があったため
- 経営・マーケ・金融など学びたいことが学べた
- 専門知識を学べた
- カウンセリングの勉強ができたのはとても自分のためになった
- 学びたかったことが学べたから
- 社会に出てすぐに使える知識が経営学なので満足しています
- 講義が丁寧で分かりやすかった
- 幅広い分野の授業が学べたから
- 厳しくなかったから
- 詳しく内容を学習できた
- 楽しい講義が多かった
- 特に問題がなかったため
- 勉強したかったことを学ぶことができた
- 将来のビジョンを持つきっかけになった。
- 産業カウンセラーの勉強ができたし、PC等の基礎作業ができるような勉強ができたから。
- ある程は満足している。
- 何の為に通っているのか分からない。
- 授業内容が充実していない.ゼミでの活動をもっとしたかった。
- 学びたい分野が学べたから。
- 本当に学びたいと思っていたものを学べるものが少なかった。話の脱線が多すぎるものも少なくない。
- ②社会自治に詳しくなり社会について考えるようになった。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

- 専門的なことを学べた。
- 特に理由はない。
- 目指している仕事の資格取得のため。
- 自分の学びたいことを学べた。
- ”ホスピタリティ精神”は学べたと思う。
- 専門的な勉強が出来た。
- 楽しく学べた。
- 就活に活きた。
- 松本の観光内容が詳しく知れた。
- アウトキャンパスが多い。
- 楽しかった。
- 基本的に、学びたいものばかりだった。
- 商品開発や留学ができたので。
- 先生方の話がさんこうになった。
- 観光系の授業が少なかった。
- 学びたかった観光の勉強ができた。
- 簿記を必修にしてほしかった。
- 専門的な分野をしっかり学べたから。
- 希望している資格を取得できる。
- 楽しく、好きな事だけ勉強できたから。
- もっと観光を学びたかったです。
- どちらとも言えない。
- やりたかった勉強ができた。
- 自分の興味ある分野を学べた。
- 興味のある授業は満足している。
- 広い視野で学べたと思う。
- 人との関わりだったり大切なことを学べたから。
- 観光ホスピタリティの概念を知ることができた。コミュニケーション向上につながった。
- 観光に興味はなかったが、お客様に対する行動・おもてなし・社会で人と接することが多いので大変勉強になった。
- 福祉の専門知識を勉強できたことで将来に繋がると思ったし地理が得意なので観光のことについて知らなかったことも学べたので良かったなと思ったから。
- 観光や取り巻く環境についてより興味深く学べた。博物館学芸員など専門的な資格を取得することができた。
- 専門分野を重点的に学んだが多方向から観光を捕らえることが出来た。楽しく学ぶことができた。
- 専門科目と全く関係のない講義が多かった。
- 観光ホスピタリティ学科らしい専門的な授業を取る事ができた。
- 良い先生がそろっている。アウトキャンパスが充実している。
- 入学した当時のカリキュラムと大きくことなること。アクセス検定や、ドイツ語等、受講したい講義を受けることができなかった。
- 先生が活動を参加する機会を与えてくれる人が多く参加しやすかったし、楽しかったので、これからもそのような機会を増やして多くの生徒を巻きこんでほしい。
- 教員の方が、大変熱心であるので、こちらも学びの意志が出てくるところが多いので。
- とても満足している。将来、目指していることについて深く学べたから。
- 今まで学べなかった「ホスピタリティ」を学ぶことができたため。
- サービス接遇検定や秘書検定などホスピタリティに関る資格がとれたから。
- 資格の科目が充実している。ボランティア活動等がしやすい環境。
- もう少し内容の濃い授業があればよかった。実習等もふやしてほしかった。
- 受けたかった講義が閉講してしまい受けれなかった。
- 観光に関しては、多くの授業があったように関じなかった。福祉のことの授業が多く、講義を選択する時迷うことが多かった。
- 観光の授業よりも、福祉メインの講義が学年があがるにつれ多くなっていると思いました。バリアフリーのこともあるので学べるのはとてもよいけれど、もう少し観光のことについて講義があればよかったです。

健康栄養学科

学習環境が整っていて良いと思う。
学生1人1人を見て指導してくださったので。
先生方との距離が近く疑問に思うことがあったときすぐに連絡を取り合える環境は恵まれていたと思う。
もう少し早い段階から国家試験の対策を行ってほしかったです。
自分の学びたい専門科目を十分学べたと思うから。
課題の量が多く、大変だと感じた。
管理栄養士の免許を取得するために勉強に励むことができた。
先生達が生徒のことを熱心に考えてくれていることが伝わってきたため。
自分の興味がある分野について専門的に学べたため、満足している。
先生との距離が近いのが良かった。すぐ質問に行けた。先生によって、授業の気合の入れ方に差があって、学びがほぼなかったように思える教科があった。
必要な知識を得ることができたから。
栄養や健康についてなど、管理栄養士の資格取得のために必要な知識を多く学び得ることができた。
先生との距離が近い。
熱心な先生が多く、授業数も多かったが充実していた。
臨地実習に3つ行く際、教員の指導がとても良かったです。指導だけでなく支えとなってくれることもありました。巡視で先生が来た際、安心して泣いてしまったこともあった。親身になって指導していただいた。
実習など専門的なことが学べてよかった。
先生との距離が近いこと。
実習や勉強で大変なときでも、相談にのってくださったり、疑問に思っていることへの解決を一緒に考えてくれたりしたことがとてもうれしかったからです。
先生によって、言っていることと、やっていることが違う先生がいて混乱した。
わからないことがあって聞きにいったのに、結果「わからない」で終わってしまうところ。が満足していない部分。
スポーツ学科の先生方も、親しく接していただけたり、トレーニング室の機械が身近にあり勉強になった。スポーツと栄養が同じ学部にあるのなら、もっと色々なカリキュラムや資格を取れるようになったらもっとよいと思いました。
少し問題のある教員がいる。
ゼミの活動はとても充実していました。卒業論文も自分ペースでやれるように気をつかって頂き感謝しています。

満足のいく教育と全く意味がないと感じた教育があったためです。臨地実習の進め方に大変満足していないです。又、1学年での選択科目が少なく、2・3年にかけてきつきつに入れられたことに対し、カリキュラムの改善を求めます。あのカリキュラムを後輩にしいることはやめていただきたいです。

すごく楽しかった。ただ、校外実習や、協力して行う活動をしたかった。
基本的には、良い教育を受けられたとおもっている。一部授業アンケートが反映されない授業はあった。
教員によって国試重視の方がいらっしゃったり、国試を受験しない人にとって負担や罪悪感だととらえる人もいた。
優しく熱心に指導してくださったと思う。しかし、問題のある教員もいたと思う。
管理栄養士の免許を取得するためだけでなく、食や栄養、人とのかかわりについて学ぶことができる学科だったため。

スポーツ健康学科

良い授業もありよかった。
専門の勉強が充実してたから。
自分の学びたいことが学べた。ゼミ活動に大変満足している。
他の学科に比べて、学科全体が仲良し。
先生と接する機会が多かった。
学びたい事が学べた。
他の大学に比べて先生との距離が近く、話しやすかった。
ほとんど良いが学年ごと授業がかたよっている。3年4年時も専門的な知識を深める授業がほしい。
就活で「大学で何を学んできた？（勉強で）」と聞かれて答えられなかった。4年間で一貫して学べる分野があるといい。
先生との距離が近い。
学びたい事を学べたから。
就きたい仕事の役に立つことを学べた。
教育実習に向けての模擬授業などとても為になった。
スポーツの専門的な教育とともに教職の教育も充実していた。
ゼミの人数が少人数だったのでゼミ担としっかり向き合い学習させていただくことができたから。
専門的に学ぶことができた。
良い。
教職の勉強のみならず、その他の専門性も伸ばせるから。
資格取得に向けた支援をしてくれる。
特に不満がなかった。
やりたいことが出来たから。
スポーツに関していかせる知識を知り、運動や体の構成に対し、とても興味を持ちながら、日々の講義を受けられたから。
授業時間が30分以上も早く終わることがある。
より多くの機材にふれたい
座学だけでなく、実践を経験できる講義が複数あったため
スポーツ関係の事を学ぶことができたから。
スポーツの現場を体験したり、実際にお話を聞く機会がありよかった
良い仲間にめぐりあえた
興味深い講義が多々あった。
教員の方が最後まで面倒を見てくれる。
学びたいことが学べた
良い友人に出逢えた
充実していた
追試がない
自分が興味を持つことができる科目が多かった。
1.2学年で専門の知識を学んで、3.4年で発展系に移るのはよかったが、教養科目の必修には不満がある。特にマナーと接遇に関しては2年前期なんかより、3年後期や4年前期などの就活前に行ってほしかった。2年前の教養科目は忘れる。
4年間多くのことを学べて楽しい大学生活だったから
専門的な内容でありながら普段の生活にも生かせるから。
運動やスポーツについて、健康の視点から考えることができる講義が充実していた。
スポ科での交流が多く、これからも大切にしていきたいという出会いが多くあり、たのしかった。
専門的なことをしっかり学ぶことができた
授業内容が、自分の学びたいことに伴っている
ゼミナールを始め、さまざまな事を学べたから。勉強以外も得た物が多くありました。
実習など学外で行う授業がよかった。
専門的知識を学びたかった
講義科目数が少ないため
所属ゼミで、スポーツ経営について学べたので満足しています
目標だった資格も取得でき、良い経験ができた。
楽しく生活を送れた
時に体を動かしながら勉強できるのはとても良かった
興味をもてなかった。
楽しめた
専門知識を身につけることができるような講義が少ない
講義が少ない。取得できる資格。
教科書の内容がすべて学べなかった。
健康や運動・トレーニングについて学べたから。
やりたいことを学べた
知識が増えた
専門的知識を身につけることができました。

質問4.　あなたが松本大学に入学した動機は何ですか。（いくつでも）

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
⑧自宅から通学したい	39	11	50	17	21	38	88	2	34	36	18	14	32	68
②『地域に貢献する人づくり』よいう教育目的に魅力を感じた	18	1	19	11	13	24	43	0	29	29	21	7	28	57
⑪その他	9	4	13	9	3	12	25	1	23	24	10	11	21	45
⑨親、先生などから勧められた	7	4	11	10	7	17	28	1	19	20	15	6	21	41
⑦学生と教職員の距離が近い	7	2	9	2	6	8	17	0	10	10	13	14	27	37
③ｱｳﾄｷｬﾝﾊﾟｽｽﾀﾃﾞｨ・ｻﾎﾟｰﾀﾞｼｽﾃﾑ等の新しい教育方法に惹かれた	0	1	1	8	11	19	20	1	13	14	6	1	7	21
⑤良い先生がいる	6	2	8	5	4	9	17	0	0	0	11	7	18	18
⑩まだ社会に出たくない	16	4	20	8	5	13	33	0	5	5	12	1	13	18
①『ｵｰﾀﾞｰﾒｲﾄﾞ教育』という理念に共感した	5	0	5	3	1	4	9	0	2	2	11	2	13	15
④ｺﾝﾋﾟｭｰﾀなど施設・設備が充実している	3	1	4	3	1	4	8	0	0	0	6	1	7	7
⑥友達が入学する	7	2	9	1	1	2	11	0	0	0	1	1	2	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2

総合経営学科

信大に落ちたから
他大学に落ちたから
教職の勉強ができるから
就職に強い
元々短大に入るつもりだったけれど、キャリアカウンセリングで気が変わった。
センター入試Ⅱ期の合格発表が早かったから

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

時間がある。
資格。
野球。
野球がしたかった。
教員免許の取得。
教員になりたかった。
「観光」を長野県で学びたかった。
一人暮らしがしたかった。
県内で大学に通いたかったから。
社会福祉士になりたかったから。

健康栄養学科

資格取得のため。
大学で遊びたかった。大学で社会に出るまえに社会勉強したかった。栄養士の資格をとりたかった。学費が私大で安い方だった。
資格がとれる。
自分のとりたい資格がとれる。
自分の学びたいことを学べそうだから
長野県内だったから
一人暮らしが出来るが、実家にすぐ帰れる適度な距離だった。
管理栄養士になるため。
私立のなかで学費が安かったから。
健康栄養学科があったため。
他大学におちてしまったため。
栄養学科があったから。
県内唯一の管理栄養士養成校だったから。
他大学におちてしまい県内での大学はそんなになく、栄養に少し興味もあったのでしかたなく。
資格がとれるから。
地元就職に強い！地元で管理栄養士の資格が取得できる。
資格がとれるから。
管理栄養士の資格が県内で取れるのがここだけだったから。
管理栄養士養成課程がある。
管理栄養士の受験資格が得られる。
管理栄養士の資格がとりたかったから。
他大学と比べると学費が安かったから。
県内で管理栄養士の資格が取得できる。
県内にある大学だった為。

スポーツ健康学科

やりたい部活があった。
部活で誘われたから。
指導士が獲りたかったから。
教職の免許がとれるため。
入りたい部活動があったから。
県内唯一に養ゴがとれる。
受験料と学費が比較的安かった。
健康運動指導士の資格
受かっていたから。
教員免許と指導士系の資格が両方とれるから。
スポーツ系に憧れたから。
運動に関する資格が取れるから
教員免許取得、松本山雅、人工芝グランド

質問5. あなたが松本大学に入学した目的はなんですか。(いくつでも)

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
④資格を取りたい	26	7	33	16	14	30	63	3	70	73	41	24	65	138
①専門的学識を身につけたい	22	5	27	19	16	35	62	4	51	55	33	19	52	107
⑦部活動を行いたい	6	0	6	5	2	7	13	0	2	2	18	8	26	28
⑤良い就職がしたい	29	7	36	8	5	13	49	0	11	11	11	3	14	25
⑥友人をつくりたい	10	0	10	8	4	12	22	0	11	11	12	2	14	25
②教養を身につけたい	19	3	22	12	10	22	44	0	13	13	6	4	10	23
⑪自分をみつけたい(自分探し)	15	2	17	11	7	18	35	1	5	6	14	2	16	22
⑧親元から離れて生活したい	5	0	5	2	3	5	10	0	8	8	7	3	10	18
⑨アルバイトをしてみたい	5	1	6	2	1	3	9	0	3	3	8	0	8	11
⑩自立できる社会人になりたい	10	2	12	9	5	14	26	0	8	8	9	5	1	9
⑫その他	3	3	6	6	1	7	13	0	2	2	1	1	2	4
③海外研修を経験したい	0	0	0	2	5	7	7	0	1	1	2	0	2	3
無回答	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	2

【理由等】

総合経営学科

他大学に落ちたから
友達がいる。
大学に入りたかった。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

なんとなく。
教員免許の取得。
野球すいせん。
野球をするため。野球がしたかった。
地域活動がしたい。

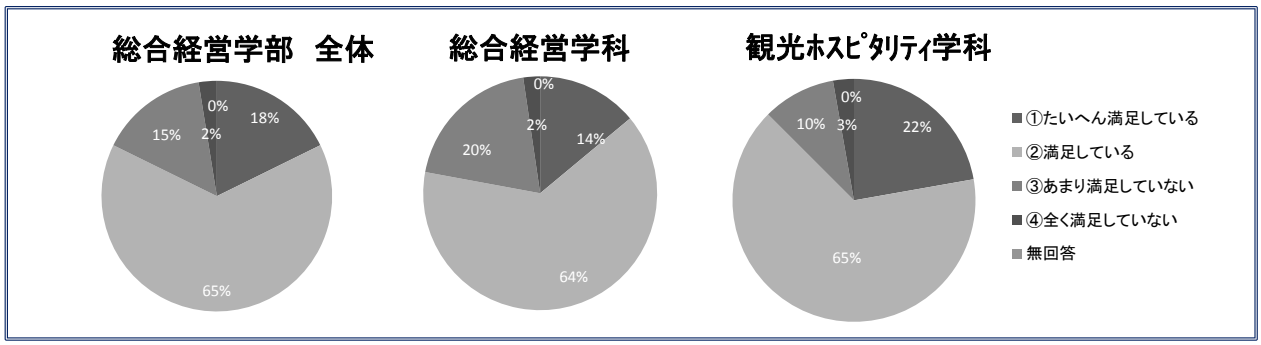
健康栄養学科

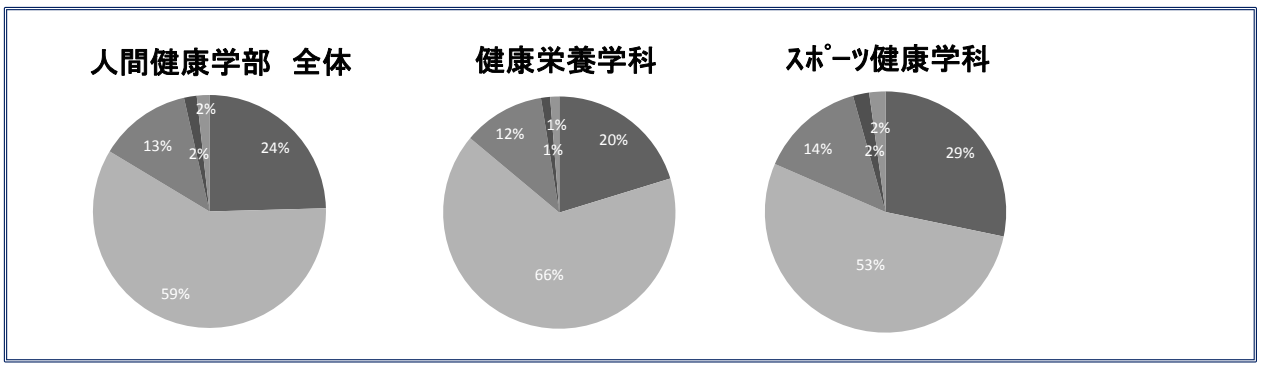
遊びたかった。大学生らしく。

スポーツ健康学科

質問6. あなたは松本大学の4年間の勉学に満足していますか。

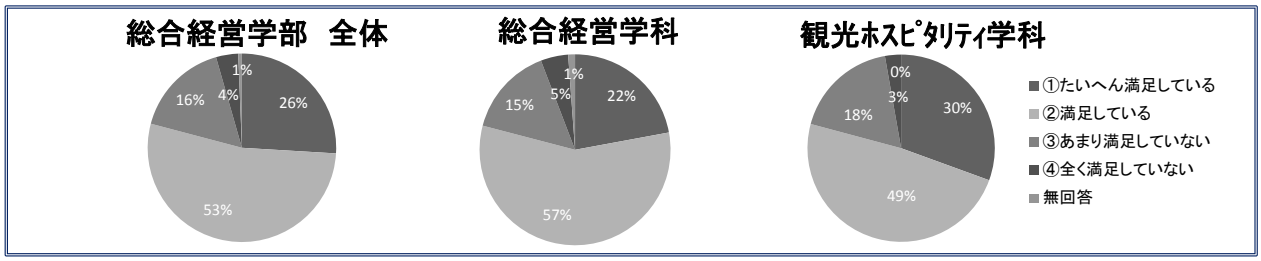
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	11	1	12	11	5	16	28	1	15	16	19	7	26	42
②満足している	46	9	55	26	21	47	102	2	50	52	28	21	49	101
③あまり満足していない	11	6	17	3	4	7	24	1	8	9	10	3	13	22
④全く満足していない	1	1	2	2	0	2	4	0	1	1	2	0	2	3
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	2	3

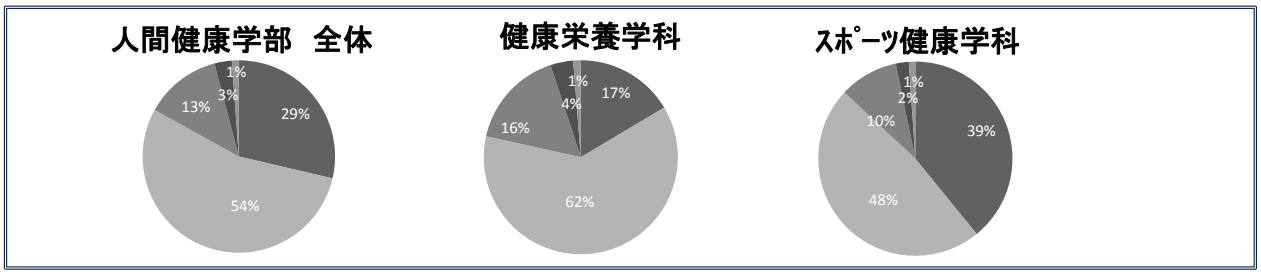




質問7.　この4年間のあなた自身の生活に満足していますか。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	16	3	19	12	10	22	41	0	13	13	21	15	36	49
②満足している	43	6	49	21	14	35	84	2	47	49	30	14	44	93
③あまり満足していない	8	5	13	7	6	13	26	2	11	13	7	2	9	22
④全く満足していない	2	2	4	2	0	2	6	0	3	3	2	0	2	5
無回答	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	2





質問8. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたことなど

総合経営学科

アウトキャンパスで外で学べたことが良かった。
自分のやりたいことが見えてよかったです
たまに休講の連絡が遅かった。
スムーズな出席確認ができていないこと
楽しい授業ばかりだった。
好きなもの興味のある事について深く学べた。講義でやっていない範囲がテストに出題された。学生によって態度の変わる先生がいた。
意識が低い
授業がわかりにくく、やる気も感じられない先生がいた。テストの範囲が別の授業の内容も反映していたりメチャクチャ。学生をバカにするような発言もあった。
出席に対して甘いと思った
講義で教えていないことを連絡せずテストに出すので、さすがにやめてほしい。
先生方がわかりやすく指導していただいたので、大変助かりました。
良くも悪くも浅く広く。
良かったこと　種類が豊富で色々学ぶことができた。　悪かったこと　騒々しい時には注意を確実にしてほしい
休講の連絡がもっとはやくほしい。少なくとも1限の10分前などはそちらの決定力に欠けると思う。
アウトキャンパスがもっとあった方がよい。
もう少しアウトキャンパスがあればよかった。
ほとんどの教員は分からない事を聞いたらしっかりと教えてくれたが、聞いても自分で調べろと言われ教えてくれない教員もいた。
パワーポイントを使用してくださる先生が多く、わかりやすい内容のものが多かった。
良い点は先生方の授業が分かりやすいことです。悪い点は、授業中少しうるさいことだと思います。
良い授業が多かった
様々な授業を通して、色々な分野を学べました。4年間ありがとうございます。
さまざまな資格を取ることができた。
資格の勉強ができた。授業の人数に偏りがあった。
授業の人数に偏りがあり、座れない時もあった。
知らなかった知識を聞くことが出来た
わからないことがあっても、すぐに聞きにいけるような学生と教職員の方々との距離感が良かった。
今でも充分専門的な講義だが、もっと入り組んだ専門的な内容も学んでいきたいと思った。
熱心に教育して下さった先生もいて、学んだことが多かった。
丁寧で私たち生徒に分かりやすく細やかに授業をしていただきました。反面、テストなどで少々やりごたえが少なかったと感じました。
さまざまな知識が身について良かった。
内容が薄い。
集中して講義にとりくめた

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

野球が楽しかった。
楽しかった。
しっかりできた。
中だるみしてしまうことがあった。
旅行のことについてくわしく学べた。
アウトキャンパスが多く、楽しかった。
特になし。
資格を取ることができて良かった。
松本に深くかかわれた。
授業が長かったです。
学生同士の会話が講義の中でできて、話をする自信になった。
前に出て、講義をする先生方の一部に、ポケットに手を入れながら、講義をする先生がおり、その行為が非常に気になった。多数の人の前で講義を行う人間ならば、それなりの振る舞いをしていただきたい。
不完全燃焼。やりたいこと、後悔。四年生で多くみえてきた。
個性的な先生方が多く、講義が多い日でも飽きることなく受講できたと思う。
教職授業の開講年数を早めてほしい。3年に教職の授業が集中していたのでもう少し緩和して頂きたかった。先生によって授業の質が違う。全体として質を高めて頂けるとありがたい。
アウトキャンパススタディで座学で学んだことを実際に目で見えることが新鮮だった。専門資格の取得もマンツーマンで最後まで教えてくれた。講義で学んだことは全て自分自身に関る教養として生きていくことが感じた。
専門分野はもちろんそれ以外ものびのびと学ぶことができた。施設も充実しており快適だった。
講義の成績評価基準を見直した方が良いと思った。
良かったことは社会福祉士の指定科目の授業を受けていて皆静かに集中して取り組んでいる姿を見て資格を取りたいという気持ちが伝わってきたなと思いました。悪かったことは大人数の授業になると周りが騒ぎだしてそれが全体に及んでしまい集中出来なくなってしまって正直迷惑だなと思いました。
良かったことは、ためになる話など聞けたこと。悪かったことは寝てしまったこと。
幅広い分野で授業を学べてよかったです。
良い先生達ばかりで楽しく受ける事が出来た。
家族法がおもしろかった。冷暖房のつける時期の見きわめがおそい。
受ける前と受けてからミスマッチが多かった。
4年間講義をしてきて様々な事を学び体験することができたので良かった。
地域社会貢献のためにボランティア活動など、良い経験ができた。
資格を取れる授業をもっと取れば良かった。
地元に住んでいながら長野県の事を知らなかったから。4年間通して長野県の魅力に気づく事ができてよかった。
少しイージーすぎる点が多かったです。授業内容や課題、他学部との内容のうすさ(年間を通して)。
アウトキャンパスがあってよかった。参加型の授業をもっとふやせばいいと思った。
とにかく先生がとても親切で就活の時、とても助かった。
アウトキャンパスがたくさんあり座学以外で新鮮だった。レポートの量が多い授
アウトキャンパススタディは、実際に外に出るということでとても興味あるもので楽しかった。地域と交流しているいことが実際にわかってよかったです。
身になる講義とはならない講義があった。一時、単位のためだけにしか講義を選べない時があり、それは大学らしさがないように思えた。
今となってはあまり覚えていない講義内容も多いです。
同じ教員の方の授業をとると授業内容が、同じであることが何度かあり、残念にいろいろな事が学べてよかったです。
授業を通して、多くの方々と接する事が出来て良かった。授業中に、何度かマナーの悪い学生を見つけた。観光とは経済とは、おもてなしとはなど、幅広くかんがえさせられた。それから、学ぶ事が多くなった。
人数が少ないため、良い事も悪い事もあいました。距離(先生との)が近かったのは良かったと思います。
国内旅行業務の国試対策は集中講義のみだったので、もっと対策を増やした方が良いと思った。
福祉中心に単位取得を考えていたため、他の科目を多くとることができなかった。だが、興味のある物は多く、たのしく講義を受けることができた。

健康栄養学科

科目によって教える範囲が広かったり、狭かったりすると思うのですが、もっと生徒を巻き込んで講義を行ってほしかった。
どの先生も、授業を工夫していて良かったと思います。ただ、臨地実習Ⅲを3年の夏にできると、就職活動をあわてることなくできるので少し考慮して頂きたいと思いました。
専門的な勉強ができて、楽しかった。人の話を聞かない、我の強い先生がいて、おもしろかった。
先生にもよるが、平気で遅刻をくり返し、言い訳で授業時間をつかってしまい授業があまり進まない先生がいたので、そういう所がなければよかったと思う。課題を私達に大量に出すのは、私達自身の力になるので悪い事ではなかったと思うが、その課題を出したら出しっぱなしで先生自身が評価をつける事が大変でさばききれずに、出した課題がそのままただ返ってくるだけというのはどうかと思いました。その期に学んだ内容が全くその期の期末テストに生かされない先生もいらっしゃったので、それは改善してほしいです。
他学科との共同の授業では、遅刻や私語をしている人が多く授業に集中できなかった。
先生方がひとりひとりの顔と名前を覚えてくださったことが嬉しかったです。
出欠席管理についてですが、講義に出ていないのに友人に出席カードを提出してもらったり、出席のときだけ教室に居る人が多く、まじめに講義に出ている身としては、こういうことして単位をもらっている人がいるのはとても不快でした。
(利点)資料が多い(欠点)準備不足があること
先生との距離がとても近くて質問や相談がしやすい環境でした。ブラインドが自動でおりる機能がせっかくあるのに使う時がなくもったいない気がした。マイクの調子が悪い時が多い。
カリキュラムの組み方をどうにかできなかったでしょうか？1年のスカスカした必修科目に対し2・3年の必修科目の多さには、大変困りました。特に実習の入れ方を改善して下さい。教養科目を1年のうちに履修するよう、もっと指示をして下さい。教員ごと、良い悪いが大変両極端でした。学生を馬鹿にするような発言は正直、苦痛でした。無自覚とかそういうことではなく、人に対して、その発言はいかがなものかと思うことが多々ありました。授業内容の二転三転、連絡の遅さ、思いつきでの行動は要改善して欲しいです。
課題が多く、授業もほぼ休みがなく大変な学科であったが、働くための力が身についたと思う。
実習の重なりが多すぎて大変だった。
病院や老健などに実習に行くことができたこと。
高校と違い自分が学びたいことが学べたのはすごく成長できた。1年生のときからもっとひたむきにがんばればよかった。
教養科目を1年生のときからしっかり取っていなかったので、2・3年生がとても忙しかったです。1年生のときに、まだ単位のシステムについてよくわからなかったので、もう少し細かく説明をしていただきたいです。
国家試験の過去問も使用した授業の数が少ないと感じた。
どの教科でも先生方はとても熱心に指導してくださいました。一方で時間割の関係により取れない授業が出てきたりして苦労した部分もありました。A・B両クラスが分かれて授業をうけるため仕方ないことかもしれませんが、調整していただけたらよかったなと思います。
専門的な授業が多くとても楽しかった。しかし、授業アンケートをとったにもかかわらず、その内容を全く反映してくれないプライドの高い先生がおり、少し不満が残った。
授業でよかったことは、どの教授・先生々も個性があり、学生のことを考えた講義・実習の指導をして下さり、振り返ると充実していたと思えること。悪かったことは、他の学科、学年を交えた講義の際、さわがしかったこと。
教科書を買っても全く使用しない授業がありお金のムダだと思った。教室が広いとスライド見づらいこと。
心理学や韓国語など、さまざまな分野について学ぶことができて良かった。
教員が授業に30分近く遅れて来ることがあった。何の連絡もなしに・・・わからないことはすぐにそのときに理解を深めることが大切だと感じた。実習等、先生や友達と協力して取り組むことができた。
授業は全体的にわかりやすく、学生に理解してもらおうとしていた。とても熱心に教えてくれた。
先生によって、分かりやすさが異なっていた。
忙しかったけれども充実していました。体育、語学、情報処理の単位数が2だとありがたかったです。
周りが授業に集中している空気で、自分もやらなければという気持ちになった。
理解できるための工夫をしてくれる先生が多かったと思いました。
栄養でけでなく、様々なことを学べてよかった。充実した4年間だった。
他大学では行われていないことをできてよかった。(シカの解体、レストランに行く、見学など)
良かったことは、分からないことを、すぐに聞けるような環境だったところ。悪かったところは、15回授業を受けても、ほぼ何も頭に入ってこない。ただ教科書に沿ってという授業がほんの少しだけあったこと。その分野は、国試の勉強をしても、まったく授業で身についていなかったということを感じる。
教養科目が卒業のための単位として必要で、いくつか授けましたが、魅力的な科目がなく、教養科目の勉強時間を専門科目の勉強時間にあてられたら良かったのにと思いました。
1回の授業で進むスピードが早い。内容が多く覚えることがとても大変だった。もう少し小テスト等を増やしてほしかった。

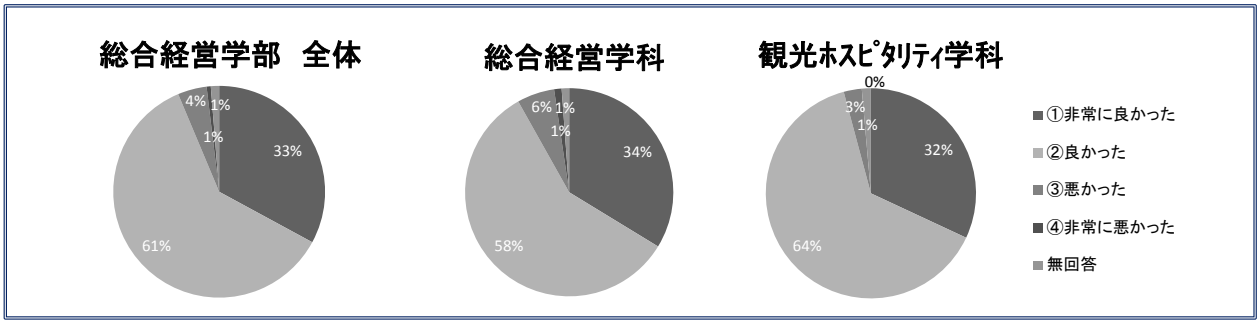
スポーツ健康学科

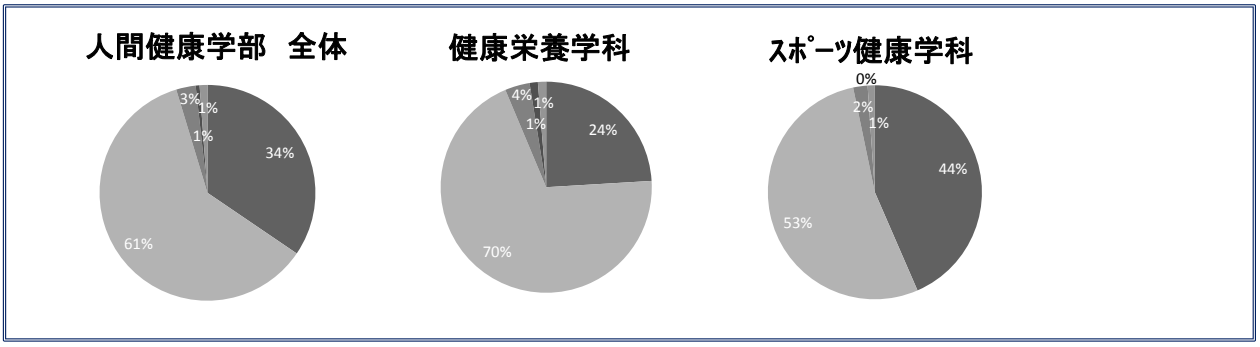
様々なことを学べた。
分かりやすい講義だった。
ゼミや就職など親切で助かった。
知識がつけれた。
教職の授業。
教科書を読み進める授業は、残念だった。
実技がもっと沢山やりたかった。
もう少し頑張って勉強すればよかったと思う。
先生との距離がちょうどよかった。
学びたいことが学べた。
ほとんどの講義が内容の充実したものだったと思う。
良い仲間もでき、とても楽しかった。
90分授業が30分程度で終わるのはよくないと思う。
楽しく学べた
すべてが良い経験になった。
学生ならではの時間があり、生活面で学ぶことが多かった。
授業を受けやすい環境づくりのおかけで、多くのことを学べた。
興味をひかれない講義の勉強がおろそかになっていた。
1年のときからしっかり勉強しておくべきだった。
実習が多い。
実技が多いので良かった。分かりづらい先生がいた。
ありがとうございました。
寝てしまうことがある
サボりすぎたのが悪かった。
パワーポイントが見やすかった。
出欠や休講連絡が杜撰
90分の授業が長く感じることが多かったです。
マイクやプロジェクターの動作に問題がある点が気になった。
いいゼミ担に恵まれた。
自分のタメになる授業ばかりだった。
やる気のない先生がいた。
無駄な講義が多い。
簡単でした
専門的な知識を学ぶことができ、よかった。
全体的に良かったと思います。しかし、一部の講義については講義にかかげているタイトルと内容が少しちがうのでは?と思うものがありました。
テストの為だけの勉強をすることが多かった。この学校でしか学べないことが学べた。
4年で取る授業がなくもったいない。専門知識を深められる授業があるとなお良い。
実際に現場に出て指導できた。(良)授業自体が楽しかった。(悪)授業内容の差。(時間が短く終わる先生。時間通りきっちり授業をしてくれる先生)
自分の学びたいことや興味によって授業を選択できた。フレンドリーな先生が多く、多くの話をきくことができた。
興味をもって取り組めたものもあれば、興味はあるものの、授業形態によっては深くまで追求できずに終わってしまったものもある。
わかりやすい授業が多く、先生方も研究室に行けば快く受け入れてくれた。
英語などの苦手意識のあるものでは、レベル別に分けられていてよかった。
機会の故障等を理由に、全員出席となったのは、少し嫌だった。来た人が少し損をする。
学びたい専門知識が学べたことがよかった。教室が暖房で暑過ぎたりしたことが大変だった。
これで授業かな、と不満もあった。良い授業との差が大きいと感じた。もう少し年間でとれる単位を増やしてほしかった。
地域の高齢者に対して運動指導するという体験は、運動に関することだけでなくこれから社会人になるうえでも学ぶことが多く、よい経験だったと思います。
4年生まで学習をおろそかにしていたが、4年生になって学習の大切さを学んだ。
先生によって授業のやり方がまったく違っていたし、授業のわかりやすい人とわかりにくい人の差がはげしかった。
先生と生徒の距離が近いので、わからないことがあれば気軽に質問できるところがよかった。
授業の中で分からないことを聞きやすい環境だったので良かった。
全てではないが、聴き取りづらい講義やスライドが早すぎて記入できないことがあった。
多くの授業がこれから自分の為になるものばかりでとても良かったです。テストは嫌でしたが、もっと学びたいものばかりでした。
知識つめこみの様な形式でなく理解度を深めるものだったので、前向きになれた。
どの授業も教員の熱意が感じられ、良い授業だったと感じられた。学ぶ意欲がわいた。
授業内容の難しさは、先生ごとに違いましたが、自分から勉強しようと思う気持ちがうまれるようになりました。
自分に必要なものは何なのか考えられるような授業であり、とても充実していた。
ゼミの実習を通じて人前で話すことができるようになった。授業内容に対して試験が難しすぎる授業があった。
授業の内容に満足できなかったものがいくつかあった。ゼミナールを通じて、社会に出る良い勉強ができた。
「バイオメカニクス」という授業を受けてみたいと思ったので、授業を開講していただきたい。
実習の授業では、個人的にとても良い経験ができた。座学の場合、先生によっての差が激しかったかなと思う。雰囲気や内容
授業を通して、たくさん教室があるので、その教室をうまく活用できるように、情報処理のようにA.B.Cクラスに分けた方が良いと思う
どの授業もわかりやすくおしえていただいのでよかったです。
4年間で多くの知識をつけることができた。だが3.4年になったときにもっとしっかり自宅などでも勉強すればよかったと後悔した。

質問9.　本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

■教員

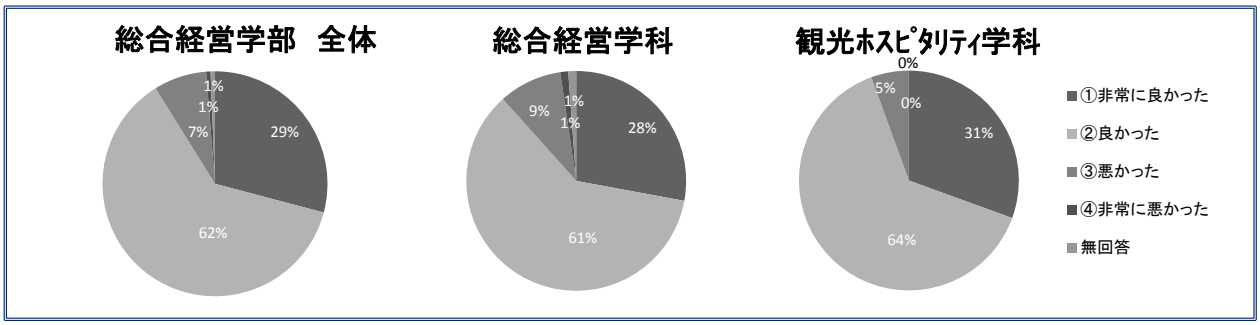
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	23	6	29	14	9	23	52	1	18	19	28	12	40	59
②良かった	41	9	50	26	20	46	96	3	52	55	30	19	49	104
③悪かった	4	1	5	2	0	2	7	0	3	3	2	0	2	5
④非常に悪かった	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	1	1	0	1	1	2	0	1	1	1	0	1	2

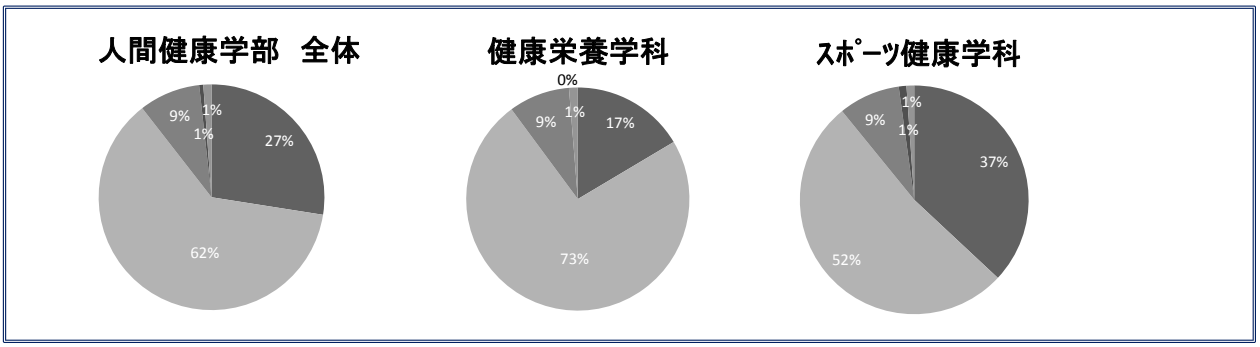




■職員

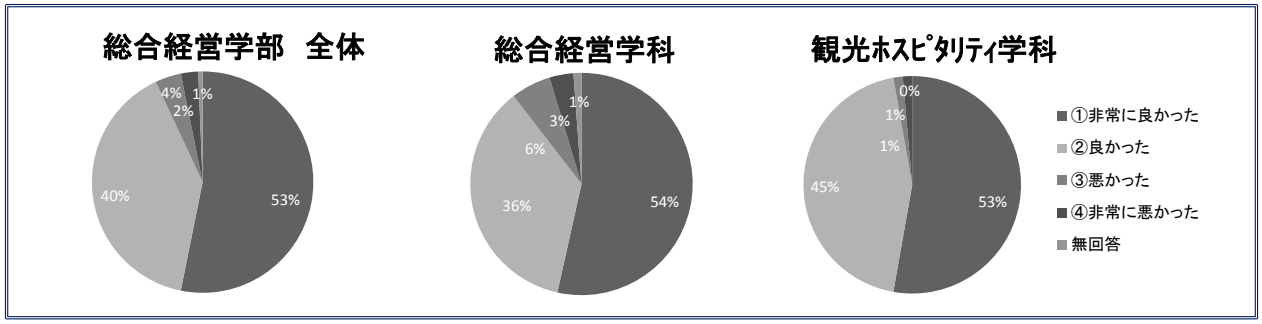
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	21	3	24	14	8	22	46	1	12	13	25	9	34	47
②良かった	43	9	52	24	22	46	98	2	56	58	26	22	48	106
③悪かった	4	4	8	4	0	4	12	1	6	7	8	0	8	15
④非常に悪かった	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1
無回答	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	2

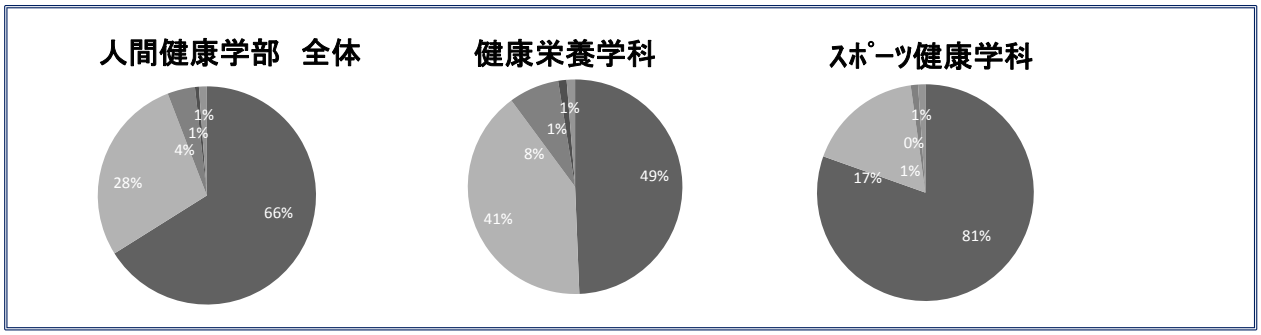




■ゼミ担当者

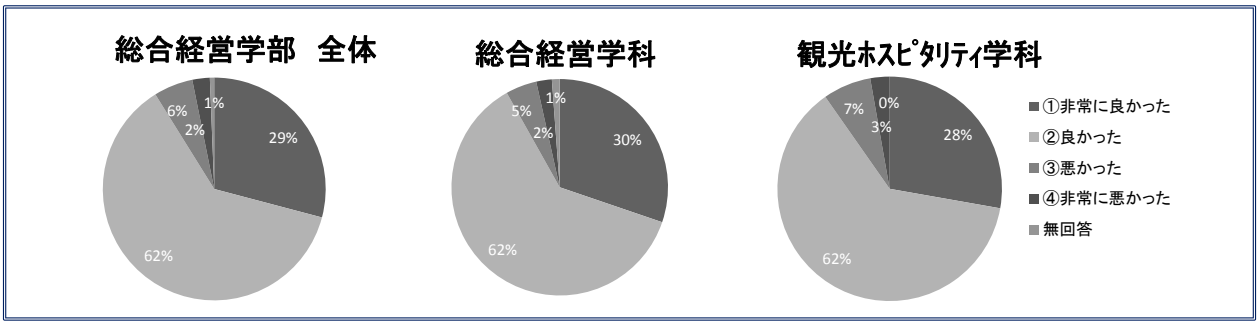
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	39	7	46	22	16	38	84	3	36	39	49	25	74	113
②良かった	25	6	31	18	14	32	63	1	31	32	10	6	16	48
③悪かった	3	2	5	1	0	1	6	0	6	6	1	0	1	7
④非常に悪かった	2	1	3	1	0	1	4	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	2

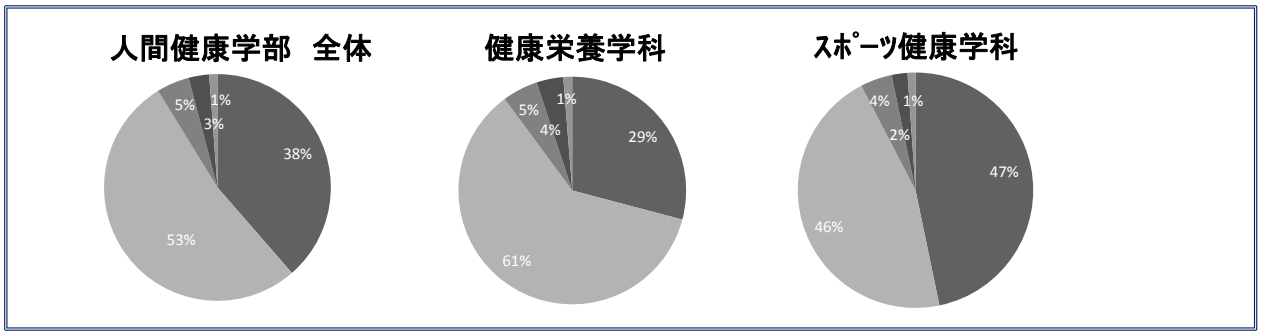




■ｷｬﾘｱ面談員

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	23	3	26	13	7	20	46	2	21	23	31	12	43	66
②良かった	40	13	53	24	21	45	98	2	46	48	25	17	42	90
③悪かった	4	0	4	3	2	5	9	0	4	4	3	1	4	8
④非常に悪かった	2	0	2	2	0	2	4	0	3	3	1	1	2	5
無回答	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	2





【理由等】

総合経営学科

親身になってくれた
親身になって話してもらえた。
ゼミ担当の先生に大変お世話になったから。
教員によって講義の進捗の違いが顕著であったため
親切な対応
ゼミの先生にお世話になったから。
相談など丁寧に対応してくれた。
接しやすかった。
相談などにものってくれて、楽しい先生方が多かった
ある特定の先生以外では大変よかったです。
たくさんアドバイスをしてくれたり、質問等に答えてもらったから
非常に的確なアドバイスをしてくれた。
優しく接していただいた
特に悪いと感じる部分は無かった
困っていると助けてくれたので
皆様めんどう見がよくて自分の悩み等を解決してもらえた。
ゼミ担当者やキャリアの方から好いアドバイスをもらった。
ゼミ担当者には就職活動の際に相談に乗っていただいたので、精神面で助かった。
キャリア面談員・・知り合いの女学生がセクハラされたことを自分はまだ根に持っている
言葉づかいや書類の名前の間違い等4年間にいくつも気になる点があった。
親身になって相談してくれた。
勉強のサポートやプライベートの事について話を聞いてくれる方々ばかりでありがたかった。
就職でとても手伝ってもらったため
ゼミの先生とキャリアの方々には非常にお世話になりました。他の教員とは余り接点がありませんでした。
見習いたいと思う教員方に、そっと見守っていただいたゼミ担当の先生には感謝してもしきれません。 反面、職員、学生課に対しては、一部こちらをなめていないか？と思うことがありました。
服装がいつも綺麗で、話しやすい人達が多かったと思うから。
全員同じことしか言わない。特に就活時。
いい教員方だった
それぞれの専門的な内容から基本的なことまで幅広く学べた
ゼミ担当者が嫌いでした。
親身に考えてくれることが多々あった
講義や学生生活ではもちろんのこと、4年時には就職活動について相談にのってもらって、とても助かった。
親身になってくれる。アドバイスをもらえる。
みなさん親身になってくれた
あまり関わらなかった。
他の大学に通っている友人の話と比べれば、松本大学の就活支援はとても充実していると思う。
資格を取るために様々な指導をしてくれた教員がいた。
親身になって話を聞いてくれる方が多かった。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

就活の際非常にお世話になった。とても感謝している。
どの方も、相談にしっかりきいてくれる。
話やすかった。
特になし。
特に理由はない。
相談に乗ってくれた。
キャリア面談は必要ないと思った。
職員の方の対応がよくなかった。
自身のタメになった。
話しやすい方達ばかりだった。
就職活動でもしっかりと面倒を見てくれ、職員の人たちも丁寧に教えてくれて助かった。
自分のためにいろいろアドバイスしていただいた。
個人的にはやさしくしてもらったイメージしかないけどゼミ担当者には迷惑かけてしまったところがあったけど厳しくも優しくしてもらいました。キャリア面談員の方には就職活動において色んなアドバイスをもらえたおかげで内定取ることが出来たかなと思ったから。
１人で悩むことが多かったため、親しい先生がいなかったというのもあるけど対応はいまいちだと思いました。
キャリアセンターが内定が一社出るとすぐそこに決めるように、やんわりと圧力をかけられて不快だった。
親身になって問題に取り組んでくれた。教員との距離が近く、楽しく過ごせました。
協力してくれる姿勢がありがたかった。
親切だった。
学科、教職の先生方は非常にいい先生が多く信頼できた。
悩みを聞いてもらえた。社会人になって役立つ知識を教わった。
忙しくとも、私たちに時間をささげてくれ、時には話が長すぎる先生方も、いたがとてもよかった。
いいアドバイスをもらえた。
教員の方々は、飽きずに講義を受けさせてくれて、フレンドリーな方が多かった。ゼミ担当者にはいろいろと相談事を受けてくれたり、活動も自由だったので有意義だった。
就活で悩んでいたことを相談した時、親身になって話を聞いてくれた。
いつでも、どんな悩みでも聞いてくださった。
キャリアの人たちはとても親身になってくれました。
色々な先生方にお世話になりました。
どの方も優しく接してくださいました。
親身になって話をきいてくれたりした。キャリア面談の人もキャリアセンターの方もサポートしてくれた。
就職活動の際にゼミ担当の先生からは沢山アドバイスと助言を頂いたから。
生徒と距離が近いし名前と顔を覚えるのが早い。
いろんな先生に、相談事を快く聞いていただけました。
実習、就活、全てのことに関してとても親切に対応して頂いた。
面談は外部の方で非常に話しやすかった。職員の方とも、たくさん話す機会があり、何度も助けられることがあった。
みんないろいろな事に（特に進路など）にとても親身になってくれた。
学生生活の中で、様々な方々のお話やアドバイスを聞かせていただいたおかげで、良い生活と学問が学べたと思う。
キャリア面談員の意見ばかり押しつけられた。
先生方はとても良い先生ばかりで、学生との距離が近く、良かったと思います。
人による。ゼミは選択できたため、希望通りでよかった。

健康栄養学科

しっかりと話を聞いてもらえたから。	少し不安が解消した。（キャリア面談）
親身になって、教科を教えてくださったので良かったです。	親身になって話を聞いてくれた。話していて楽しかった。
人によります！	キャリアの方々は、他の方々よりも”自分”を見てくれた。
人によります。	先生の気分でテストの点をかえるのはやめてほしい。
教員・職員の方々には大変お世話になりました。	親身になって話を聞いてくれたから。
いろいろお話きけて良かったです。	親身になって話を聞いて下さった。
みんな良い人で優しい！	質問しやすい環境だった。
どの先生も親切に対応してくださってよかった。	先生たちは、生徒と距離が近く、話しやすくてよかった。

4年間を通して親身になって様々なことにアドバイスを頂き、自分の進む道を決めることができた。

教員1人1人は良い先生ばかりだった。在学中に何度か面談があったけどそこで何も得なかったし解決もしなかったので別におこなわなくてもよかった。今回面談の人がちがうのでこちらも真剣に話すことができなかった。

キャリアでは他の都道府県も視野に入れていることを言うだけで嫌な顔したり、県内（特に松本）をおしつける感じがあった。

自分が相談したい時にいつでも親身になって相談にのって頂き、とても嬉しかったから。

ゼミ活動や就活で大変な時はいつも相談にのってくれた。

就活の際に相談にのってもらえたことで、活かすことができた。

勉強のこと以外でも趣味が共通していたらいろいろ話せて楽しかった。勉強の悩みを真剣に聞いて学生の立場に立ってアドバイスをくれたり応援してくれる先生がいて、前向きになれた。本当にお世話になりました。

相談事があると親身になって話を聞いてくれ、アドバイスをしていただいた。

質問に対してどの教員、職員の方も丁寧に返答してくれた。キャリアの面談員の方は、就活でとてもおせわになった。

全体的に教員の方々は、良い先生でしたが、一部の先生に不満が残りました。キャリア面談等は一部の先生に不満がありました。手続き等は、迅速に行ってくださったので、とても良かったです。

ゼミの先生だけでなく教員や助手の先生方には大変お世話になりました。就職活動での悩みは全てゼミの先生にアドバイスいただいていました。とても励みになりました。

栄養科の先生には、悩み相談にものってもらいました。とくに、ゼミの先生には、就職活動・卒論のときにお世話になりました。キャリアの授業はとてもためになり、キャリアセンターの方に就職活動時、たくさん話を聞いてもらいました。

ゼミ担当の先生には困った時にいろいろ相談したり、勉学においてのご助言などをいただき、大変お世話になったから。

ゼミの担当者は、常に前向きなことばをかけてくれ卒業論文や就職活動をのりこえられました。学科の先生たちは国試など色々なことで相談にのってくれたり、実習のことでもこまかく指導してくれた。キャリアの先生は4年時しか関っていないが親しみをもって接してくれた。

ゼミ担当の先生方には大変お世話になりました。研究を通して物の考え方・人としての在り方を学ぶことができました。

教務課の職員の連絡ミスで実習費（調理費）の振込みで不手際があった。

キャリア面談員の外部から来た人に自分の就職に対する考えを押し付けられ、私が信念をもっていることを否定されたので悪い印象があります。

先生も助手の先生もとても優しく気さくでした。話しやすかったです。

ゼミ担当の先生には、ご飯に行ったりととても良くしていただいた。キャリア面談員の方は1回目は良かったが2回目の時になぜか、少し怒られた。

フォローしてくれた部分が多くとても助かりました。ただ、縛られるのがあまり好きではないので自由を許してほしかった。授業に遅れたりプリントミスが多かったり、言っていることが前回と違うことなどはやめて欲しいと思いました。

ゼミの先生には悩みから雑談まで、いろんな話し相手になって頂き少しでも大学生活が楽になれるよう気を使ってもらい感謝しています。

教員・職員・キャリア面談員→とても丁寧に対応指導をしてくれた。ゼミ→雰囲気が悪かった。予定の変更が多かった。

キャリア面談員の人は自分の話ばかりして、真剣に相談に乗ってもらえなかった。

教職員の先生方は丁寧に対応してくれる方々ばかりでいろいろなことを教えていただいた。ゼミ担の先生は、学習以外の事でも悩み事を聞いて下さった。

真剣に就職などの相談に乗ってくれたから。

様々な場面で先生方にお世話になり、特に助手の先生方には大変お世話になりました。

スポーツ健康学科

親身になってアドバイス下さったり、お世話してくださったから。	ゼミ担当の教員は、とても関わりやすく、よかった。
学べることが多かったし、進路もためになった。	休講等の連絡が遅すぎる
全員親身になってくれていた。	しっかりサポートしていただき良かったです。
どの方も親身になってくださいました。	ゼミ担当によいアドバイスをもらった
あまり不満に感じなかった。	親しく接してくれた。
自分の将来を共に考えてくれ、助言や支援を行ってくれた。	困って質問をすれば答えてくれる
あまり相談はしなかつたが、話をした時はきいてくれたから。	相談には親身になってサポートして頂いた。
たくさん話せてためになった。	学生とのキョリが近いためか皆良くしてくれた。
困った時は適切なアドバイスをしてくれた。	学生との距離が近くさまざまな事を相談できた。
学生課が良くない。他部所との連携をしっかりしてほしい。（全体的に）	真剣に相談に乗ってもらったので大変助かった。
自分のことのように近身になりアドバイスをくれる方が多かった。	仕事のできない人が多すぎると思った。
無事に4年間すごせたから。	話は良くきいてくれた。
親身になって話しを聞いてくれた。	1人に対してしっかり対応してくれた。
皆時にやさしく、時にきびしく接してくれた。	ゼミ担当の先生には言葉に表せないほど感謝しています。
良い思い出しかない	先生方の親密にかかわっていこうという姿勢にすくわれた。
親身に相談にのってくれた。	親身になってくれた。
常に学生のことを考えてくれていたから。	どの方も私のためを思った指導をしてくれました。

熱心に指導してもらった。

スポ科の先生方はとても親身にかつ厳しい意見をくださいました。ありがとうございました。

特にかかわることが多かったので、対応していただくことが多かったから。

全体的に悪くなかったが、時々、体育館が突然使えなくなったりするのは困った。

ゼミの先生や職員さんは非常に良く面倒をみてくれた。教員の方も、親しくしてくれ、距離が近く話しやすかった。

先生や職員の方たちには大変お世話になり、先生方々なしでは充実した大学生活がおくれなかった。

どの先生方も相談を心身になって聞いて下さり、協力して下さった。

教職員のほとんどが話しやすい雰囲気だったので、何かあった時に相談できる環境だった。特にゼミの教員にはとてもお世話になった。

面談員の人によってあまり相談することがなく、面接のようなことをやらされたりしたので（回答③悪かった）

たくさんの人たちに支えられてここまでやってくることができたから。

特に相談することはなかったので、分からない。

色々な方と話をする機会が多く、自分の知らない事をたくさん知っていて、話していて色々と学べた。

4年間同じゼミ担だったので大変お世話になりました。就活の際にキャリアの方々には多大なサポートをして頂いた。

就職活動を行っていく上で、キャリアセンターの方々には大変お世話になりました。

いつでも真剣に時にはふざけて、話をすることができ、信頼できる教職員の人達ばかりだった。

先生たちと話す機会が多くあり、次の授業などで〇〇くんと声をかけてもらい、すぐ名前を覚えてくれるのが嬉しかった。

時にはやさしく的確に、時には厳しく的確な指導をしていただいた。

卒業論文の作成にあたり、最後まで力をそそいでくれた。ゼミの先生には本当に感謝している

教・・・普段の生活でも身近でいろいろ学ばせていただいたため
職・・・サポートが親身だった
ゼ・・・良いところも悪いところも、いろいろ学び、経験させていただいた。
キャ・・・楽しく話せた

一人一人に対して真剣に向き合ってくれる。

特にゼミの先生やキャリアセンターの方々には親身になって頂き、ありがたかった。

ゼミ担当者は困っている時にすごく助けてくれてとてもありがたい。他にも丁寧にいろいろアドバイスをもらったりしてとても助けられた。

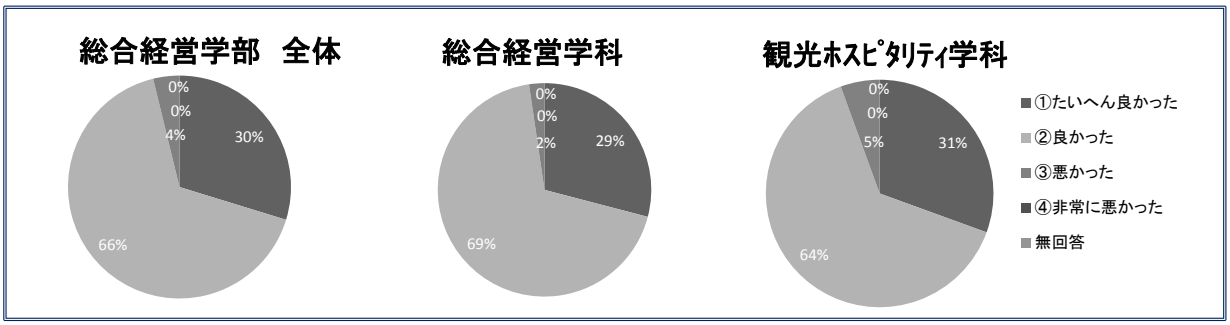
職員の態度が悪い。学生をなめている。キャリア面談は有意義なものがなかった。

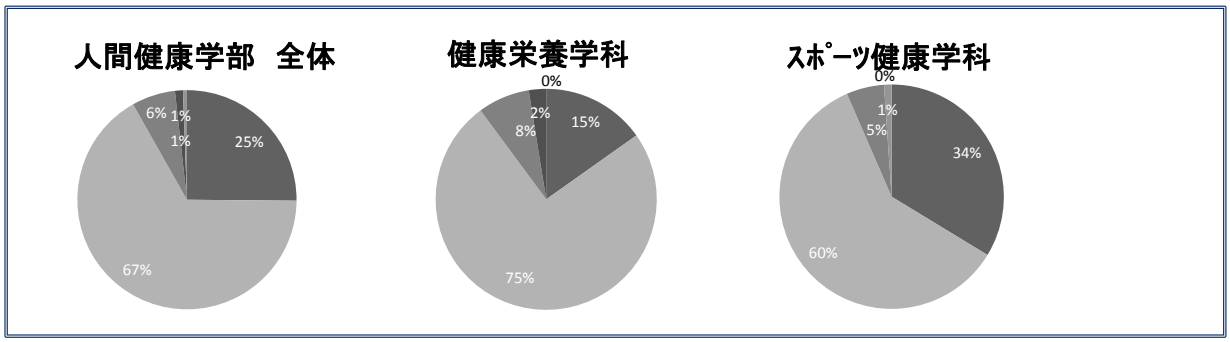
しっかりと相談にのってくれる先生方がいてくれてよかったし、心強かった。

質問10.　大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。

■サポートの程度

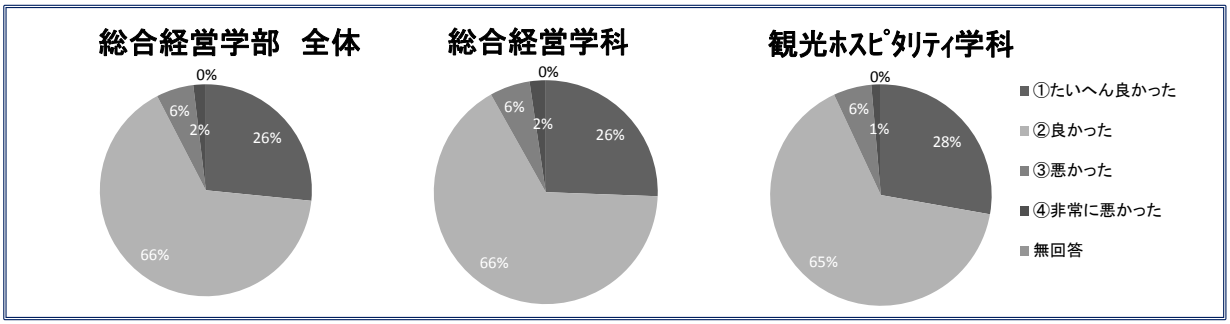
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	22	3	25	13	9	22	47	1	11	12	25	6	31	43
②良かった	45	14	59	25	21	46	105	3	56	59	31	24	55	114
③悪かった	2	0	2	4	0	4	6	0	6	6	4	1	5	11
④非常に悪かった	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1

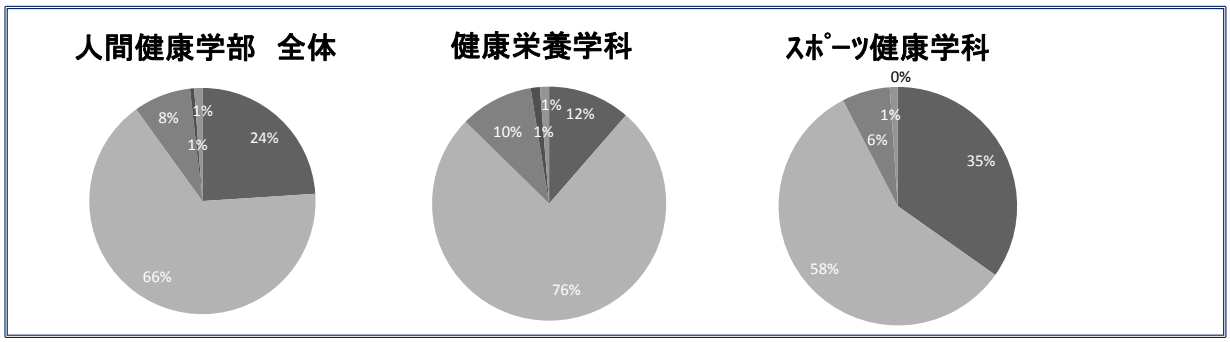




■対応の仕方

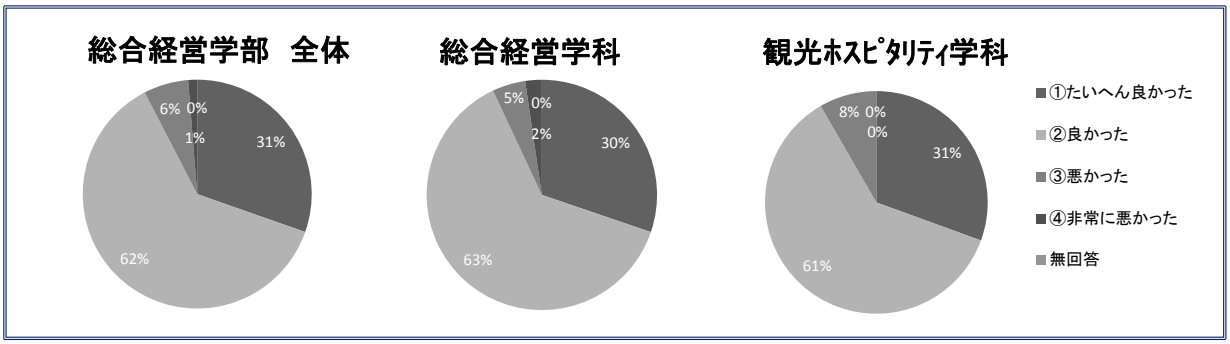
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	20	2	22	13	7	20	42	0	9	9	27	5	32	41
②良かった	43	14	57	24	23	47	104	3	57	60	28	25	53	113
③悪かった	4	1	5	4	0	4	9	1	7	8	5	1	6	14
④非常に悪かった	2	0	2	1	0	1	3	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2

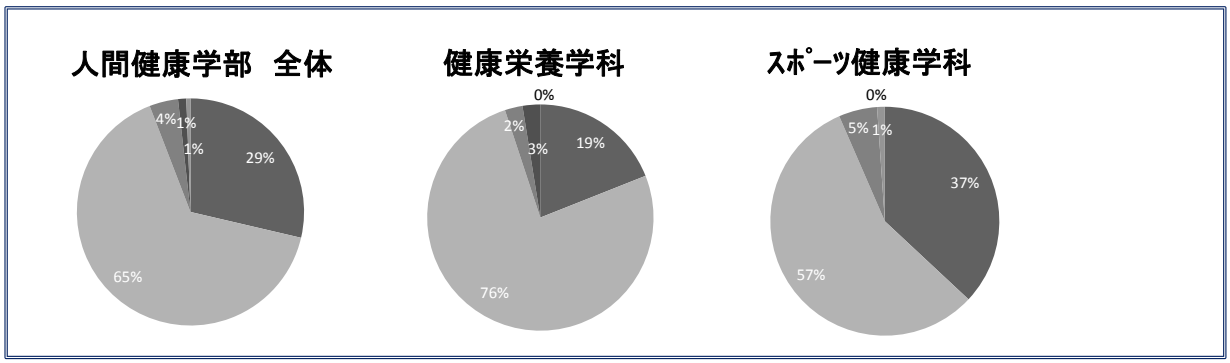




■言葉遣い

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	22	4	26	14	8	22	48	1	14	15	29	5	34	49
②良かった	42	12	54	22	22	44	98	3	57	60	27	25	52	112
③悪かった	3	1	4	6	0	6	10	0	2	2	4	1	5	7
④非常に悪かった	2	0	2	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1





【事務職員に改善してほしい点、要望】

総合経営学科

- 特にないです
- キャリアセンター以外の職員の態度が大きい。
- 態度が高圧的な職員がいる（特に学生課）
- 休講の連絡は早くほしい。毎年の事だが改善されていない。
- いくら学校職員とはいえ、サービス業従事者である自覚を持ってほしい。プライドが高いのかいばっている学生課職員が特に気になった。
- 申請のやり忘れがあったので、直してほしい。
- キャリアセンターにはとてもお世話になり、サポートにも満足しています。
- 職員、生徒課に対しては、一部こちらをなめていないか？と思うことがありました。
- 充分です。
- 一斉休校などの連絡の遅さ。
- 担当の職員のみが対応できるだけでなく、他の職員にも多くの情報伝達をしてもらい対応できる様にしてもらいたい。（交通費など何度も行くのは大変）
- キャリアセンター、割と適当な所があったし、先輩方からもいまいちな話しか聞かなかった。応援してくれたのはうれしかったが、サポート面は「大丈夫なのかな」と思ってしまうことがあった。
- 学生課の人に分からない事を聞いた際など毎回けだるそうに対応されたのがとてもイヤだった。改善してほしい。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

- 特になし。
- 本命の企業を応援してくれなかった。
- メールを早く回してほしい。一括して送ってほしい。
- 対応がよくない人がいました。もっと改善してほしい。
- 面接練習に参加しやすいように工夫してほしい。求人を見やすく探しやすくしてほしい。
- 面倒くさそうに対応したり、命令口調なことも多く不快になることもあった。
- 内定が出た際にまだ受けたい企業があったが辞退するように勧めるのはやめていただきたい。相談にはきちんと乗っていただきたい。
- 上から目線で接さない方がいいと思います。
- 服装。
- 冷たい対応。
- 連絡などもう少し早めの対応がほしかった。
- 職員同士でホウレンソウができていないところがあり、良くなかった。
- なし。
- 休講のメールは朝もっと早めだと助かります。

健康栄養学科

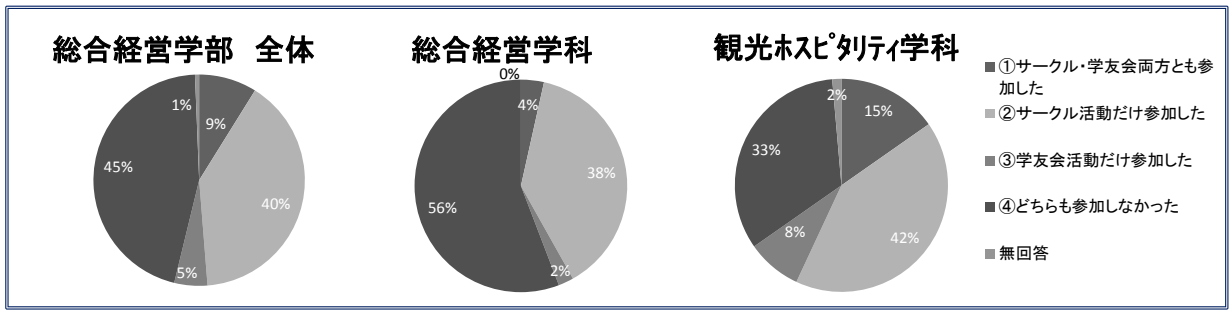
メール等の連絡を早くしてほしかった。
仕事をただこなしているようにかんじたので、もっとフレンドリーに仕事をしてほしいと思いました。
キャリアセンターの学生にとっていい就職先を勧めるのではなく内定率を上げるために自分にとって興味のない企業を勧めてくる態度が気になりました。
休校などの連絡は早くほしい。遠くから時間をかけて通っている生徒には優しくない。
誤った通知（単位がたりない）などがたまに届くことがあった。それは本当にちゃんと確認して欲しいと思いました。
連絡をもう少し早めにして欲しかったです。
学生課の人の態度が毎回えらそうで気分がわるかった。
少し話しかけにくい。
特にないです。
休校の際はもっと早く連絡が欲しい。
プリントを作る際に左上ホチキスを共通にしてほしい。
休校の連絡はなるべく早めにしていただけると嬉しいです。入学試験などで土曜日立ち入り禁止の連絡が前日に届いて計画していた実験（卒研）の予定が合わなくなり、やり直しになったことが何回かあったのでぜひ連絡は早めにお願いします。（1～2週間前など）
行事や特別授業等のメールをくださる時に、掲示板を見てください等の内容の時がありますが、掲示板を見にこれない遠い家の人達もいるので、せめて内容の書いてあるプリントの写メ等を添付してくださると嬉しいです。
人によって態度を変えないでほしい。
連絡事項をメールで事前に連らくしていただけるのは有りがたかったが、その連らくをするのがとても遅かった。急いで来ているのに出発時間を過ぎた。授業ギリギリにメールをいただいても全く意味がないです。大切なことは一斉送信にして下さい。掲示板のみはやめてください。
名前と顔が一致していないので、名札などをつけてほしい。
説明しても理解しにくいことがあったこと。5時が早い。
休校の連絡(急な天候不良）の際はもっと早く連絡がほしい。
当日にその日の授業や、今回のような集まりの連絡メールをおくるのはやめてほしいです。もし知らなかった人（掲示板を見にこれない人）にとってはとても困ることです。
掲示板に掲示物を掲示したというメールではなく、その内容を軽くで良いから送ってもらいたかった。雪の日の判断の遅さ。
とても仲良くして下さりありがとうございました。とても楽しくありがたかったです。いつも心優しく困っていると助けていただけるのが嬉しかったです。ただ、私情で嫌なことがあると、それを表に出すのは控えて頂きたいです。
良い人が多いが、少し嫌な人もいた。キャリアセンターの方には良くしていただいた。
学生課の雰囲気が苦手でした。たまに一部の人のきげんが良くないと雑に対応されてしまい残念でした。
履修登録等でミスをしないでほしい。

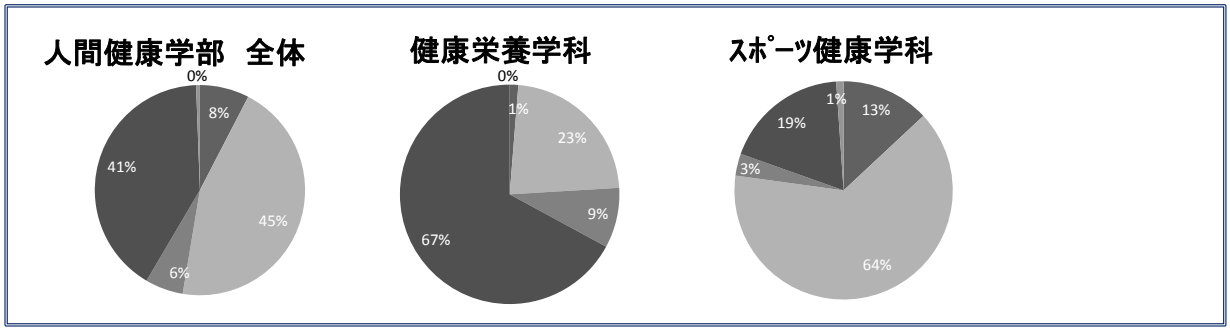
スポーツ健康学科

休講の連絡が遅すぎる。
前年度卒業生はどのようにしていたか（内定後）をもっとくわしく知りたかった。
特になし。
ない。
行事の決定・変更など（休講なども）どうしても連絡が遅く、学生は混乱するので、早めに連絡してほしい。
メソフィアの休講連絡を早めにしてほしい。
特になし。
中には言葉づかいが悪い人もいた。
とくにありません。
学生課の職員の対応に不満に思うことが何度かあった。お願いした事をやってくれてなく、大変困った。
地域づくり考房『ゆめ』はサークルではないので別に項目を作ってほしいです。地域づくりが目玉の大学なので。
休講時の連絡が急な所をどうにかしてほしい。
休校の連絡をもっと早くしてほしい。
メールが遅い
情報の把握をしていない。
学生課の連絡の遅さはどうにかして欲しい（雪とか）
スポーツ大会などが多く、充実した学生生活ができた。
休講の連絡が遅いので、早くするように対応をした方が良い。
メールなどの連絡をもっと早く（遅すぎ）
もう少していねいに学生と接してほしい。連絡をもっと早くしてほしい。休講の連絡が遅すぎる。
休講などのメールは早めがいいです。
学生課・教務課に用事があって行くと人によっては態度がきつくて嫌だった。態度の良い人を選んで行くようになってしまっていたからもう少し学生に優しい態度にしてほしい。
キャリアセンターの方には大変お世話になりましたが、学生課・教務課の方にはイライラする事がとても多かったです。休講・休校の連絡が授業の始まる30分前にきても、もう学校に着いてしまっているので、おそくても2時間前にはしてもらいたい。

質問11.　あなたにとってサークル活動や学友会活動はどうでしかた。

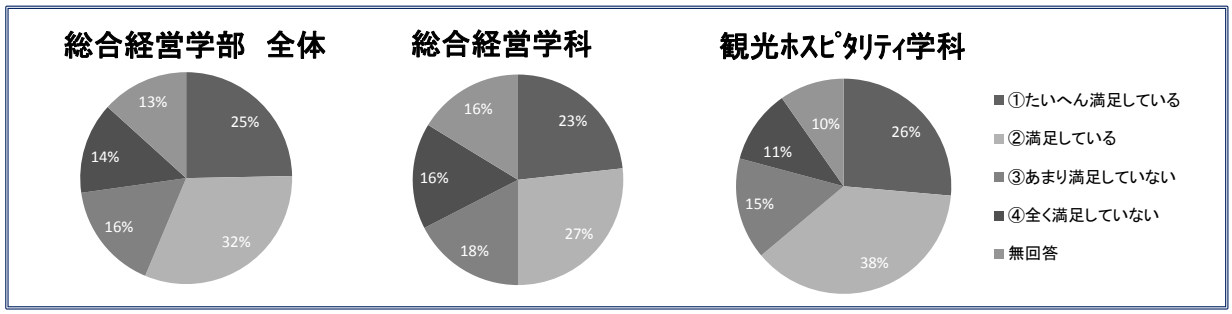
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①サークル・学友会両方とも参加した	3	0	3	6	5	11	14	0	1	1	6	6	12	13
②サークル活動だけ参加した	32	1	33	20	10	30	63	1	17	18	40	19	59	77
③学友会活動だけ参加した	2	0	2	3	3	6	8	1	6	7	2	1	3	10
④どちらも参加しなかった	32	16	48	12	12	24	72	2	51	53	12	5	17	70
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1

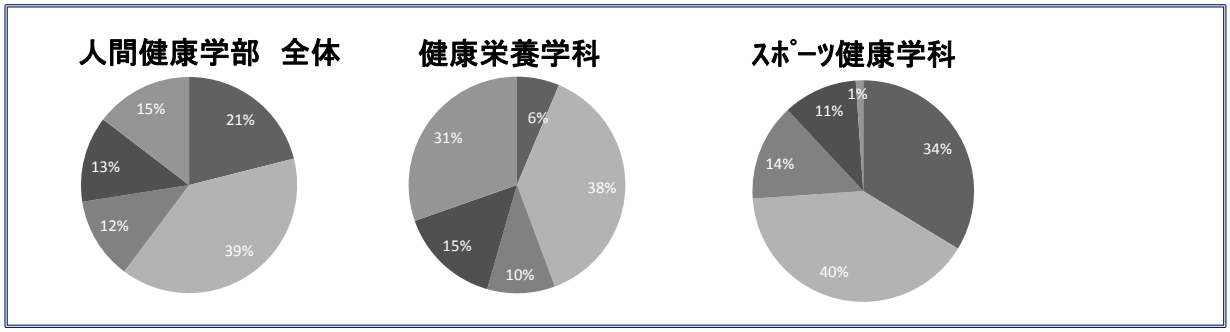




質問12.　あなたはサークル活動は学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	20	0	20	12	7	19	39	0	5	5	19	12	31	36
②満足している	22	1	23	15	12	27	50	2	28	30	26	11	37	67
③あまり満足していない	9	6	15	6	5	11	26	0	8	8	8	5	13	21
④全く満足していない	10	4	14	7	1	8	22	1	11	12	8	2	10	22
無回答	8	6	14	2	5	7	21	1	23	24	0	1	1	25





【理由等】
総合経営学科

良く分からなかった。
ゆるい感じがした
一人一人が元気
活動に参加していないから。
好きな事をやれたので、満足している。
友人が増え、人脈が広がった。
強化指定の部活を優遇しすぎている
自分でサークルを作れたり、入ったりできてよかった。学友会は上の人がワイワイしているだけで末端の人たちは何をしていいのか、上が何をしているのか分からない
積極的に活動していると感じた。
楽しかった。仲間もできた。
企画・運営が楽しかった
学生主体で活動が行われていてよかった
こういった活動には余り積極的に参加していませんでした。
楽しい思い出を作れました。
サークルに所属していましたが、充実していたと思います。
良き仲間、先輩、後輩に恵まれた
不参加
参加していないので分かりません。
楽しかったため
サークル活動や学友会には参加していないので、わからない。
参加していない。
一年の頃はとてもよくあそべたし入ってよかった。
参加してません
参加していない
参加していないので分からない
サークルが少ない。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

あまり思い出はないです。
4年間続けられた。
チャラい。
先輩の理不尽な行動に振り回された。
同好会を設立できて良かった。
楽しかった。
和気相合と楽しく活動できた。
特に参加しなかった。
大学でもやりたいスポーツができてよかった。
サークルなどに参加していないから。
学友会活動でしか関わりはなかったけどその一員になれたことは貴重な経験になったと思ったから。
野球を続けらた。
所属していない。
やっていない。
多くの人とコミュニケーションをとれた。
練習できた。
4年間やってきたから。
やりきった。
ゼミがありあまり参加できなかった。
学年・学科を超えて交流できた。
サークルや学友会には、入っていなかったものの、学友会のイベントはとても楽しかった。
授業で忙しく、あまり参加できなかったから。
充実したサークル活動だった。
行っていない。
軽音部でしたが、一部の学年だけで盛り上がっている感じがありました。生協学生委員会、良い後輩もできて、とても楽しかったです。
新しい事にチャレンジできたし、たくさんの仲間が増えた事が嬉しい。
全体的に楽しかったですが、人によって課す仕事の少なさや対応の違いなど改めた方がいい点が少しあったような気がします。
多くの経験をさせてくれた。
目標を達成できた。
サークルの会計の書き方など学んでいないのにできて当然の対応をされたことは納得できませんでした。
自分にとってとても新しい発見を出来る場でした。色んなことに挑戦できてよかったです。

健康栄養学科

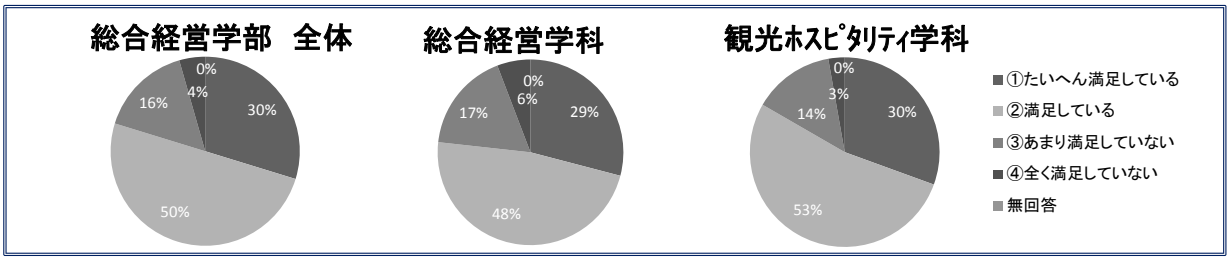
いろいろな学科の人と楽しくできた。
どちらにも参加していない。
楽しくできたことや自分の成長にもつなげられたから。
多くの力が身についた。交友関係もひろがった。
授業が忙しくてなかなか行けなかったから。
参加していない。
学友会はとても良い経験になり良かったです。
参加していないから。
サークルでは、先輩や他の学部の人などと関ることができてよかった。
途中からあまり活動に参加しなくなり、やる気がなくなってしまった。
良き先輩との出会いがありました。また、イベントを作ることの難しさや成功の喜びを感じることができました。
所属していないのでわかりません。
なかなか時間が合わず、あまり参加できなかった。
サークルの数が少なかった。
自分の成長にもつながり、新しい人間関係を築くことができたためとても満足している。
同好会ではありましたが楽しく活動することができたからです。知り合いが増えたこともよかったです。
学友会で様々な活動が行われているけど、その費用をもっと別のところで使ってほしかった。学生全員が満足できるようなことをしてほしかった。
サークルにはいりましたが、栄養科が入るスペースなんて全く存在せずいじめにあった。
授業が忙しくてないときは参加できて楽しかった。アルバイト、授業等で忙しい時にサークル活動を強要してきた先輩はいた。
特に関わりがなかったためよくわからない。
栄養科がやりやすいイベント。
参加していない。
あまり参加しなかった。
日々の忙しさにおわれなかなか参加できる機会を作ることが、難しかった為。

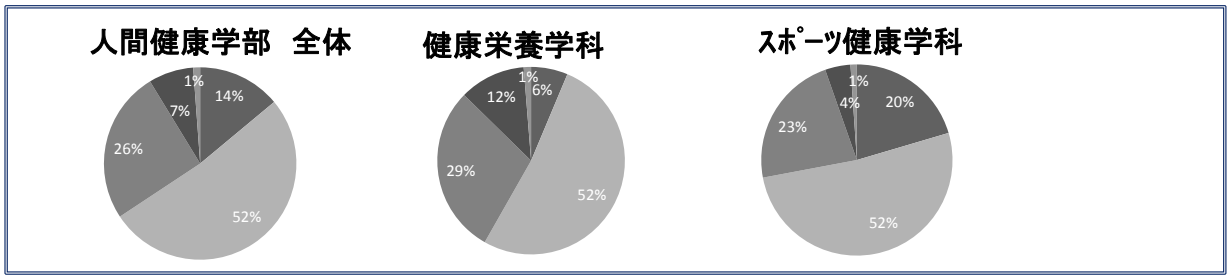
スポーツ健康学科

学祭やイベントなど参加した学生ではなく主催側の学友会メンバーが楽しんでいる印象。
沢山の友人ができたから。
大会等へ向けての、努力できる環境や施設が整っていたから。
自分を成長させることができたから。
ルールが統一されていたので、勉学にも励むことができた。
いろんな人と接する機会が増え自分がスポーツイベントを運営する機会をいただけた。
成績だけでなく、指導法や練習法など様々な事を学べたから。人として成長できたと思う。
あまり参加しやすい部活だとは思えなかった。
楽しかった。
自分の強みを活かして活動できた。仲間たちと良い関係がきずけた。
他学年、他学科の人と仲良くなれた。
楽しかった。
どちらもやらなかったです。
体育館のバドミントンコートが少ないと思った。
書ききれない。
行事や活動場所が充実している。△サークルの雰囲気により、なかなか上手くとけこめないで、辞めてしまう人がいたことは残念。
満足はしているが、参加したのは少しだった。
部活は満足している。学友会に関してはとくにない。
何も入ってなかったから。
参加していないので。
良い仲間ができたから。
そこまで多く参加しなかった。
体育館少ない
好きなことを好きなだけできた。
もう少しイベントを増やしてほしかった
在籍期間は短かったが、有意義な時間を過ごせたと思うから。
サークル活動を通して自分の好きなことができた
1部に上がれた
充実したサークル活動が行えた
楽しかった
入ってない
交通費が多くかかってしまった。練習場所が少ない。
学園祭の役員として活動して楽しかったです
特に参加していなかった
好きなスポーツをおもいっきりできて、同じ好みのスポーツの人と仲良く活動ができてよかった。
学年を超えた関わりが持てた
スポーツを楽しむことができた。
部活を十分楽しく送れるようなサポートをして下さったから
学友会など楽しそうと思えなかった。
楽しそうだと感じず、参加しなかった
すでにある部活動は新しく作ることができないというシステムはやめたほうがいいと思う。大学生なのでもっと自由に自分たちでサークルを作れても良いと思う。
サークルで仲間ができた
大学2年の夏までサッカー部に所属していましたが、大学生までサッカーできて満足しています
良いレベルでできた
参加してないから
今までやってきたサークル活動にピリオドを打つことができた。
4年間部活をやりきり達成感がある
部活・サークルが少ない
仲間と一緒に苦しいことも楽しいことも共有できたから
学ぶ場をいただけたから。
小学校の時から続けていたから大学でも続けられて良かった

質問13.　あなたは本学の施設・設備（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室、ﾄﾚｰﾅｰ室、体育館、教室、ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ、駐車場等）に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	22	3	25	16	6	22	47	0	5	5	14	5	19	24
②満足している	32	9	41	18	20	38	79	1	40	41	30	18	48	89
③あまり満足していない	11	4	15	6	4	10	25	2	21	23	13	8	21	44
④全く満足していない	4	1	5	2	0	2	7	1	8	9	4	0	4	13
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2





【理由等】

総合経営学科

- キレイでした。
- 駐車場が高い
- トレーニングルームをあまり利用できなかった。部活やサークルの人達と分けて利用できたら利用しやすかった。
- 一部のパソコンの起動が遅い
- 設備が整っていたから。
- 設備のおかげで、空いた時間にレポートを作成できた。
- 駐車場の料金が高い
- 使いやすい
- 使いやすいが、マナーなど学生側が守れていない。
- いつでも利用できたので
- 駐車場高い
- 駐車場代が高い
- よく利用させていただきました。キーボードがきたないのが少し気になります。
- 6号館のトレーニングルームのベンチプレスの数を増やしてほしい。
- PCがいっぱいあるので助かりました。
- PCが入れ替わるなど、様々な更新がよくあり、使いやすくてよかった。
- ちょっと調べ物の時に使った
- 駐車場の利用をもっと簡単にしてほしかった。
- パソコンが使いやすかった
- 私が入学した当時に比べてパソコンが新しく遣いやすいなっていたので、満足しています。
- 使い勝手がとても良かった
- パソコンが起動も早くて、とても使いやすかったです。
- キレイ
- 性能が家のよりよかった。
- パソコンの性能がよかった。
- 駐車場の雪かきをしてほしかった
- 主にコンピュータ教室を使っていたが、とても良かった。
- 駐車料金が高すぎ。無料にすべきだと思う。
- PC室は非常によく利用した。よかった。駐車場は変な所にムリにとめるやつが多すぎてイライラした。
- 駐車場以外利用する機会が無かったから。
- 利用していない。
- 駐車場が広くてよかった。
- 駐車場は、プリペイドカードがなくて、1日〇〇円とかで使える方がありがたい。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

- レポートの勉強がしやすかったです。
- 主にコンピューター教室をメインに利用していたけど暇な時やレポートを作成する時に利用していたので良かったなと思いました。
- パソコンが新しくなり、快適だった。Wi-fiをもっと充実させてほしかった。
- とても良かった。
- 少し駐車場が高いと感じた。
- 設備はかなり充実していて快適でした。
- 施設もキレイで充実していた。
- コンピュータ教室に居ることが多かったためありがたかった。
- パソコン室をよく利用していて役に立ったから。
- トレーナー室が無料でつかえたから。
- どの場所も遅い時間まで使用できたのでよかった。
- 高校より上がったから。
- 駐車代が高い。
- 野球部の室内練習場がせまい。
- 使いやすい。
- 駐車場を2500円のプリペもほしい。
- いろいろ条件があってめんどくさかった。
- 特になし
- ウェイト室がせまい。
- 駐車場に置いてあるコーンが、駐車違反をなくすものだと思いますが、普通にとめようと思っているのに邪魔なものでした。
- 駐車場のマナーをもう少しなんとかしてほしい。満車の表示で、駐車スペースが空いているのはなぜですか・？
- コンピューター室や、設備と施設が変わっていった所もあるので、使用しやすくなった。
- 多々整備されていないところがありました。
- いつでも、利用でき、思う存分できる。
- 駐車場をむりょうにするか、もうちょっと安くしてほしい。
- 駐車場高いです。
- 使いやすかった。
- パソコンをもっとキレイにしてほしい。（キーボード・マウスetc）
- 図書館がとても利用しやすい空間だった。
- きれいでした。
- 駐車場の料金が高い。
- キレイだし過ごしやすかった。
- 駐車料金高い
- 駐車場の料金もっと安くても・・・
- PC室の利用可能時間がもう少し長いとありがたかったです。

健康栄養学科

6号館に置いてあるコンピューターが少ないのに、コンピューター室が6号館から遠すぎる。駐車場で枠外に停めてある車が多い。

パソコンの台数が少ない。

パソコンやプリンターの修理を早くしてほしかった。

駐車場の料金が高い。6号館などに設置してあるパソコンが古く使いにくかった。

トレーナー室を利用したかったが、スポ科の人が多く入りづらい雰囲気があった。

駐車場の料金が高いです。

もっとトレーナー室や体育館が自由に使えれば良いと思った。

使いたいときに使えたので良かったです。栄養くんが入っているパソコンが1部屋しかなく空いている時間は授業と重なっていたのでつかえませんでした。もう1部屋ほしいと思いました。

駐車場料金が高い。

駐車場高い！！

6号館にあるPCが古くて使いづらかった。印刷機もしょっちゅう故障するので、もっと改善してほしい。勉強できる施設を増やしてほしい。空き時間で勉強できる場所がないのが不便だった。

駐車場の料金が高すぎる。

パソコンが古く起動が遅くインターネットも遅く栄養君を入れてほしかった。

コピー機が使えない時期があったから。

栄養君を全パソコンに入れてほしかった。ムダクス・自動ドアより、自由スペースのいすとパソコンの充実をしてほしかった。

教室にゴミが放置されているのをよく見かけた。コンピューターで電源が入らないことが多々あった。

パソコンの調子が良く悪くなる。6号館

駐車場はそろそろ無料で良いのでは？

学生の運営するレストランをつくりたかった。駐車料金が高い。

PCが古い。起動が遅い。

コンピューターの起動・動きが遅いし鈍い。特に人間健康学部の使用する6号館のPCは新しくして欲しい。又、6号館の印刷機が不具合を起こしたら放置せず早く対処して欲しかった。せっかく無料で100～200枚印刷する意味がなくなってしまう。

6号館のパソコンがおそい。駐車場が満車じゃないのに満車だったりして不便。

大学が日曜日も空けてほしい。図書館日曜日も空けてほしい。

6号館の全てのパソコンに「エクセル栄養君」を入れて欲しかった。4年生専用の国試を勉強する教室が欲しかった。実習食堂だと、授業で使っていたり騒がしかったりしたので。

駐車場が多くて助かったが、値段が高い。

教室がとてもキレイで良い。

駐車場は無料にした方が利用しやすくなると思う。それかもっと安く。

6号館のコンピューターが古い。栄養君のついているパソコンが少ない。

印刷が故障することが多々あった。

駐車場料金が1日100円だとうれしかったかも・・・

駐車場の料金が高い。

コンピューター数が多い。

駐車場高い。満車じゃないのに満車でとめられない等。

コピー機が使用できなくなると困ってしまう。

コピー機、印刷機が使えない時が多かった。

駐車料金が高い。無料にしてほしかった。

もう少しパソコン（貸し出し用）の数を増やしてほしい。

駐車場を無料にしてほしいです。学生カードで入れるような仕組みはだめでしょうか？

全てのコンピューターに統計処理ソフトを入れてほしい。第一駐車場をもう少し止められる台数を増やしてほしい。

駐車場だけもう少しやすいと利用しやすいです。あとカードですが、同じカードを使い回している奴等がおそらくいます。スポ科の男性の方でしたが。そういう物の管理もしっかり行った方がいいと思います。

スポーツ健康学科

使いたいときにパソコンが使える環境で良かった。駐車料金が高いのと、カードの種類を10日分とか少なめのを増やしてほしい。

PC室・図書館使いにくい。図書館ゲートいらないような・・・駐車場高い。

体育館がもう1つほしい。

パソコンの通信速度が遅い。

トレーニング環境が良くありがたかった。

駐車場にもうとめられないのに、表示が満車になっていない時があるので、改善してほしいです。

古いパソコンが多い。（5号館）体育館狭い、少ない。駐車場高い。

トレ室などの鍵について、部活によって差別化があるため。

駐車場はもう少し安くならないですか。

駐車場は高いと思います。

トレーニングルームなどは良かった。駐車場は表示が正しくない時が多く、困った。

駐車場の料金をもう少しやすくしてほしい。体育館やｸﾞﾗｳﾝﾄﾞも使用しにくかった。体育館は部活動が優先されすぎと、その他の活動で使用しにくかった。

不満なかった。

トレーニング室は、部活動で占領してしまってたりした。普段運動していない人でも、気軽に使えるよう配慮があればもっと使いたかった。

きれいだった。

コンピューター室の白いキーボードが少しうちづらかったです。

とてもキレイだった。

部活動・サークルの数に対して、運動スペースが少ない・せまい。

トレ室も自由に利用でき、よかった。

6号館のパソコンの起動が遅い。

体育館がきれいで使いやすかった。6号館のパソコンを増やして欲しい。

レポートやその他の必要な時に利用させていただいたので、満足しています。

トレーニングが好きなので、トレーニングルームやグラウンドがあることは私自身よいと感じていた。

体育館やトレーナー室はもっと借りやすくしてほしい

駐車場少ない。マナー悪い。

駐車場料金とらないでください。

しばのグラウンドはよかった

駐車場代が高いと思うのでもう少し安くしてほしい

駐車料金が高い

駐車場代が高い

駐車場少ない。料金高い。不具合多い。パソコンの延滞料金高い。

便利だった

駐車場のお金が高い

充実している

サッカー部としてグラウンドなど施設がとても良く大変満足しています

たいてい学内でなんでもできるから。

6号館のパソコンが遅い。

テスト勉強やレポート作成などパソコンが無い自分にとって、貸していただけたのは何よりも感謝です。

駐車場のマナー。車の停め方。

体育館がもう1つあればと思った

グラウンド（ソフト部）ルールを作って欲しい（グラウンド整備とか）

パソコンが遅いのと、プリンターが調子悪い事が多かった。

全て使い勝手が良く、助かった。

設備が良くとても使いやすく快適でした。駐車場の料金は学生無料でも良いのではないでしょうか。

トレ室がせまい

シャワーが少ない。更衣室のロッカーにカギがない

使いやすかった

駐車場が高い

駐車場料が高い

コンピュータ教室にはとてもお世話になりました。レポートなどの作成がとても良かった。

大学がコンパクトなので使いやすかった

駐車場が有料（回答④全く満足していない）

教室がせまい。駐車場料が高すぎる。無料でよい。

トレーニングルームにもっとウェイトを入れてほしかった

キレイでやりたいことができた。

よくトレ室を利用したから

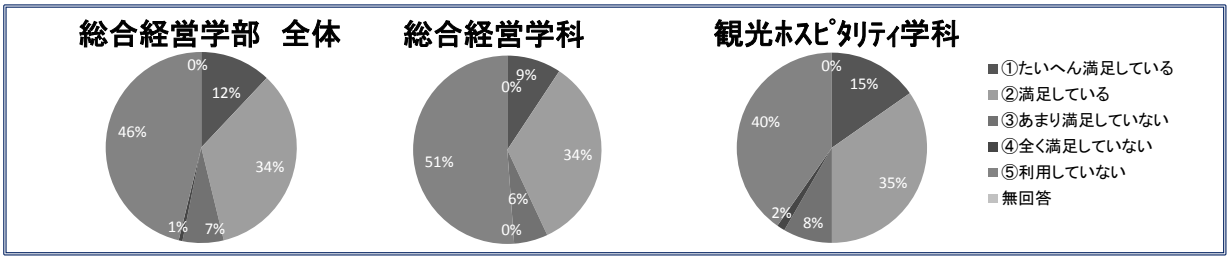
どこも気軽に使いやすかった

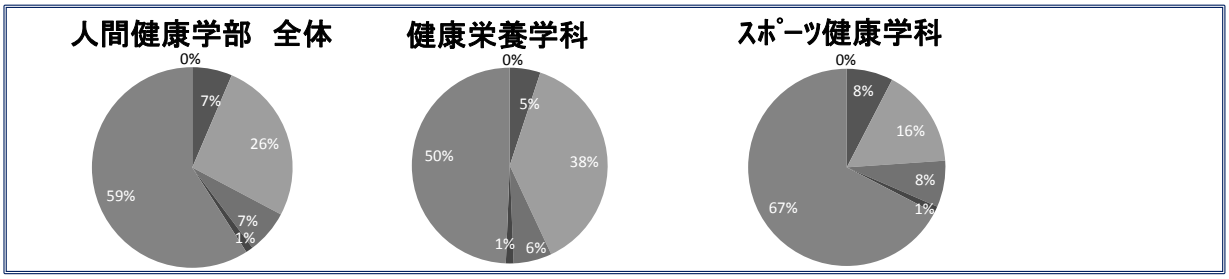
トレ室をもう少し広くしてほしい

硬式野球部のマナーが悪い（鍵を勝手に作ったり、トレ室の使用名簿に名前を書かないなど）

質問14.　あなたは各ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ（基礎教育ｾﾝﾀｰ、国際交流ｾﾝﾀｰ、地域づくり考房等）に満足しましたか、満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	8	0	8	8	3	11	19	0	4	4	3	4	7	11
②満足している	22	7	29	13	12	25	54	0	30	30	8	7	15	45
③あまり満足していない	5	0	5	4	2	6	11	0	5	5	3	4	7	12
④全く満足していない	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	2
⑤利用していない	34	10	44	16	13	29	73	4	35	39	46	16	62	101
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0





【理由等】

総合経営学科

- 親身になって相談にのってくれた。
- あまり参加しなかったから。
- 何をするところか良くわからなかった
- 親切な対応
- 利用することがあったから。
- ゆめに関しては運営の体制が悪いことがあると思う。
- 就職活動で役に立った。
- 今はわからないが「ゆめ」では悩まされた。もう少し学校としてはやく対応をしてほしかった。
- 基礎教育センターではしっかりと本当に基礎を教えてくれてありがたかった
- 学生生活でたちよることがなかった
- 利用していませんでした。
- 学力がついた。
- キャリアセンターの方々には大変お世話になり、たくさんサポートして下さって無事に内定をもらうことができた。
- 基礎教育センターでは親身になって話をきいてくれた。
- 特に利用していない。

健康栄養学科

- 足を運びにくい。
- 1限から授業が多く、基礎教育センターに行く気にならなかった。他の場所は特に用がなかった。
- 基礎教育センターには、わからないことがあったときにお世話になりました。親身になってくれて良かったです。
- 中にはいりづらかったりして、ほとんど利用しなかった。
- あまり興味なかった。
- 考房に参加していましたが、私たちのやりたいことをむりやり違う方向に向ける。
- 考房ゆめには4年間おせわになり楽しかったです。
- 海外研修をしたかった。すごく！！
- 地域づくり考房で講義にも支障が出てしまうくらい忙しい時があった。もう少しその辺りに理解のある人が担当になってもらえたら、良かったではないかと思う。
- 地域づくり考房に参加をして地域の方とふれあったり商品開発をしたりと多くの事を経験できた。
- 忙しく行く時間があまりなかった。
- 学科の授業が忙しくそこまで理用する時間がない。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

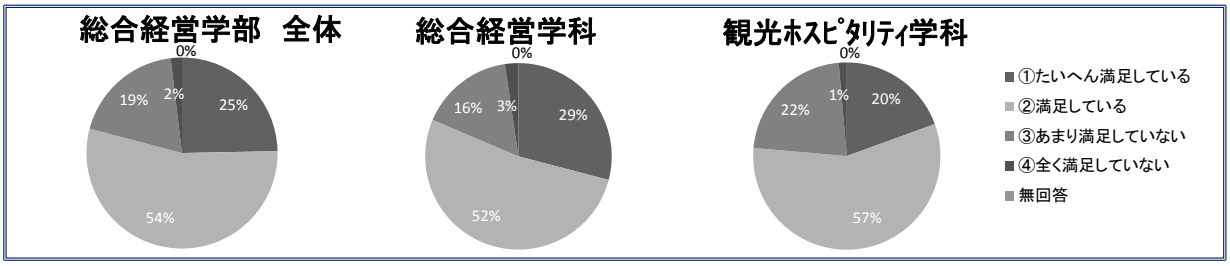
- 基礎学力がついた。
- 特になし。
- 圧力を受けた。（地域づくり考房）
- ”夢”の活動が、圧力であまり自由にできなかった。
- 個人的には利用する理由が見えなかったので利用しませんでした。
- 基礎の問題を復習できた。
- 地域づくり考房で、色々な人と出会えていろいろな経験ができた。
- 漢検をうけるときおせわになりました。
- 勉強できました。
- 職員の方も優しく、4年間満足して参加してました。
- 先生が親身になって聞いてくださった。
- 利用したいと思わなかった。
- 基礎教育センターで、たまに行かせて使わせてもらう事があったが、とても良かった。
- 幅広い学年の人と交流できたから。

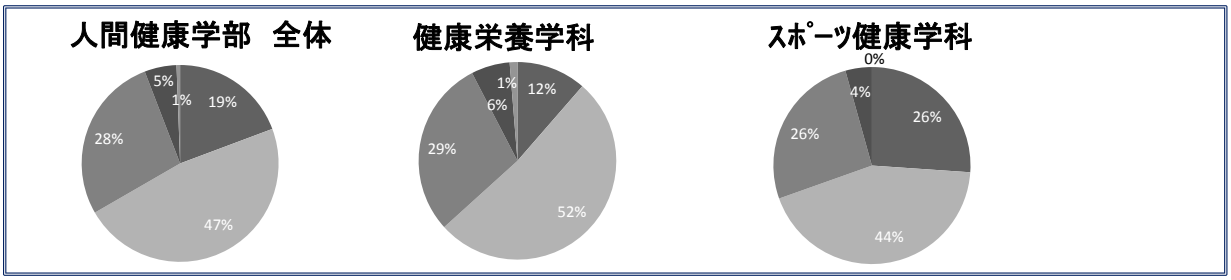
スポーツ健康学科

- 『ゆめ』ではとてもいい活動ができた。
- 地域とのつながりができているから。
- 時間。
- 国際交流センターが思っていた以上に協力的でなかった。海外ボランティア活動等の相談にも応じてほしかった。
- ボランティア良かった。
- あまり利用しなかったが、だれでも受け入れようとしているところが良かった。
- あまり使用していない。
- 基礎教育センターの人がとてもやさしかった。
- ”ゆめ”では、様々なサポートをしていただきフィールドが広がった。
- いつか利用しようと思う間に今に至ってしまった。
- 基礎教育センターのおかげで勉強ができるようになった。
- 利用する機会がなかった
- あまり行こうと思わなかった
- 利用する機会がなかったから
- めんどくさかったから
- 自分に足りない基礎教養が明確になった。
- 興味がわかなかった
- 利用する必要がなかった
- スタッフがたくさんいるので早かった
- 興味がわかなかった
- 興味がなくて利用しなかった。
- 興味がわかない
- 自分の領域外だった
- 利用する機会がなく、またその存在も知らなかった

質問15. あなたは食堂（ﾌｫﾚｽﾄﾎｰﾙ、ｶﾌｪﾃﾘｱ）、購買部に満足しましたか、満足しませんでしたか。 その理由や要望など.

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	22	3	25	11	3	14	39	0	9	9	21	3	24	33
②満足している	36	9	45	23	18	41	86	0	41	41	21	19	40	81
③あまり満足していない	10	4	14	7	9	16	30	3	20	23	15	9	24	47
④全く満足していない	1	1	2	1	0	1	3	1	4	5	4	0	4	9
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1





【理由等】

総合経営学科

- メニューが少なく、席も少ない。
- おいしい食事ができたから
- 安かった
- メニューが充実していた
- 品ぞろえが良かった
- 食べ物がおいしかった。
- ややせまいと思う。
- 親しく話してくれて、利用しやすかった。
- そもそも「安く」ない。
- おいしかった
- 高いけど温かくておいしいです。
- 購買部がせまい。
- おいしい
- メニューはよいが、座席がもう少しほしかった。
- メニューをもう少し充実させてほしい
- マンガなど色々安くてよかった
- 安くておいしかった
- 購買部は比較的安価で購入できるので満足しています。フォレストホールは余り利用していませんでした。
- 高い。
- 品ぞろえやメニューが充実してました。
- 品数がもう少し増やしてほしい
- 哲也があった。
- 漫画が置いてあった
- いつも心地良く利用することができていた。
- 生協の品数すくない
- 美味しい
- 7号館とフォレストホールで品揃えがかなりちがう事がある。仕方のないことだからあまり気にしていない。
- 店員の態度が悪い。
- 店員の態度が悪い。
- 品数が少ない。
- 割引きをしてくれるのはありがたかった。
- 生協の単品メニューがなくなって残念でした。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

- 食堂で松本大学のオリジナルメニューを出してもらえれば、卒業しても食べに行きたいと思う。
- 安い。
- 営業時間をもっと長く。朝ごはん食べたい。
- 学食メニューのクオリティが低かった。
- 電子マネーを入れてくれるとありがたいです。
- 品揃えもよく安かったので助かった。
- メニューの入れ替わりがあり、大変満足している。
- 安くてよく利用していたから。
- 食堂では主にカフェテリアを利用していたけど期間限定のメニューとかあったので良かったしとても美味しかったなと思いました。購買部では品揃えが豊富で値段設定も良かったなと思いました。
- 少し高い。座る場所がない。
- 少しせまいです。
- おいしかった。
- 量が少ない。
- あまり使っていない。
- なし。
- 購買の利用時間を増やしてほしい。
- 閉店時間が早すぎる。
- 購買部の方々。
- 席少ない。
- 短大の方が人数少ないのに広さもメニューも充実していた、同じにしてほしい。
- おいしかったです。
- 少し値段が高い。
- カレーうどんがなくなった。（大学の）席が少ない。（大学）
- 短い休み時間の中で混んでいて上手く利用しずらかった。
- 特になし。
- もう少し営業時間だったり接客の仕方、値段、見直してほしかったです。
- カレーうどんがなくなった。接客がひどい。男女差別がある。
- 購買部は、期間限定で安売り等してくれて、良かったです。
- 満席か、時間帯で使用できない事があった為、使いづらい面があった。
- 座席が少ない。値段も他大学に比べ高い。（食堂）購買部の人が男子生徒ばかりにいい顔をして、女子生徒にはつめたかった。
- 席が少ない気がするのと、余り安くないと思う。
- 満足しているが、購買部の店員の方々がレジ中にもかかわらず店員同士のおしゃべりが多く不愉快だった。

健康栄養学科

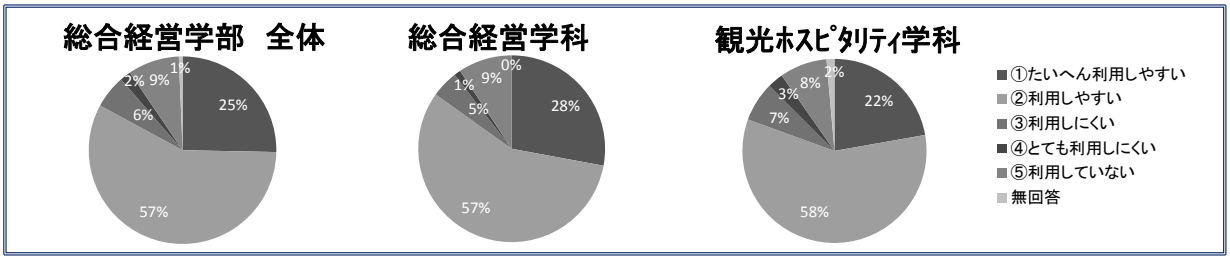
メニューが変わらない。せっかく栄養科があるのだから連携すればいい。
メニューが少ない。
メニューがいつも同じだから。
営業時間が短かった。
13時を過ぎて昼食を購買部に買いに行くと弁当がほとんど残っていなかった。
弁当の種類が決まっていて変わりばえがない。たまには入る他の会社の弁当の方が良いときがある。
食堂はフォレストを良く利用していましたが、麺類がなくなってからあまり利用しなくなりました。冬場はめんが食べたいです。
あまり活用することはありませんでしたが、良い印象が残っています。
様々な品があって良いのですが、その値段が近くのスーパーで買ったほうが安かったりお昼時の混みが大変だった。
おいしかった。
途中で麺がなくなったのが謎でした。定食だけになってちょっと高いためなかなか行かなくなった。
全体的に満足しているのですが、（食堂フォレストホール）から麺類が無くなってしまったことが悲しかったです。
弁当の種類をふやしてほしい。量も多い。
せまい。
購買部で買うとレシートを言わないともらえないため。フォレスト・学食がせまい。
野菜類を多くして欲しい。
フォレストのメニューが減った。魚料理がおいしかったです。
おいしかった。ヘルシーメニューがほしい。料金をもう少し安く。
6号館近くのカフェテリアが定食になってしまい残念。まず麺が食べられない。品が選べない。値段が学生には高くて手が届きません。前のシステムに戻してほしい。
単品メニューが買えなくなった。高い。
せまい。営業時間が短い。
お弁当のおかずが、カロリーの高いものばかりで食べる気にならなかった。生協の開店が10：30ではなく9：00からだともっと良かった。
購買部の営業時間、もう少しのばしてほしいです。
メニューがすくなくなった。
フォレストがせまくてなかなか席あいてなかった。購買部もせまい。
食堂にあるメニューの種類をふやしたり、お弁当の内容や価格をもう少し考えてほしい。
お弁当の種類が少なく高い。サラダなどの野菜の量が少ない。
生協の商品にもっとサラダなどを増やしてほしかった。
人柄がよい人ばかりでした。
たまに行われるセールが楽しみだった。
生協の人の態度が悪い。
フォレストの食堂メニューが少なすぎる。いつも一緒のメニュー。もっと大きな食堂にしてほしかった。
フォレストの食堂単品メニューがなくなったのが悲しいです。
使いやすかった。
もう少し広い食空間でお昼を食べたい。

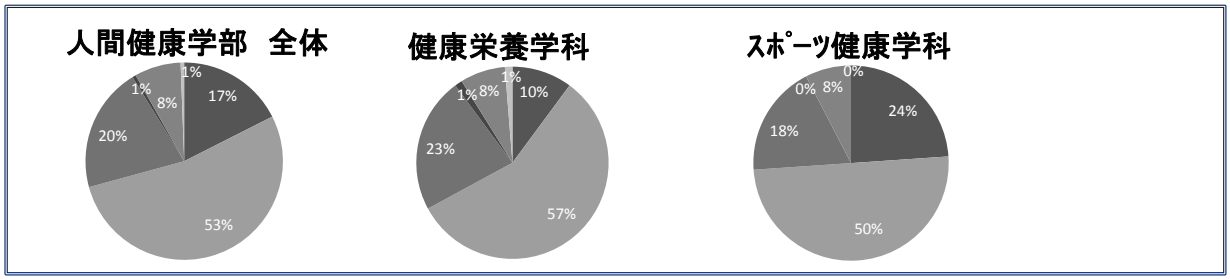
スポーツ健康学科

食堂の人の対応がきつい。
フォレストホールの注文方法がめんどくさくて、単品でたのめないから不便。
定食より単品が良かったし、麺類わなくしたことは残念だった。購買でもサラダ等増やしてほしかった。
フォレストのメニューふやしてほしい。
もっと安くておいしくしてほしいです。
お弁当で、米の割合に対しておかずが少ない。栄養もボリュームも考えた弁当がほしい。
狭かったなと思った。
4年生になってから、メニュー規格が変わり残念でした。
座席をもっと増やしてほしい。
営業終了時間をもう少しのばしてほしい。
美味しかった。
大変お世話になりました。
おいしかった。
あまりおいしくなかった。
ちょっと高め。
フォレストホールの定食制は不満である。
メニューが少なくなってしまったので以前の時の方が良かった。
食堂も生協ももう少し広くして欲しい。フォレストのメニューは変えない方が良かった。
よく利用させていただきましたので。
値段も安価でおいしいと思った。
安い
途中からおかずのみの販売が5号館と6号館の間のフォレストで販売されなくなった事（回答③あまり満足していない）
フォレストホールのセットはなくしていいと思う
あまり利用していない
高いし量少ない。
品ぞろえが良い
夕方も食堂を開いていただけると、学生は助かると思う
あまり使わなかったのでわかりません。
メニュー等少なく、あまり利用しなかった。
とてもおいしい食べ物をいつもありがとうございました。
営業時間が短い
もう少し安くししてほしい。
少し料理が少ないと思う。
対応が良い
おいしいものがいっぱいでした。
とても使いやすかったです。
フォレストが狭すぎるため3階をつくるなど増設してほしかった。
フォレストホールの料金が高いのであまり利用できない。
おいしい、安い、ありがとう！！
安くておいしい
フォレストホールのキャベツがくさっていてものすごいにおいがしている時があった。それからは一度も食べていないが、くさった物は提供しない方がいいと思う。
おばちゃんと仲良くなれた
席数が少ない
朝食メニューが増えるとなお良いと思う。
満足しているが購買は一限に間に合う時間に開店してほしい
学生には少し高い
普段スーパーに行かないと買えないものが買えたり、食堂もとても良かった
生協のおばちゃんがよくしてくれた
生協の商品が少ない。
少し値段が高い
いつもおいしいメニューをありがとうございます
たのしくおいしくすごせた
営業時間を伸ばしたい
品ぞろえが豊富であった。
おいしかった
購買、食堂ともに営業時間をのばしてほしい
せまかった
こむのでもっと広くしてほしい

質問16.　あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん利用しやすい	20	4	24	9	7	16	40	0	8	8	17	5	22	30
②利用しやすい	39	10	49	22	20	42	91	1	44	45	30	16	46	91
③利用しにくい	3	1	4	4	1	5	9	3	15	18	8	9	17	35
④とても利用しにくい	1	0	1	1	1	2	3	0	1	1	0	0	0	1
⑤利用していない	6	2	8	5	1	6	14	0	6	6	6	1	7	13
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1





【理由等】

総合経営学科

静かなので。
空調がちょうど良い
本が様々な種類を豊富にそろえてったので非常に利用価値があった。
対応が丁寧
本の種類が豊富だったから
席・テーブルが多く、本が読みやすい。
自習するのに良い環境であった。
たまに違う場所に本があったりして、さがすのに苦労した
ゲートがじゃま
ゲートができてから利用しづらくなり、しなくなった。
まあ静かで利用しやすかった。もう少し席増やしてほしい。
もう少し席がほしかった。
WiFiの調子が悪い
マンガもDVDもあって時間つぶしにはもってこいだった。
資料などで使用することがあった。とても使いやすかった。
図書館は余り利用しなかったのですが、DVD鑑賞はとても良い環境でした。
パソコンが数台あり検索がしやすい。DVDも見れた。
暖かくて、居心地が良かったです。
静か
本を探しにくいと感じることがあった。
静かで環境が整っていた
静か
一人の空間ができすごしやすかった。
本だけでなく、雑誌・DVDなどもあって、居心地良かった。
座る場所が少なすぎる。グループでいつまでも居座られると困る。本の種類が少なく利用しなくなった。
机の数をふやしてほしかった。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

DVDを見れる。(見れた)
利用する機会は少なくて暇な時にしかつかわなかったけどDVDが見れる箇所があったのは良かったなと思いました。
パソコンがあるため。
利用しやすかった。
いつでも利用でき静かでよかった。
なし。
図書館の職員がうるさい時があったため。
論文を書く際、資料を探すのが、素早くわかりやすかった。
様々な本があり良かった。
どこになにがあるか分からない。
見たい文献が探すのに手間がかかった。
学生証カードが入退場の際必要になってしまいガードの前でよく渋滞がおこる。にぎやか。催しものはとてもいい。
静かであった。
入り口がカード利用になってから利用しずらくなった。
最近出来た入口のセキュリティに意味を感じませんでした。
インターネットや、本の検さく等も出来るようになっているので。
落ち着いて過ごせる。
利用しやすかったです。
たまにうるさい。
静かだしよかった。でもテスト前はうるさい改善して下さい。
勉強もしやすかった。
DVDを見れて満足でした。
様々な機能があり、快適でありがたい。
DVDの種類増えたらサイコー
ゲートができたから。
探していた本を一緒に探して頂いて助かった。
居心地がよく、よく利用させてもらいました。今、学生証を出さなければいけないのが少し大変。
寒かった。
学生証を認証させるシステムは面倒なのでやめてほしい。

健康栄養学科

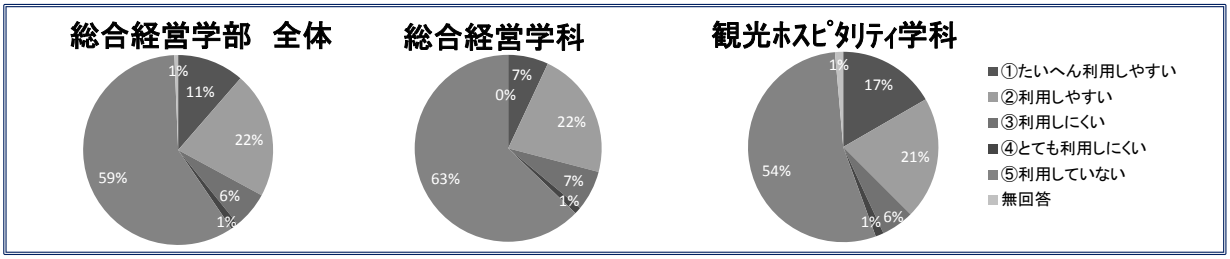
もっと情報を発信していくべきだと思います。教員などと連携しながら。
6号館から遠い。
机が少ない。
学生証を使用して入館するシステムにしてから利用しづらくなった。
テスト期間中は普段行かない人もいるのでうるさい。
たまに職員の話し声がうるさい時がある。1階は職員の目が届いていないためか、食べたり飲んだり、騒いでいる人がいて迷惑。
個別の机もあり、勉強しやすかった。
1人の席などもあり、利用しやすかった。
図書館なのに騒がしい時がありそれは改善してほしいです。
もっと飲食できるコーナーを増やしてほしいです。
個室もあるので、1人で利用しやすかった。個室で本とかをおいて（キープ）しているのがあったのでどうにかしてほしかった。
利用しにくいと感じほとんど利用していない。
6号館から遠いこととテスト期間になると席が多くなること。
ほしい本が少なかった。
静かにしない人がいるため。
暗い。昼時うるさい。
テスト期間中にも関わらず、とてもうるさかった。この事は、学生自身にも問題があるができれば職員の方も注意して頂きたかった。
毎回、学生証を出すのが少しめんどう。
専門図書が少なすぎる。
もう少し遅くまで空けてほしい。日曜日も空けてほしい（特にテスト前）
一人用の机などもあってよかったです。ただ、試験前など普段より多くの人が図書館を利用する時期はおしゃべりが目立ってうるさかったのでもっと注意してほしかったです。利用できる時間ももう少し長いとうれしかったです。
小説が充実していて良かった。テスト期間になると利用する人が増えうるさくなる。
テスト前など人が多くなるとうるさくて集中できなくなる。
テスト期間に人が増えうるさくなってしまうので注意してもらえると嬉しい。いつもきれいで使いやすいです。
一回一回学生証をかざすことが大変だった。
雑誌のNatureがあるといいなぁと思いました。
勉強をするために最適な環境だった。
冬は少し寒いです。テスト期間中うるさいです。
パソコンで蔵書の検索できるのがよかった。
改札（？）があきにくい。本の種類が多くて良かった。
テスト前など個人で集中して勉強できる環境が整っていたため。

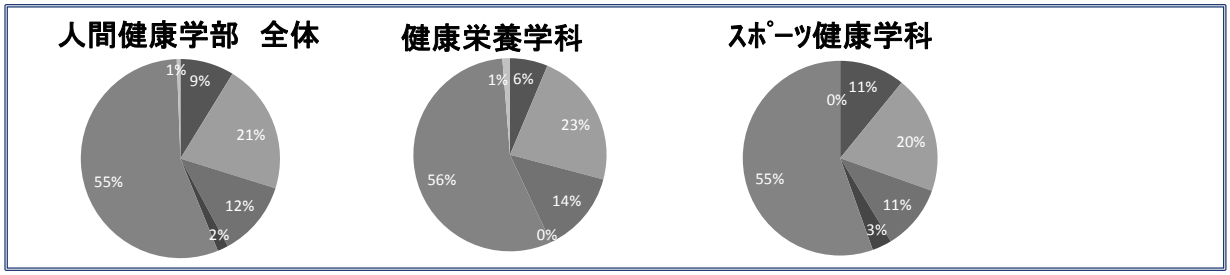
スポーツ健康学科

入る所のセキュリティーがめんどう。
利用の仕方・ルールを破る人がいて不快な気分になった。
勉強もしやすい。
さがしやすい。
すごくきれいだった。
学生証の少しめんどう。
テスト期間などうるさすぎる。
テスト期間中うるさい人が多い。
専門書が少ない。入るところが面倒。
学生証を使っての入場がめんどくさい。
ゲートはいらないのでは・・・
入る時・出る時のセキュリティーがめんどくさかったが他の点は良かった。
入口で学生証をかざすようになり面倒くさくなった。
勉強や参考の本で利用させていただきました。
多くの参考書があるのと同時にDVDなどが見られるのは良いと思う。
静か
コピー用紙の紙が買える事
よかった
うるさくする人は来なければいいと思ったことがある。
勉強するのによかった
個室がたさくんあるから
学生カードの入退場が利用しづらくなった
入口は元の方が良いと思います。WiFiとんでこない。
紙に1円払うのはなくしてほしい
とてもよかった。
テスト期間などに利用させていただきました。
特に必要ないから
静かで勉強はとてもはかどりました。
いい環境で使えた。
静かであった
パソコンを増やしてほしい
コピー用紙を常に提供してくれた
DVDを見れるし、パソコンも使えるしとても良い環境だと思います
バイトしていたので
勉強しやすかった
ノートパソコンを持っていく機会があって、インターネットにつながりにくい
しずか
DVDのところがよかった
席の数が少なく、満席であることが多かった。
普段よく図書館を利用していたがテスト期間以外は集中できる環境で、休憩できる場所もあったので利用しやすかった。しかしテスト期間など学生が増えると、とてもうるさくて普段利用している者からすれば大変迷惑なため、注意する人がほしい。2年前くらいまでは注意する職員がいたため比較的よかった。ついでに嫁語りの続巻と他のマンガ増やして。

質問17.　あなたは健康安全ｾﾝﾀｰについてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん利用しやすい	6	0	6	9	3	12	18	0	5	5	6	4	10	15
②利用しやすい	17	2	19	8	7	15	34	1	17	18	10	8	18	36
③利用しにくい	6	0	6	0	4	4	10	0	11	11	4	6	10	21
④とても利用しにくい	0	1	1	0	1	1	2	0	0	0	3	0	3	3
⑤利用していない	40	14	54	24	15	39	93	3	41	44	38	13	51	95
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1





【理由等】

総合経営学科

薬とかくれないので
説明がわかりやすい
何かあった時には頼りになる場所だと思った。
具合が悪いのに拒否された。
じんましんになった時に近くの病院をすぐに教えてもらったため
学校で体調を崩すことがなかった。
利用しませんでした。
あまり使用したことがない。
一度立ち寄りましたが、親切に話を聞いてもらえました。
体調不良の際、親身になって相談にのってくれた。
ばんそうこうをもらいに友人が利用したが、一枚にお金をとられたときげんめつした。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

先生がとてもいい人。お世話になった。
利用する機会ががなかった。
良い人。
なし。
病院にれんらく、しょうかいしてくれる。
健康に過ごせました。
行きやすい。
爪切りをかりました。
先生が男女差別をする。
男女差別がある。
優しくアドバイスをくれる。
先生やさしい。
インフルエンザの時にはお世話になりました。
自分の気になっている所をくわしく教えていただいたから。
先生が話しかけづらいふんいきでした。
バンソウコウをくれなかった。
入りにくい。
話をきいてもらえてものすごく助かりました。

健康栄養学科

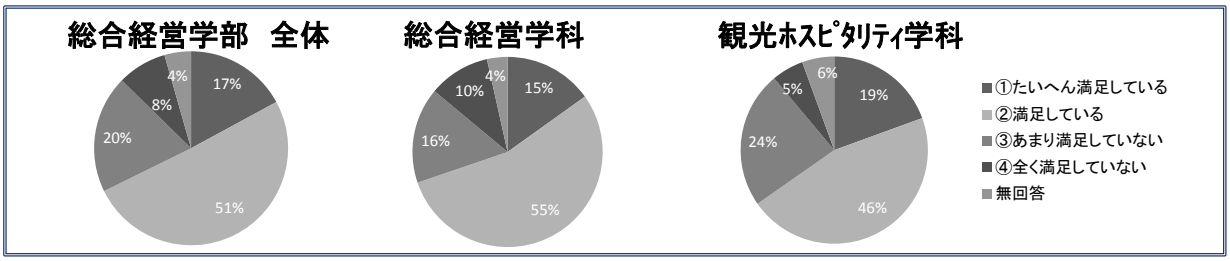
丁寧に対応していただいた。
入りにくいです。
講義・授業のようにいつもいるわけではないから。
気軽に会いに行ける！
健康のことについていろいろ相談できた。
場所がどこにあるのか見つけにくい。
急な体調不良の際はとてもたすかりました。

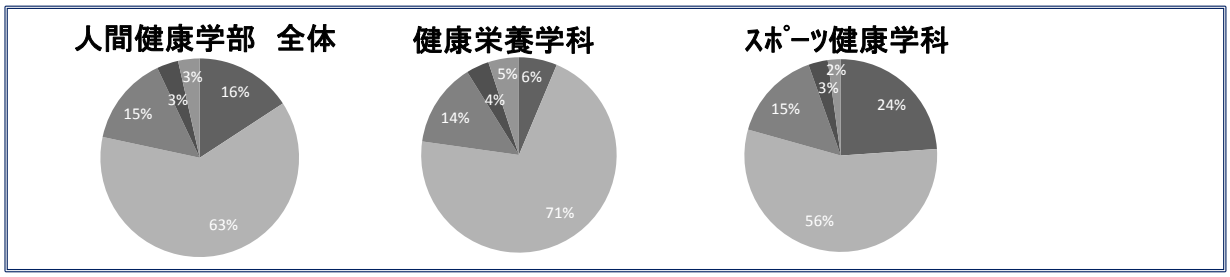
スポーツ健康学科

もう少し目立つ場所に設置してほしいです。
親しみやすかったから。
気軽にはなせる。
利用しやすかった。
ありがとうございました！！
気軽に行ける感じではなかった。
場所が少しわかりにくい。
入りづらい。
入りにくい。
先生がキツい。
利用していないので、わからない。
話しやすい
機会がなかった
身近にない。
利用したくなる工夫をすべき
行くことがなかった。
先生がやさしくて良かった
けが・病気等をしていない
対応が丁寧だった。
先生がとても良い方で、具合の悪いときは気軽に行けました。
身近にあって良かった。
骨折した際の対応が迅速だった。
病気や怪我をしなかった。
どこにあるのかわからない
体調への不安が解消される
対応してくれない
健康すぎた
インフルエンザのがよくわからない
けがして行ったのにバンドエイドわたされただけ。

質問18.　あなたは本学の行事（大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会）についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	11	2	13	11	3	14	27	0	5	5	15	7	22	27
②満足している	41	6	47	14	19	33	80	3	53	56	34	17	51	107
③あまり満足していない	8	6	14	11	6	17	31	0	11	11	8	6	14	25
④全く満足していない	7	2	9	4	0	4	13	1	2	3	3	0	3	6
無回答	2	1	3	2	2	4	7	0	4	4	1	1	2	6





【理由】

総合経営学科

- お金の無駄
- 良い思い出となった。
- 活気があった
- 参加していないから。
- サークル活動の成果が発表できてよかった。
- 楽しかった
- 楽しかった
- たのしかった
- 基本的に参加してないので知りません
- 学祭は、模擬店に何度も出させていただきました。学祭局の仕事のてきとうなところに毎度あきれます。
学祭は学友会だけで作っているのではないことを分かってほしい。責任感がない？
- 魅力を感じず参加していない。
- まあ楽しかった。
- 関係者のため省略
- 景品をもう少し増やしてほしい。
- 充実してた。
- とてももりあがり楽しむことができた
- 余り積極的に参加しませんでした。
- もり上がるから
- 充分だったと思います。
- お金かけてる年とかけてない年の差が分かる（学祭）
- 楽しかった。
- ほとんど参加していないので、よくわからない。
- ほとんど参加せず
- がんばってるなあと感じた。
- 参加してない
- 参加していない
- 学生全員が参加するものではないし学生全員が楽しめるものではなかったと思う。
- 特に参加していない。
- 参加したくなるような雰囲気がほしい。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

- 出ていない。
- 体育大会と大学祭は企画を作成する側に立ててとても楽しかったなとおもいました。
- 芸人などが来て楽しかった。
- あまり参加していないから。
- 未経験者でも参加できるよう工夫してほしい。（体育祭）
- 参加できなった。
- なし。
- 学生の統治でもいい。
- 参加していない。
- 参加していないからわからないです。
- 盛大にやってくれたので楽しめた。
- 楽しかった。
- もう少し盛り上がりがほしい。
- 今話題のベッキーに会えた。
- 参加できなかった。
- 楽しかった。
- あまり参加してない。
- とても楽しかったです！！
- 皆さん、とても気さくだったので参加しやすかった。
- 楽しいのは一年生の時だけ。
- 内容がしっかりとしていないような気がしました。
- 交流の場となっていて良い。
- 楽しい。
- 楽しかった行事はたのしかった。

健康栄養学科

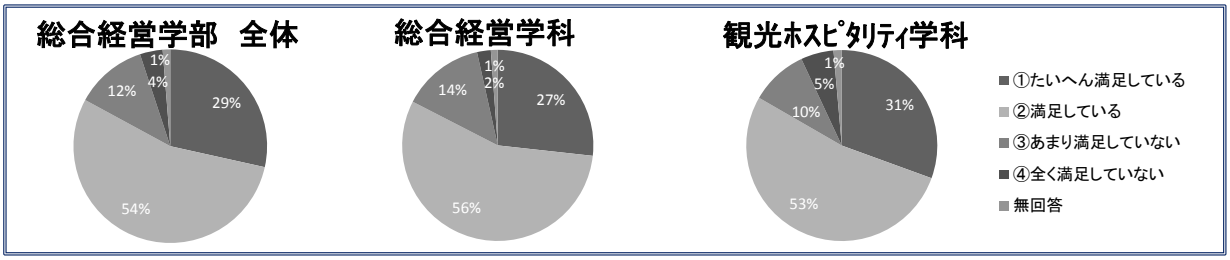
全学科の体育大会があると面白いと思う。
参加しやすいものではなかった。
参加した記憶がない。
体育大会などは、少し参加しにくいなと思いました。花火大会はとても楽しかったです。
様々な行事があり楽しかった。
楽しい行事を企画してくださってよかった。
行事が苦手なためあまり楽しくなかったです。また、家が遠かったため、花火大会などは出れませんでした。
大学祭は1日あればすぐに見あきてしまうことがあった。
学友会に所属していたため満足している。でも、内輪だけ盛り上がっているように思える部分もある。
いつやっているのかなど連絡が少ない。栄養科はいきにくい。
参加していないため。
連絡がおそい。
体育大会などは栄養科にはしにくい環境。
あまり参加していないが良かったと思う。
楽しかった。もっと色々やってほしい。
大学祭で好きなアーティストが来なかった。来年に期待。
金をかけすぎている。
楽しかった。
人数が少ない大学だからこそ人とのつながりがふかくなり行事を通して幅広い学部・学科・学年の人と仲良くなれてとても楽しかった。大学祭は4年間でとてもよい思い出。
たくさんの人と交流できるところがいい。
特に不満はなかった。
楽しかった。
学友会の方々や自分たちで様々な活動ができたので楽しかった。
あまり参加していないが焼いも大会はよかったです。
アーティストのLIVEがとても楽しかった。

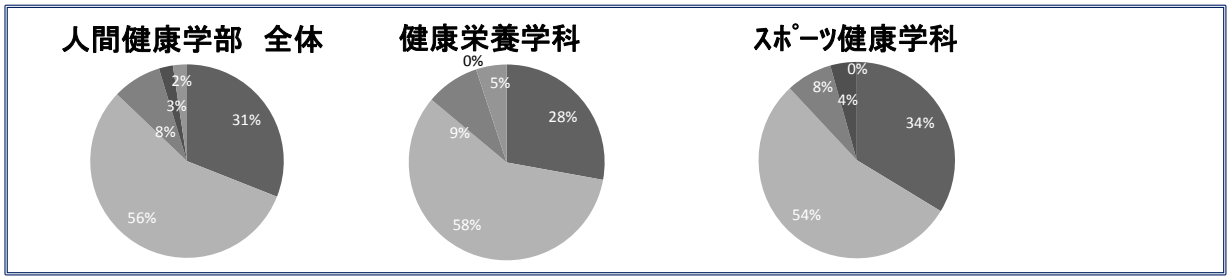
スポーツ健康学科

定員がある行事については、定員をもっとふやしてほしい。
あまり参加出来なかったから。
あまり参加出来なかったから。
連絡を早めにした方が参加率も上がると思う。
学生全員が楽しんでどの行事も出来ていたと思います。
楽しかったと思う。
・・・とおもっている。（企画がわ）
たのしかった。
楽しかった。
良い思いでとなった。
楽しかった。
ほとんど参加しなかったので
大学祭のみの参加であったが、とても楽しかった。
参加していない
交流する場がたくさんある。
よかった
良い仲間と良い思い出が作れた
もう少し増やしてほしい
学生全員で楽しめたと思うため。
たのしかった
楽しむことができた
よかった。楽しかった。
楽しいイベントが多かった。
自身あまり参加していない
他学部や色々な人との交流ができてたのしかった。
楽しめるイベントが盛りだくさんでよかった
イベントなど盛りだくさんで楽しかった。最後アーティストが良かった。
イベントなどが多かったから。
ライブなど楽しかった。
つまらない
参加していない
楽しかった
イベントをやる時に学友会だけで決めているので、生徒にも声を聞いた方が良い
大学祭ではステージにたたせてもらった。
お金の無駄
学祭ではたくさんの感動をいただいた。今後にとっても忘れられない最高の思い出になりました。
楽しかった。
活気があり楽しかった
参加しやすく楽しめた
楽しかった

質問19.　あなたは卒業後の進路に満足していますか。満足していませんか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ				健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	18	5	23	14	8	22	45	2	20	22	22	9	31	53
②満足している	41	7	48	20	18	38	86	2	44	46	32	18	50	96
③あまり満足していない	9	3	12	6	1	7	19	0	7	7	4	3	7	14
④全く満足していない	1	1	2	1	3	4	6	0	0	0	3	1	4	4
無回答	0	1	1	1	0	1	2	0	4	4	0	0	0	4





【理由等】

総合経営学科

資格をいかした進路なので
一応の満足いける進路に進むことができた。
自分の希望通りのため
まだ就職先が決まっていないから。
良い所に内定が決まった。
行きたい企業に行くことができた
内定をもらえたので。
いい所に就職できたから
希望していた会社に内定をいただけたため
行きたい企業に行けました。本学の説明会がキッカケだったのでとても感謝しています。
周りの人からのアドバイスをもらい、決めた。
行きたいとこ行けた
いきたいところにつけたため
自分にはもったいないくらいの企業に就職が決まったので満足しています。
全力を尽くした。
一応満足しています。多少不安はあります。
いいとこだと思う
就職できたので良かった
自分の希望の通りの就職先に内定が決まったので、満足している。
不安はあるが、入社したからには頑張りたいと思う。
総合職だから
第1志望に就職できたから。
いい会社に内定をもらったから。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

地元で働けるから。
高校時代から決めていたことなので満足しています。
就職できたから。
キャリアの方にお世話になりいい所へ就職できた。
自分が選んだ道に行けてよかった。
転職を考えている。
特になし。
公務員だから。
地元で働けるから。それなりに良い企業に内定を頂いたので。
長野県内や近県で働くことができる。地域への貢献ができる。
夢を実現できて良かった。
就活中のため。
就職が決まったから。
やりたかった仕事につけた。
はたらきたくないから。
決定していない。
納得できる所に就職できた。
やりたい事と合致しているから。
自分が頑張りたいと思える場に決めることができ、本当に良かったと思っています。
頑張ります。
もっと、自分の進路等について考えてみたいと思うから。
時間はかかったりで、納得のいく就職先にめぐりあえました。
良い就職先をみつけられた。
大学で学んだことをきっかけに選んだ職なのでたいへん満足している。
望み通りの進路になった。
就職きまってよかった！キャリアセンターの方々に感謝です！

健康栄養学科

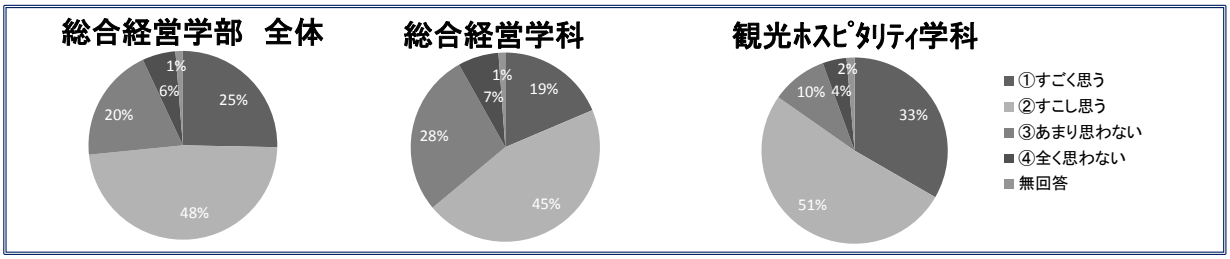
地元で就職でき、学んだ知識を生かせる場が少しでもあるので。
自分の納得がいくまで就職活動を行い進路をきめることができた。
元々少し興味をもっていたから。
自分なりに頑張ったため。
就活がんばったので。
自分の希望通りの職につけたが地元を離れたため。
自分で選べたから。食品業界だから。
自分で選んだ道だから。
まだ別の進路があるのではないかと不安。これでいいのかまだ迷い中。
自分自身できめたから。
第1希望の企業に入れるから。
行きたい方面に就職（内定）できた。
自分の知識を生かせる職場で働けるため良かったと思っています。
目標としていた所ではないが自分にとってこれから社会にとって本当に大切だと思える所に就職できた。
現在アルバイトしているが早く働きたい。

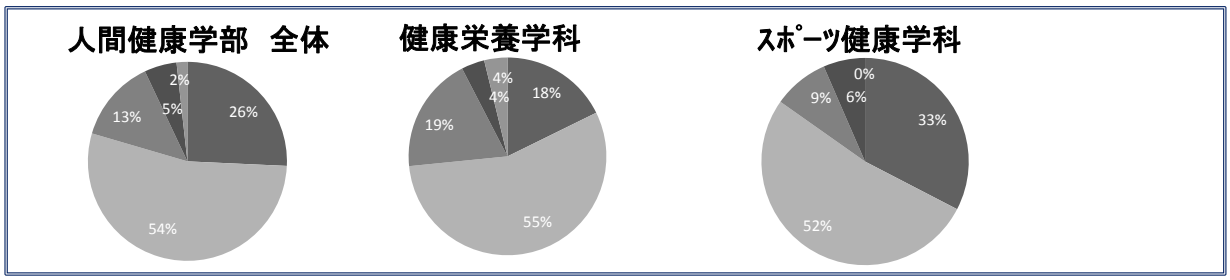
スポーツ健康学科

大学で学んだ事が生かせるから。
自分で選んだ道だから。
自分の目指す道は行けた。
まだ決定しておらず、不安。
どこでも頑張ろうと思う。
自分がしたいことだから。
つきたい職につけた。
夢かなった。
自分の希望通り（土日休み・給料）な職場だし頑張れる雰囲気だから。
安定していて、自分のやりたい仕事なので
自分がやりたいと思った職につけたから。
まだ分かりませんが、とりあえず就職ができた事。
就職先についてはよく分からないががんばりたいと思ってる
まだ、きまっていない。
自分がやりたいことができるから
希望の職種
自分の選んだ進路が正解か分からない。
自分で選んだ道なのでがんばっていきたい
進路が決まり安心している。
自分で決めたことだから
まよいや悩みが多かったので。
自分の希望する進路に進める。
自分のやりたい職を見つけ、つくことができた。
自分の進みたい道に進むことができたから。
自分のやりたい事を4年間で見つけ、その道に進む事ができるから。
キャリアセンターの方々に良い就職先を紹介してもらった。
すべて周りの方の支えがあった事で実現された進路なので、なんの不満もありません。キャリアセンターの方々には感謝しかありません。
ここからのしあがる
第一志望の進路に進むことができた
自分の決めた道を進むことができるので。
もっと選ぶべきだった
自分で選んだ道なので後悔はないです
第1希望の企業に入れた

質問20.　あなたは「松本大学」を誇りに思えますか。

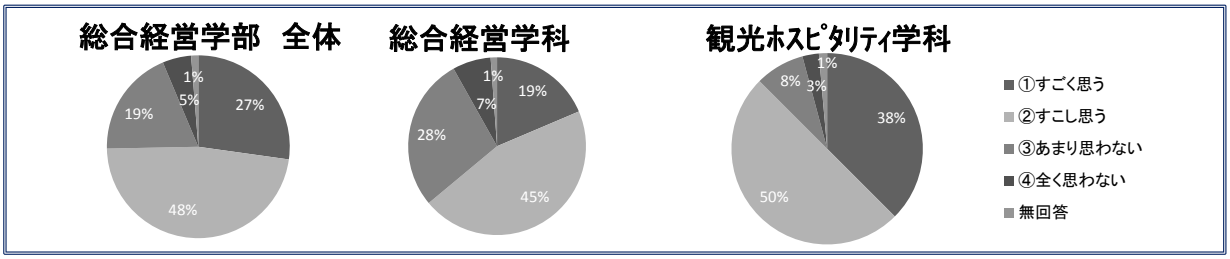
	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	15	1	16	11	13	24	40	0	14	14	20	10	30	44
②すこし思う	33	6	39	22	15	37	76	4	40	44	30	18	48	92
③あまり思わない	17	7	24	5	2	7	31	0	15	15	6	2	8	23
④全く思わない	4	2	6	3	0	3	9	0	3	3	5	1	6	9
無回答	0	1	1	1	0	1	2	0	3	3	0	0	0	3

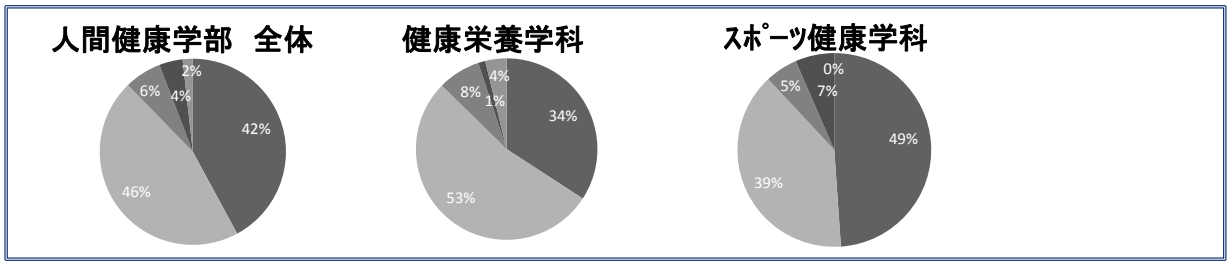




質問21.　あなたは「所属学部・学科」を誇りに思えますか。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			合計	健康栄養			ｽﾎﾟｰﾂ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	15	1	16	14	13	27	43	1	26	27	30	15	45	72
②すこし思う	33	6	39	21	15	36	75	3	39	42	22	14	36	78
③あまり思わない	17	7	24	4	2	6	30	0	6	6	4	1	5	11
④全く思わない	4	2	6	2	0	2	8	0	1	1	5	1	6	7
無回答	0	1	1	1	0	1	2	0	3	3	0	0	0	3





質問22.　松本大学をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

総合経営学科

- 大学の休講や授業の変更のメールは、早めにほしい
- 車通学でカードを使い回ししている人を時々見かける。→学校の許可をとってるか確認を強化した方がよいかと
- 学生のためになる働きを少ししてほしい
- もっとハイレベルの国際資格をとれるようにして欲しい
- 国際資格の授業をもっと増やす。
- 雪かきをもう少ししっかりしてほしい。
- 学費をおさえてほしい
- ②学校内でアルバイトが増えたら、良いなと思います。
- とくになし
- 授業中の私語が目立つ部分があったので、そこを直していただきたいです。
- 夏休みなどの長期休暇が長い。祝日を休みにしてその分夏休みをけずるなどしてもらいたかった。
- 部活ではなく、サークルにしてもっと活動する人達を増やすと活気が出るかも
- 駐車券を1日単位で購入できるとうれしい。
- 喫煙時間が固定されたのが辛かった。それ以外の時間は車まで戻っていたので面倒臭かった。これがキッカケで煙草を辞めようかと思いましたが、だめでした。
- 他学科のゼミに参加する機会があれば良いと感じた。
- 天気による大学の休講の連絡がもっと早くまわるように改善してほしい
- コンビニを設置した方がよい。
- 松大の生徒は、自発的な人が少なく思います。その中でも少しの人は、自発的に行動しようとする人がいるので、そういった生徒を学生課は力になってほしいです。
- 今がいいのでよりよくするところはとくにないです。
- 出席や、時間に関して厳しくしたほうが就活もしっかりできると思う。
- まじめにやってない人と評価を同じにしてほしくないです。まじめに取り組んで意味がなかった気がしました。
- 特になし
- 学費をもう少し安くしてほしい
- 休講の時にもっと早めに連絡してほしい。
- 休講のメールをもっと早く送るべき。
- 科目数をもう少しふやしてほしい
- 今のままでいいと思います。
- 休講の連絡等の判断がとても遅いと思いました。
- バイトの賃金が安い（最低賃金と連動してほしい）
- とくになし
- 駐車場の無料化。
- 発信力のある大学なのでこのまま良くなっていってほしい。
- 講義の最後の方で行われる授業内容アンケートですが、そのアンケート結果はおそらく学生には発表されていないと思います。アンケート結果を学生にも見せることで、良い講義、良くない講義が分かり、良くない講義は受ける人が減り講義内容を変え、より良いものとなっていき、結果的に大学の講義の質が向上していくのではないかと思います。
- 自分から言えることは何もないです。
- 天候による休講の連絡を早くしてほしい
- 特になし
- 全面禁煙にすべきだと思う。
- 一部の人達が行事等でもり上がるのではなく、全員が納得し、楽しめるものにしたほうが良いと思う。
- 無駄なところにお金をつかうなら、もっと安くするか、公立大学にしてほしい。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

- 教職員の中に、社会人として疑問に感じられる人がおり、残念に思う。素晴らしい教職員が多い中、一部の教職員の振る舞いが松本大学の印象を悪くしてしまった。
- 社会人の先輩として、手本になる様に、高い意識を持って仕事をしていただきたいと思う。真剣に職務を全うしている教職員が報われる様に願います。
- 生徒に対して少し過保護感はある。確かに大学生としての自覚がない学生もいるが、そうでない学生には少し窮屈。
- 駐車代を無料に。
- 学芸員の実習先の手配について自分の希望を聞いてほしかった。
- 現状維持。
- なし
- 施設とかの利用の幅を、もっと広げてほしい。たばこ・お酒に関する事を、もっとちゃんとした制度として考えて作ってほしい。。
- 地域に貢献というのを主としているのに入学した頃よりそのような雰囲気が減ったようにかんじる。
- 特になし。
- アンケートを書く時間をもう少し頂けたらうれしかったです。
- 国家資格の集中講義(夏休みだけでなく5月くらいから開講するようなもの)（旅行業務）。お知らせメールが遅いです。
- パンフレット通り満足できる学校だったので特に要求はないです。
- グループワークを多くしてほしい。
- 全ての学生が地域の方との交流出来る機会を与えて欲しいなと思いました。興味がなかった学生も実際に関ってみれば地域の現状や課題を知ることが出来ると思いました。
- 野球部の室内練習場を広くしてほしい。
- クラスにする。友達ふえる。
- 学生の自主性をもっと伸ばす。
- ノートPCの提供。
- 授業内容をもっとシラバスでわかりやすくしてほしい。
- 資格の学習の助言、情報等をもっと広めるべき。
- 全体のふれ合いが多ければと思いました。
- ゼミが選択授業になってしまったならクラスみたいなモノがあったら、良いと思う。
- 特になし。
- 同じような講義内容があるので変えて他の内容のものを取り入れたらいいと思う。
- 掲示
- 資格
- 上高地線との時間を改善してほしい。（発車時刻と授業の終了時間）
- もっと好きな講義を取れるようにした方がいい。”単位のため”が強すぎる。
- なし
- 特になし
- 社会福祉資格の講義は外部の先生が多かったが、もう少し試験を意識した取り組みにしてほしかった。資格の講義は将来を意識している人が多いため、単位目的の人との差が大きく感じた。（グループワークなど多いため）
- 雪合戦がしたい。
- グランドを人工芝にすること。
- 授業の空き時間が有効につかいずらい。
- もう少し授業をバラバラにしてほしい。

健康栄養学科

もっと地域に出て、大学で学んだ事を生かしていってほしい。実習などの授業。
食堂をメニューを増やしてほしい。
休校のお知らせ等が遅く感じたので、メールでの通知を早めにしてほしい。
空き教室がもっとつかえるように。
自分達の学費がどのように使われているのか知りたい。（何に使われているのか具体的に）
総合経営学部の学生のマナーの悪さを注意して直してもらいたい。
図書館やカフェテリアなど、もう少し利用できる時間を増やしてくれたら、うれしい。勉強をしていく学生がもっと増えると思う。キャリアセンターの制度はとてもよかった。いついっても、笑顔で対応してくれて、就職活動中の励みになった。
5限の終わる時間と電車の時間の間に少しよゆうを持てるようになったら良いなと思います。
大雪や台風等で一斉休校にする場合は、朝の6時～7時くらいには連絡して欲しいです。9時半にメールが来ても、すでに学校にきているので。大変だとは思いますが、これからそのように改善していだだけると良いと思います。
「掲示板を見て下さい」ではなく、重要な事は1週間前ぐらいにメールで連絡がくるようになると非常に助かります。
5号館から6号館への2階の渡り廊下がすごくすべるのであぶないと思う。
自動ドアみたいな所にお金を使うのではなく、教科書・資格試験にかかる費用を少し負担するなど、していただきたかった。
再試験の値段が高い。
海外研修をしたい。温泉がほしい。
カリキュラムの見直し。不要な教科書購入の廃止。電車の時間に合わせた授業始め、終わり。
就職活動と臨地実習が重なってしまい、多くの委託会社の試験を受けられませんでした。もう少しなんとかなりませんか。COC事業では、外部の講演会の話を聞けて良かったです。なかなか、自分で情報を手に入れて、参加するのは大変なので。
駐車場を無料にしてほしい。
イルミネーションはいらないから、もっと授業のために使ってほしい。
休校の連絡はもっと早めにほしい。
メールの連絡を早くして欲しい。雪かきを丁寧にして欲しい。
6号館にあるパソコンの起動スピードが遅いので早くしてほしい。5号館へつながる渡り床下が冬すべりやすくて危険。

スポーツ健康学科

地域にこだわりすぎる。もう少し外へ目を向けてもいいと思う。就職先に関してもボランティア活動に関しても。
2年生のうちから、ゼミのような専門的な実践を入れてもらえる授業。
もう少し教職に力を入れてほしい。
実技を通年にすれば、もっと上手くなれると思う。
お金をかける所をもう少し考えた方がいい。キャンパス内のタイルを変えるよりも他にやるべき所があったのでは？と思いました！
成績優秀者に対してもっと多くの人の人数を対象に奨励金を出してほしい。
休講の連絡を早くしてほしい。（雪など時）
学食・購買がせますぎる。休講等の連絡が遅い。パソコンをもっといいやつにしてほしい。
年間での履修制限をかけるのをやめる。
地域の方と一緒に造り上げるような授業があったら良いと思う。
今のままでも十分だと思います
昼休みの時間を長くしてほしい
教員の現在でしか、ゼミ等を判断できない。教員の過去やどのような経緯で教員になり、どんな研究を行っているのかなどを知りたい。（教員の論文など）
駐車場の料金を安く。
硬式野球部を強化部から下げてほしい。結果もそこまで残せていないのに無駄に態度がでかい。マナーが悪い。煙草を吸っていたりなど強化部としての自覚がない学生が多く、見ていると腹が立つ。部室も野球部だけ多い。普通の部室以外にプレハブまで使っている意味が分からない。硬式野球部の学生は、体育館や競技場を使っているのに、野球場は他の学生には使わせないところが、大学の設備なのに平等に使えないのがよくわからない。硬式野球部よりも、軟式野球部や女子ソフトボール部に使わせてあげたほうがいい
休講の連絡が遅い
今のままでいいと思います
サービスを上げる。お金安く。
学食をバイキングにする
駐車場無料
駐車場の料金が高い。
就職先でそれを使える資格を取得できるカリキュラム
駐車場の料金が高い。学食は前のような豊富な方が良かった。
駐車料金が高いので、周辺の迷惑駐車が多いのだと思う。
学食の充実化。栄養管理、メニューの充実。
サークル等をもっと増やしてほしい
体育館2つに戻して欲しいです
休講の連絡が遅いので早めて欲しい
授業料を安くしてほしい
追試がない
駐車場を安くしてほしい。休講の連絡が遅い。
交通の便をもっと良く
喫煙マナーを改善する。
少人数制の講義など
食堂を広くして下さい。お願いします。
③お弁当を安価にしてほしい。380円はコンビニと変わらない。
①取得できる授業の数と種類を増やしてほしい。
駐車場を無料にしてほしい
駐車場を無料にしてほしい
①バイオメカニクスのような授業があったらいい。スポーツを科学的な視点からとらえて研究してみたい。
②駐車場を学生無料にしてほしい
③休講・休校の連絡をもっと早くにしてほしい
連絡をもっと早く
県外の学生の事情を少しは考える
メソフィアで出欠の提示を毎回更新する
学食のメニューが少なくなったのが悲しかった。そして高い。
作業、理学療法士の資格がほしい。
駐車料金の値下げ
一年間に取れる単位を増やしてほしい
福祉の関係の授業を他学部に多くあるので、学科や学部関係なく受けれるようにすれば良い。
やすかったら良い
トレーニングルームを増やすか、大きくしてほしい。部活動にも年々力を入れているのでぜひ！！
無駄をへらしてほしい
魅力を感じる大学
他大学との合同講義・授業
トレーナー系の授業をもっと増やして欲しい
部活動の底上げ
トレーナー実習などの実技を増やしてほしい。学食の営業時間を伸ばしてほしい。
現状で特に大丈夫だと思います。

質問23.　所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。
【意見・提案】

総合経営学科

せまい教室での講義があったのでそこを改善してほしい
524教室にも513の様なモニターをつけてほしい。
特になし
①小売や流通に関する授業を増やすべきかもしれません。　以上です。4年間お世話になりました。ありがとうございました。
とくになし
特にないです。
カウンセリング以外の心理学
ゼミでのアウトキャンパスをもっと取り入れてほしい。
もっとアウトキャンパスを増やしてはどうでしょうか？
現状のままでいいと思います。
人数に対して教室がせまいと思うことが何度かあった。
必修授業の私語対策をもう少しやってほしい。
経営学などの知識を教えるだけでなく、実践やシュミレーションができる講義、実技があるとよいと思った。
産業カウンセラーの受験費を学費に入れてほしい（別途5万払うのはきつい）
簿記をもっとしっかり教えたほうがいいと思う。
特になし
所属するゼミを2年生から決めさせてほしい。
特になし
簿記の授業は通年の方が良いと思う。
学内アルバイトの時給を最低賃金と連動させてほしい。
今のままで十分だと思います。
簿記は通年にした方が良い。
とくになし
自由に発言する講義があってもいいと思いました。
特にないです。
とくになし
特になし
中途半端な学部学科なので、極端にしたらいいと思う。
一年時の講義が面白かったので、2-4年もそのような講義を増やしてほしい。

観光ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ学科

特になし。
外国語の講義の種類が増えればと思います。
クラスにする。友達ふえる。
特にない。
アウトキャンパスを増やす。
観光の学科なので地理には強くなって欲しいので基礎的な授業を必修科目として新設して欲しいなと思いました。
専門性を極めてほしい。
1年生の内からもう少し自由度が高いとよりよいかもしれない。
結婚式や葬儀などでどう参列すれば良いのか(焼香の方法など)の講義。
アンケートを書く時をもう少し頂けたらうれしかったです。
課外活動を紹介する機会があればいいと思います。
ないです。
旅行会社ホテル等でのパートナーシップ協定。
観光をもう少しグローバル？な感じで学びたかった。英語も、もうすこしスピーキングの部分の授業があれば嬉しかったと思う。
実習や実践型講義を増やせば。
学生のマナー等を厳しく教員の方々に見て判断してもらいたい。
社会福祉資格の講義は外部の先生が多かったが、もう少し試験を意識した取り組みにしてほしかった。資格の講義は将来を意識している人が多いため、単位目的の人との差が大きく感じた。（グループワークなど多いため。）
特になし。
なし。
素晴らしい学部・学科でした。ありがとうございました。
観ホスたのしかったです！
特になし。
取れる資格などの情報を明確に説明し、わかりやすくすべき。
国の情勢を学べる授業があれば良かったです。

健康栄養学科

ロッカーが小さい。
臨地実習Ⅲは、もう少し早い時期でもよかったかなと思いました。
国家試験が松本大学で受けられたら良かった。
国試があるので、卒業研究が無い方がよい。
講義で使用する教科書について、特に臨床栄養では、「病気がみえる」シリーズのものが良いかな、と思います。分野ごとに分けて出版されていて、図や写真も多く、私は、学校で指定されたものよりこちらの方が理解しやすかったです。（高価なので学生の負担は増えてしまいますが・・・）
生徒と教員の距離が近く、とても良い環境での大学生活でした。同じ道を目指し、大変な授業も一緒に乗り込えることで、たくさんの友人と仲を深め、これからもずっと付き合っていけるような関係になれて良かったと思っています。
もう少し早い段階から国試対策をしてもらえたらよかったです。
テストの過去問が出回らないようにしたほうがいい。
国試のバスツアーとても良い。
先生同士での連携がうまくいっていない授業だと、生徒が一番被害をうけます。人と人の事なのでどうにもならない事もありますが改善すべきだと思います。
6号館コンピューターの起動の遅さをどうにかしてもらいたい。
他大学との連携をしたかった。スポ科との授業や活動での連携をしたい。
ないです。
6号館のコンピューターを新しくしてほしかったです。

スポーツ健康学科

1年間にとれる単位数を増やしてほしい。実技を増やしてほしい。
ゼミ楽しかった。
成績優秀者に対してもっと多くの人数を対象に奨励金を出してほしい。
今のままで充分です！
実技を通年にすれば、もっと上手くなれると思う。
実践的な授業がもう少しあったらいいと思う。
実技の水泳で外部のプールへいかなければならなかったので、プールを設置してほしい。
実験的・実技的授業をふやす。測定器具など、この科を出れば皆が使えるような授業をふやす。
出席のとりかたを改善したほうがいいと思う。
スポーツ健康はもっと実習を、1.2年生でいれてもいいと感じました。ゼミによっては実習がまったくできないところもあるので。
今のままで十分だと思います
実習の授業の増加
特にありません
スポーツ競技の授業を増やす
毎年再試験を行ってほしい
就職先でそれを使える資格を取得できるカリキュラム
毎年再試験がほしい
スポーツ科だけ再試験がないのはおかしい
アスレチックトレーナー取得可
実習を増やすべき
イベントを増やす
もっと実習を増やすことで良い経験になると思う。
追試がない
実践の場が多いと思うが、今以上に増えるともっと良いとおもう。2年生からゼミを選択できるようにしてはどうか
より活気を出せるように誰もが挨拶を自然とできるようになればより良くなると思う。
実技の授業がもう少しあっても良い。年間取得可能単位数を増やしたほうが良い。
①バイオメカニクスのような授業があったらいい。スポーツを科学的な視点からとらえて研究してみたい。 ②駐車場を学生無料にしてほしい ③休講・休校の連絡をもっと早くにしてほしい
なぜスポ科は追試がないのでしょうか。4年生になり卒業が危ない人たちに追試をやるのなら、1年生のときからやればいいと思います。
ゼミ関係なく参加できる実習の増設
一年間に取れる単位を増やしてほしい
コンピューターに関する授業をもっと増やしても良い。
教員数をもっと増やし、講義数も多くしてほしい。
資格数を増やす。講義数を増やす。
トレーニング指導士（アスリートを指導できる人）の授業を増やしてほしいです。

2. 松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート

質問1. 所属について

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	13	86	99	11	91	102	201
回収数	11	83	94	5	84	89	183
回収率	84.6%	96.5%	94.9%	45.5%	92.3%	87.3%	91.0%

質問2. あなたが松本大学松商短期大学部に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
④ﾌｨｰﾙﾄﾞ・ﾕﾆｯﾄ制度に魅力を感じた	8	48	56	2	52	54	110
③就職が良い	6	35	41	1	41	42	83
⑩自宅から通学できる	4	41	45	2	35	37	82
⑪親、先生などから勧められた	3	12	15	2	18	20	35
②ｺﾝﾋﾟｭｰﾀなど施設・設備が充実している	4	13	17	1	13	14	31
⑫まだ社会に出たくない	3	12	15	3	9	12	27
⑥良い先生がいる	2	5	7	0	9	9	16
⑨学生と教職員の距離が近い	0	6	6	1	6	7	13
⑧先輩・知人がいる	0	5	5	0	6	6	11
⑬その他	0	3	3	0	3	3	6
①伝統ある学校で校風が良かった	1	2	3	0	1	1	4
⑤編入学ができる	1	2	3	1	0	1	4
⑦友達が入学する	1	2	3	0	1	1	4
無回答	0	0	0	0	1	1	1

【その他】

商学科

近いから

勉強したかったから

資格がたくさんとれる

経営情報学科

マツナビをやりたかった。

質問3. あなたが松本大学松商短期大学に入学した目的はなんですか。(いくつでも)

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
④資格を取りたい	11	76	87	2	71	73	160
①専門的学識を身につけたい	4	31	35	2	33	35	70
⑤良い就職がしたい	5	28	33	2	29	31	64
②教養を身につけたい	4	14	18	2	12	14	32
⑦自分をみつけたい	2	8	10	2	10	12	22
⑥友人をつくりたい	1	12	13	0	6	6	19
⑪自立できる社会人になりたい	0	8	8	0	7	7	15
⑨親元から離れて生活したい	0	5	5	0	4	4	9
⑧部活動を行いたい	1	1	2	1	2	3	5
⑩アルバイトをしてみたい	2	0	2	0	2	2	4
⑫その他	0	1	1	0	2	2	3
③海外研修を経験したい	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0

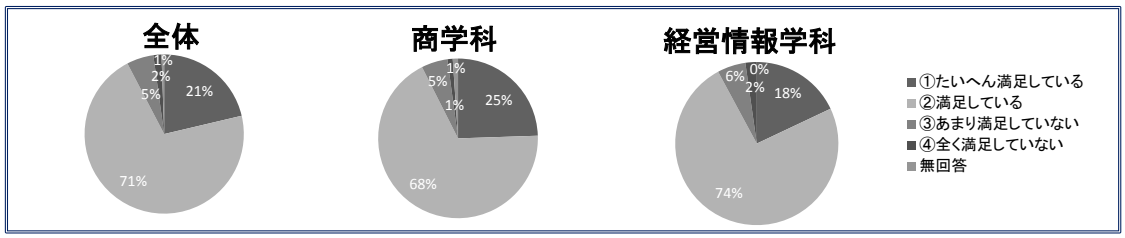
【その他】

商学科

経営情報学科

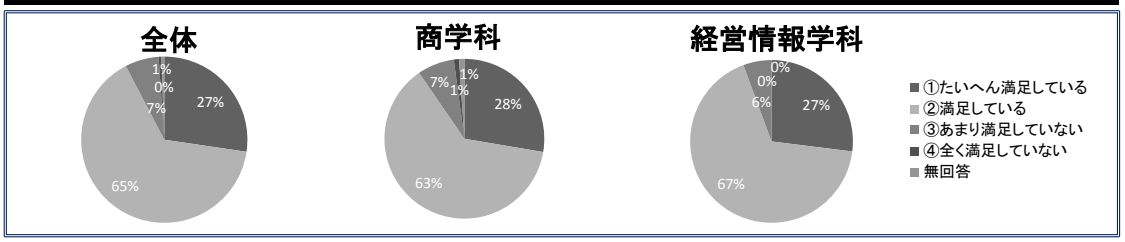
質問4. あなたは松本大学松商短期大学部の2年間の勉学に満足していますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	20	23	0	16	16	39
②満足している	7	57	64	5	61	66	130
③あまり満足していない	1	4	5	0	5	5	10
④全く満足していない	0	1	1	0	2	2	3
無回答	0	1	1	0	0	0	1



質問5. この2年間のあなた自身の生活に満足していますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	4	22	26	0	24	24	50
②満足している	4	55	59	5	55	60	119
③あまり満足していない	3	4	7	0	5	5	12
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	1	1	0	0	0	1



質問6. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと

商学科

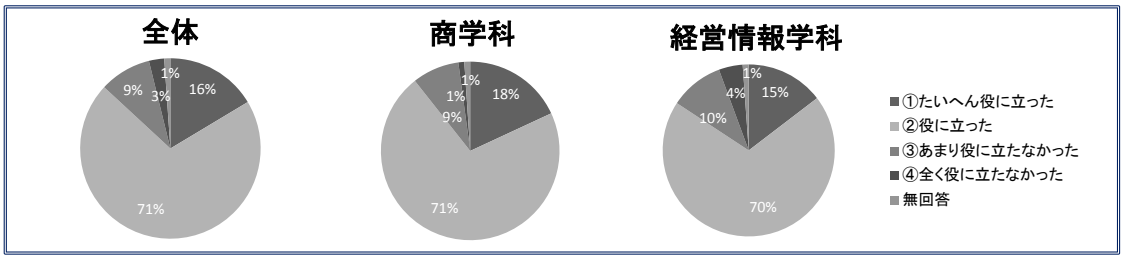
特になし。良かった。
食品の講義が良かった。
不機嫌な時もあったけど、いい思い出になりました。
思ったよりぬるくて楽でした。先生やさしくて接しやすかった。
学校行事が楽しくいい思い出になった。
自分で選んで取った授業なので意欲的に取り組めた。
とても楽しい友人たちと出会えた。充実した生活を送れた。
分かりやすく教えてもらえた。
楽しく講義を受けることができたこと。
メモ力を身につけることができた。
駐車場から学部まで遠い…。
あんまり苦痛を感じないでできた。
先生に親しみをすごく感じました。心理学がたのしかったです。
資格をとるためにここに来たので、資格はたくさんとれた。またテキストにあまりお金をかけないという点ではとてもよかった。 しかしiPadをつかっての講義というのは、全員に配布された割に全く活用しておらず、無駄だった気がする
PCの調子が悪い
先生たちの授業がたのしかった。
サーバーが少し不満でした
とても充実した日々を過ごすことができました。
友達と出会えたから。
出会えたことに感謝
授業たのしかったです。
授業たのしかった。
みんなでパソコンを使うと動きが遅くなったりするのをなおしてほしいです。
授業が楽しかった。
レポートもパソコンを使って行うことがつねにパソコンとふれることができたからよかったと思う。
わからないことがあれば、気軽に先生に相談できることがとても魅力を感じます。
資格をたくさん取れて良かった
資格をとれたこと。
先生の教えがとても丁寧で嬉しかったです。
先生がみんなやさしかったです。
友達に出会えたから☆

経営情報学科

〇〇先生の授業を履修している人が少ない。数ある授業の中で1番有意義な時間でした。
最of高
アンケートが良く反映されていた。
面白い講義が多かった。欲を言えば芸術文化フィールドの講義や語学の講義を拡充してほしい。
簿記の資格を、日商2級まで取りたかったので、2年後期にも簿記の講義をやってほしかった。
環境がよかった。
ほがらかな先生ばかりで楽しかったです。友だちともほんとに楽しくすごせました。
部屋がさむかった。
先生たちが分かりやすく指導してくれた。
どの授業も自分のためになったと感じています。簿記の資格もとれて目標が達成できました。
専門的なこと、高校では学べないようなことを学べて良かったです。
大きい教室の前の席がさむかったのは辛かったです。席とかは見やすくてよかったです。
いろいろな分野の勉強ができてよかったです。
自分がとりたい授業のほとんどがわかりやすいものだった。
資料を思っていたよりも取れて良かった。サークルなどに入っていればよかったと思った。
学びたいことがない。
パソコン教室が充実してた。
検定対策がしっかりしていて良かった。
全般を通して良かったのは先生方の距離が近くにあって接しやすかったです。
授業で沢山の知識と資格が得られたこと
授業態度を成績としてつけるべき。本人が出席していないのに、受講票が出てることに気付くべき。
先生によってはしゃべるのが早く分かりづらい。時間もかぎられているのも分かるけど早口だと伝わらない。
簿記や医療事務等専門的な知識を学ぶことができて良かった。
興味のわく授業があまりなかった。
授業で先生と交流することが少なくなかった。
授業を受けたら検定の申し込みをできるようにしてほしい。iPadを使った覚えがほぼない。
私語をしている人、寝ている人、携帯をいじっている人、マナーの悪い人が多くて不快なことが多かった。

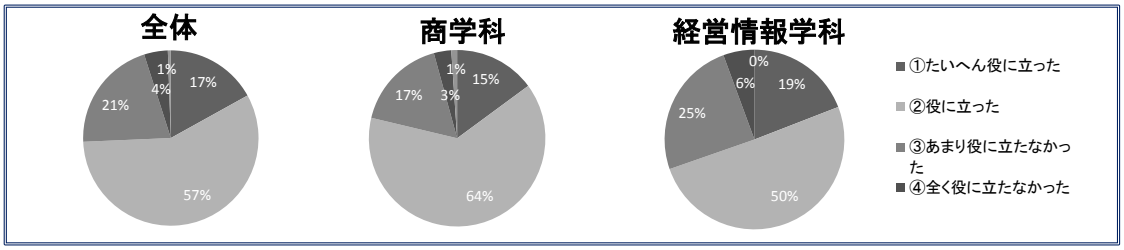
質問7．選択必修科目での出席レポートは、学生としてのあなたの能力を伸ばす役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	2	15	17	1	12	13	30
②役に立った	8	59	67	2	60	62	129
③あまり役に立たなかった	1	7	8	2	7	9	17
④全く役に立たなかった	0	1	1	0	4	4	5
無回答	0	1	1	0	1	1	2



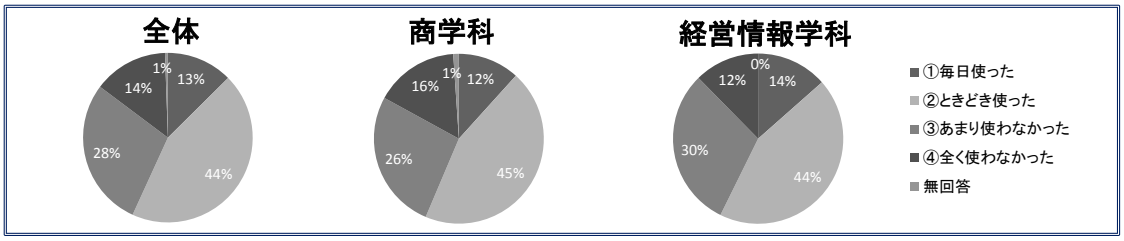
質問8．１年次前期の「基礎ゼミナール」で学んだ、ノートのとり方、レポートの書き方等の初年次教育は、短大のその他の授業を学ぶときに役立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	2	12	14	0	17	17	31
②役に立った	7	53	60	1	44	45	105
③あまり役に立たなかった	2	14	16	3	19	22	38
④全く役に立たなかった	0	3	3	1	4	5	8
無回答	0	1	1	0	0	0	1



質問9．配布されたiPadは利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	1	10	11	0	12	12	23
②ときどき使った	6	36	42	2	37	39	81
③あまり使わなかった	3	22	25	2	25	27	52
④全く使わなかった	1	14	15	1	10	11	26
無回答	0	1	1	0	0	0	1



【理由等】

商学科

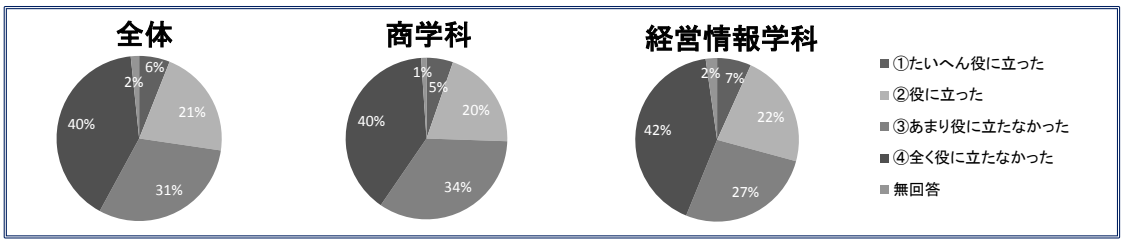
1年生の時は良く使っていたけど、2年生では使う頻度が減って持っていて必要ないと思った2年生でした。2年生はパソコンが良いと思った。
使いにくい。パソコンほしかった。
使う機会がなかった。
動画を見た（サッカー）。
講義でよく使った。
画面でかくてよかった。
動画見るため
動画を見ていた。
講義で使うことが少なかった。パソコンでiPad以上のことができるから。
動画を見るため
PCを買ったので使わなくなった。
インターネットでの調べ物
サイバーキャンパスが授業で使用した。
講義ではあまり必要なかったと思うけど、他では使ったことが多かった。
講義では必要なときしか使わなかった。
ワイファイがないとつかえないから
調べものや動画を観るために使った
動画
勉強での活用。インターネットの活用。
YouTubeを利用してました。
卒論も結局パソコンだったので必要性を感じなかった。
最初は楽しくて使ってたが、だんだんもってくるのがめんどうになって使わなくなった。iPhoneでもできるし。
資格をとるためにここに来たので、資格はたくさんとれた。またテキストにあまりお金をかけないという点ではとてもよかった。
しかしiPadをつかっての講義というのは、全員に配布された割に全く活用しておらず、無駄だった気がする
iPadを使う授業があまりなかった。
1年生の時以外に使うことがなかった。
自宅にWi-Fi環境がなかったし、利便性を感じなかった。
利便性を感じなかった。
Wi-Fiのつうしんがおそすぎたから。
必要なかった
Wi-Fiがつながってない。家だと。
学校に持ってくるのを忘れることが多かったため
動きが遅くなった。止まっちゃう時がありました。
授業で使っていた。
授業、家で動画を見る。
講義で使った
授業の資料を見る時に
使う時がなかった。
授業や調べ物
調べ物に使った
授業に使った。
2年になってから使う授業が限られてしまっていて、必要がなかった。
授業で使うこともあまりなかった。Wi-Fiがないと使えないから不便だった。
2年の後期だけ授業に使った。

経営情報学科

私物化してました。体の一部です。
ケータイで充分
メソフィアが見れない。ワード・エクセルが使えない。使い方が面倒。
自宅のPCやスマホを使うことが多く、講義中でしか使用しなかった。
家のPCがあれば十分だった為
授業の時に使った程度
2年になると講義で使わなくなるから。
動画。
特にないです。
授業で使うことが多かった。
パソコン（インターネットなど）を主に使えた。
サイバーキャンパスを見るため。調べもののため
持ち運ぶの重すぎです。
パソコンの方が欲した。
1年次は講義で使ったが、2年次は全く使わなかった。
使わない講義が多かった。
レポートを作れないしパソコンが良かった。
使い方がよくわからなかったから
ゲーム、調べ物等
Wi-Fiがつながってないと使えなかったので。ケータイとパソコンでいろいろやっていた。
家ではネットがつながらなかったので使う機会がなかった。
YouTube利用
Twitterとかを見るのにつかった。課題につかった。
使用する授業がそもそも少ない。携帯で事足りる。
自由に使わせてくれてよかった
授業で使用するくらい
知りたいことをすぐに調べることが出来た
レポートを作る際に挿し絵を作るのに使った。
家ではWiFi環境がなかったため。
使うトキがなかった。
ネットワークを使って、いろいろなことをやっていたため
使う機会があまりなかったです。
パソコンがよかった
スマートフォンを基本使用しており、使う機会がなかった。
パソコンがよかったな！！
学校でじゅうでんできるようにしてほしい。
授業以外ではほぼ使っていません。
1年の時は使ったけど2年の時は全然使わなかったので意味がなかった。
自分の調べ物などで使用。授業ではあまり使わなかった。
資料を調べるため。
使う時がなかった。
PCより持ち運びやすくてスマホより画面が大きかったので。
音楽きいた＼(^v^)／
つかえないから、パソコンになるやつの方が良かった。メソフィア見れなきゃ意味がない。

質問10. 携帯メモ手帳「EYE」は学生生活の中で役に立ちましたか。

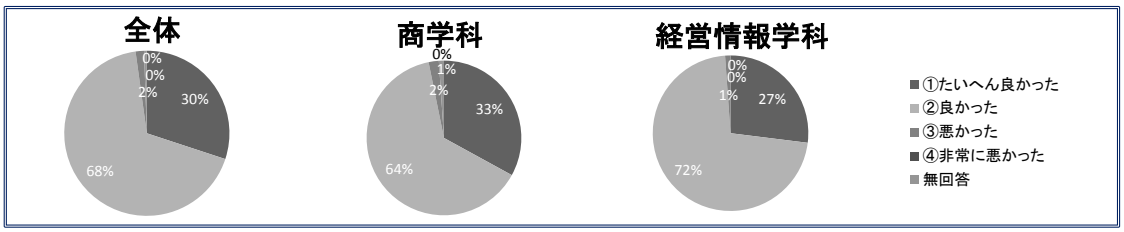
	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	0	5	5	1	5	6	11
②役に立った	3	16	19	1	19	20	39
③あまり役に立たなかった	3	29	32	0	24	24	56
④全く役に立たなかった	5	32	37	3	34	37	74
無回答	0	1	1	0	2	2	3



質問11.　本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

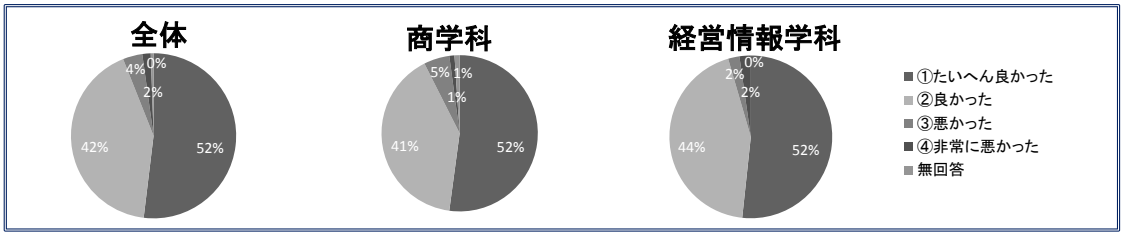
■教員

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	6	25	31	1	23	24	55
②良かった	5	55	60	4	60	64	124
③悪かった	0	2	2	0	1	1	3
④非常に悪かった	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	1	1	0	0	0	1



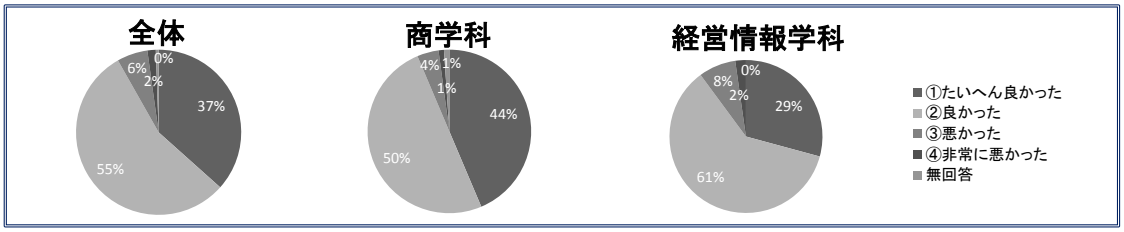
■ゼミ担当者

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	7	42	49	2	44	46	95
②良かった	4	34	38	3	36	39	77
③悪かった	0	5	5	0	2	2	7
④非常に悪かった	0	1	1	0	2	2	3
無回答	0	1	1	0	0	0	1



■ｷｬﾘｱ面談員

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	6	35	41	0	26	26	67
②良かった	5	42	47	5	49	54	101
③悪かった	0	4	4	0	7	7	11
④非常に悪かった	0	1	1	0	2	2	3
無回答	0	1	1	0	0	0	1



【理由等】

商学科

就活の時に色々と役立つアドバイスをしてくれた。
普通に悪い所はなかった。
進路の相談がしやすくて、しっかり対応してくれた。
とても親身になってアドバイスしていただいたので、とても感謝している。
主にゼミの先生に相談した
困ったとき相談に乗ってもらえた。
ちゃんと相談にのってくれた。
相談にのってくれた。面接練習はありがたかった。
キャリア面談員の人が常に上から目線だった
SPIなどをわかりやすく教えてくれた。
丁寧な対応をしていただきました。
先生にはとてもお世話になりました。
親身になってくれた。とても助かった。
ゼミ担はあまり頼りにならなかった。キャリアセンターの方々や、ゼミ生でないのに親身になってくれる先生もいた。
キャリアの外部の人（春休みの）態度が悪かった（女の人）
就活の時によく話をきいてくれた。
個性が強い先生が多く、楽しかった。
教員とあまり接していない。
優しかったです。
よく対応してもらえて、参考になった。
ありがとうございましたー！！
みんないい先生でした。
ゼミの先生には本当にお世話になった。
就活でキャリアの先生にとてもお世話になりました。
心配してなんでも言ってくれる。
就職活動などいっぱい助けてもらいました
ゼミ担当の先生には、相談事から雑談まで話しやすかった。
みんなやさしかったです。
このゼミに入れて良かった。

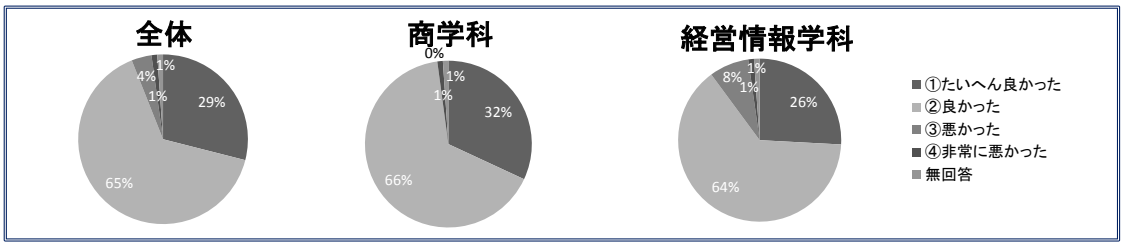
経営情報学科

ゼミ担任にはお世話になりました。
最of高
学生生活の面や進路を決める際にとても頼りになった。
面談員の人、自身のはなしばかりで私のはなしをきいてもらえず、やる意味がわからなかった。
話をきいてくれた。
就職に関してはあまりアドバイスを受けていませんでした。でも講義で色々教わったことは自分のためになりました。
就職の時など、親身になって色々やってくれて本当にうれしかったです。
話しやすい先生ばかりだったので相談しやすかった。
私の障害などを理解した上で、しっかり考えてくれたのが良かった。
怖い時があった
就活の時など親身になって考えてくれた。
勉強・普段の生活・就活など全てに対して親身になってくれたから。
ゼミの先生がとても親切でした。
ゼミの先生は授業も就活も卒論も・・ていねいにサポートしてくださいました！
皆さん真剣に質問に答えてくれました。
学校の相談や就職の相談にのってくれたのでよかったです。
みんなやさしかった。
適切なアドバイスをいただけました！！
就職のこととか色々な話を聞いてくれたりして良かった。
親身になって話を聞いてくれたり、就活のときは色々アドバイスをもらえて助かりました。
ゼミの先生は、就職についてとてもたずさわってくれました。先生ありがとう！
先生が優しくなかった
相談すると親身になってくれた。
ゼミの先生のほうが親身になってくれた
顔を覚えてくれる人が多くて安心して相談できた
親身になって話を聞いてくれた。
親身になって対応してもらえた。
ゼミ担とはとくに接しやすく、いつもアドバイスをもらっていた。
キャリアセンターのおかけで就職先を見つけることができたから。
教員としての前に人として大丈夫ですか？ゼミを持たないほうがいいです。←直せないなら。
ゼミの先生最高でした。よくなかったゼミもあるみたいだけど（笑） もっかい教員選択した方が良いのでは？ キャリアの先生方優しすぎます。ありがとうございました。
キャリアセンターの方にはとてもお世話になった。
親切。
ゼミ担当の先生は、どんなことでも親切に教えてくださった。
キャリア面談員の人は相談に乗ってくれる人、話を聞いてくれる人ではないのか？ 圧力をかけられた。
キャリア面談員の人は就活のやる気をなくすためにいるのかと思うくらいでした。入学前と3月の面談は良かったけど、9月の面談は最悪でした。 キャリア面談なんか受けなければ良かったと思いました。面談後、2か月就活はまったくしませんでした。 面談しなければもう少し早くおわったと思います。

質問12.　大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。

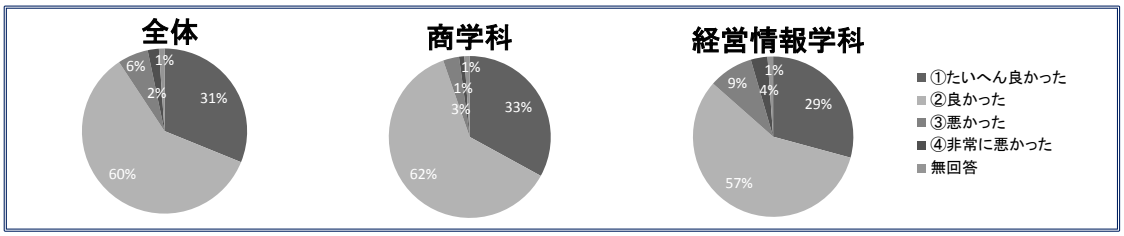
■サポートの程度

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	6	24	30	1	22	23	53
②良かった	5	57	62	2	55	57	119
③悪かった	0	0	0	2	5	7	7
④非常に悪かった	0	1	1	0	1	1	2
無回答	0	1	1	0	1	1	2



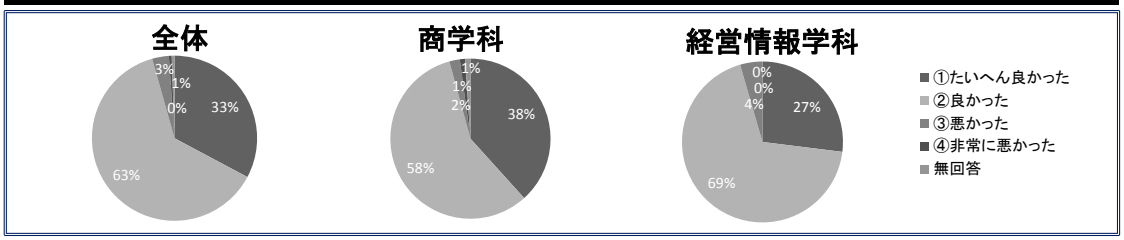
■対応の仕方

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	6	25	31	1	25	26	57
②良かった	5	53	58	2	49	51	109
③悪かった	0	3	3	2	6	8	11
④非常に悪かった	0	1	1	0	3	3	4
無回答	0	1	1	0	1	1	2



■言葉遣い

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん良かった	6	30	36	1	23	24	60
②良かった	5	49	54	4	57	61	115
③悪かった	0	2	2	0	4	4	6
④非常に悪かった	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	1	1	0	0	0	1



【事務職員に改善してほしい点、要望】

商学科

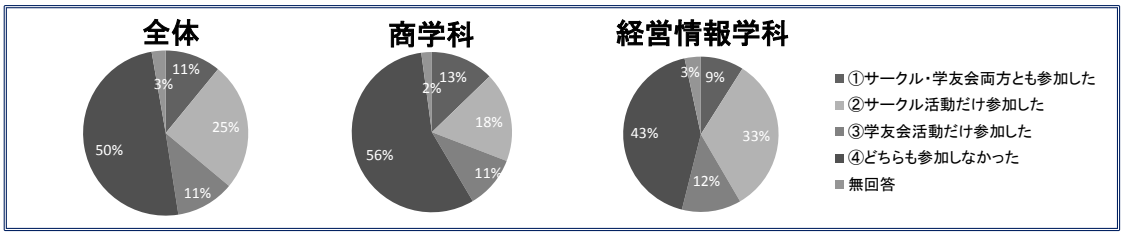
いつもていねいに対応してくれてうれしかった。
とくにキャリアセンターの先生方の対応はとても良かった。
特になし
面倒くさそうに対応してる人がいました。
学生課はちょっと怖かった。
とくになし
ちょっと対応がきつい時があった
訊いたことに対して丁寧に対応してくださったのでありがたかったです。
業務的な会話だけでなく、世間話等できて楽しかった。
もうちょっと自分の仕事に責任をもってとりくむべき。適当な発言で何回か不愉快な思いをしました。
特にありません。
就職できてよかったです
学生課の対応をもう少し良くしてほしいです。
ありません。
ぶあいそうな人がいる
ありません。

経営情報学科

良ちゃでしたンゴ
言葉が聞き取り辛く、雑だったように思う。
キャリアセンター以外の事務員の対応が良くない。窓口に立っても用件を聞きにすら来ない。
キャリアセンターの先生たちが本当に好きです。
大雪の日に休講メールが9時ごろに来たが、駅についたときにこられても困る。1限があるなら7時には家を出てる。
学生課は少し怖かった。
学生課の対応がひどすぎる。連絡（メール）が来るのがおそい。（呼びだしの）
言い方が冷たかったりした事が多くあった。人を選んでいるように感じます。特に学生課には行くのが嫌でした。
学生課行くのがこわいです。キャリアセンターの方には大変お世話になりました。ありがとうございました。
学生課・教務課が少しこわいと感じました。
編入学の指定校推薦の取り方の答え方があいまいだった。
一回電話をかけた時、少し対応が雑だった。
学生課の職員の方の態度や対応が悪かったので、もっとちゃんとした方がいいと思う。
態度が悪く気分が悪くなった時があった（学生課）
あたりがつよい。冷たい。休講メール遅すぎ、メール多すぎ。もっと学生のコトを考えた対応をしてほしい。
特に学生課！！（回答④非常に悪かった）
特に学生課の対応はひどいと思いました。相談したいことがあっても聞きにくいので、できるだけ近づきたくないと思いました。
教員より学生のこと分かってる
とくになし。よかったです。
生徒への対応にムラがある。気分で冷たくされても困る。

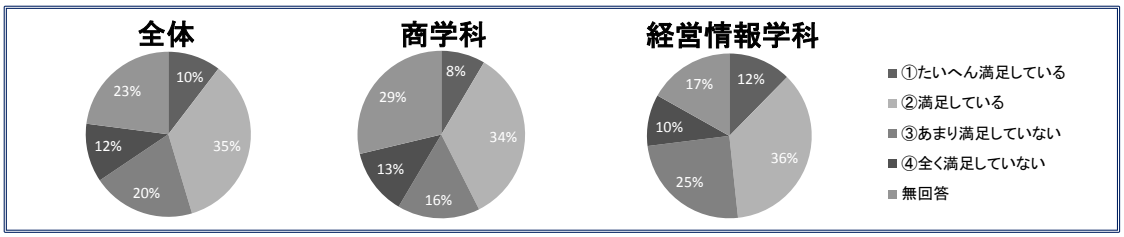
質問13.　あなたはサークル活動や学友会活動に参加しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①サークル・学友会両方とも参加した	3	9	12	0	8	8	20
②サークル活動だけ参加した	2	15	17	1	28	29	46
③学友会活動だけ参加した	3	7	10	1	10	11	21
④どちらも参加しなかった	3	50	53	3	35	38	91
無回答	0	2	2	0	3	3	5



質問14.　あなたはサークル活動や学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	7	8	1	10	11	19
②満足している	9	23	32	1	31	32	64
③あまり満足していない	1	14	15	1	21	22	37
④全く満足していない	0	12	12	1	8	9	21
無回答	0	27	27	1	14	15	42



【理由等】

商学科

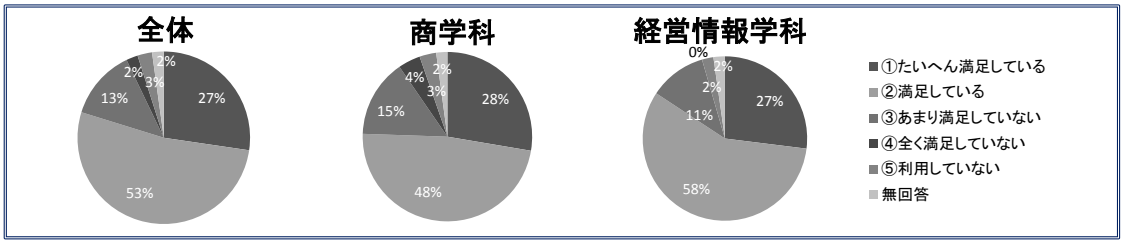
満足した。体育館が壊されたので、2年夏からサークルが出来なかったのが残念。
2年じゃ足りなかった。
充実した活動だった。
おもしろかった。
授業とサークル活動の時間がかぶっていて、あまり参加できなかった。
大勢の前で話す時は、うまく話せなかったけど、色々なことを経験できました。
学友会のスタッフを1年次にやっていた。すごく楽しかった！
サークルは体育館がなくなってしまってからはしなくなってしまったので少し残念でした。
あまりしっかり働けなかった。
みなさんが頑張って作り上げてくれた文化祭やイベントがたのしかった。
参加していない。
楽しかったです。
体育館が取り壊されたから。（回答③）
弓道場のあずちをもっとよくしてほしい
いろいろ今後に役立つことが経験できたからよかった
役員として学祭や行事に参加できてとても充実していた。

経営情報学科

学生生活がより良い物になった。
好きなことができたから。
サークル活動をしていない。
学友会が身内ばっかりでよくないと思った（仲良しグループの人）
やっている人達が楽しそうに活動していたから。
提出物、やらねばならぬことが多く大変でした。
サークルに入ったことにより、人の輪が広がった。
松本ぼんぼんが楽しかった。
楽しくできなかった。
学友会って何ですか？
サークルの開始時間が遅くてあまり参加できなかった。
やきイモ（回答②満足している）
学部の人と関わりながら、活動できたことが良かった。
サークルはもっともりあげていきたい。もっとらくにつくれて、スポーツだけにしなくてもいいと思う。もっと自由に。
学友会に入り、交流も広がり、人とのつき合い方も少しわかった。
体育館が使えなくなって大変。
自分のやりたいサークルに入って、少ない人数でしたが外部の先生がていねいに毎回しっかり教えてくれた。
やってない。

質問15.　あなたは本学の施設・設備（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室、体育館、教室、ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ、駐車場、7号館1階ｺﾓﾝﾙｰﾑ等）に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	23	26	0	24	24	50
②満足している	4	41	45	4	47	51	96
③あまり満足していない	3	11	14	1	9	10	24
④全く満足していない	0	4	4	0	0	0	4
⑤利用していない	0	3	3	0	2	2	5
無回答	1	1	2	0	2	2	4



【理由等】

商学科

駐車場が空いているのに満車になっている時がある。
駐車場が高すぎる！
良く利用できた。
レポートがつくれる環境が整っていた。
どの施設もつかいやすかった。
特に困ったことはなかった。
入ってないソフトがあったり、キーボードが反応しないところがあった。
他校は駐車代をとっていない。
コンピューター室がたくさんあって良かった
時間が空いている時に利用できるのが良かった。
空いているのに停められない。
プリペイドだと満車になったときムダに200円とられる。入った後に満車になる。
充実してました。
駐車場の雪かきをもうちょっとしてほしい。停める為の白線が見えず、いつもより車が停められないかなと思った。
駐車場少し高い
きれいだから。
コモンルームはもう少し席を増やした方が良い。もしくは大学生の方にも作るべき。
さむかったのと、駐車場バーの調子の悪さなどで大きな出費があった。
駐車料金が少し高い
学食がせまい。生徒の増員を目指しているのであれば、生徒全員食事をとれない。
特にありません。
駐車場が入れなかった。
パソコン室の利用が一目で分かる。
コンピューター教室は部屋数も充実していてよかった。
駐車場料金が高い
雪が降ったとき、駐車場の除雪をしてほしかった。

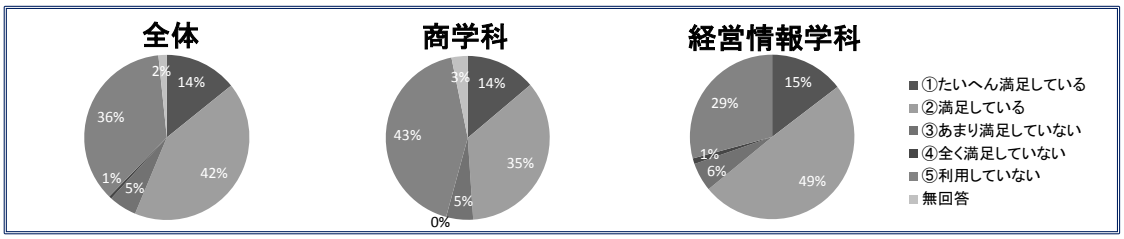
経営情報学科

良ちゃでした
PCの動作が重い。
駐車場代を払っているんだから、きちんと雪かきをしてほしかった。
暖房や冷房がきいていて過ごしやすかった。
コンピューター室が充実していた。
PC教室がたくさんあって、どの時間も1つはどこかしら空き教室だったので、使いたい時に使えてよかった。
トレーニングルームは、離れていて利用するのに気にしてしまって利用しなかった
駐車場は遠かった。設備はキレイだしととのってて良かったです。
駐車場、満車じゃないのに入れない。
コモンルームのイスが少し汚いところがあった
パソコンが使いやすくてとても良いです！
駐車場は満車マークが出ていても駐車スペースがあいていたり、逆に満車マークが出ていないのに全部うまってたりしました。
コモンとかは席がすくなくてすぐうまってしまうから困った。
駐車場、あいているのに満車で入れなかったり、雪かきが例年どおり全然されなかった。
温かかったです。（コンピュータ教室、教室、コモンルーム）
コンピューター教室はたくさん利用した。打ちやすかった。
パソコンの数が多くてよかった。
きれいだった
パソコンの台数が多くて良かった。
駐車場がこわれてることが多いし、値段もたかいし、不満が多かった。
駐車場の値段とかこわれてることが多い。
常に居場所がある感じがした。設備も十分だった
大きい教室の前の方が寒いので。なんとかしてもらいたい。
不自由だと思うことがなかった
雪かきがきちんとされている。歩くところが少しせまく、雪があった。
駐車場から1号館までが遠い。1号館付近につくれないの？
コモンルームの生協の営業時間の拡大と店舗面積の拡大してほしい。
全部きれい
駐車場代が高すぎる。

質問16.　あなたは各ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ（基礎教育ｾﾝﾀｰ、国際交流ｾﾝﾀｰ、地域づくり考房等）に満足しましたか。満足しませんでしたか。

その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	11	13	0	13	13	26
②満足している	3	30	33	3	41	44	77
③あまり満足していない	0	5	5	0	5	5	10
④全く満足していない	0	0	0	0	1	1	1
⑤利用していない	6	34	40	2	24	26	66
無回答	0	3	3	0	0	0	3



【理由等】

商学科

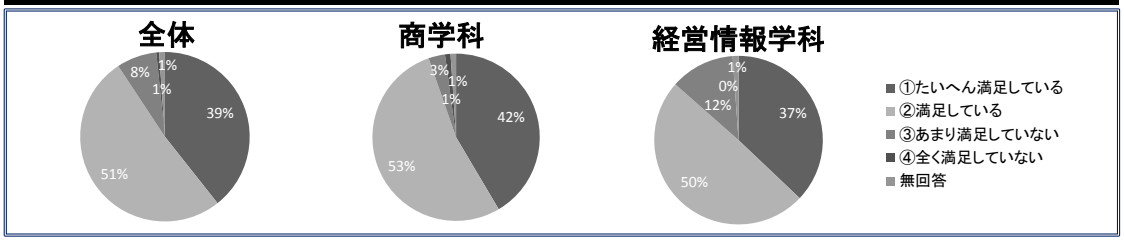
就活の時に教育センターにお世話になったから
興味なかった。
忘れていた。
SPIを教えてもらったから。
あまり行っていなかったが、もうちょっと通えばよかったなと思いました。
あまり利用していない。
地域づくり考房の活動はとてもためになったし、楽しかった。
興味ない。
親密でした。

経営情報学科

です。
特に基礎教育センターには進路を決める際お世話になりました。
あまり利用することがなかった。
あまり利用していなかった。
1年の時しか行ってない。
利用したとき優しくしてくれました。
そんな利用していないがいったときは丁寧に答えてくれた。
ゆめは素晴らしかったです！！
就職の勉強で基礎教育センターを利用して、丁寧に教えてもらいました。
就活の時に、試験対策などでお世話になりました
入りにくい
漢字検定の時にお世話になった。とても丁寧な対応をしてもらえた。
どうすればいいのかがわからなかったため→入るのに勇気がいる
行く理由がない。
地域づくり考房で、自分の興味のある活動ができた。

質問17.　あなたはフォレストホール、ラウンジ、購買、ミニショップに満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	4	35	39	1	32	33	72
②満足している	7	43	50	3	41	44	94
③あまり満足していない	0	3	3	1	10	11	14
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	1	1	0	1	1	2



【理由等】

商学科

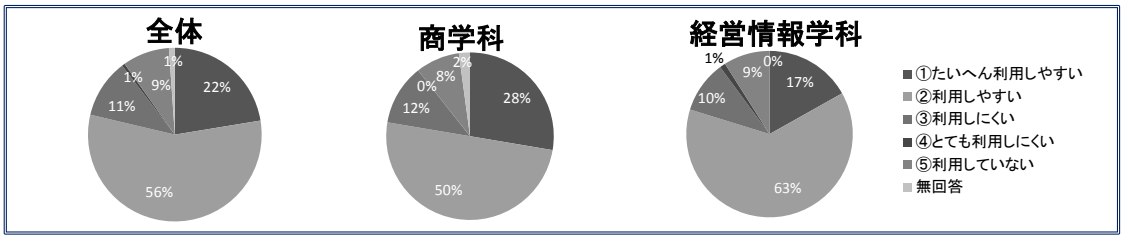
とても充実していた。
おいしかった。
値引きされてるのとかあってよかった。
スープ系がもっとあればいいな。
あまり利用できなかった。
7号館側が時間が限られている。
たまに商品が汚れていた。
品ぞろえ良かった。ごはんおいしい。
サラダ充実してほしいです。
学食をほぼ毎日利用しました。毎日とてもおいしかったです。
もう少し種類を増やしてほしいかな。生協券はすごく助かりました。
おいしかったです。おばさんたちもやさしかった。
もう少し安くしてほしい…。
満足しているが、もう少し学生に優しい価格や、スープなどの種類を増やしてほしい。
おいしかったのと、安さがよかった。
学食おいしかったです！！
せまい。
種類が豊富
おにぎりとかふやしてほしい。
ミニショップのお菓子の種類をもっとふやしてほしい
7号館の生協の営業時間をもう少し長くしてほしい。
もっと早い時間から開いて欲しい
ほしいものすぐなくなる

経営情報学科

良ちゃでした
おいしいです。
新商品が多くて楽しかった。
短大の方ももうちょっと品ぞろえを良くしてくれたらうれしい。
満足しているがもう少し広くしてほしい。
食堂・購買、食事系はおいしかった。
からあげ弁当がとてもおいしかったです！！
おいしい
コンビニみたいで使いやすかった。
ミニショップが便利でした。
お弁当がとてもおいしいです！
安くてよかった。
mother'sカレーほんとおいしかったです！！また食べたいです。
購買で良く買ってました。学食がとてもおいしかったです。
学食おいしかったです。
種類が少ない
利用したことがない。
売り切れたらそのままなので追加してくれたらよかった
生協の方も気さくだった。入りやすい雰囲気だった。
いろいろある（回答②満足している）
種類が豊富でよかった。もうちょっと席がほしい。
他より安く買えることがサイコー！！
短大の生協を5時閉にしてほしい！！→授業間で行けない。
生協の人の態度が一部悪い。
いい人はいたが、生協の人の中に態度が悪すぎる人がいる。
美味しかったです。お菓子の種類増やしてほしい。
短大のこうばいしまるのはやすぎ
生協で買ったものを袋づめできる机のスペースがほしい

質問18.　あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん利用しやすい	3	23	26	0	15	15	41
②利用しやすい	6	41	47	5	51	56	103
③利用しにくい	2	9	11	0	9	9	20
④とても利用しにくい	0	0	0	0	1	1	1
⑤利用していない	0	8	8	0	8	8	16
無回答	0	2	2	0	0	0	2



【理由等】

商学科

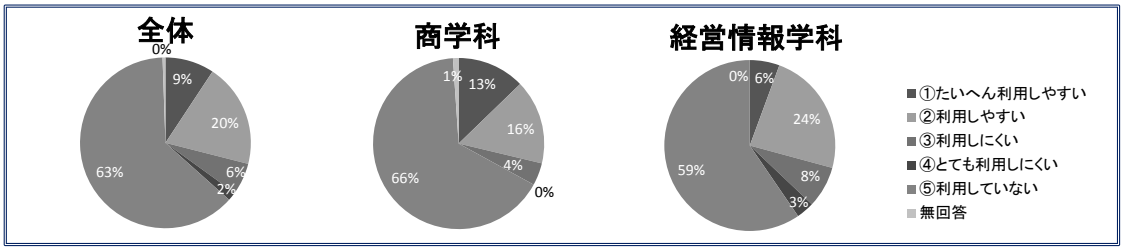
入る時のあれは面倒である！
静かでよかった。
学生証のセキュリティが利用しづらかった。
静か。
入口がメンドイ
入り方が変わり利用しにくかった。
カードをいちいち出さなきゃいけないから。
本の場所が分かりにくい
職員の方の対応にトゲがあった
パソコンが使えたり、DVDをみれる所などがあって本だけでなく利用できて良かったです。
あまり静かな中で集中するのは苦手ですが、元々本は好きなので良かった。
DVDが面白かった。
図書館の入り口にある、認証のはめんどくさかった。
図書館を出る時は学生証はいらないと思う。
DVDがあったり、テスト勉強しやすかったです。
勉強しやすかった。
居心地がよかった。
勉強のときだけ（テスト前）

経営情報学科

良ちゃでした
学生証を使って入るシステムが別にいらないと思う。
好きです。
入口のセンサーが面倒だし、学生証をかざしているのにエラーがよくでるので困る。
読書レポートが続けられました。
パソコンを使用できるところが増えたら良いなと思いました。
もっとたくさん本を入れてほしい。
どこに本があるかけんさくしてもよくわからなかった。
あまり使用しなかったです。
ビデオを見たり、たのしかった。
1階で飲食していたりした人がいて不快だった
入口のゲートがめんどくさくて足が遠のく時もあったが、勉強するのには一番集中できる場所だった
本が探しにくいと感じました。
とてもいい環境
本を探すのが楽だった。
カードじゃま
図書館なのに大声でおしゃべりしている人が不快。PCの数をふやしてほしい。
学生証がよみこまれなくて入れなかった

質問19.　あなたは健康安全センターについてどのように感じましたか。 その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん利用しやすい	2	10	12	0	5	5	17
②利用しやすい	3	12	15	1	20	21	36
③利用しにくい	1	3	4	0	7	7	11
④とても利用しにくい	0	0	0	0	3	3	3
⑤利用していない	5	57	62	4	49	53	115
無回答	0	1	1	0	0	0	1



【理由等】

商学科

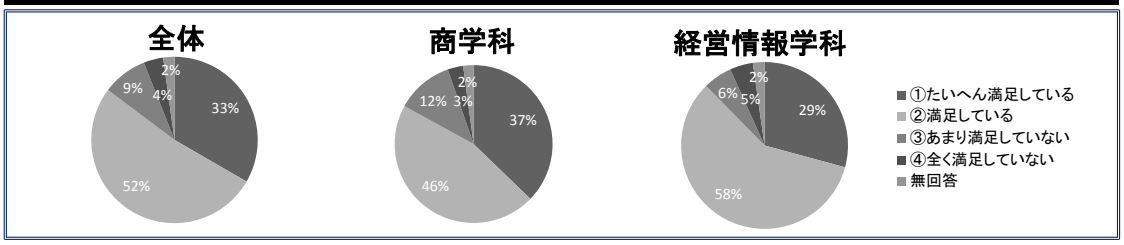
ケガしなかった。
対応がよかった。
良かった（足ケガしたとき）。
何回か利用させていただきました。その節はお世話になりました。
入りにくい
入りづらい

経営情報学科

です
用事がなかった。
困った時に助けてもらえた。
あまり使用しなかったです。
ばんそうこうすらくれなかった
わからないところにあるためちょっとこわい
気軽に入れるようにしたほうがいいと思う。
たくさんお世話になりました。（笑）

質問20.　あなたは本学の行事（大学祭、新入生歓迎会、体育大会、焼イモ会、クリスマス会等）についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	8	27	35	2	24	26	61
②満足している	3	40	43	2	50	52	95
③あまり満足していない	0	11	11	0	5	5	16
④全く満足していない	0	3	3	1	3	4	7
無回答	0	2	2	0	2	2	4



【理由等】

商学科

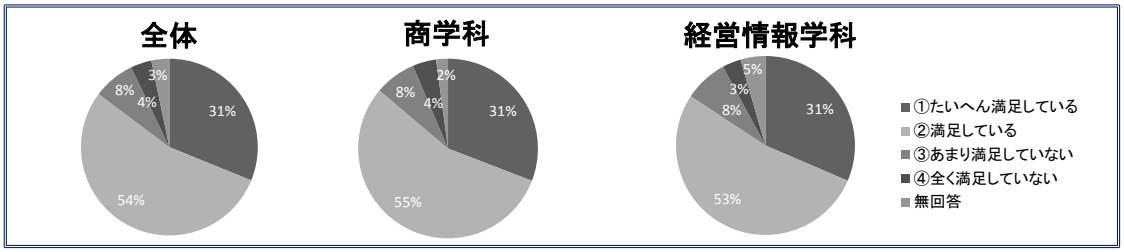
どれも楽しかった。
もっといっぱいあっても良い。
楽しかった
おそい時間にあるやつは帰宅時間がおそくなってしまうので参加したかったけどできなかった。
クリスマス会などの自由参加の行事は時間帯があまりよくなかった。参加しにくい。
行事が多すぎると思う。大学生なので、全ての行事は参加自由にするべきだと思います。
イベントは楽しい
ケーキ食べ放題を増やしてほしい
とても楽しかった。
盛り上がって楽しかった。大学祭のライブが好き!!こんな贅沢なかなかない！ありがとうございます。来年も期待してるのでぜひ行きたいです。
ただで食べれてすごく助かった。
大学祭がとてもたのしかった。体育大会も、思い出がたくさん作れた。
体育大会は自由参加が良かったです。
役員の方々のおかげ
＼(^o^)／
色々な行事があってたのしかった。
時間的に出にくいものが多かった
とても楽しく充実していた！
参加してない

経営情報学科

行きませんでした。
行事多すぎ。
楽しかったです。
体育大会2回は多い。
休みまたは行かなかったこともあったが、楽しかった。
全てには参加できませんでしたが、焼イモ大会とか体育祭とか楽しかったです！
参加するのに時間が合わなかった
楽しかったです。イヤなこと忘れられた。行事多くて良かったです。大学祭のゲストも豪華で！
大学祭の後夜祭とか楽しかった。お笑いライブも楽しめた。
その行事ごとにどうだったのかアンケートをとってほしい。今年度の学祭の係の人はひどかったです。
焼イモ大会おいしかったです。
焼イモおいしかったです。
どの行事もうえーいって感じで楽しかったです！！
イベントはとても楽しかった。参加して良かった。
たのしかったよー
楽しかった
楽しかった
クリスマスやハロウィン等への参加はできないことがあったが、大学が楽しい雰囲気になるのはよかった。
体育大会は自由参加でいいんじゃないかな・・。
とても楽しかった。このような行事をふやしてもいいと思う。
自分も手伝ったり行ったため。
役員としてやってみて改善的でもあるが、自身楽しんでやった。
いろいろあって楽しかった

質問21.　あなたは卒業後の進路に満足していますか。満足していませんか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	27	29	0	28	28	57
②満足している	8	44	52	5	42	47	99
③あまり満足していない	0	7	7	0	7	7	14
④全く満足していない	1	3	4	0	3	3	7
無回答	0	2	2	0	4	4	6



【理由等】

商学科

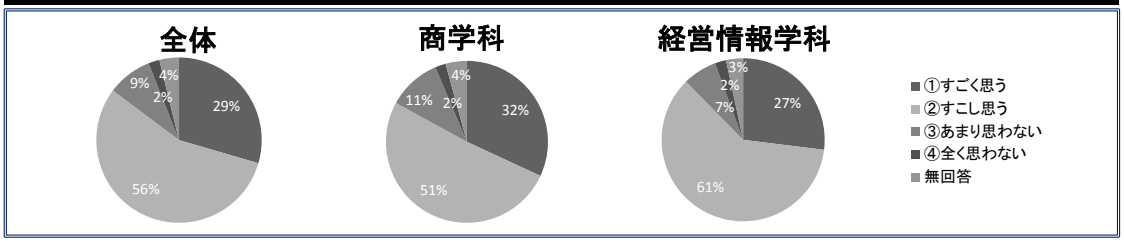
まあいいかって感じ。
良い人に会えたと思う。
学生に戻りたい。
悩んでます。
頑張る。
がんばります。
先生にも友達にも恵まれて、良い就職先を見つけられました。
周りに流されることなく自分の道を決めることができたから。
希望どおりです。
迷っている部分が多かったのでこれが本当にいいのかはわからない。けど、精一杯頑張っていきたい。
自分が働きたい所に就職できたから。
就職できて良かった
本当に行きたかった所へ行くのは難しいと思いました。（県外への就職）

経営情報学科

平社員がんばるンゴ
自分がこの短大で取得した資格が生かせるから。
やりたい事をみつけてしまった。（回答③）
もし自分に合わなかったら転職を考えているが、満足はしている。
希望しているところに行くことができた。
自分がやりたいことがみえてたのでよかったです。
サポートが良くて良い進路に進めた
やりたいことだから。
実家から通える所に就職できたので良かった。社会人として頑張っていきたいと思います。
第一志望に行けたから。
就活がうまくいかなかった。
短大の友達も一緒だし、良かったです。
地元で内定をもらえたため
社員の方の雰囲気が良くて働くのが楽しみだから。
就職できたので。

質問22.　あなたは「松本大学松商短期大学部」を誇りに思えますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	6	24	30	0	24	24	54
②すこし思う	3	45	48	1	53	54	102
③あまり思わない	2	8	10	1	5	6	16
④全く思わない	0	2	2	2	0	2	4
無回答	0	4	4	1	2	3	7



質問23.　松本大学松商短期大学部および所属学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

学費安くしたらとてもいい。
学費の削減
S評価の基準があいまいだったので、基準があればいいなーと思う。
ユニットが面倒。ユニットがないかわりに単位をもっと多くとるようにすればいいなと思う。
商学科と経営情報がとる授業が同じだから、所属学科でわかれる授業があればいいと思う。
もう少し男子学生が興味を持てる講義があると更にいいと思う
なし(^。^)/
たのしい2年間でした。
232教室の左側、前から4列目の席の机がガタガタしているので直してください。＜図省略＞　2年間ありがとうございました！！
2年間ありがとうございました！＜イラスト省略＞
グループワークの講義があってもいいと思った。
図書館を広くしたらテスト期間と重なっても大丈夫そう。
今のままでじゅうぶん楽しいと思います☆
ありがとうございました★彡
特にないです。
知名度が低いので上げるべき。
夏の体育大会だけで充分な気がします。
今のままで大丈夫だと思います。
学校の中にコンビニがいると思う
正直キャリア面談はいらなかったです。私は進路に迷っていなくて、もう決めていたのに、知らない人から色々言われるのが本当に嫌でした。未決定者ではなく、希望者だけにしてほしかったです。就職や進学することが全てじゃないと思います。私には私の決めた道があります。
文化祭にちゅうえいがきてくれてすごくうれしかったです。
先生方、大変お世話になりました。今までありがとうございました。
ボールペン字の授業が欲しい。字が汚いので(笑)
特にないです。
ゆうちょのATMを学校にほしい。
毎日楽しく過ごせました。
駐車場の使い方。
今でじゅうぶん満足
ユニットは必要ないと思います。時間がかぶって受けたい講義がうけられない場合があります。
なんで八十二だけATMがあってゆうちょのATMはないのか。

経営情報学科

現状維持でOK丸チーズ。
公務員試験対策講座が手抜きすぎ、時間が足らず、模試が少なかった。面接の対策もろくにできなかった。
パンフレットにのせるくらいならもっとしっかり取り組んでほしい
ドイツ語等の授業があると面白いと思う。又、経済の授業も更に増やしてほしい。武道の授業があればよかった。
文学の授業が楽しく、進路を決める際、役立ったので、増やしてほしい
ベビーシッターは取れますが、保育士や幼稚園の先生になれる勉強をして、資格が取得できたらよかったです。
ユニットは正直いらないと思う。→最低限の検定とかは1年次に。　→やりたい授業が少ない。
もっと専門的なことをしたら、もっと強くなると思う。
2年でもネイルアートの授業が欲しかったです。
茶道を金曜の4限からずらして欲しかった。木曜とかにして欲しかった。
駐車場のゲートでトラブルがあった時にすごく渋滞してたので、すぐ対応できるようにしてほしいです。
サークルをもっと増やしたら良いと思う。
恋愛学とかあったら楽しいと思う！
駐車場改善お願いします。
駐車場をただにする。もっと近くにする。雪かきをもっときれいにやってほしい。
連絡が遅いことがある。雪のときの休講のお知らせやその他のお知らせ等も遅いと感じてしまうことがありました。
早め早めにお願いしたいです。よろしくお願いします。
履修登録をする時に、同じ日に受けたい科目が2つあるけどどちらかにしなければいけないと言う事があったので、もっとバラけていた方がいいと思います。
いろんな授業がとれて楽しいなと思いました。
①10分休けいがある授業があったら集中力がよくなると思う。
2年生の後期でも簿記の授業が欲しいです。
CGやアニメーションの講義をもっとたくさんやってほしいです！　フォトショップとFlashももっと学んでみたかったです！！
満足です。学食もおいしいし最高です。
特にない。
簿記の資格を日商2級までは絶対に取れるようにしてほしい。（事務の募集で「日商2級の資格がある事が条件」とある所があるから）
うるさい人が2年間通してとても多かったのでどの授業も座席指定にすればいい。

3.松本大学松商短期大学部在学生アンケート

質問1.　所属について

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	7	71	78	13	87	100	178
回収数	6	67	73	8	84	92	165
回収率	85.7%	94.4%	93.6%	61.5%	96.6%	92.0%	92.7%

質問2.　あなたが松本大学松商短期大学部に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
②資格をたくさん取得することができる	5	49	54	4	70	74	128
⑦就職が良い	0	31	31	2	36	38	69
④将来の目標を見つけたいと思った	1	26	27	6	35	41	68
⑭自宅から通学できる	0	27	27	2	38	40	67
③ﾌｨｰﾙﾄﾞ・ﾕﾆｯﾄ制度に魅力を感じた	0	34	34	2	27	29	63
①専門的学識を身につけたい	1	24	25	0	16	16	41
⑬親・先生などから勧められた	0	18	18	1	22	23	41
⑰ｷｬﾝﾊﾟｽ見学会に来て楽しそうだと思った	1	22	23	0	13	13	36
⑧まだ社会に出たくない	1	10	11	0	15	15	26
⑯ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ・大学案内・ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを見て魅力に感じた	0	14	14	0	9	9	23
⑪先輩・知人がいる	1	5	6	0	7	7	13
⑮ｺﾝﾋﾟｭｰﾀなど施設・設備が充実している	0	2	2	0	7	7	9
⑥編入学ができる	1	4	5	1	0	1	6
⑨学生と教職員の距離が近い	0	3	3	0	3	3	6
⑩良い先生がいる	0	2	2	0	2	2	4
⑫友達が入学する	0	3	3	1	0	1	4
⑤伝統ある学校で校風が良かった	0	1	1	0	2	2	3
⑱その他	0	0	0	0	1	1	1
無回答	1	0	1	0	0	0	1

【その他】

商学科

経営情報学科

質問3. あなたが受講した授業の中で良かったこと、悪かったこと、感じたこと。

商学科

資格が多種取得できて良かった

検定対策講座なのにテストがあるのはおかしいと思った。

暖房がはいらなかった教室は寒い中授業を受けるので直してほしいです。

夜の講義も休まず出て、無事に資格がとれた(介護)

ファッションの授業は興味もてた

マーケティング、かわいいデザインを使っていて良かったです。

専門分野を詳しく学ぶことができた。

パソコンや簿記などを、レベルによってクラス分けをして、そのクラスに合ったペースで授業を進めてもらえて授業が充実していたと思います。

パソコンの授業が分かりやすかった。

司書課程の時間がおそすぎるため、一人暮らしだと他科目の学習・生活・アルバイトなどと両立するのが難しくなる。

特になし

分かりやすく教えてくれる教員の方がいた。

資格取得のためのサポートが充実していた。

教室がさむすぎて集中できない。

工夫されている授業は聞いていて楽しかった。冬は暖房が効かなくて寒いときがあった。

簿記の授業は初めてだったが、丁寧に教えて下さる先生が多く、良かった。
マーケティングの授業は楽しかった。司書科目は、もう少し時間の工夫が欲しい。

いろいろな授業が選択できるところが良かった。

教室が寒くて集中できない。(前の方)

プロジェクターの文字が小さい。

施設も充実しているし、学食もおいしいです。

同じ時間に取りたい授業がかぶっていて、なくなくあきらめた…という事が多々あるので、もっと講義の日数を増やしてほしいです。

教室がさむすぎて授業に集中できない。

良かったことは、生徒に分かりやすくするために工夫をこらしていたこと。先生の部屋に行くといる人が多く質問がしやすい
悪かったことは、字は読めるが略字が多い。部屋の温度が適切でないことです。

講義が充実している

マーケティングの授業が楽しかった。パワーポイントの授業が多くて見やすい

図書館司書の授業。前から勉強したかった分野でくわしく勉強できたのでよかった。

少ない人数の授業はゼミみたいなかんじで楽しかったです。

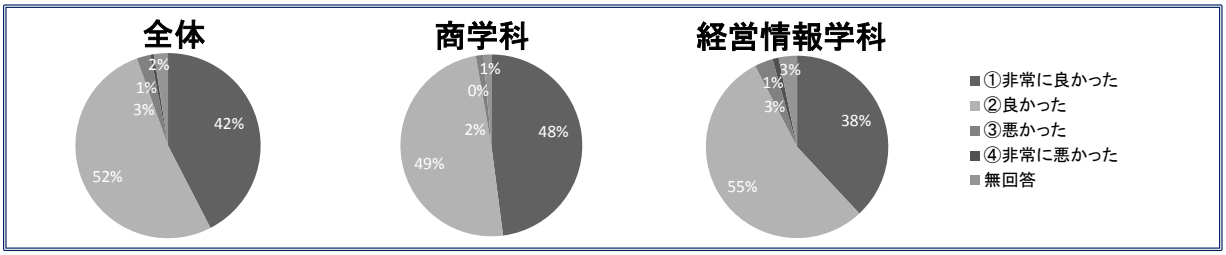
先生の優しさ

経営情報学科

授業中に寝ている人やスマートフォンをいじっている人が多かった。
授業を受けているときに他の学生がうるさいときがある
なし
授業中うるさい
パソコンを使うことが多いと思った。（私のパソコン時間も高校の頃より自然と増えた）
やりたいことの決まっていない人に対してのなげやり感。迷える子羊を救済してほしい。
とりたいと思えるような講義がなく、興味のない事を強要されているようなもの
スライドの字が小さい。
今まで学んでこなかった分野の学習がほとんどだったけど、たくさんの検定を取得することができた。テストの範囲はもっと早くから教えてほしい。
とくになし
特になし
マーケティングなどは日々にいかせることもたくさんあり、学べて良かったです。キャリアスタンダードの授業が1回の授業で2教科分をやるから、進み具合などはやくて理解をする前に授業が終わってしまって少し残念でした。
マーケティング、授業うけたいと思える講義だった。
室内温度をしっかりとしてほしい。
Excel、これからの将来で必要になりそうだから
授業がとても分かりやすくて良かった。
プリントが多い授業があります。もう少しまとめて配ってほしいです。
パソコンとくにExcelの先生方、授業は、資格取得にとても協力的だった。
先生が親しみやすくて良かった。
先生方の説明を分かりやすかったし、分からないところがあれば親身になって聞いてくれた。
先生に気軽に質問できるところがいい。
中間アンケートなど生徒の考えを伝えられる機会があるのはいいと思った。
検定を取得できて良かった
簿記やコンピューターなど身につけることができた。
教室の下のほうがさむい
簿記やPCの知識や資格がたくさん身についてよかったです。アロマ・カラー・ブライダルなど、教養としての知識もたくさん身についてよかったです
検定合格を目指す授業では、できれば過去問題を配布してほしい。
Excelや簿記など資格をとるための授業は、知識としても学べるし、それを検定などにいかすことができるのが良いと思った。
駐車場の料金が高い。
全体的に分かりやすい授業だった。
授業時間が過ぎ、次の授業もあるのに、授業を続けられて次の授業に遅れたことがあった。
簿記では補習など行ってくれて、検定前にしっかり勉強できた。
232.121　冬場黒板側のほうが寒い。
資格が何個かとれたのでよかったです
マイクがうるさい先生がいる。
レクリエーションがとてもたのしかったです。
ハングルの先生が本当に親身になってくれました。
資格がとれていい。
ネイルとかアロマなど就職には直接関係ないけど、普段の生活に役立てるので良かった。
簿記、難しいけど将来のためになるので頑張りたいです。
先生が一方的に話して、学生に発言の場を与える授業があまりにも少ない。
多くの資格が取得できること。

質問4.　ゼミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	3	32	35	2	33	35	70
②良かった	3	33	36	4	46	50	86
③悪かった	0	1	1	0	3	3	4
④非常に悪かった	0	0	0	1	0	1	1
無回答	0	1	1	1	2	3	4



【理由等】

商学科

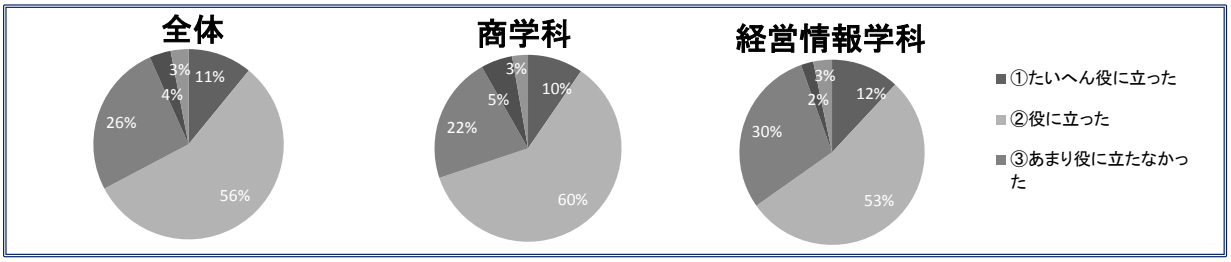
一人一人にアドバイスをしていた所。就職活動の知識とかを教えてくれた。
短大の内容が良く分かった
応援してくれるから
特に学生生活について相談していないため
求職カードの相談にのってくれたから。
求職カードの内容がこれでいいのか不安だったので相談したら最終的にいいものができた
ゼミ内でのワークとかがたのしかった。
就職について色々教えてくれるところ。
厳しいけど楽しいしまじめな先生だから
誰かにたよるんじゃなくてゼミ全員のことを気にかけてくれてとにかく優しい！！
今まで出会った先生の中で1番すき！！
先生との距離が近くて仲良くしてくれてるので楽しいです
ゼミ担との距離が近くて相談しやすかった。
ゼミの時間を就職に向けての話をしてくれたり、相談にものってくれる姿勢でいてくれたから。
クリスマス会など提案してくれたから。
求職カードの添削をしてもらった。
就職のことをとても親身になって行動してくれている。
就職のことについてちゃんと相談にのってくれた。
よく知らないことを知ることができたから。
丁寧で忙しいときでも相談にのってくれる
就職などのサポートをしっかりしていただいた。
何でも気軽に話すことができた
相談した時に、一生けんめいのってくれた
ゼミの時間が楽しかったです。いつも明るく接して頂いて嬉しいです。
相談にのってくれた。
たくさんのアドバイスをもらえることができて役に立った。
話しやすい
困ったことなど気軽に聞けるし、真剣に答えてくれた。
話しかけやすく楽しかった。
親切
質問すると答えてくれるから
どんな話の内容でも快く一緒に話してくれた。
的確なアドバイスを下さいました。
求職カードのアドバイスをしてくれた
いろいろ話を聞けた
相談したら話を聞いてくれる
相談を聞いてくれて、アドバイスをしてくれた。
話しやすくて楽しい
向き合ってくれる
親身になって話を聞いてくれた！
かわいい

経営情報学科

親身になって接してくれたから
悪くはないけど良くもなかった。
私のペースに合わせてくれたから。
特に何もしてくれた訳ではない。
気軽に話せる先生でもあり、良き理解者でもあった。
毎回学校のスケージュールを教えてくれるし、授業もわかりやすく教えてくれた。
就活について一緒に考えてくれた。
すぐ怒るけど楽しい先生。
あまりまだ相談していない。
話しやすい。相談にのってくれる。
あまり、アドバイスなど相談に乗ってくれる機会がなかった。
親身になって話を聞いてくれて助かりました。
話を聞いてくてる。イベントもあった。面談なども多くあった。
親味に相談に乗ってくれた。
説明とかもよく分からなかったから、先輩とかに聞いた。自分で動くきっかけになれたのでまぁ良かった。
優しかった。
相談しやすく、頼りがいのある先生でした。
いつも話しをきいてくれました。
やさしい。きがるにしつもんできる。
おもしろかった。
あまり進路の話などをしたことがない。
あまり自分の事を親身に考えてくれなかった。
先生との距離がとても近く、話しやすくて、先生も一緒に考えたりしてくれて良かった。
心身に対応してくれた。仲良く話もしやすかった。
相談しにくかったから
提出物でわからない点やゼミでの活動などしっかり話しをきいてアドバイスしてくれた。
分からないことなど、聞きやすかった。
お母さんのようだった。親身になってくれた。
仲良く親しみやすいゼミでした。
話しやすい、先生だし、就活についてもアドバイスをくれたり相談に乗ってくれました。
すごく優しい先生で、このゼミで良かったと思えたから。
何でも相談できるから、やさしい。
就職について色々と教えてくれた。
とても明るく良い先生でした。
接しやすくて、話しやすい環境をつくってくれた。
ほどよくかんしょうしてくれたため。
相談にのってくれた。
相談にのってくれる。
就職に大切なことを教えてくれた。
親身になってくれた
色々と助けてくれた
忙しそうな中でも対応してくれる
やさしい　話を聞いてくれる。
ゼミで発言の場多く、力になった。
提物のものは早めに集めてくれたり親身になってくれる
途中で先生が変わってしまったが、質問しやすかった
的確なアドバイスをくれたりしてとても為になった。
相談しやすい
色々なアドバイスをいただいた。
良いアドバイスをくれた
話しやすくていいアドバイスをくれた
アドバイスがもっとほしかった
ゼミ室に行って質問するときこころよく教えてくれました。
話しやすくとても良い
幅広くたくさんの知識をおしえてくれた。
就活の相談等して話を聞いてもらえた。
フレンドリーで話しやすい
話を聞いてくれる

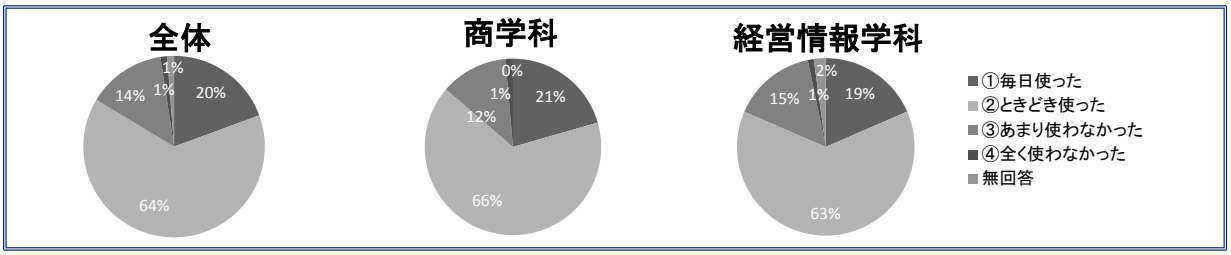
質問5. 今年度の「基礎ゼミナール」（4月～7月）の中で行われた初年時教育（ノートの取り方、テキストの読み方、要約の仕方、図書館の利用、レポートの作成など）の内容は、その後の授業で役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	1	6	7	0	11	11	18
②役に立った	3	41	44	5	44	49	93
③あまり役に立たなかった	2	14	16	3	24	27	43
④全く役に立たなかった	0	4	4	0	2	2	6
無回答	0	2	2	0	3	3	5



質問6. 配布されたモバイルPCは利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	0	15	15	2	15	17	32
②ときどき使った	5	43	48	4	54	58	106
③あまり使わなかった	1	8	9	2	12	14	23
④全く使わなかった	0	1	1	0	1	1	2
無回答	0	0	0	0	2	2	2



【理由等】

商学科

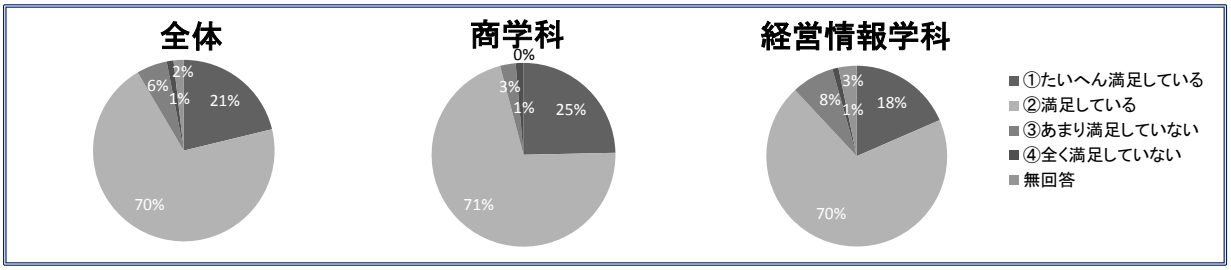
レポート作成するのに便利。持ち運びができるのでどこでも使える。
資料を調べるため
レポートなど
前期はレポートなどで毎日つかった。
レポートやるときなどにつかった。
家にいるとインターネットがつながらないから（回答③あまり使わなかった）
レポートなどは図書館のパソコンを使うことが多かった。
レポート作成
ノート代わりやレポート作りで。
よくバグる
レポート作りなど役立った
ワイファイがつながりにくいので、PC室を利用したほうが早かった。
レポート書くときはよく使った
簿記の時間のちょっとした調べ物に役に立った。
レポートの時につかった。
レポート作成やレポートの調べに利用した。
レポート作成や調べ事でよく使った。
課題の答えがのっていたり、レポートを作るのに利用した。
使わなくても家にある。だったらiPadが良かった。
レポートの作成等にときどき使った。
簿記のPDFをみるのに使うくらいだった
学校でPCがいっぱいで使えない時や授業でも使いました。
レポート作成する時に使った。
レポートやインターネット
レポートなど
家にパソコンあるから。モバイルPC電源つかないことあったし、重い。
レポート作成くらい
レポートを書いたり、簡単な調べ物をする時に使いました。
レポート作成時に使用した
学校でレポートをやる時役に立った。
使える範囲がせまい。不具合が多い。
Wi-Fiの接続が若干悪かった
家でも利用した。
使いやすかった。
出席確認を見るため
課題等色々な検索とか
レポート作成以外必要ないなと感じた。
自分のパソコンがあるため
レポート
おもいから持ちはこびづらい

経営情報学科

PCが重いため、持ち運ぶのが大変。
レポートで使っていた。
重い
授業以外使わなかった。
メールやメソフィアのチェック以外にも使った。（動画など）
講義などでやくだてた
レポートやExcelのときにパパッとできるので助かっています。
レポート等に使った
家にパソコンがあるため。使いずらいため。
レポート作成のとき。
時々電源が入らなくて困る時もありますが、どこでもパソコンが使えるから助かってます。
自宅のパソコンをよく使っていたため。
家でWordをやる時に使えた。
課題とサイバーキャンパスでつかった。
重い
つかいづらい
容量が少なくてゲームができない。
おもい。
授業などでめったに使わないから。
重いし、起動も遅くストレスを感じるのであまり使いたくかった。
パンフレットにはタブレット配布と書いてあったので、タブレットだったらもっとたくさん使ったとおもいます。
持ってくるのが大変だから。
重い。
マーケティングや金融のレポート
大きくて荷物になってもちはこべない
重たいから
レポートをやる時とかに使った。
授業によっては全く使わないものもあったが、何かあった時に利用できて良かった。
課題など、必要な時に使用した。
家のパソコンを主に使ってる。
もちはこべるから。どこでも使える。
調ものやレポートの作成にとても役立ちました。
レポートの作成。個人的な調べ物やそれをまとめる。
レポート
レポート時などぐらいでつかうだけだから。
調べ物があった時。
重い。
レポート作成。
充電がすぐきれたり、上手くつかなかったりする時があるため。
使いにくかった。
使いづらい
パソコンが重くて毎日持ち歩くのが大変。
ネットみる
家にパソコンがある
レポートで毎回つかっていた。
持ちはこびに便利
宿題の答えや、ワードやExcelでつかった。
レポートなどを家で作成する時に使ったから。
wi-fiが上手くつながらない時があり嫌になった
マーケのレポートで使った
調物やレポートをつくる時などに活用した。
レポートの作成。ひまつぶし
レポートの時や授業で使った。
ひまな時やシラバスを確認する時に使用した
インターネットがつかえて調べ物ができるから
テスト前に利用した
サイバーキャンパスを使った。
レポートの作成（学校のwi-fiの乱れが最初きになりました）
マーケティングには必須だった
重くて持ち歩くのが面倒だった。でも、レポート作るときなどに使った。
自宅でも手軽に使える
授業やレポートの時に使った。

質問7. 大学のさまざまな部署において、事務職員は皆さんのサポートをさせていただいてますが、皆さんにとって事務職員の対応はどうだったでしょうか

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	0	18	18	0	17	17	35
②満足している	5	47	52	6	58	64	116
③あまり満足していない	1	1	2	1	6	7	9
④全く満足していない	0	1	1	0	1	1	2
無回答	0	0	0	1	2	3	3



【理由等】

商学科

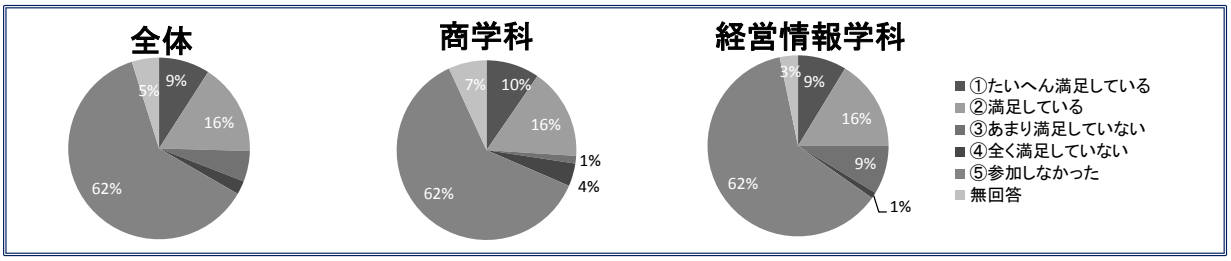
わからないことを言ったらすぐに対応してくれた
わかんないこともおしえてもらった
奨学金のことで迷惑かけてしまったけど、ちゃんと親身になってくれた。
とても親身に話を聞いてくれる。
優しい
海外の話たくさんしてくれる！！
親切だし話しやすい
親切に接してくれる
図書館員さん・・。
安心して学校生活が送れている
就職についてとても親身になってくれている。メールが遅いのが・・。検定のメールや休講・休校など。
細かい所もサポートしてもらえたと思う。
ていねいに対応してくださったので、安心して利用できました。
丁寧なアドバイスうれしいのですが、いろいろなところにあるため行くのがめんどくさくなってしまう。
財布を預かっていてくれたり、とても助かった。
丁寧に対応してもらった
話しかけるとすぐ対応してくれる方が多いです。
わかりやすく説明してくれる。
困ったことが気軽に聞ける。どこに行けばこの相談ができるとかがはっきりしてていい。
あいさつしてくれます
とても親切だから
しっかり対応してくれた
人による
どんなに忙しそうでも親身になって対応してくれました。
一部の職員以外の対応には満足しました。
適切な対応をしていただいた。
問題が起きた時お世話になってます
わからないことはなんでもきける。
困ったら助けてくれる
親切にしてくれたけど1人だけ上から目線でいやな人がいた。

経営情報学科

とても丁寧に対応してくれるから
やさしく接しているように思えた。
不満はない。
冷たい態度を取る方が多くいた。
ていねに助けてくれた
みなさんとても親切です。
丁寧に対応してくれて助かりました。
優しかったデス。
仕事をしてない人多い。
普通
学生課の人の態度が悪かった。
丁寧に一人一人に説明してくれることもある良かった。
丁寧に対応してくれた。
聞きに行くとていねいに対応してくれる人もいたけど、怖い人もいた。
優しい対応だった。
優しく応えてくれた。
いつもありがとうございます。
優しくていねいにアドバイスしてくれる。
対応が嫌（学生課）
たすけてくれる
優しく接してくれた。
別にふつうなんともおもわない
普通に対応してくれた。
話しかければ優しく対応してくれる
情報センターの人にはよく助けてもらった
対応がとても良くて非常に感謝している。パソコンなどの不具合などもなおしてもらえてとても助かった。
親切
キャリアセンター。とにかく頼りない。いろいろ不安でしかない。
人によりますが、良くアドバイスをいただきました。（キャリアセンター入りにくいです。）
一部の職員以外はとても親切に対応してくれた
そう思った（感じた）から
みんな優しい
とても良かった
学生課から様々な連絡がきてありがたい
優しく対応してくれた。

質問8.　あなたにとってサークル活動はどうでしたか。その理由や要望など

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	0	7	7	1	7	8	15
②満足している	0	12	12	1	14	15	27
③あまり満足していない	1	0	1	3	5	8	9
④全く満足していない	0	3	3	0	1	1	4
⑤参加しなかった	4	41	45	2	55	57	102
無回答	1	4	5	1	2	3	8



【理由等】

商学科

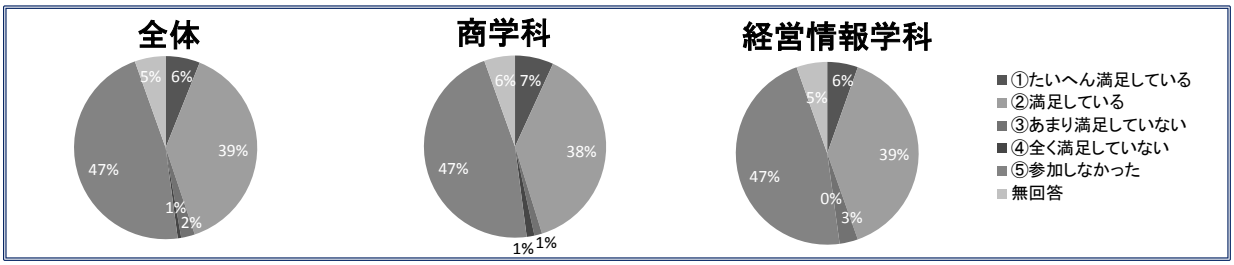
練習施設が狭い。
想像とちがっていたから。選ぶサークルをまちがえたと思う。
家が遠くて続けるのが大変だから。
大学の先輩などと仲良くなれてよかった。
良い思い出になった
MDC最高～♪
特に興味がなかった
勉強になった
吹部と同じところを使うので鍵の貸借で誰が持っていていつ返すのかめいかくにしてほしかった。
楽しんでやることができたから。
魅力を感じなかったから（参加しなかった）
入りたいサークルを見つけられた。
活動できる日が少ない
活動場所が不安定です。職員の方というより先輩に支えてもらった感じです。
興味はあったけど…。
期待はずれだった。
発表の場もあってやりがいがあった

経営情報学科

体育館が新しくなるのはいいけどその間の練習が少なくなったのが不満だった
部室がせまい
授業で精一杯だったから。
体育館がなくなったためおもうように活動できなかった。
思ったよりイベント多くてあまり参加してないけど次はしたいです。
きょうみなかった
充実していたと思う。
先輩からの引継ぎなどがうまくできていない。
週一だったからムリなくできた。
入ったサークルが活動全然していなくてがっかりだった。
第2体育館が壊されてから全く活動できていません。少し学校からも支援してほしい。
こわい
いろいろな行事があり楽しかった。
普通に楽しかった。
部室がなくなってしまったので、道具の出し入れがやや不便と感じる。大会の申請がやりにくい。
入りたいのがなかった。
サークルに入る前に内容をもっと明確に提示してほしかった。
体育館が使えない時があった。
自由に活動できるから。
忙しい
やりたいと思うのがなかった。
人数がいないから
良いサークルがなかった
大学のほうの部活にもいてていい。
忙しいから
参加したいと思えるものがなかった
早く帰りたいから
サークルにはいると家にかえるのが0時を過ぎてしまうからはいらなかった
もっとみんなが来やすいようになればいい

質問9.　あなたにとって学友会活動はどうでしたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	0	5	5	0	5	5	10
②満足している	1	27	28	0	36	36	64
③あまり満足していない	0	1	1	2	1	3	4
④全く満足していない	1	0	1	0	0	0	1
⑤参加しなかった	3	31	34	4	39	43	77
無回答	1	3	4	2	3	5	9



【理由等】

商学科

- 他の予定とかぶったから
- 貴重な体験できた
- 文化祭楽しかったです。
- 連絡がおそい気がする。情報がちゃんと伝達されていない気がする。
- 楽しいイベントと楽しくないイベントがあった。
- 学祭たのしかった。
- 体育祭などとてもおもしろかった。
- 興味はあったけど…参加する勇気がなかった。
- とても楽しかったです
- 楽しくてよいと思います。

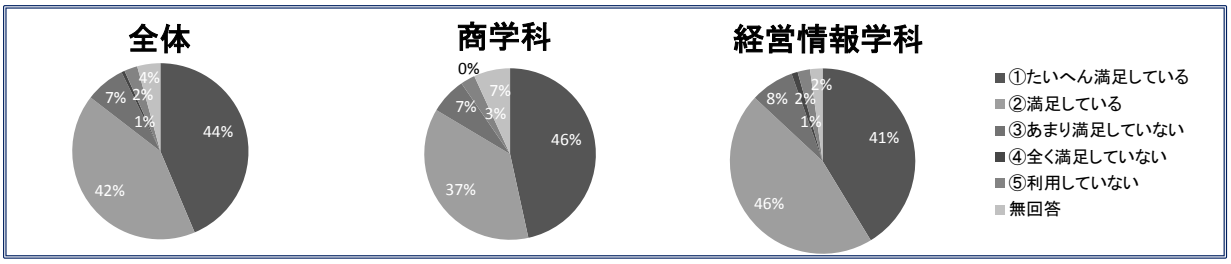
経営情報学科

- 授業で精一杯だったから。
- 文化祭の時に楽しかったです。
- みんな頑張ってくれていて楽しむことができた。
- 学際たのしかったです。
- おもしろくなかった。
- すごくていねいに教えてくれた。
- みんなが楽しんだりすることを色々と考えてくれていた。
- ちゃんとしていた。
- 興味がないから。
- 忙しい
- 大変そう
- 特に興味なかった
- 忙しいから
- 休日に学校に来たくないから
- 学友会活動しているのか知らない
- 準備がしっかりしている
- イベントが多くてよかった。
- 楽しそうだと思ったが時間がなかった。

質問10.　あなたは本学の施設・設備（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室、7号館ｺﾓﾝﾙｰﾑ、体育館、教室、ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ、駐車場等）に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由もご記入ください

■ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	31	34	2	36	38	72
②満足している	2	25	27	5	37	42	69
③あまり満足していない	0	5	5	0	7	7	12
④全く満足していない	0	0	0	0	1	1	1
⑤利用していない	0	2	2	0	2	2	4
無回答	1	4	5	1	1	2	7



【理由等】

商学科

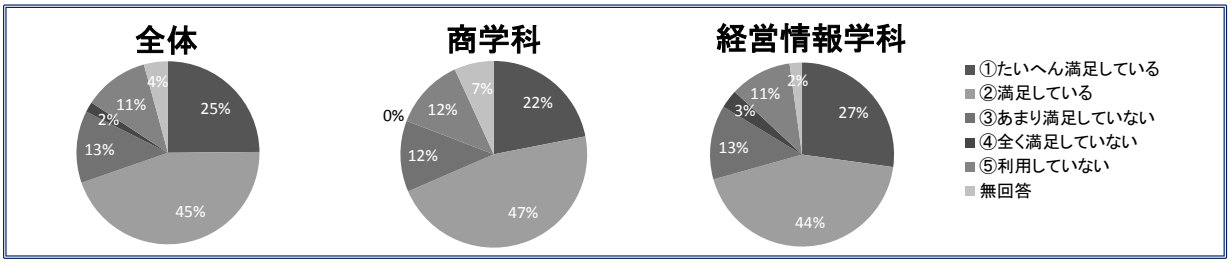
使いやすい環境	モニターがつかないときがある
たまにこわれているところがある	使いやすい
きれい	いつでも使えるから
キレイ	教室がたくさんあってよかった
使いやすかった。	騒がしい。プリンターが使いづらい
パソコンの故障なんとかしてほしい。	コピー機が時々不具合を生じる
設備が整ってる	使いやすい
あたたかい	

経営情報学科

PCの起動が遅い	とても使いやすいから
あまり使ったことない	たくさんある
たくさんあって良い	いーかんじ
PCがたくさんあっていい	よくりようする
設備が良い	きれい
ちょっと重い	たまに使えなかったり、印刷できない。
台数がたくさんあった	印刷できるのはうれしい。
コピー機などもあっても良い	課題をやりたいときにつかえる
コピー機が動いてくれない。	汚れや、不具合
たのしいです。	印刷の時、インクがなかった。
使いやすかった。	つながりがおそい
パソコンの充実	動作が早くて良い
印刷用紙おいてほしい	キーボードの反応がおそいのがある
課題やるのにいい	たまにおそい
ネットがつながりにくい	どこかしらあいているのがいい
快適だった	プリンター使えない時ある
すごく使える	使いやすい

■7号館コモンルーム

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	14	16	1	24	25	41
②満足している	0	34	34	5	35	40	74
③あまり満足していない	0	9	9	0	12	12	21
④全く満足していない	0	0	0	0	3	3	3
⑤利用していない	3	6	9	1	9	10	19
無回答	1	4	5	1	1	2	7



【理由等】

商学科

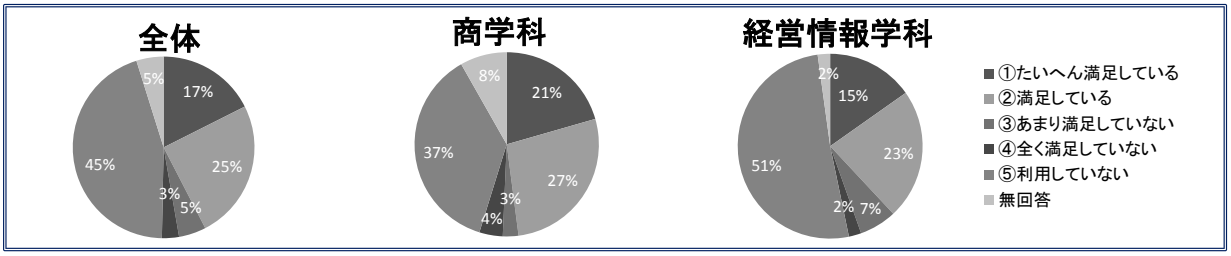
居心地が良い
よく利用した。
きれい
寒い・・・イスと机少ない・・
あったかい
きたない。うるさい。
待ち時間に利用した。
食後の机が汚い。
よく利用します。
いすがたくさんある
あまり利用しません。
よい
席がすくない
もっと席ふやしてほしい
使いやすい
イス少ない
イスと机の高さびみょう
さむい
あったかい
イスが少ない

経営情報学科

昼の席が少し足りない
良い場所です。
場所が少ない
人がたくさんでもっと広くしてほしい。
良い環境
席がたりない
遠いので利用しにくい
空き時間のときはありがたい
コモンルームで勉強できたりできていいと思った。
人が多くて！！
あったかい、すずしい
寒い
席数が少ない
勉強するのに役立った
イス少ない
食べるところが少ない。
混んでて座れない
よくわからない
広い
席がたらない
うるさい
汚い。人多い
使いやすかった。
食べる場所が少ない。
お昼時食べる場所がない
お昼食べる場所がない
勉強できる
生協の時間が短い
あたたかいが座れない時がある
自主勉強できる
席すくない
快適だった
コモンルームって何？

■体育館

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	13	15	2	12	14	29
②満足している	0	20	20	2	19	21	41
③あまり満足していない	0	2	2	1	5	6	8
④全く満足していない	1	2	3	0	2	2	5
⑤利用していない	2	25	27	2	45	47	74
無回答	1	5	6	1	1	2	8



【理由等】

商学科

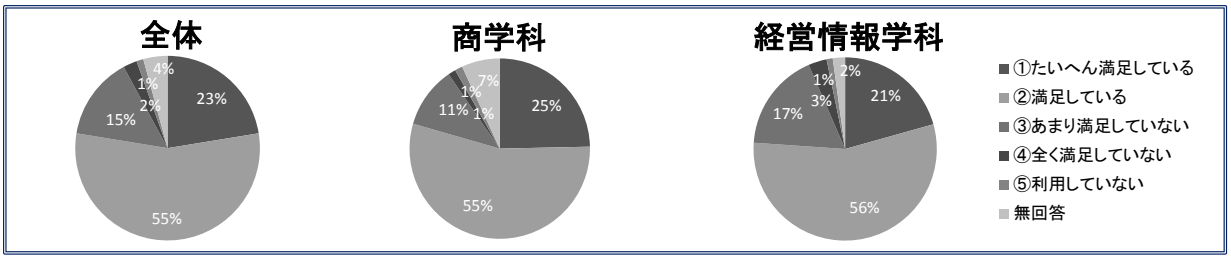
使う機会がない
さむい
ひろい
なくなってしまったし・・。
使いやすかった。
広い
広い
ふつう

経営情報学科

入学式以来行ってない
広くていい
更衣室がせまい
体育をとっていないから。
使ってない。
行かないから
2体
機会がない
さむい
せまい
わからない
行ったことない
使いやすかった。
使う機会がない
とおい
ユニホームがキレイ
つかうことがない
機会がない

■教室

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	16	18	3	16	19	37
②満足している	2	38	40	3	48	51	91
③あまり満足していない	1	7	8	1	15	16	24
④全く満足していない	0	1	1	0	3	3	4
⑤利用していない	0	1	1	0	1	1	2
無回答	1	4	5	1	1	2	7



【理由等】

商学科

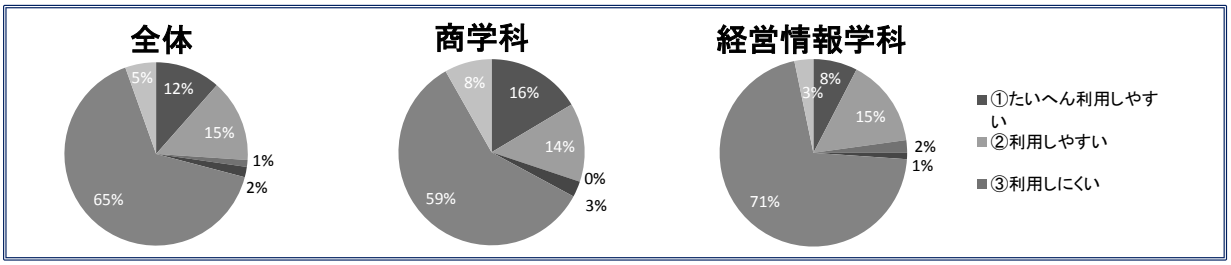
きれいに維持されている	さむい
寒い	寒い時がある
暖房のあたり方が均一ではない。	寒い
きれい	たまに暖房が入ってない
寒い	さむい
丁度いい	机と机の間がせまい時もあった
授業に集中できた。	さむい
温度が寒かった。	暖房がきかない所がある
広い	クーラーが使える時とできない時があるから
広い	あったかい
暖房の効きが悪め	さむい

経営情報学科

とても過ごしやすいから	だんぼうがきく
寒い	ふつう
寒いときあり	いーかんじ
寒い	いすがでかい
きれいにされている。	ストーブとエアコンが？ある
良い	さむい時
さむい	冬が寒い。暖房入れても寒い。
前にいくにつれて寒い	つくえなどの備品がこわれていたりする
冬寒い	温度調節がむずかしかった。
さむい	すわりずらい間隔。
空き教室好きです。	下のほうさむい
あったかい、すずしい	寒い時がある
冬は足元が寒い	寒い
少し寒い時があった。	さむい
快適だった	夏はさぶすぎて、冬はあつすぎ
あついとき、さむいとき差が	温度が合わないとき有り
室温が不適切	教室が寒かった。

■ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	10	12	1	6	7	19
②満足している	0	10	10	3	11	14	24
③あまり満足していない	0	0	0	0	2	2	2
④全く満足していない	1	1	2	0	1	1	3
⑤利用していない	2	41	43	3	62	65	108
無回答	1	5	6	1	2	3	9



【理由等】

商学科

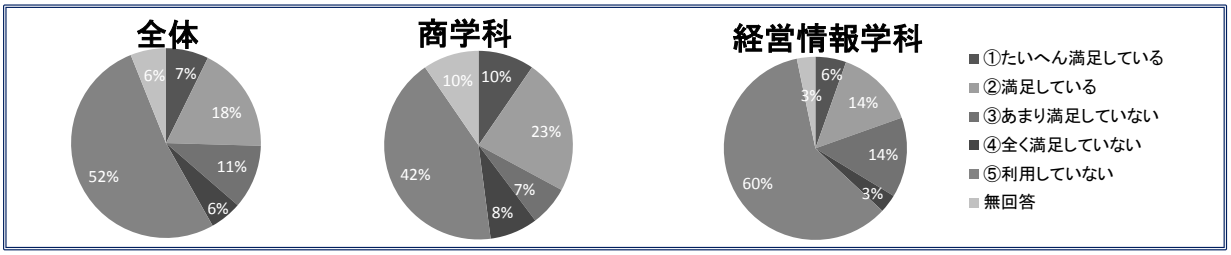
使う機会がない	広い
広い	

経営情報学科

行ったことがない。	なかなか広い
わからない	使わない
つかってない。	使う機会がない
行かないから	つかったことない
機会がない	機会がない
運動しないからつかわない	

■駐車場

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	6	7	1	4	5	12
②満足している	2	15	17	1	12	13	30
③あまり満足していない	0	5	5	2	11	13	18
④全く満足していない	1	5	6	0	3	3	9
⑤利用していない	1	30	31	3	52	55	86
無回答	1	6	7	1	2	3	10



【理由等】

商学科

短大だと駐車場が遠い。	もう少し広いといい
電車通学のため（利用していない）	料金が高い
車がない（利用していない）	雪かきが足りない
駐車料金高すぎ	駐車場料金高い
でんしゃ（利用していない）	穴があいていたり、ガタガタしている
高い。	駐車場料金が高い
多くて助かる	短大遠い
広い	たまに空いているのに満車
少し高い	高い
キレイ。無料になりませんか	高い

経営情報学科

整備されていない。高い。	車の免許持っていない。
遠い	高い
料金たかい	わからない
お金がかかる	変な所に車がとまってて帰れなかったことがあるので。
料金が高い	短期大学側にも駐車場がほしい
短大側にも駐車場がほしい。	駐車券とかいらないと思う。お金もとらなくていいと思う。
遠い	駐車場のゲートが開かないときがある。
駐車場代が高い	駐車料金が少し高い
つかってない。	使う機会がない
車を使わないから	短大からとおいからやだ。半月で1万5千はぼったくり。無料でいい
駐車料が高い	教室まで遠い
もう少し広くても良い	高すぎる
電車だからつかわない	車通学じゃない
使いやすい	

■その他[施設名]

		商学科			経営情報学科			合計
		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	駐輪場			0	1		3	3
	図書館			0		2		0
	ﾌｫﾚｽﾄ生協の横の部屋		1	1				1
③あまり満足していない	テニスコート			0		1	2	2
	駐輪場			0		1		0
	1.2.3号館		1	1				1
④全く満足していない	食堂			0		1	1	1

【理由等】

商学科

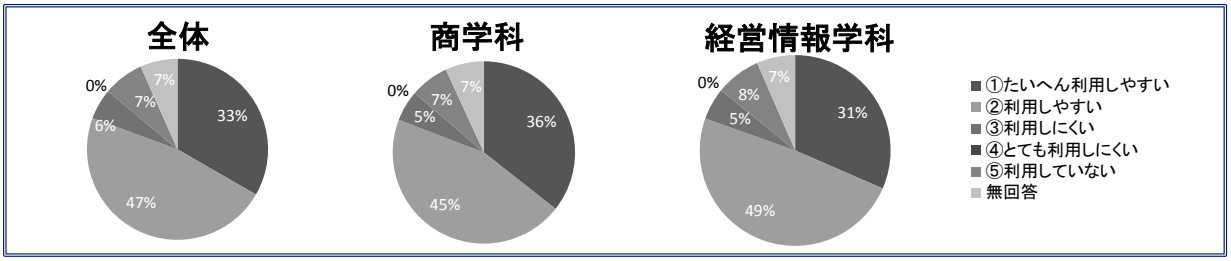
1.2.3号館：寒すぎる
ﾌｫﾚｽﾄ生協の横の部屋：温度がちょうど良く、生協にもすぐ行けるので長時間居座れるのが気に入っています。
施設名なし：大学の雪が全然除雪してなくて怖い

経営情報学科

駐輪場：とても停めやすいから
テニスコート：コートを使ったまま、整備・片付けをしていかない人がいる。
駐輪場：1ヶ所1ヶ所にとめるところが少ない
図書館：居心地もよくDVDあっていい！

質問11. あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望、お気づきの点など

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん利用しやすい	3	23	26	1	28	29	55
②利用しやすい	0	33	33	5	40	45	78
③利用しにくい	0	4	4	0	5	5	9
④とても利用しにくい	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	1	4	5	2	5	7	12
無回答	2	3	5	0	6	6	11



【理由等】

商学科

幅広い図書の数
PCつかいたいときに他の人がいて使えないことが多い。
たくさん本がありあったかく、とても使いやすいので満足
書物がどこにあるのか分かりにくいけどおちつく。
利用しやすいです。トナーの確認をこまめにしてほしい。
いろいろな資料があって、助かった。
空き時間をつぶしやすい
本の位置がわかりやすくマップになっていて良かった。飲食コーナーの場を広げるかイスをふやしてほしい
入りやすいけど、人がいっぱいいて落ち着かないことがある。
1階が寒い
小説が少ないのが残念です。一人用の学習机をもう少し増やしていただきたいです。
・毛布やひざかけのサービスがあるから　・机の数が多い　・書架（自動で動く）が使いやすい
雰囲気がいい
レポート作るのに最適～！職員さん少し怖いけど。
WiFiがたまにはいっていないときがあるので、改善してほしい。
おちついて勉強できた
テスト前など席がなくて全く座れないし、PCの数をもう少し増やしてほしかった。
一人でもすごしやすかった。
勉強するスペースと分けた方が良いと思いますが、資料を探すのが大変だと感じました。
よく利用さしてもらったから。
勉強机が多くて助かる
調べたいことがあるときに使えた。
職員さんがつめたい。ワイファイつながらない。こわそうな人には注意しないからうるさい時がある。
あったかいし静かで集中できる
おちつく
本以外にDVDもあったりととてもいい。
静かだから。本がたくさんあるから。

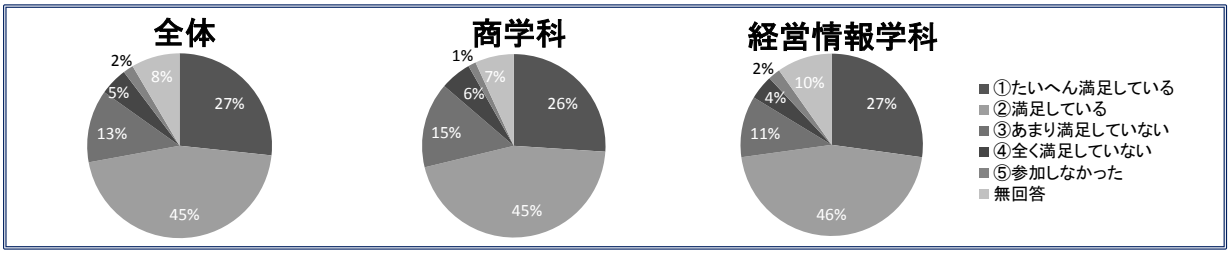
経営情報学科

機会があまりない。
すわる場所がなかったりする
本の種類をもう少し増やしてほしい。パソコン使いやすい。
個人スペースがあってとても勉強しやすい
静かでとても良いふんいき。雑誌もおいてあってすてきです！！
たくさんの本もあり、勉強もできる
空いてる時間にけっこう利用した。印刷できるPCを増やしてほしい。
司書の人が仕事しない。
ご飯を食べれるスペースを増やしてほしい
お昼ご飯食べれるから。
もっと席を増やしてほしい
入りにくい
人が多い時は勉強する場所ない。さむい時がある。
集中して勉強にとりくめる。
もうちょっとお昼ご飯を食べれるスペースを増やしてほしい
様々な本もあり、しっかり区別してあるし、ビデオなどもありとても充実している。
DVDがたくさん見れる。
机が少ない
どういう書物がどこにあるかが分かりにくい
印刷などができてよい、また紙もくれるからいいと思う
DVD見るとこは良い。印刷する時人が集中する。
一人の時間を作れる
ふつうにいい
DVD見れたり、印刷できたりと便利。
利用しやすいです
パソコンもあり印刷もでき、あったかく、すずしいから
ありがたく活用させていただいております。
DVDなどあって便利だと思った。
気軽に利用できる
雑誌もDVDもコンピュータもあってすごく便利。空いた時間に使いやすい。
早くから遅くまでやっているため
その日その日に目的のあった利用をしやすい場所
Wi-Fiがはいっていない時があった。
勉強しやすい空間
授業や課題の時以外に行かない。みたい本がないし、みたいのは本屋に行くから
席をもう少し増やしてほしい
読書が興味なのでよく利用しました。
荷物を持たず席を立つ人がいて、席が足りないと感じました。
施設的にはいいけどレファレンスしてもらいづらい
司書の方の対応があまり好きでないと感じる時がある

質問12.　あなたは本学の行事（体育大会、大学祭、焼イモ会）についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

■体育大会

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	18	19	1	24	25	44
②満足している	1	32	33	2	40	42	75
③あまり満足していない	1	10	11	3	7	10	21
④全く満足していない	1	3	4	0	4	4	8
⑤参加しなかった	0	1	1	1	1	2	3
無回答	2	3	5	1	8	9	14



【理由等】

商学科

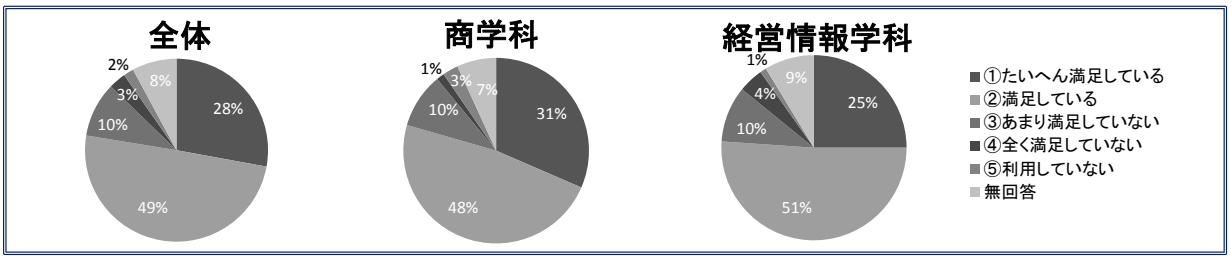
グダグダだった	楽しかったと思う。
種目が楽しかった！	運動があまり好きじゃないから。
たのしかった。	たのしかったです！
夏季楽しかった。	たのしすぎた
ルール説明が不明のところがありわからなかって所アリ	たのしい
人数的に参加できなかった。	ゼミの人と仲良くなれた
楽しめた	ゼミの先輩と仲良くなれた
苦手なので（回答③あまり満足していない）	ブービー賞とれたから。
ゼミとの対決がおもしろかった。	体育が苦手。

経営情報学科

やりがいがない	行きたくなかったから。
運動苦手	とてもよかった
参加できるのが少ない	身体を動かす良い機会だった
練習時間がほしい	楽しかった
秋の時は体育館ごとのアナウンスが混ざり体育員がキレていて不快に思った	ゼミで楽しくできた
楽しかったから	個人戦は初戦で負けてしまうと次がないので物足りなかった
たのしかった	他のゼミと合同だったからあまり出れなかった
友達ができたし楽しかった。	好きな競技をしたい
楽しくできた	ゼミが合体したから人数多くてやだった
楽しかった	楽しかった
そもそもやらなくていい	ゼミで協力できたから
楽しかった	楽しかった
楽しかった	ふつうです
ゼミのみんなでやって楽しかった	ゼミの仲が深まった
たのしかった	つまらなかった
ゼミの人と協力することができたのしかった。	とても楽しかった
意外と楽しかった	スポーツ苦手な人にはつらい
たのしい	

■大学祭

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	22	23	2	21	23	46
②満足している	2	33	35	2	45	47	82
③あまり満足していない	0	7	7	2	7	9	16
④全く満足していない	1	0	1	1	3	4	5
⑤参加しなかった	0	2	2	0	1	1	3
無回答	2	3	5	1	7	8	13



【理由等】

商学科

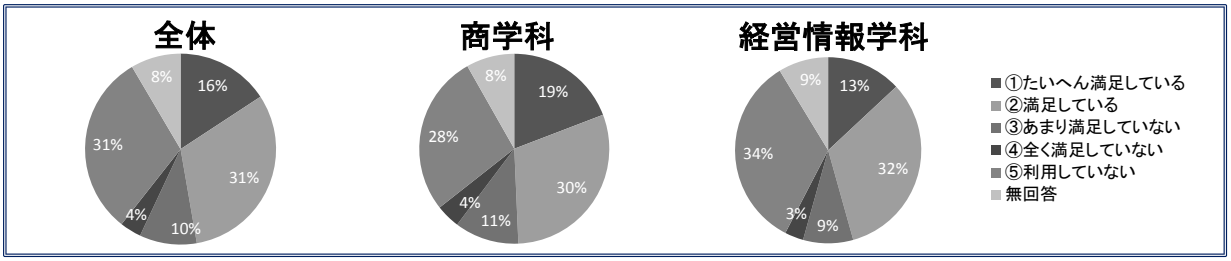
特にすることがない	模擬店など楽しかった。
楽しかった！	楽しかった。
たのしかった。	たのしかったです！
遊ぶ時間がなかった…。	たのしすぎた
油がくさくて、屋台をやっている場合ではなかった	たのしい
初めて参加して、わからないことがあったが楽しかった	とてもたのしかった
とてもにぎやかで楽しかったです。	屋台とお笑いライブしか楽しめることがなかった。
ハプニングがあったけど楽しかった	あこがれの芸人に会えた。

経営情報学科

みんなでもりあがった	うむ
お金を使いすぎるぐらい使ったから。	仕事の連絡がこない
ゼミ内があまり楽しくなかった	本当に最高だった
体育大会たのしかったです。	高校のが楽しかった
後夜祭が楽しかった	大学らしくてよかった
楽しかった	団結することができた
楽しかったから	たのしかった
仕事が多くてあまりまわれなかった	先輩方と仲良くできた
意外と売れた	お笑いが楽しかった
芸人はちょーよかったけど、あとは楽しいと思わなかった	楽しかった
屋台の番ばかりで楽しめなかった。	楽しかったから
おいしかった	楽しかった
いろんなお店があっておもしろかった	ゼミのみんなでやって楽しかった
たのしかった	おもしろかった
たのしかった	たのしかった
あんまり楽しくなかった	たのしい
ゼミ当番であまりまわれなかった	

■焼イモ大会

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	13	14	0	12	12	26
②満足している	0	22	22	1	29	30	52
③あまり満足していない	1	7	8	2	6	8	16
④全く満足していない	1	2	3	0	3	3	6
⑤参加しなかった	1	19	20	4	27	31	51
無回答	2	4	6	1	7	8	14



【理由等】

商学科

おいもがおいしかった	焼イモおいしかった。
美味しかったです。	おいしかった。
イモが焼けてなかった	たのしかったです！
とてもおいしかったです	一口だけ食べたけどおいしかった
おいしかった。	芋が生だった
天気がいい日にやればもっと良い	もっと宣伝してほしかった

経営情報学科

興味なかったから	やる意味が分からない。けむたい。
生だった	寒かった
けむくなったのでやめてほしい	授業終わったときにはもうほぼなかった。
ニオイがくさかった	おいしかった
焼けてなかった	おいしかった
かたい	寒いし、けむりくさくなった
知らなかった	おいしかった
焼イモおいしかったです	おいしかった
焼イモが生の物を渡され食べれなかった	おいしかった
いきたくてもいけなかった	おいしかった
イモおいしかった	おいしかった
おいしい	

■その他の意見として［行事名： ］

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
⑤参加しなかった			0			0	0
スノーボード教室			0	1		1	1
			0			0	0

【理由等】

商学科

経営情報学科

スノーボード教室：費用のムダ

質問13.　松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

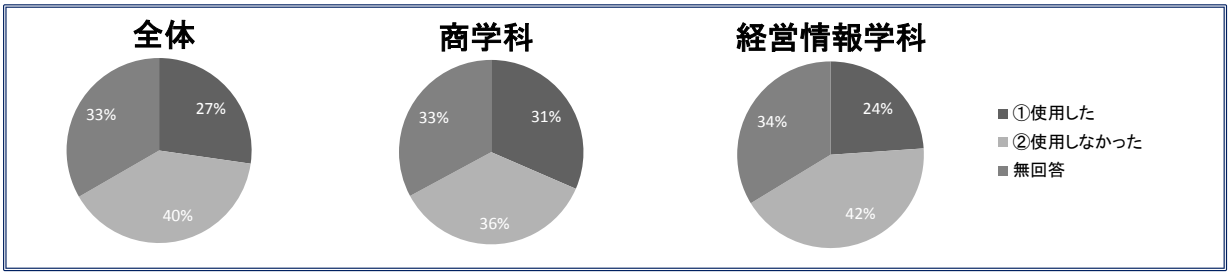
特になし
教室をもっとあったかくなるようにしてほしい
連絡が遅いので大変困る。
駐車場をもと少し近くに作ってほしい
だんぼうをつけてもあたたかくならない時があったりするので、ちゃんとあたたかくなるようにしてほしい。
快適に(温度)お昼を食べられる場所が少ない。
講義が週一なので、取りたい講義が1コマに2つあるとなくなくどちらか一つをあきらめなくてはいけないのでつらいです。 なので同じ講義が週2あったらいいなと思います。 雪や台風で休校になる時は、もっと早めに連絡してほしいです。
休講のときは家遠い人のことも考えてもう少し早く連絡してほしい。
キャリクリ、キャリスタが寒すぎて本当に集中できない。
暖房が壊れていてとても寒い教室があるので、なんとか全体に効くようにして頂きたいです
ときどき寒い教室があったので、授業が始まる前からあたたかくしてほしかったです。
授業たのしいのもあるので、いいと思います。施設もキレイだし過ごしやすいです。 ですが犬を飼ったほうが良いと思います。
犬を飼ってほしい
休講メールをもうちょっと早めにもらいたい。そうしないと遠くから通ってる人は電車に乗ってしまう。

経営情報学科

必修の講義、フィールドを変えたほうがいい
特になし
③短大側に駐車場がほしい。駐車場の費用が高い。高い割に大きな穴が放置されている ①日常生活で成人になるにあたって活用できる内容を教える授業が欲しい
先生がもうちょっとフレンドリーになってくれれば自分からも先生の所にいきやすい。笑顔で「おはよう」っていってくれるだけでも違います。
休講などの連絡をもっと早くしてほしい。
学生課の態度変えて下さい。
休講の連絡をもっと早くしてほしかった
駐車場料金が高いからもっと安くしてほしいです。
お昼ご飯を食べる場所、休憩の場所が生徒数に対して少ないと思う。コモンルームもいつも混んでいて使えなかったりする。
休講の連絡をもっと早くしてほしい。
先生によって教室が寒く、つけない先生がいて授業どころじゃない。
補講がいきなり入るのは困る
もう少し外国語の種類があると良いと思った
教室が少し寒いように思います
足がさむい。遠い。
昼休みの時間をもっと長くしてほしい
駐車場のゲートがカードを入れても開かないときがある
駐車場を短大方面にもつくってほしい。再試をなくしてほしい。教室が寒い。
特にないです。
232などの教室は冬前の席が寒くてうしろはあつすぎたりするので、そこを改善してほしい
イベントがたくさんあってほしい！
教室が寒い
資格の種類を増やしてほしい。駐車場料金もう少しお安く…。
先日「積雪のため一日休校」の連絡が1限目開始10分前というとても遅い連絡でした。遠くから来る電車の人、混雑する車通学の人などもいると思うので、せめて一時間前(最低でも)には連絡が来ればいいなと思います。先生や部活の皆様が雪かきをしている姿を見ているので大変だと思いますが、よろしくお願いします。
雪で休校になった時、連絡のメールがおそかったので困った。
生協の時間を少しのばしてほしい。(できたら)
エアコンだけでなく、ヒーター等のだんぼうも採用するなどし、部屋のあたたかさを均一にしてほしい。
もっといろいろな情報をはやく教えてほしい
生協のしまる時間がはやい。
授業で行ったものなどパソコンに掲載してほしい。自主学習できるようにしてほしい。
机やイスを、木で作ったやつをやめてほしい。ストッキングがでんせんしてしまう。
生協が5時までは早いと思った

追加質問.　携帯メモ手帳「EYE」を使用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①使用した	1	22	23	2	20	22	45
②使用しなかった	2	24	26	4	35	39	65
無回答	3	21	24	2	29	31	55



【理由等】

商学科

予定が一目で分かるので便利です。
休みか休みじゃないかわかるので、良いです。
休みの確認をする時は使う。
検定の日程を見るときは使ったけどウィークリーがないのと書くところがせまい、紙質が好みじゃなくて使わなかった。

経営情報学科

メモ帳は市販のものを使っていた。
手帳をクリアファイルにすると書きづらいため、支給されるならノート型にしてほしい
検定日を調べるのに簡単で良い。バインダーが大きくて使いづらい。
さいしょだけつかった。休みの日とかをしるのに。さいごのほうはもちづらいしかきづらいからつかってない。
学校行事が書かれていて先のことも予定を立てやすくて良かった。
わくが小さいので書き込みがしづらいです。
手帳の紙小さい。